

授 業 概 要

平成24年度

群馬医療福祉大学

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町2-12-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

授 業 内 容

基礎教養科目

【30回】

基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	4
情報処理演習	6
スポーツ・レクリエーション実技	8
専門演習Ⅰ	10
専門演習Ⅱ	12
中国語	14
ボランティア活動Ⅰ（社会福祉専攻）	16
ボランティア活動Ⅰ（子ども専攻）	18
ボランティア活動Ⅱ（社会福祉専攻）	20
ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	22
レクリエーション活動援助法	24
レクリエーション活動援助法	26

【15回】

英語Ⅰ	28
英語Ⅱ（社会福祉専攻）	29
英語Ⅱ（子ども専攻）	30
英語Ⅲ	31
英語Ⅳ	32
韓国語Ⅰ	33
韓国語Ⅱ	34
経済学	35
健康論	36
児童文学	37
社会理論と社会システム（社会福祉専攻）	38
社会理論と社会システム（子ども専攻）	39
生涯学習概論	40
心理学理論と心理的支援	41
政治学Ⅰ（世界と日本の関わり）	42
政治学Ⅱ（世界と日本の関わり）	43
世界史	44
地理学	45
哲学	46
道徳教育研究	47
読書指導と文芸	48
特設科目 論語	49
日本国憲法	50
日本史Ⅰ	51
日本史Ⅱ	52
人間と宗教	53

福祉情報処理	54
ボランティア活動Ⅲ	55
ボランティア活動Ⅳ	56
マスメディア論	57
倫理学	58

専門科目

【30回】

アクティビティ・サービス援助技術	60
介護技術Ⅰ	62
介護技術Ⅱ	64
基礎技能Ⅱ（幼児美術指導法）	66
基礎技能Ⅱ（幼児音楽指導法B）— ①	68
基礎技能Ⅱ（幼児音楽指導法B）— ②	70
基礎技能Ⅱ（幼児音楽指導法C）— ①	72
教育実習事前・事後指導（中・高）	74
教育実習事前・事後指導（中・高）	76
現代社会と福祉	78
公民科教育法	80
高齢者に対する支援と介護保険制度	82
児童福祉総合演習	84
児童文化（演習）	86
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	88
社会科教育法Ⅰ	90
社会科教育法Ⅱ	92
社会福祉特講Ⅱ	94
社会福祉特講Ⅲ	96
社会福祉特講Ⅳ	98
社会保障	100
障害者教育総論	102
小学校教科教育法（音楽）	104
小学校教科教育法（家庭）	106
小学校教科教育法（国語）	108
小学校教科教育法（算数）	110
小学校教科教育法（社会）	112
小学校教科教育法（図画工作）	114
小学校教科教育法（生活）	116
小学校教科教育法（体育）	118
小学校教科教育法（理科）	120
小児保健（実習）	122
初等教育実習事前・事後指導	124
初等教育実習事前・事後指導	126
心理学実験実習Ⅰ	128

心理統計学	130
精神医学	132
精神科リハビリテーション学	134
精神保健学	136
精神保健福祉援助演習Ⅰ	138
精神保健福祉援助演習Ⅱ	140
精神保健福祉援助技術各論	142
精神保健福祉援助技術総論	144
精神保健福祉援助演習実習指導Ⅱ	146
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)	148
相談援助演習Ⅱ	150
相談援助演習Ⅲ	152
相談援助実習指導Ⅱ	154
相談援助の基盤と専門職	156
相談援助の理論と方法Ⅰ(社会福祉専攻)	158
相談援助の理論と方法Ⅱ(社会福祉専攻)	160
相談援助の理論と方法Ⅰ(子ども専攻)	162
相談援助の理論と方法Ⅱ(子ども専攻)	164
乳児保育Ⅰ(演習)	166
発達心理学a	168
福祉科教育法	170
福祉サービスの組織と経営(社会福祉施設経営論)	172
保育原理Ⅰ	174
保育実習指導(施設)	176
保育実習指導Ⅰ(保育所)	178
保育の表現技術Ⅰ(音楽) — ①	180
保育の表現技術Ⅰ(音楽) — ②	182
保育の表現技術Ⅱ(音楽)	184
保育の表現技術Ⅰ(図画工作)	186
【15回】	
LD等教育総論(社会福祉専攻)	188
音楽概論	189
カウンセリング(社会福祉専攻)	190
カウンセリング(子ども専攻)	191
学習指導と学校図書館	192
学習心理学	193
家族援助論	194
学校経営と学校図書館	195
学校図書館メディアの構成	196
家庭科概論	197
基礎技能Ⅰ(体育)	198
基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法C) — ②	199
教育原理(社会福祉専攻)	200

教育原理（子ども専攻）	201
教育実習事前・事後指導（幼稚園）	202
教育実習事前・事後指導（中・高・特支）	203
教育実習事前・事後指導（特支）	204
教育社会学	205
教育心理学	206
教育相談論	207
教育方法論（社会福祉専攻）	208
教育方法論（子ども専攻）	209
教職概論	210
教職総合演習Ⅰ（社会福祉専攻）	211
教職総合演習Ⅱ	212
権利擁護と成年後見制度	213
公衆衛生学	214
更生保護制度	215
高等学校教育実習（公民）	216
高等学校教育実習（福祉）	217
国語科概論	218
国際福祉論	219
子どもの食と栄養	220
肢体不自由教育Ⅰ	221
肢体不自由教育Ⅱ	222
肢体不自由者の心理・生理・病理	223
社会科概論	224
社会心理学	225
社会調査の基礎（社会福祉専攻）	226
社会調査の基礎（子ども専攻）	227
社会的養護Ⅰ（養護原理Ⅰ）	228
社会福祉史	229
社会福祉特講Ⅰ	230
社会福祉法制	231
住環境福祉論	232
就職指導	233
就労支援サービス	234
障害児教育総論	235
障害児（者）心理学	236
障害児保育	237
障害者に対する支援と障害者自立支援法	238
小学校教育実習	239
小児保健（講義）	240
情報メディアの活用	241
人格心理学	242
人権教育論	243

人体の構造と機能及び疾病	244
心理学研究法	245
心理学実験実習Ⅱ	246
心理学実験実習Ⅲ	247
心理療法	248
数学概論	249
生活科概論	250
青少年の理解と援助	251
精神保健福祉援助実習	252
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	253
精神保健福祉論①	254
精神保健福祉論②	255
精神保健福祉論③	256
生徒指導論	257
青年心理学	258
相談援助演習Ⅰ	259
相談援助実習	260
相談援助実習指導Ⅰ	261
相談心理学	262
卒業研究	263
体育概論	264
地域子育て支援論	265
地域福祉の理論と方法	266
知的障害教育Ⅰ	267
知的障害教育Ⅱ	268
知的障害者の生理・病理	269
中学校教育実習（社会）	270
重複障害教育総論	271
低所得者に対する支援と生活保護制度	272
読書と豊かな人間性	273
特別活動研究	274
特別支援学校（肢体不自由・知的障害・病弱）教育実習	275
乳児保育Ⅱ（演習）	276
人間関係論	277
認知心理学	278
発達心理学（保育の心理学Ⅰ）	279
発達心理学特講	280
美術概論	281
病弱教育	282
病弱者の心理・生理・病理	283
福祉行財政と福祉計画	284
福祉事務所運営論	285
福祉心理学	286

保育原理Ⅱ	287
保育実習Ⅰ（保育所）	288
保育実習Ⅱ（保育所）	289
保育実習（施設）	290
保育実習（施設）事後指導	291
保育実習指導Ⅱ（保育所）	292
保育の心理学Ⅱ（教育心理学）	293
保育内容（環境）	294
保育内容（健康）	295
保育内容（言葉）	296
保育内容（総論）	297
保育内容（人間関係）	298
保育内容（表現）	299
保育の表現技術Ⅰ（体育）	300
保健医療サービス	301
養護原理Ⅱ	302
養護内容（演習）	303
幼児理解	304
幼稚園教育実習	305
理科概論	306
臨床心理学（社会福祉専攻）	307
臨床心理学（子ども専攻）	308
臨床心理学特講	309
老人心理学	310

教科課程等の概要

基礎教養科目 1年生用	311
専門科目 1年生用	312
基礎教養科目 2年生用	314
専門科目 2年生用	315
基礎教養科目 3年生用	317
専門科目 3年生用	318
基礎教養科目 4年生用	320
専門科目 4年生用	321

教科書の購入について	323
------------	-----

基礎教養科目

科目名	基礎演習 I			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う

■授業の概要

建学の精神を理解し、マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間遵守、環境美化、ボランティアといった自律的実践能力を身につけ、また人生観や職業観を深め、2年次の基礎演習Ⅱや3・4年次の総合演習への円滑な移行が図れるようにすることを目的とする。
--

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション：基礎演習の目的	教科書を学習すること。
第2回	学長・学部長講話 建学の精神と実践教育プログラム①：中田顧問教授講話	〃
第3回	建学の精神と実践教育プログラム②：環境美化活動について(含む雑巾縫い)	〃
第4回	キャリアディベロップメント①：一般常識テスト	〃
第5回	親睦体育大会準備、ボランティア標語作成	〃
第6回	キャリアディベロップメント②(学士力養成プログラム①とセット) 高齢者体験(障がい者体験とセット)	〃
第7回	キャリアディベロップメント③(学士力養成プログラム①とセット) 障がい者体験(高齢者体験とセット)	〃
第8回	学士力養成プログラム①(キャリアディベロップ②とセット) 図書館利用指導、レポートの書き方	〃
第9回	学士力養成プログラム②： クラステーマ研究(前期)のためのテーマ選定・資料収集	〃
第10回	学士力養成プログラム③： クラステーマ研究(前期)のための資料収集・プレゼンテーション資料作成	〃
第11回	学士力養成プログラム④：クラステーマ研究(前期)のプレゼンテーション準備	〃
第12回	学士力養成プログラム⑤：クラステーマ研究(前期)のプレゼンテーション	〃
第13回	学士力養成プログラム⑤：クラステーマ研究(前期)のプレゼンテーション	〃
第14回	キャリアディベロップメント④：卒業生講話	〃
第15回	前期のまとめ	〃

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動とあわせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

出席状況と受講態度(60%)と提出物(40%)によって総合的に評価する。

■教科書

「咸有一徳」「伝統の建学精神」「初編 伝習録(中田勝訳)」ほか、必要に応じて資料を配付する。基礎演習ノートを持参すること。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う

■授業の概要

建学の精神を理解し、マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間遵守、環境美化、ボランティアといった自律的実践能力を身につけ、また人生観や職業観を深め、2年次の基礎演習Ⅱや3・4年次の総合演習への円滑な移行が図れるようにすることを目的とする。
--

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション：キャリアディベロップメント⑤： 障害者介助体験(専攻・グループ別)	教科書を学習すること。
第17回	学長・学部長講話 建学の精神と実践教育プログラム③：中田顧問教授講話	〃
第18回	学士力養成プログラム⑥：クラス別テーマ研究	〃
第19回	学士力養成プログラム⑦：クラス別テーマ研究	〃
第20回	学士力養成プログラム⑧：クラス別テーマ研究	〃
第21回	学士力養成プログラム⑨：クラス別テーマ研究	〃
第22回	学士力養成プログラム⑩：クラス別テーマ研究	〃
第23回	学士力養成プログラム⑪：クラス別テーマ研究	〃
第24回	学士力養成プログラム⑫：年金セミナー	〃
第25回	キャリアディベロップメント⑥：就職模擬テスト・進路希望調査	〃
第26回	国際交流プログラム①：地域留学生の講演	〃
第27回	学士力養成プログラム⑬：ヤング被害防止出前セミナー	〃
第28回	キャリアディベロップメント⑦：国家試験・就職試験について(教員による講話)	〃
第29回	キャリアディベロップメント⑧：国家試験・就職試験について(4年生による講話)	〃
第30回	後期のまとめ	〃

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動とあわせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

出席状況と受講態度(60%)と提出物(40%)によって総合的に評価する。

■教科書

「咸有一徳」「伝統の建学精神」「初編 伝習録(中田勝訳)」ほか、必要に応じて資料を配付する。基礎演習ノートを持参すること。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎演習Ⅰに引き続いて、建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決の力を養う。マナー・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身に付ける。

■授業の概要

基礎演習の一つの成果としての研究小論文を仕上げる。また、人生観や職業観を深め、専門演習への円滑な移行を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション：(大講義室)学長訓話。 特別講話「伝統の建学精神について」(中田勝先生)	講話レポートを作成する
第2回	建学の精神と実践教育プログラム(1)： グループワーク 大学生生活1年間の総点検。点検・評価レポート(個別)作成。	評価レポートを作成する
第3回	親睦スポーツ大会準備。	親睦スポーツ大会準備
第4回	建学の精神と実践教育プログラム(2)： グループワーク ボランティア活動、環境美化活動、礼儀挨拶の関係について考える。雑巾縫い。	グループワークシートを作成する
第5回	図書館利用指導：図書館において、各種の必要に応じた資料検索の仕方を学習する。	2学年のブックスタート
第6回	進路指導(1)：(大講義室) 「一般常識テスト」実施。個別面談開始。	テスト問題を研究する
第7回	研究指導プログラム(1) 個人またはグループ研究 研究テーマ選定、活動報告レポート作成。	研究テーマを選定する
第8回	研究指導プログラム(2) 研究目的、資料収集、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第9回	研究指導プログラム(3) 研究論文構成、資料収集、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第10回	研究指導プログラム(4) 研究中間発表の準備、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第11回	研究指導プログラム(5) 研究中間発表(クラス別) 資料収集。	中間報告レポートを作成する
第12回	進路指導(2)：(大講義室) 進路ガイダンス	講話レポートを作成する
第13回	教養講座(1) 各クラスにおいて計画。	計画、内容に応じて復習する
第14回	進路指導(3)：(大講義室) 卒業生講話	講話レポートを作成する
第15回	前期の総括：話し合い、総括レポート作成。 自己点検・自己評価。夏期休暇中の活動について。	総括レポートを作成する

■履修上の注意

基礎演習は、ボランティア活動と合わせて、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。

■評価方法

出席重視。研究小論文、提出物、演習への取り組み内容等を総合して評価する。
(おおむね提出物70%、授業態度30%)

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。鈴木利定(著)『伝統の建学精神』学校法人昌賢学園、2008年。
中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎演習Ⅰに引き続いて、建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決の力を養う。マナー・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身に付ける。

■授業の概要

基礎演習の一つの成果としての研究小論文を仕上げる。また、人生観や職業観を深め、専門演習への円滑な移行を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション：(大講義室)学長訓話。 特別講話「伝統の建学精神について」(中田勝先生)	講話レポートを作成する
第17回	研究指導プログラム(6) 論文構成の再確認、資料収集、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第18回	研究指導プログラム(7) 小項目別論文作成、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第19回	研究指導プログラム(8) 小項目別論文作成、活動報告レポート作成。ボランティア標語作成。	活動報告レポートを作成する
第20回	研究指導プログラム(9) 研究論文の仕上げ、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第21回	研究指導プログラム(10) 研究論文の仕上げ、活動報告レポート作成。	活動報告レポートを作成する
第22回	教養講座(2)：各クラスにおいて計画。	計画、内容に応じて復習する
第23回	進路指導(4)：(大講義室) 就職力について	講話レポートを作成する
第24回	ピアサポートについて考える グループワーク 発表	ワークシートを作成する
第25回	進路指導(5)：(大講義室) 「日本語能力テスト」実施。進路希望調査。	テスト問題について研究する
第26回	進路指導(6)：(大講義室) 外部講師による講演	講話レポートを作成する
第27回	研究指導プログラム(11) 研究発表の準備、活動報告レポート作成	活動報告レポートを作成する
第28回	基礎演習Ⅱ新春オリエンテーション：(大講義室) 学長訓話。後期末試験について、他。	講話レポートを作成する
第29回	研究指導プログラム(12) 研究発表、研究論文提出締切(1/31)。	研究発表レポートを作成する
第30回	基礎演習Ⅱの総括：話し合い、総括レポート作成。自己点検・自己評価。春期休暇中の活動について。	総括レポートを作成する

■履修上の注意

基礎演習は、ボランティア活動と合わせて、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。

■評価方法

出席重視。研究小論文、提出物、演習への取り組み内容等を総合して評価する。
(おおむね提出物70%、授業態度30%)

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。鈴木利定(著)『伝統の建学精神』学校法人昌賢学園、2008年。
中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	情報処理演習			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。また、レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・ExcelおよびPowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉えひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	情報化社会とリテラシー	フリーソフト等を使用したタイピングの練習
第2回	ソフトウェアの基本操作	〃
第3回	Wordによる文書処理(1) 文書処理について	〃
第4回	Wordによる文書処理(2) Wordの基本操作	〃
第5回	Wordによる文書処理(3) 演習「レポート」について	〃
第6回	Wordによる文書処理(4) 文章の入力・編集	テキストを使用したWordの復習
第7回	Wordによる文書処理(5) 表・図表の作成	〃
第8回	Wordによる文書処理(6) 数式の挿入・段組みの設定	〃
第9回	Wordによる集客広告の作成(1)	〃
第10回	Wordによる集客広告の作成(2)	〃
第11回	Wordによる集客広告の作成(3)	〃
第12回	表計算ソフトウェアとは	フリーソフト等を使用したタイピングの練習
第13回	Excelの基本操作	〃
第14回	「表」の作成	〃
第15回	ワークシートの書式設定	テキストを使用したExcelの復習

■履修上の注意

演習は、毎回は前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■評価方法

- ①平常点(出席状況・授業態度)(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎(近代科学社)

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	情報処理演習			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。また、レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・ExcelおよびPowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉えひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	表の拡張	テキストを使用したExcelの復習
第17回	関数の使用方法(1)	〃
第18回	関数の使用方法(2)	〃
第19回	グラフの作成	〃
第20回	表計算の応用	〃
第21回	データベース機能(1)	〃
第22回	データベース機能(2)	〃
第23回	プレゼンテーションとは	授業で習った範囲の復習(プレゼンテーション)
第24回	よいプレゼンテーションをするために	授業で習った範囲の復習(プレゼンテーション)
第25回	プレゼンテーションの計画策定	計画にそって、すべてのスライドを作成する(アウトライン完成まで)
第26回	Power Pointを使ったプレゼンテーションの作成	スライド毎の編集を完成させる。(文章のみ)
第27回	Wordレポートの図・写真の利用	スライド毎の編集を完成させる。
第28回	スライドショーの設定	各スライドのオブジェクトにアニメーションを設定し完成させる。
第29回	発表の準備(リハーサル)	発表にそなえ十分なリハーサル・想定質疑応答の準備を行う。
第30回	プレゼンテーションの実施	テキストの通読。

■履修上の注意

演習は、毎回は前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■評価方法

- ①平常点(出席状況・授業態度)(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎(近代科学社)

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	スポーツ・レクリエーション実技			担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

健康で心豊かな生活を営むための余暇活動の一環として、学生生活の充実を図り、多くのスポーツ・レクリエーションを体験する。さらにレクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できる人材の育成を目指す。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解	レクリエーションがどのような意味をもっているのか理解する
第2回	アイスブレイキング(実践)	人と人を和やかにつなぎ、知り合うための方法を実践する
第3回	ニュースポーツ1-①	レクリエーションアレンジについて実践し考案する
第4回	ニュースポーツ1-②	レクリエーションアレンジについて実践し考案する
第5回	レクリエーションの意義について①	レクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとつてのレクリエーションのあり方について考える
第6回	レクリエーションの意義について②	レクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとつてのレクリエーションのあり方について考える
第7回	レクリエーションプログラムの企画と運営①-1	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第8回	レクリエーションプログラムの企画と運営①-2	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第9回	レクリエーション評価とまとめ①	実践の評価(PDCA)について考える
第10回	事業の実施と評価について	魅力ある事業とはどのようなものか。事業の展開、組み立て方、さらには評価の意義と目的を理解する
第11回	ニュースポーツ2-① キンボール	「共遊」「創造」「主体」について考える
第12回	ニュースポーツ2-② キンボール	「共遊」「創造」「主体」について実践する
第13回	レクリエーションプログラムの企画と運営②-1	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第14回	レクリエーションプログラムの企画と運営②-2	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第15回	レクリエーション評価とまとめ②	実践の評価(PDCA)について考える

■履修上の注意

積極的に取り組み、スポーツやレクリエーションを楽しむことのできる学生であること。日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ等で収集するよう心がけてほしい。レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。その他、装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。

■評価方法

授業態度(50%) 小テスト(30%) レポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	スポーツ・レクリエーション実技			担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

健康で心豊かな生活を営むための余暇活動の一環として、学生生活の充実を図り、多くのスポーツ・レクリエーションを体験する。さらにレクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できる人材の育成を目指す。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	ニュースポーツ3-① レクリエーションダンス	レクリエーションダンスの効果さらには文化伝承について理解する
第17回	ニュースポーツ3-② レクリエーションダンス	レクリエーションダンスの効果さらには文化伝承について理解する
第18回	ホスピタリティ・トレーニング	対象者との良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」について考える
第19回	ホスピタリティ・トレーニング	対象者との良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」について考える
第20回	ニュースポーツ4-① ユニバーサルホッケー	チームワーク コミュニケーションワークについて実践する
第21回	ニュースポーツ4-② ユニバーサルホッケー	チームワーク コミュニケーションワークについて実践する
第22回	レクリエーションプログラムの企画と運営③-1	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第23回	レクリエーションプログラムの企画と運営③-2	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第24回	レクリエーション評価とまとめ③	実践の評価(PDCA)について考える
第25回	アイスブレーキングの意義と基本技術	一体感、安心感の提供というアイスブレーキングの焦点を理解し、それらを実現するための技術を学ぶ
第26回	アイスブレーキングの意義と基本技術	一体感、安心感の提供というアイスブレーキングの焦点を理解し、それらを実現するための技術を学ぶ
第27回	アイスブレーキングのプログラミング	アイスブレーキングを立案するためのプログラミングの原則を理解する。
第28回	レクリエーションプログラムの企画と運営④-1	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第29回	レクリエーションプログラムの企画と運営④-2	plan-do-check-actionのプロセスについて学びグループ作業を行う
第30回	レクリエーション評価とまとめ④	実践の評価(PDCA)について考える

■履修上の注意

積極的に取り組み、スポーツやレクリエーションを楽しむことのできる学生であること。日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ等で収集するよう心がけてほしい。レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。その他、装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。

■評価方法

授業態度(50%) 小テスト(30%) レポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	専門演習 I			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の建学の精神を身につけ、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、さらに自立心と礼儀を重んじた世の中に役立つ心豊かな学生を育成する。

■授業の概要

建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、「建学の精神について」特別講話	基礎演習 I・II の復習及び講話レポート作成
第2回	親睦体育大会準備(1)	クラス内のコミュニケーション・協調性を図る
第3回	親睦体育大会準備(2)	クラス内の連携を図り、役割分担を確認
第4回	進路決定に向けて(1): 一般常識テスト	問題を見直し正解を導き出す
第5回	進路決定に向けて(2): 就職ガイダンス	講話レポートを作成する
第6回	二者面談 課題設定(雑巾縫い)	学業、進路、生活問題等に対する相談
第7回	二者面談 教養講座(1): クラス課題	学業、進路、生活問題等に対する相談
第8回	進路決定に向けて(3): 施設長講話	講話レポートを作成する
第9回	進路決定に向けて(4): 卒業生講話	講話レポートを作成する
第10回	教養講座(2): クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第11回	教養講座(3): クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第12回	建学の精神と実践プログラム(2): マナー教室	ワークシートをチェック
第13回	教養講座(4): クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第14回	進路決定に向けて(5): 国家試験及び各試験対策について	講話レポートを作成する
第15回	前期総括: 総括レポート作成、自己点検・自己評価、夏期休暇中の活動について	前期の反省、課題を確認

■履修上の注意

専門演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■評価方法

授業への出席・取り組み(行事等への出席含)を30%、小レポート等の提出物を20%、卒業・制作論文を50%として、総合的に評価する。なお、半期、通算で6回以上欠席した場合は単位認定しない。(遅刻3回以上を欠席1回とする。)

■教科書

「咸有一徳」中央法規、初編「伝習録」明治書

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の建学の精神を身につけ、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、さらに自立心と礼儀を重んじた世の中に役立つ心豊かな学生を育成する。

■授業の概要

建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション：学長訓話 諸伝達事項、清掃班組み替え	講話レポートを作成する
第17回	建学の精神と実践プログラム(3)：「建学の精神について」特別講話	講話レポートを作成する
第18回	教養講座(5)：クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第19回	進路決定に向けて(6)：就職ガイダンス	就職活動の手引き作成
第20回	教養講座(6)：クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第21回	進路決定に向けて(7)：就職模擬試験	問題を見直し正解を導き出す
第22回	教養講座(7)：クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第23回	教養講座(8)：クラス課題	計画、内容に応じ復習する
第24回	進路決定に向けて(8)：就職ガイダンス	講話レポートを作成する
第25回	建学の精神と実践プログラム(4)：「環境美化活動の重要性について」	グループ討議
第26回	建学の精神と実践プログラム(5)：「ボランティア活動はどうあるべきか」	グループ討議
第27回	建学の精神と実践プログラム(6)：マナー教室②	講話レポートを作成する
第28回	進路決定に向けて(9)：就職ガイダンス・進路希望調査	キャリアサポートカルテ作成
第29回	進路決定に向けて(10)：就職ガイダンス	講話レポート、キャリアサポートカルテ作成
第30回	後期総括：総括レポート作成、自己点検・自己評価、1年間を振り返り4学年に向けての抱負	1年間の反省、課題を確認、課題設定

■履修上の注意

専門演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■評価方法

授業への出席・取り組み(行事等への出席含)を30%、小レポート等の提出物を20%、卒業・制作論文を50%として、総合的に評価する。なお、半期、通算で6回以上欠席した場合は単位認定しない。(遅刻3回以上を欠席1回とする。)

■教科書

「咸有一徳」中央法規、初編「伝習録」明治書院

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を養成する。また、礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通し身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人としてのスキルアップを図る。

■授業の概要

4学年全体での授業と、クラス単位での授業とがある。全体の授業では、本学の建学の精神に則り、社会人になるための基礎スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。

クラス単位の授業では、プロジェクト卒業研究・制作一と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文、制作、調査・研究等をグループ単位で追及し、その完成を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 学長訓話、学部長講和、国家試験対策、進路指導、大学院進学について 等	各委員会からの伝達事項をまとめ、提出する。
第2回	建学の精神と実践教育プログラム(1): 特別講和(全体)	「建学の精神」について、これまでの復習をしておく。特別講和の内容をまとめ、提出する
第3回	親睦体育大会準備:群馬アリーナ	クラス内の連携を図り、役割分担を確認する
第4回	進路決定に向けて① 将来設計とその実現(クラス別)	進路決定に向け計画表を作成する
第5回	建学の精神と実践教育プログラム(2): 一雑巾作成(クラス別)	課題に取り組むための準備
第6回	建学の精神と実践教育プログラム(3): マナー教室 面接の作法(全体)	進路決定の鍵となる面接練習の方法を調べる。ワークシート作成/提出
第7回	進路決定に向けて② 国家試験対策 卒業生による講話(全体)	進路決定に向け情報収集 卒業生の講和をまとめ、今後に活かす
第8回	建学の精神と実践教育プログラム(4): マナー教室 面接の作法(クラス別)	進路決定の鍵となる面接の作法を調べる ワークシート作成/提出
第9回	建学の精神と実践教育プログラム(5): マナー教室 面接の作法(クラス別)	進路決定の鍵となる面接の作法を調べる ワークシート作成/提出
第10回	進路決定に向けて③ 一般常識テスト(全体)	試験に向けて学習する 終了後は問題を見直し、正解を確認する
第11回	プロジェクト卒業研究・制作一①概要説明(全体)	卒業研究・制作の概要の確認 ワークシート作成/提出
第12回	福祉現場からの声① デイサービス、身体障がい者施設他(全体)	進路決定に向けて情報収集 ワークシート作成/提出
第13回	プロジェクト卒業研究・制作一②グループ編成および打ち合わせ(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート制作/提出
第14回	プロジェクト卒業研究・制作一③グループ編成および打ち合わせ(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第15回	プロジェクト卒業研究・制作一④(クラス別) 前期総括	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート制作/提出

■履修上の注意

専門演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。プロジェクト卒業研究・制作は、関心のあるテーマにそってグループのメンバーと協力して計画的に取り組むこと。毎回、グループごとに当日の取り組み内容と成果を報告することとする。

■評価方法

授業への出席・取り組み(行事等への出席含)を30%、小レポート等の提出物を20%、卒業・制作論文を50%、として、総合的に評価する。なお、半期、通算で6回以上欠席した場合は単位を認定しない。(遅刻3回を欠席1回とカウントする。)

■教科書

『咸有一徳』、『伝統の建学の精神』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を養成する。また、礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通し身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人としてのスキルアップを図る。

■授業の概要

4学年全体での授業と、クラス単位での授業とがある。全体の授業では、本学の建学の精神に則り、社会人になるための基礎スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。

クラス単位の授業では、プロジェクト卒業研究・制作一と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文、制作、調査・研究等をグループ単位で追及し、その完成を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、国家試験対策、進路指導、大学院進学について 等	各委員会からの伝達事項をまとめる /提出
第17回	進路決定にむけて④ 昌賢学園面接説明会：プロフィールカードの記入等(クラス別)	進路決定に向け情報収集 プロフィールカードの提出
第18回	プロジェクト卒業研究・制作一⑤(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第19回	プロジェクト卒業研究・制作一⑥(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第20回	プロジェクト卒業研究・制作一⑦(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第21回	プロジェクト卒業研究・制作一⑧(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第22回	プロジェクト卒業研究・制作一⑨(クラス別)	卒業研究・制作の情報収集 ワークシート作成/提出
第23回	昌賢祭	各学年の取り組みを確認しておく 当日の取り組みを観察してまとめる/提出
第24回	進路決定にむけて⑤ 国家試験直前対策 卒業生による講話(全体)	進路決定に向け情報収集 国家試験に向けての最終確認
第25回	プロジェクト卒業研究・制作一⑩全体の発表会にむけて(クラス別)	グループ毎に発表原稿を作成しておく 発表をまとめて提出
第26回	プロジェクト卒業研究・制作一⑩全体の発表会にむけて(クラス別)	グループ毎に発表原稿を作成しておく 発表をまとめて提出
第27回	プロジェクト卒業研究・制作一発表会(全体)①	全体発表に向け原稿を作成しておく 発表内容をまとめて提出
第28回	プロジェクト卒業研究・制作一発表会(全体)②	全体発表に向け原稿を作成しておく 発表内容をまとめて提出
第29回	特別講話(全体)	卒業に向け、「建学の精神」を深めておく 特別講話の内容をまとめ、提出する
第30回	卒業に向けて 後期総括	後期総まとめ

■履修上の注意

専門演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。プロジェクト卒業研究・制作は、関心のあるテーマにそってグループのメンバーと協力して計画的に取り組むこと。毎回、グループごとに当日の取り組み内容と成果を報告することとする。

■評価方法

授業への出席・取り組み(行事等への出席含)を30%、小レポート等の提出物を20%、卒業・制作論文を50%、として、総合的に評価する。なお、半期、通算で6回以上欠席した場合は単位を認定しない。(遅刻3回を欠席1回とカウントする。)

■教科書

『咸有一徳』、『伝統の建学の精神』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語			担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を習得することにより、自己に関する簡単な事柄を言えるようにする。
 ②中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調(音声の高低)によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習(予習・復習)の筋道をつける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	中国語概論・学習上の注意 スケジュールの説明	<p>予習—教科書付属のCDを必ず聞いておくこと。(発音の練習はしなくてよい)</p> <p>復習—教科書付属のCDで発音を確認すると同時に、その習った例文を暗記し、書けるようにすること。</p>
第2回	発音(声調と単母音) あいさつをしてみよう	
第3回	発音(子音) 自己紹介をしてみよう	
第4回	発音(複母音・鼻母音) ピンインの綴り方①	
第5回	発音(軽声・声調変化) ピンインの綴り方②	
第6回	発音のまとめ わたしは日本人です。	
第7回	第一課 你好!(こんにちは!)自己紹介をしよう	
第8回	第二課 你是日本人吗?(日本人ですか)「是」の言い方	
第9回	第二課 你是日本人吗? 第一課・第二課のまとめ	
第10回	第三課 你家有几口人?(ご家族は何人ですか)動詞「有」の言い方	
第11回	第三課 你家有几口人? 10以下の数の読み方 第三課のまとめ	
第12回	第四課 这是什么?(これは何ですか)「这・那」の言い方	
第13回	第四課 这是什么? 「什么」の使い方 第四課のまとめ	
第14回	第五課 你今年多大?(今年おいくつですか)年齢の言い方	
第15回	第五課 你今年多大? 10以上の数の数え方 第五課のまとめ	

■履修上の注意

授業中は、単に授業を聞くというような受け身な態度ではなく、積極的に参加し発音を練習すること。周囲の迷惑になるので私語を慎むこと。
 中国語Ⅰに続けて、中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■評価方法

平常点60%(授業への取り組み方、課題など) 試験40%(期末試験)

■教科書

『はじめての中国語すくすく』康 俊栄・遠藤 光暁監修 朝日出版社、2006年

■参考書

『はじめての中国語』相原 茂 講談社現代新書、1990年

科目名	中国語			担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①中国語Ⅰに続き、正確な発音の習得に努めるとともに、初級文法・語彙を習得することにより、身の回りの日常的な事柄を表現できるようにする。
 ②中国語の学習を通じて、日本語及び日本文化の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調(音声の高低)によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習(予習・復習)の筋道をつける。中国語Ⅱは中国語だけでなく、中国の文化・歴史にも着目し、授業を進めます。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	中国語概論・学習上の注意 スケジュールの説明。 第六課 今天几月几号?(今日は何月何日) 月日の言い方	予習—教科書付属のCDを必ず聞いておくこと。(発音の練習はしなくてよい) 復習—教科書付属のCDで発音を確認すると同時に、その習った例文を暗記し、書けるようにすること。
第17回	第六課 今天几月几号?	
第18回	第七課 你去哪儿?(何処に行くの) 「哪儿」の言い方	
第19回	第八課 现在在几点?(いま何時ですか) 時間の言い方	
第20回	第六課～第八課のまとめ、1分間スピーチ	
第21回	第九課 喂,你好!(もしもし、こんにちは) 電話での応答	
第22回	第十課 多少钱?(いくら) お金の言い方	
第23回	第十一課 你喜欢什么?(何が好きですか) 動詞の疑問文	
第24回	第十二課 你忙不忙?(忙しいですか) 諾否疑問文の言い方	
第25回	第九課～第十二課のまとめ 1分間スピーチ	
第26回	第十三課 我想喝牛奶(牛乳が飲みたいです) 願望の言い方	
第27回	第十四課 你要做什么?(何がしたいですか) 願望の訊き方	
第28回	第十五課 你会游泳吗?(泳げますか) 三つの「できる」について	
第29回	総復習	
第30回	既習内容に基づいて、自己紹介文を書く	

■履修上の注意

授業中は、単に授業を聞くというような受け身な態度ではなく、積極的に参加し発音を練習すること。周囲の迷惑になるので私語を慎むこと。
 中国語Ⅰに続けて、中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■評価方法

平常点60%(授業への取り組み方、課題など) 試験40%(期末試験)

■教科書

『はじめての中国語すくすく』康 俊栄・遠藤 光暁監修 朝日出版社、2006年

■参考書

『Why?にこたえる はじめての 中国語文法書』相原 茂他 同学社、1996年

科目名	ボランティア活動I (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	ボランティア活動とは①（本学における位置づけ・意義、授業内容）	テキストを読んでおくこと
第3回	ボランティア活動とは②（活動の種類、各施設の説明、etc.）	テキストを読んでおくこと
第4回	継続ボランティアに向けて①（依頼の仕方、電話のかけ方）	各自でくり返し練習すること
第5回	継続ボランティアに向けて②（ボランティア紹介票の記入）	テキストを読んでおくこと
第6回	継続ボランティアに向けて③（報告書の書き方）	テキストを読んでおくこと
第7回	ボランティア活動で求められる基礎知識①車いすの体験	配布資料を読んでおくこと
第8回	ボランティア活動で求められる基礎知識②ブラインドウォークの体験	配布資料を読んでおくこと
第9回	体験学習の発表準備①	各自で発表準備
第10回	体験学習の発表準備②	各自で発表準備
第11回	体験学習の発表	各自で発表準備、発表内容のふり返り
第12回	七夕祭りボランティア活動の発表	各自で発表準備、発表内容のふり返り
第13回	前期中に行った継続ボランティア活動の報告	報告書の作成、記録の整理
第14回	障害者スポーツ大会について	配布資料を読んでおくこと
第15回	前期のまとめ	テキストを読んでおくこと

■履修上の注意

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■評価方法

受講態度（出席、発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、安達勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する

科目名	ボランティア活動I (社会福祉専攻)			担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	夏季休業中のボランティア活動についての報告・反省	記録の整理
第17回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について①	記録の整理
第18回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について②	記録の整理
第19回	地域の高齢者施設について	配布資料を読んでおくこと
第20回	地域高齢者施設へのプレゼント制作①（プレゼントの選定）	各自プレゼントの製作を進める
第21回	地域高齢者施設へのプレゼント制作②（役割分担、制作計画）	各自プレゼントの製作を進める
第22回	地域高齢者施設へのプレゼント制作③（制作活動）	各自プレゼントの製作を進める
第23回	地域高齢者施設へのプレゼント制作④（制作活動）	各自プレゼントの製作を進める
第24回	地域高齢者施設へのプレゼント制作⑤（制作活動）	各自プレゼントの製作を進める
第25回	ボランティア・フォーラム	配布資料を読んでおくこと
第26回	継続ボランティア活動報告の発表準備	記録の整理
第27回	継続ボランティア活動報告会①（各クラスでの発表）	記録の整理
第28回	継続ボランティア活動報告会②（各クラスでの発表）	記録の整理
第29回	継続ボランティア活動報告会③（代表者による全体での発表）	記録の整理
第30回	まとめ	記録の整理

■履修上の注意

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■評価方法

受講態度（出席、発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、安達勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する

科目名	ボランティア活動I (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学では、学内に於ける机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(演習・技術)というサイクルを通じて、福祉の人材を育成することが求められている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場(施設等)で学び、福祉に関わることへの心構え、また人の心の機微『人間愛』を身につけることを目的とする。

■授業の概要

ボランティア活動Iの内容は、本学園の「建学の精神」に則り、『仁』の精神を身につけるための基礎的な教科です。毎週土曜日に学外での活動と、週1回の学内での講義・演習からなっています。日本の大学生による「学生ボランティア活動」の歴史も学びます。更に、本学園のボランティア活動の「歴史」も学びます。活動内容は、「継続ボランティア活動」「依頼ボランティア活動」「地域・国際貢献党ボランティア活動」「行事ボランティア活動」の全てを体験します。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション①：本学園におけるボランティア活動の位置づけ	ボランティア活動体験
第2回	オリエンテーション②：ボランティア活動で学生に求めることの説明	〃
第3回	オリエンテーション③：ボランティア活動Iの単位認定基準の説明	〃
第4回	前期ボランティア活動①：前橋七夕まつりの説明	活動希望先施設の調査
第5回	前期ボランティア活動②：前橋七夕まつりでの活動計画の検討	〃
第6回	前期ボランティア活動③：前橋七夕まつりでの活動準備	〃
第7回	前期ボランティア活動④：前橋七夕まつりでの活動準備	活動先施設の調査と依頼
第8回	継続ボランティア活動報告①(4・5月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第9回	前期ボランティア活動⑤：前橋七夕まつりでの活動準備	活動先施設の調査と依頼
第10回	卒業生によるボランティアフォーラム	諸施設での活動について
第11回	前期ボランティア活動⑥：前橋七夕まつりでの活動準備	活動先施設の調査と依頼
第12回	継続ボランティア活動報告②(6月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第13回	前期ボランティア活動実施①：前橋七夕まつり会場にて実施	施設での実施準備
第14回	前期ボランティア活動実施②：前橋七夕まつり会場にて実施	〃
第15回	前期ボランティア活動の実施③：(前橋七夕まつりの会場にて実施)	地域連携活動

■履修上の注意

実習に準じ、責任を持って活動すること。又、施設等で「ボランティアさせて戴いている」という謙虚さを忘れないこと。なお、正規の時間外に実施することもあり得る。
継続ボランティア活動の開始は、事前に充分施設について調査した上で決定すること。
依頼ボランティア活動についても、積極的に参加することを期待している。

■評価方法

講義への参加態度を30%、前期ボランティア・後期ボランティア活動に関するレポートを20%、継続ボランティア活動・依頼ボランティア活動(1ヶ月ごとの活動報告書による)を50%として、総合して評価する。詳細についてはオリエンテーション③で説明する。

■教科書

平成22年度版「ボランティアハンドブック(すずき利定監修/足立勤一他編著)」
②但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材(演奏曲等)を指導担当者が指定する。

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動I (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学では、学内に於ける机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(演習・技術)というサイクルを通じて、福祉の人材を育成することが求められている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場(施設等)で学び、福祉に関わることへの心構え、また人の心の機微『人間愛』を身につけることを目的とする。

■授業の概要

ボランティア活動Iの内容は、本学園の「建学の精神」に則り、『仁』の精神を身につけるための基礎的な教科です。毎週土曜日に学外での活動と、週1回の学内での講義・演習からなっています。日本の大学生による「学生ボランティア活動」の歴史も学びます。更に、本学園のボランティア活動の「歴史」も学びます。活動内容は、「継続ボランティア活動」「依頼ボランティア活動」「地域・国際貢献党ボランティア活動」「行事ボランティア活動」の全てを体験します。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション及び夏季休業中のボランティア活動の総括。	前期の継続
第17回	継続ボランティア活動報告③(7～9月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第18回	後期ボランティア活動準備①:後期の施設ボランティア説明	活動先施設の調査と依頼
第19回	後期ボランティア活動準備②:施設ボランティア活動の計画検討	〃
第20回	後期ボランティア活動準備③:施設ボランティア活動の計画検討	〃
第21回	継続ボランティア活動報告④(10月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第22回	後期ボランティア活動準備④:施設ボランティア活動の準備	活動先施設の調査と依頼
第23回	後期ボランティア活動準備⑤:施設ボランティア活動の準備	〃
第24回	後期ボランティア活動準備⑥:施設ボランティア活動の準備	〃
第25回	継続ボランティア活動報告⑤(11月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第26回	後期ボランティア活動準備⑦:施設ボランティア活動の準備	活動先施設の調査と依頼
第27回	後期ボランティア活動実施①(施設の希望時間に実施する。)	〃
第28回	後期ボランティア活動実施②(施設の希望時間に実施する。)	〃
第29回	継続ボランティア活動報告⑥(12～1月の活動に関して)	活動内容の報告書作成
第30回	まとめ(ボランティア活動②に関する事前説明)	ボランティア活動記録の完成

■履修上の注意

実習に準じ、責任を持って活動すること。又、施設等で「ボランティアさせて戴いている」という謙虚さを忘れないこと。なお、正規の時間外に実施することもあり得る。
継続ボランティア活動の開始は、事前に充分施設について調査した上で決定すること。
依頼ボランティア活動についても、積極的に参加することを期待している。

■評価方法

講義への参加態度を30%、前期ボランティア・後期ボランティア活動に関するレポートを20%、継続ボランティア活動・依頼ボランティア活動(1ヶ月ごとの活動報告書による)を50%として、総合して評価する。詳細についてはオリエンテーション③で説明する。

■教科書

平成22年度版「ボランティアハンドブック(すずき利定監修/足立勤一他編著)」
②但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材(演奏曲等)を指導担当者が指定する。

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。それらの体験を通じて対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。

本学では、学内における机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(技術)というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 本学におけるボランティア活動Ⅱの位置づけ、単位認定の基準等について	ボランティアハンドブックを通読すること
第2回	オリエンテーション② 本科目の単位認定の基準等について	ボランティアハンドブックを通読すること
第3回	地域福祉について① ボランティア活動の意義と目的	グループワークによる学習
第4回	地域福祉について② ボランティア活動の実際	グループワークによる学習
第5回	地域におけるボランティア活動①	活動内容の企画
第6回	地域におけるボランティア活動②	活動内容の企画
第7回	地域におけるボランティア活動③	活動先施設・機関の調査
第8回	地域におけるボランティア活動④	企画案の精査
第9回	地域におけるボランティア活動⑤	企画案の精査
第10回	地域におけるボランティア活動⑥	活動先施設・機関への依頼
第11回	地域におけるボランティア活動⑦	企画案のまとめ
第12回	地域ボランティア活動企画の発表①	グループでの中間発表
第13回	地域ボランティア活動企画の発表②	グループでの中間発表
第14回	地域ボランティア活動企画の発表③	グループでの中間発表
第15回	前期のまとめ	〃

■履修上の注意

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■評価方法

講義・演習への参加態度(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

適宜紹介する

科目名	ボランティア活動Ⅱ (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。それらの体験を通じて対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。

本学では、学内における机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(技術)というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション	地域ボランティア、継続ボランティアの実践をまとめておく
第17回	地域ボランティア活動の振り返り①	グループで地域ボランティア活動の実践をまとめておく
第18回	地域ボランティア活動の振り返り②	グループで地域ボランティア活動の実践をまとめておく
第19回	地域ボランティア活動報告の準備①	グループで地域ボランティア活動の実践をまとめておく
第20回	地域ボランティア活動報告の準備②	各グループでプレゼンテーションの準備をしておく
第21回	地域ボランティア活動報告の準備③	各グループでプレゼンテーションの準備をしておく
第22回	地域ボランティア活動報告①	報告内容についてまとめる
第23回	地域ボランティア活動報告②	報告内容についてまとめる
第24回	地域ボランティア活動報告③	報告内容についてまとめる
第25回	継続ボランティア活動報告①	継続ボランティアの実践についてまとめる
第26回	継続ボランティア活動報告②	継続ボランティアの実践についてまとめる
第27回	継続ボランティア活動報告③	継続ボランティアの実践についてまとめる
第28回	継続ボランティア活動報告④	継続ボランティアの実践についてまとめる
第29回	地域ボランティア及び継続ボランティア活動の振り返り	グループワークでの学習
第30回	まとめ	1年間の振り返り

■履修上の注意

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■評価方法

講義・演習への参加態度(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

適宜紹介する

科目名	ボランティア活動Ⅱ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通じて対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習(保育所)Ⅰ・Ⅱ、幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させる。そのためには、到達目標にあるように、将来の自己実現を目指した目標を定め、その目標に向けたボランティア活動を行います。特に、建学の精神である『仁』に基づき、福祉に携わることへの「心構え」、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション① 本学におけるボランティア活動Ⅱの位置づけ、単位認定の基準等について	ボランティアハンドブックを通読すること
第2回	オリエンテーション② 本科目の単位認定の基準等について	ボランティアハンドブックを通読すること
第3回	「子育て支援ボランティア」について ボランティア活動の意義と目的	子育て支援に関する記事やニュースに関心を持っておくこと
第4回	前期ボランティア活動①：前橋七夕まつりの説明	前橋七夕まつりの概要を知り、グループ編成を行う
第5回	前期ボランティア活動①：前橋七夕まつりの活動計画の検討	前橋七夕まつりの活動内容の企画書作成
第6回	前期ボランティア活動②：前橋七夕まつりの活動計画の検討	前橋七夕まつりの活動内容の企画書作成
第7回	前期ボランティア活動③：前橋七夕まつりの活動準備	各グループで前橋七夕まつりの活動準備を進める
第8回	前期ボランティア活動④：前橋七夕まつりの活動準備	各グループで前橋七夕まつりの活動準備を進める
第9回	前期ボランティア活動⑤：前橋七夕まつりの活動準備	各グループで前橋七夕まつりの活動準備を進める
第10回	前期ボランティア活動⑥：前橋七夕まつりの活動準備	各グループで前橋七夕まつりの活動準備を進める
第11回	前期ボランティア活動の実施：前橋七夕まつり会場にて実施	前橋七夕まつり会場にて活動実施
第12回	前橋七夕まつり 活動報告会の準備	各グループごとに活動報告をまとめる
第13回	前橋七夕まつり 活動報告会	各グループごとの活動報告会
第14回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の説明	後期「子育て支援ボランティア」の概要について知る
第15回	前期のまとめ・夏休み中のボランティア計画について	前期の活動を振り返り、夏休み中の計画を計画する

■履修上の注意

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事。
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■評価方法

講義・演習への参加態度(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通じて対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習(保育所)Ⅰ・Ⅱ、幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させる。そのためには、到達目標にあるように、将来の自己実現を目指した目標を定め、その目標に向けたボランティア活動を行います。特に、建学の精神である『仁』に基づき、福祉に携わることへの「心構え」、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション	夏期ボランティア活動の実践をまとめておくこと
第17回	夏期ボランティアの活動報告会①	夏期ボランティア活動の実践をまとめておくこと
第18回	夏期ボランティアの活動報告会②	夏期ボランティア活動の実践をまとめておくこと
第19回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動計画の検討①	各グループで子育て支援ボランティア活動準備を進める
第20回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動計画の検討②	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第21回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動準備①	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第22回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動準備②	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第23回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動準備③	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第24回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の活動準備④	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第25回	子育て支援ボランティア活動の実施(前橋子ども図書館)	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第26回	子育て支援ボランティア活動の実施(前橋子ども図書館)	各グループで子育て支援ボランティア活動の準備を進める
第27回	子育て支援ボランティア活動 報告会の準備	子育て支援ボランティア活動についてグループごとに活動報告をまとめる
第28回	子育て支援ボランティア活動 報告会	子育て支援ボランティア活動についてグループごとに活動報告をまとめる
第29回	後期ボランティア活動の振り返り	後期ボランティア活動についてまとめておく
第30回	1年間のまとめ:継続ボランティア先への礼状送付について	1年間の振り返り

■履修上の注意

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■評価方法

講義・演習への参加態度(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義の理解を図り、福祉現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し福祉社会の支援者として、良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な、理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通し、レクリエーションの広義な意味を理解し基礎的な技術を学ぶことを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業の進め方及び自己紹介
第2回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティ・トレーニング	良好な人間交流術を考える
第3回	序 章 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割	福祉現場でのレクリエーション活動の位置づけを理解する
第4回	生活のレクリの「良循環」	楽しく生きがいの感じられる生活のサービスの向上を考える
第5回	第1章 レクリエーションのもつ意味	レクリエーションの生いたち、歴史を考える
第6回	福祉領域でのレクリエーションの意味	誰もが遊ぶ権利をもっていることを理解する
第7回	第2章 レクリエーションと社会福祉	制度面の変化のなかでのレクリエーションの役割について考える
第8回	生活とレクリエーションの関係	日常生活の三領域の望ましい援助について考える
第9回	第3章 レクリエーションの利用者と援助者	援助する者の基本的スタンスを確認し理解する
第10回	個別性とグループ活用	グループや家族の活用のシステム整備を考える
第11回	ソーシャルグループ・ワークとの関係	家族介護教室や閉じこもり予防教室とレク活動との関連を理解する
第12回	地域支援事業の展開	地域で実施される各種事業について考える
第13回	グループ・ワーク (閉じこもり予防プログラム) の立案	グループで協力し合いプログラムづくりを経験する
第14回	プログラム発表	他グループの発表を真摯な態度で聴き、考える
第15回	まとめ(評価・ふりかえり)	第2回から第14回までの復習

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め、一方的な講義でなくグループ・ワークを取り入れ、自発的な学習を進めたい。
真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70% 学習態度20% 課題提出10%を総合して評価する (遅刻3回を欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義の理解を図り、福祉現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し福祉社会の支援者として、良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な、理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通し、レクリエーションの広義な意味を理解し基礎的な技術を学ぶことを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	第4章 レクリエーション計画の作成と実行・評価	マズローの欲求5段階説を理解する
第17回	利用者のレクリエーション・ニーズの把握(アセスメント)	アセスメントの三つの形態について考える
第18回	レクリエーション計画の方法と実際	レクリエーション援助課程(A-PIE)プロセスを理解する
第19回	第5章 レクリエーション援助活動の実際	組織と環境づくりと地域資源の活用を考える
第20回	楽しく安全なレクリエーションの実現	計画段階での安全管理の必要性を考える
第21回	危機管理を視野に入れた活動計画	危機管理体制の確立を図り研修の必要性を考える
第22回	第6章 レクリエーション援助者の役割	援助者はどのようなポリシーをもって援助するべきかを考える
第23回	援助者の具体的業務	専門職としてのレクリエーション援助の業務内容を考える
第24回	第7章 治療的意味合いを含めたレクリエーション	治療・リハビリ現場で活用するレクリエーション療法を理解する
第25回	セラピューティック・レクリエーション	利用者のレクリエーション活動自立を目指すことを考える
第26回	第8章 レクリエーション援助の展開例(高齢者援助)	事例学習を通し最近の高齢者の傾向を考える
第27回	レクリエーション援助の展開例(障害者援助)	レク活動を通し社会参加することで地域との交流を深めるよう考える
第28回	福祉レクリエーション財とアレンジの展開	レクリエーションの生活化の大切さを考える
第29回	アレンジの実際・発表	学んだことを生かし対象に合ったアレンジに取り組む
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)	一年間の復習

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め、一方的な講義でなくグループ・ワークを取り入れ、自発的な学習を進めたい。
真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70% 学習態度20% 課題提出10%を総合して評価する (遅刻3回を欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し、社会福祉の支援者として良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通しレクリエーションの広義な意味を理解し、基礎的な技術を学び自信をもって現場で活動できることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業の進め方及び自己紹介
第2回	第6章 レクリエーション援助者のポリシー (ホスピタリティ・トレーニング)	良好な人間関係を考える
第3回	序章 介護福祉サービスにおけるレクリエーション援助の意義 1. 基本的人権としてのレクリエーション	福祉現場でのレクリエーション活動の位置づけを理解する
第4回	3. レクリエーションによる生活の「良循環」	楽しく生きがいの感じられる生活のサービス向上を考える
第5回	第1章 レクリエーションのもつ意味とは I レクリエーションの生い立ち	レクリエーションの歴史を学ぶ
第6回	Ⅲ 福祉領域でのレクリエーションの意味	誰もが遊ぶ権利を持っていることを知る
第7回	第2章 レクリエーションと社会福祉 1. 社会福祉のなかでのレクリエーションの役割	制度面の変化のなかでのレクの役割について考える
第8回	2. 生活とレクリエーションの関係	日常生活の三領域の望ましい援助について考える
第9回	第3章 レクリエーションの利用者と援助者 1. 介護福祉サービス利用者の遊びからの生活創造を考える	援助する者の基本的スタンスを確認する
第10回	2. レクリエーション活動援助の個別性と	個別性を基礎とした家族等の活用のシステム整備を考える
第11回	3. ソーシャルグループワークとの関係	家族介護教室等とレク活動との関連を理解する
第12回	Ⅳ 地域支援事業の展開 (閉じこもり予防プログラムでの試案)	地域で実施される各種事業について考える
第13回	介護予防システムとレクリエーション援助 (レクリエーションサービス計画書1.2. グループワーク)	グループで協力し合いプログラムづくりを経験する
第14回	グループ発表・評価	他グループ発表を真摯な態度で聴き評価する
第15回	レクリエーション財の習得(テーブルゲーム・クラフト等) まとめ(評価・ふりかえり)	現場で役立つレク財を覚える。半期をふりかえる

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め一方的な講義にならぬよう、演習やグループ・ワーク等も実施する。真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70%・課題20%・学習態度10% (遅刻3回で欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し、社会福祉の支援者として良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通しレクリエーションの広義な意味を理解し、基礎的な技術を学び自信をもって現場で活動できることを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	第4章 レクリエーション計画の作成と実行・評価 II 人間の基本的欲求に基づくレクリエーション・ニーズ	マズローの欲求5段解説を理解する
第17回	2. 援助者側からのレクリエーション計画の作成 I 場面 II 目的 III アセスメント レク・ニーズの実現	アセスメントの三つの形態(面接方式を体験実施)について考える
第18回	IV レクリエーション計画の方法と実際 (スケジュール計画・プログラム計画)	レクリエーションの援助過程(A-P-I-E)プロセスを学ぶ
第19回	グループワーク 企画書づくり	施設イベント事業の企画書をグループ毎作成する
第20回	グループワーク 企画書プレゼンテーション後 進行表作成	企画書を基に各自でプログラム進行表の作成する
第21回	4. レクリエーション計画上の留意点	フローの概念を理解する
第22回	VI レク援助の実施記録と評価	記録と評価(ふりかえり)の大切さを学ぶ
第23回	第5章 レクリエーション援助活動の実際 1. 援助のための組織・環境の形成	組織と環境づくり・地域資源の活用を考える
第24回	2. 楽しく安全なレクリエーションの実現	計画段階での安全管理の必要性を考える
第25回	III 危機管理を視野に入れた活動計画	危機管理体制の確立を図り施設内研修の必要性を考える
第26回	第7章 治療的意味合いを含めたレクリエーション	治療・リハビリ場面で活用する8つのレク療法を学ぶ
第27回	セラピューティック・レクリエーション	レク活動自立を目指す1～3段階のコントロールを学ぶ
第28回	第8章 レクリエーション援助の展開例 1. 高齢者へのレク援助	ビデオ学習を通し最近の高齢者の傾向を考える
第29回	2. 障害者へのレク援助	ビデオ学習を通し障害者の頑張る生活を知る
第30回	3. レクリエーション財とその展開(財のアレンジの必要性) 一年間のまとめ	活動の4要素(価値)からの分析方法を学びアレンジに取り組む

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め一方的な講義にならぬよう、演習やグループ・ワーク等も実施する。真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70%・課題20%・学習態度10% (遅刻3回で欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する

科目名	英語 I			担当教員 (単位認定者)	稲村 善二	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「英語を読む」ことと「日本語に訳す」ことを同一視している人が見うけられますが、本来の読解力とは、「自分の文法、単語力だけでなく、あらゆる知識を総動員して文の内容理解に取り組む」というきわめて積極的な作業であると考えられます。

■授業の概要

上記の考えに基づき、どのようにしたら「英語の総合力としての読解力」を伸ばせるかを念頭に置いて英語力の養成を図ります。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	本文の聴き取り練習。
第2回	長文の読み方	〃
第3回	S(主語)とV(動詞)を正しくつかむ	〃
第4回	未知の単語に出会ったら	〃
第5回	登場人物をつかむ	〃
第6回	意味の固まり(センスグループ)ごとに理解する	〃
第7回	論理の流れを追う	〃
第8回	パラグラフ単位に大意をつかむ	〃
第9回	常識、既習の知識をはたらかす	〃
第10回	パラグラフ単位に大意をつかむ	〃
第11回	まずは直訳してみる	〃
第12回	共通項を探す	〃
第13回	thatの用法	〃
第14回	単語の意味は文の中で決まる	〃
第15回	省略されている語句を見つける	〃

■履修上の注意

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■評価方法

定期試験の成績(60%)、出席状況(20%)、授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

■教科書

Reading Tasks for College Students 南雲堂 露木幸雄

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅱ(社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	五十嵐 久子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育英語を通じて子どもの発育過程を平易な英語で表現してみましょう。毎回和訳を課題に出すのでスムーズな日本語表現になるように工夫してください。

■授業の概要

リスニングを繰り返すことにより耳を英語に慣らしましょう。
できればディクテーション(英語の書き取り)にも挑戦しましょう。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	第1章 自分のCVを書いて自己紹介をします。	Emi's Journal 和訳
第2回	第1章 子どもの園保育園	Emi's Journal 和訳
第3回	第2章 えみの実習初日 (動詞の学習)	Emi's Journal 和訳
第4回	第2章 第3章 さあ出かけましょう (前置詞の学習)	Emi's Journal 和訳
第5回	第3章 第4章 パシャパシャ水しぶき (動詞・不定詞)	Emi's Journal 和訳
第6回	第4章 第5章 ホットケーキの日 (副詞)	Emi's Journal 和訳
第7回	第5章 第6章 本を読んで、お話をさせて (冠詞)	Emi's Journal 和訳
第8回	第6章 第7章 すいかで遊ぼう (名詞)	Emi's Journal 和訳
第9回	第7章 第8章 お誕生会 (形容詞、副詞の比較)	Emi's Journal 和訳
第10回	第8章 第9章 子どもと遊び (名詞)	Emi's Journal 和訳
第11回	第9章 第10章 赤ちゃんニュース (動名詞)	Emi's Journal 和訳
第12回	第10章 赤ちゃんニュース (不定詞)	Emi's Journal 和訳
第13回	第11章 歯の妖精 (句動詞)	Emi's Journal 和訳
第14回	第12章 緑の目をした魔女	Emi's Journal 和訳
第15回	第12章 緑の目をした魔女	Emi's Journal 和訳

■履修上の注意

保育英語を通じ、平易な英語で会話を楽しむことを学習します。
毎回小テストを行います(教科書にある 並び替えて英文を作る問題)。これが出席の証となります。

■評価方法

出席状況、定期試験、課題レポートにより評価する(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

Children's garden

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅱ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	五十嵐 久子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

日常生活の中で平易な英語を使って意思を伝達できるようになることを目指します。毎回2、3名の学生を指名して3分間英語で自由にスピーチしてもらい、5、6名の学生が質問します。日本語は必要最小限にして授業はオールイングリッシュを目指します。

■授業の概要

毎回30分フリートーキングをします。50分間は教科書を使って、幼稚園の子供のケアを中心とした英語に慣れ、リスニングや文法の力を身につけます。最後10分でまとめと書き取りをします。小テスト提出が出席の証になります。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	全員で自己紹介、あいさつとクラスルームイングリッシュ	ライティング小テスト
第2回	1章 こどもの園保育園 冠詞、形容詞、副詞	listening to the CD開業 ライティング小テスト
第3回	2章 実習初日 動詞の活用形	listening to the CD ライティング小テスト
第4回	3章 さあ出かけましょう 前置詞	listening to the CD ライティング小テスト
第5回	4章 バシャバシャ水しぶき 不定詞 動名詞	listening to the CD ライティング小テスト
第6回	5章 ホットケーキの日 副詞	listening to the CD ライティング小テスト
第7回	6章 本を読んで お話を聞かせて 冠詞	listening to the CD ライティング小テスト
第8回	7章 すいかで遊ぼう 名詞	listening to the CD ライティング小テスト
第9回	8章 お誕生日おめでとう 形容詞 副詞	listening to the CD ライティング小テスト
第10回	9章 子どもと遊び 名詞	listening to the CD ライティング小テスト
第11回	10章 赤ちゃんニュース 動名詞 不定詞	listening to the CD ライティング小テスト
第12回	11章 歯の妖精 句 動詞	listening to the CD ライティング小テスト
第13回	12章 緑の日の魔女	listening to the CD ライティング小テスト
第14回	「いやいやえん」の世界を英語で表現する	ライティング小テスト
第15回	文法的なテーマの復讐	ライティング小テスト

■履修上の注意

発表のための準備に十分な時間をかけましょう。簡潔にわかりやすく、楽しい発表を目指します。教科書は必ずCDを聞いて予習しておきます。

■評価方法

定期試験 80% 出席点 10% 授業の発表 10%

■教科書

Children's Garden (成美堂)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	稲村 善二	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

英語圏に片寄らないさまざまな文化圏の人物が、日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。具体的には、Toeicの中級レベルを目指す。

■授業の概要

日常英語表現の習得を念頭に置き、Dialogueで基本的な表現を学び、Expressionsではそれらを発信力の向上へつなげる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	各 unit の練習問題を解く。
第2回	Toeicについて。	〃
第3回	Convenience Stores 中国のコンビニエンス・ストアについて、日本との比較を食習慣の違いおよび接客態度の慣習の違いなどに着目する。	〃
第4回	〃	〃
第5回	Norimaki 隣の国、韓国の食文化と日本との類似を知る。	〃
第6回	〃	〃
第7回	“Hai” 外国語の一つとして、一般的に私達は「中国語」と分類するが、実際には多くの種類がある。その実状について学ぶ。	〃
第8回	〃	〃
第9回	Ramen 穀物である小麦と米の文化の分布とその発展について学ぶ。	〃
第10回	〃	〃
第11回	Flavors 特に東南アジアでは香辛料が重要な食文化の一部である。日本とは宗教的に異なる地域もあり、その違いを学ぶ。	〃
第12回	〃	〃
第13回	Valentine's Day and International Women's Day 日本と韓国はバレンタイン・デーが定着したようであるが、他のアジア諸国では「国際婦人デー」の方がよく知られている。	〃
第14回	Toeic Test 練習。	〃
第15回	〃	〃

■履修上の注意

テキストに沿った形の演習形式を取るため、予習は欠かせない。

■評価方法

定期試験の成績(60%)・出席状況(20%)・授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

■教科書

千波玲子・田部井圭子 三修社「身近にある異文化2」 英語Ⅳの履修者はこのテキストの後半からスタートする。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅳ		担当教員 (単位認定者)	稲村 善二	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できることを目指す。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。具体的な到達目標はToeic中級レベルとする。

■授業の概要

クイズ形式のIntroduction、異文化体験のDialog、関連した話題を短い文章でまとめたCultural Notes、表現練習のExpressionsで構成。日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	各unitの練習問題を解く。
第2回	Car Names 「カッコいい」という感覚は国によって異なる。それは語感から来るものかもしれない。その理由を考えてみる。	〃
第3回	Fakes にせものが出回る現状を考えてみる。にせものと「似た物」の違いについてもその出現の背景を考察してみる。	〃
第4回	〃	〃
第5回	It Doesn't Mean That 「言葉通りの意味ではない」のは日本語だけではない。コミュニケーションのルールの難しさについて学ぶ。	〃
第6回	〃	〃
第7回	The Draft 韓国の徴兵制について、最近では多くの日本人が知っている。	〃
第8回	〃	〃
第9回	The University System オーストラリアの大学制度について学ぶ。アメリカの制度ではなく、イギリスの制度を基本にしている。	〃
第10回	〃	〃
第11回	Job-hunting 日本の学生にとって「就職活動」は大人への入り口とも言える。アメリカの学生はどうなのだろうか。	〃
第12回	〃	〃
第13回	Toeic Test 練習。	〃
第14回	〃	〃
第15回	〃	〃

■履修上の注意

テキストに沿った形の演習形式を取るのので、予習は欠かせない。

■評価方法

定期試験の成績(60%)・出席状況(20%)・授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

■教科書

千波玲子・田部井圭子「身近にある異文化2」(三修社)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	韓国語Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ハングル(文字)の成り立ちや発音を学習し、文字が読み書けるようになる。韓国語の基礎会話力を身につける。韓国に興味を持って、韓国と日本の社会・文化を比較して知る。

■授業の概要

ハングルの特徴、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、簡単な会話ができるように何度も口に出して練習する。疑問詞、数詞などを用いての教材の項目別文例を基に対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。視聴覚教材なども用いる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ハングルの母音 出合いの挨拶	母音の発音の練習
第2回	ハングルの子音1 別れの挨拶	子音の読み書きの練習
第3回	ハングルの子音2 基本会話―感謝	子音の読み書きの練習
第4回	ハングルの二重母音 基本会話―謝罪	読み書き練習 教材事前学習
第5回	ハングルの濃音 基本会話―食事の時	〃
第6回	ハングルの激音 基本会話―お願いの時	〃
第7回	ハングルのパッチム1 わかる・わからないの表現	〃
第8回	ハングルのパッチム2 ある・ないの表現	〃
第9回	映像で学ぶハングル1	感想文作成 教材事前学習
第10回	ハングルの発音の規則	規則の暗記 教材事前学習
第11回	ハングルの日本語表記 ハングルでの動物の鳴き声	表記の練習 教材事前学習
第12回	自己紹介 ～は～です文形	教材文の練習 教材事前学習
第13回	指示代名詞1 助詞～が	〃
第14回	指示代名詞2 ～が何ですかの文形	〃
第15回	まとめ・復習	1回から14回までの復習

■履修上の注意

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。
初めての言語なので文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。
韓国語Ⅰに続けて、韓国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、出席・授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	韓国語Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

ハングルの読み、書き、基本会話の習得を終えた学生を対象に、さらに進んだ日常会話力を身に付ける。韓国と日本の社会・文化との共通点と相違点を知り、韓国人の生活様式と思考を幅広く理解する。

■授業の概要

疑問詞、数詞などを用いての教材の項目別文例を基に、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	否定文 助詞～も	教材文の練習 教材事前学習
第2回	疑問詞 ～は～ではありませんの文形	〃
第3回	家族の呼び方 ～も～ですの文形	〃
第4回	丁寧な会話体 助詞～に	〃
第5回	位置を表す言葉 ～に～がありますの文形	〃
第6回	時を表す言葉1 助詞～で	〃
第7回	曜日の言い方 ～で～をしますの文形	曜日の暗記 教材事前学習
第8回	漢数詞1 時を表す言葉2	漢数詞の暗記 教材事前学習
第9回	映像で学ぶハングル2	感想文作成 教材事前学習
第10回	漢数詞2 番号・値段の言い方	漢数詞の暗記 教材事前学習
第11回	漢数詞3 ～月～日ですの文形	〃
第12回	用言の「です・ます形」1 助詞～と	教材文の練習 教材事前学習
第13回	用言の「です・ます形」2 ～と～をしますの文形	〃
第14回	否定・不可能の表現 あまり～くありませんの文形	〃
第15回	まとめ・復習	16回から29回までの復習

■履修上の注意

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。
初めての言語なので文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。
韓国語Ⅰに続けて、韓国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、出席・授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	経済学			担当教員 (単位認定者)	坂戸 五郎	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

経済学は人間の社会生活と直接に結びついている。人間の実生活の歴史の中での一定の法則—経済理論の構築について考えさせる。

■授業の概要

社会科学の一分野としての経済学を考える。社会と人間の関係—今日の資本主義と人間の関係を中心に分析を進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション—社会科学の一分野としての経済学の説明	配布資料を学習すること
第2回	I 社会科学について 1. 定義 2. 用語	配布資料を学習すること
第3回	3. 社会科学の理論、 1) M. ウェーバー 2) 大塚久雄	M. ウェーバーを読むこと
第4回	II 人間生活と経済 1. 経済の基本 1) 人間の生活	配布資料を学習すること
第5回	2. 経済学の成立と歴史 a. A. スミスの理論	A. スミス「国富論」を見る
第6回	b. 重農主義、重商主義を考える	F. ケネー「経済表」を読む
第7回	3. 経済行為 1) 合理主義思想 2) 限界効用の理論	メンガー「国民経済学原理」
第8回	III 現在の経済生活 1. 経済のしくみ	配布資料を学習すること
第9回	2. 現代の経済理論 1) マーシャル・ピグー 2) ケインズ	ケインズの著書を読む
第10回	3) マルクスの理論	社会主義を調べる
第11回	3. 市場と価格 1) 市場とは 2) 価格の内容	配布資料を学習すること
第12回	3) 需要と供給の法則 4) 市場機構の限界	—マーシャルの法則について調べる
第13回	4. 株式会社と株式資本—株式資本の二面性	新聞の株式面を読む
第14回	株式会社の設立—発展	配布資料を学習すること
第15回	IV 国民所得—定義と派生概念、分析の基本	日本のG.D.Pの推移を調べる

■履修上の注意

講義が中心、黒板の板書が多いが説明、解説を良く聞く事。途中質問をする場合もある。学生諸君からの質問を歓迎する。

■評価方法

出席・態度 30% テスト 70%

■教科書

ない。講義の途中で多くの参考書を提示するので図書館などで調べる事。

■参考書

講義の際に多くの参考書は提示する。

科目名	健康論			担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく一人一人の取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康を実現することを図る。特に、日常生活の身体をとおして、健康を増進し発病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常の生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。

■授業の概要

人間にとって、健康を考えることの意味、予想される疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康との関わりと個人の自己管理、具体的な体力増進のための方法、運動の持つ文化性、トップアスリートの身体作りと健康、食と健康との関わりについて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：健康を考える（意識、定義、人間の幸福）	健康について、自己の意見をまとめておく。
第2回	疾病予防論（感染症、生活習慣病）	疾病予防について、自己の意見をまとめておく。
第3回	メンタルヘルス論①（心身相関、精神障害）	メンタルヘルスについて、自己の意見をまとめておく。
第4回	メンタルヘルス論②（健康増進と予防）	健康増進について、自己の経験をまとめておく。
第5回	ヘルスマネジメント論①（意義、世界的潮流）	健康管理について、自己の意見をまとめておく。
第6回	ヘルスマネジメント論②（我が国の動向）	地域社会の健康管理について、予備知識を得ておく。
第7回	体力論（体力とは、体力診断、加齢と体力）	体力について、自己の意見をまとめておく。
第8回	運動処方論（考え方、実際、現実と課題）	運動処方について、自己の経験をまとめておく。
第9回	運動文化論（身体運動と文化）	運動文化について、自己の意見をまとめておく。
第10回	生涯スポーツ論①（地域社会とスポーツ行政）	生涯スポーツについて、自己の意見をまとめておく。
第11回	生涯スポーツ論②（地域スポーツと健康）	地域スポーツについて、予備知識を得ておく。
第12回	健康づくりと運動①（ラジオ体操の基礎理論と実践）	健康づくりの身体運動について、予備知識を得ておく。
第13回	健康づくりと運動②（ラジオ体操の応用理論と実践）	ラジオ体操の基礎理論と実技をまとめておく。
第14回	健康づくりと運動③（みんなの体操の理論と実践）	ラジオ体操の応用理論と実技をまとめておく。
第15回	まとめ	学習内容の確認

■履修上の注意

- ①生涯の健康づくりの基礎知識として取得し、日常生活に応用できる態度の受講を求める。
- ②一般教養「保健体育」の保健であり、積極的に授業に参加すること。また、毎回の授業終了後にコメントカードを提出する。
- ③健康づくりの運動では、実践時の内容を記述する。また、身体運動が十分できるよう運動着を着用して参加すること。
- ④講義で学習した内容に関して、新聞、ニュースなどで最新の情報に関することがあれば常に意識するように習慣づけること。

■評価方法

- ①平常点（授業への参加、取り組み）（40%） ②試験（60%）を総合して評価する。

■教科書

「健康論：三訂版」（UEC健康・スポーツ科学部会編：道と書院）

■参考書

「健康日本21」（健康づくり財団）等、授業の中で紹介する。

科目名	児童文学		担当教員 (単位認定者)	市川 忠夫	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童書の歴史、児童観の変遷を捉えると同時に、児童としての人間性、いのちの尊さを理解する。なお、正しい言葉の発音、使い方を念頭に置き、読み聞かせの実践力を養う。全員に児童文学の作品の創作提出させ発表させる。

■授業の概要

グリム兄弟、アンデルセンを代表する西欧と宮沢賢治をはじめとする日本の童話の世界、昔話の世界、加えて、鈴木三重吉の「赤い鳥」を通しての近代文学を探究する。また、良寛和尚の目を通した児童観を一つの手本として捉え、人間としての在り方を考える。

更に、絵本やマンガ文学を含めた現在の児童文学、その中から生まれたアニメの世界も考察する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	児童文学の位置、歴史及び児童観について。 鈴木三重吉の「赤い鳥」の近代文学の意義について。	教科書を学習する事
第2回	グリム兄弟について。アンデルセンについて。	〃
第3回	グリム童話直訳本について。アンデルセン童話直訳本について。 その他の西欧の童話作家について。	〃
第4回	宮沢賢治について。	〃
第5回	その他の日本の童話作家について。	〃
第6回	日本昔話について(民話・童謡・わらべ唄等を含む)。 童話におけるファンタジーの重要性。	〃
第7回	良寛和尚、その人と成りについて。良寛和尚の児童観、人間観。	〃
第8回	日本語の発音について。日本昔話の読み聞かせ実践。	〃
第9回	童話の読み聞かせ実践。 幼児教育における正しい言葉の使い方の重要性について。	〃
第10回	現在の日本の児童文学・童話・絵本について。絵本、紙芝居の読み聞かせ実践。	〃
第11回	マンガ、アニメ時代の読み聞かせの意義。イメージすることの意義。 アニメ作品の読み聞かせの試み。	〃
第12回	短編童話自作の試み(課題)。各自好きな童話の読み聞かせ実践。	〃
第13回	各自好きな童話の読み聞かせ実践。	〃
第14回	自作童話の発表(読み聞かせ)。	〃
第15回	まとめ	〃

■履修上の注意

幼児の目線に立って捉える姿勢が大切である。
一方で、児童文学を通して、子ども達に夢と希望、冒険、ファンタジーといったものを与え、豊かな人間性を育むことを目標において取組んで頂きたい。同時に、幼児にとって大切な「しつけ」、「教え」といった要素も含まれていることを念頭において、履修して欲しい。

■評価方法

履修した内容について筆記試験 70%。講義中の受講態度及び実践態度、課題提出等 30%。
60-69(C) 70-79(B) 80-89(A) 90-100(S)

■教科書

「新版 児童文学概論」(原 昌・浜野卓也共著)(樹村房)

■参考書

「児童文学」(市川忠夫編著) 「赤い鳥」(鈴木三重吉)
「日本・世界のおはなし101話」(チャイルド本社) 「改訂児童文化概論」(原 昌編著)(建帛社刊)

科目名	社会理論と社会システム (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	坂戸 五郎	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代の社会の変容を社会科学的見地より分析する。物事に対して科学的学問的立場より見る事の大切さを教える。「社会」に関し幅広い教養と批判的精神を身に付ける事を期待する。

■授業の概要

人間の社会生活の基本＝約束事についてその内容を人間の歴史の中で発生した理論を中心に分析して見る。又現代の社会を分析した多くの理論を概観する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション、—授業計画の概要、学問についての研究方法など	配布資料を学習すること
第2回	I 社会理論とシステムについてルーマンを中心にパーソンズ、ハーバーマスの理論	ルーマンの「システム論」を読む
第3回	II 人間の社会生活の基本＝社会規範—定義と存在	社会規範を調べる
第4回	社会規範の分類と内容 1. 法の定義と理論	モンテスキュー「法の本質」を読む
第5回	2. 道徳について歴史と理論、デュルケーム、カント等	デュルケームについて調べる
第6回	3. 習俗と慣習—定義と理論 サムナーの定義	サムナーについて調べる
第7回	4. 宗教・成立と意義 a 原始宗教など	タイラーについて調べる
第8回	宗教 現代宗教の内容、仏教、キリスト教、イスラム教	イエス・キリストについて調べる
第9回	III 現代の社会理論 1. 現代社会の変容 ガルブレイズ	ガルブレイズを読む
第10回	現代の社会理論 2. 消費社会の理論 ボードリヤール	ボードリヤールを読む
第11回	現代の社会理論 3. 新自由主義の理論 フリードマン	フリードマンを読む
第12回	現代の社会理論 4. 福祉社会＝福祉国家 アンデルセン	アンデルセンを読む
第13回	現代の社会理論 5. 現代「コミュニティ」の理論 バウマン	バウマンを読む
第14回	現代の社会理論 6. 現代の文明間の衝突 ハンチントン	ハンチントンを読む
第15回	総括と演習	配布資料を学習すること

■履修上の注意

講義が中心である。黒板に板書を多くする。ノートをきちんととってもらいたい。途中質問をする場合が多い。

■評価方法

出席点・授業態度 30% テスト 70%

■教科書

教科書はない。教科書の代りに多くの参考書を紹介する。

■参考書

講義の際にその都度提示するので図書館などで調べ読むこと。

科目名	社会理論と社会システム (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会学の歴史と人名について、理解して覚えることが期待される。学習効果として挙げられる。社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを授業の到達目標とする。

■授業の概要

ジェンダー、児童虐待、DVについては、ビデオ学習も取り入れる。社会福祉士の受験科目である社会理論と社会システムで必要とされる人名や業績について包括的に学習する。また人口動態や社会指標では具体的なデータを取り上げて、説明を行う。社会福祉士の過去問題も授業では取り上げて、演習形式で学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	教科書の通読
第2回	ジェンダー	ジェンダーについて自分なりの意見をまとめる
第3回	児童虐待	児童虐待について自分なりの意見をまとめる
第4回	ドメスティック・バイオレンス	配偶者暴力について自分なりの意見をまとめる
第5回	高齢者虐待	高齢者虐待について自分なりの意見をまとめる
第6回	まとめ	配布資料の復習
第7回	問題演習	配布資料の予習
第8回	問題演習解説	演習問題の復習
第9回	組織	官僚組織、フォーマル・グループ、インフォーマルグループ
第10回	役割理論	役割理論について具体的な事例を考えてみる
第11回	社会学人名(1)	配布資料の復習
第12回	社会学人名(2)	配布資料の復習
第13回	まとめ	配布資料の復習
第14回	問題演習	配布資料の予習
第15回	問題演習解説	演習問題の復習

■履修上の注意

必要とされる予備知識については、教科書を事前に通読しておくことが望ましい。社会福祉士の試験では社会理論と社会システムは暗記すべき項目が比較的多いため、授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。暗記は工夫すると覚えやすいので、授業の中でも紹介していく。

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	生涯学習概論			担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生涯学習の基本理念と内容を理解し、その歴史的・国際的展開に関する知識を得るとともに、生涯学習における学び方を身に付け具体的な学習者への支援方法について効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習に関するユネスコ、OECDを含め国内外の理念、基本的考え方やその発展を理解するとともに、現在の社会状況の教育課題等を踏まえ、生涯学習に期待される人間像について考察する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	生涯学習とは何か。国際社会における議論	生涯教育と生涯学習の違いを考えてくる。日本と外国の教育体系を予備知識として得ておく。
第2回	日本での議論・政策と今後の課題	学習における行政や社会全体の課題を整理する。
第3回	生涯学習の理念と理論(その1)	国際機関のユネスコ・OECDの役割を予備知識として得ておく。
第4回	生涯学習の理念と理論(その2)	生涯学習における所在の領域と所有の領域を整理する。
第5回	生涯学習の内容と形態	人々がどのような学習活動を行っているか、予備知識を得ておく。
第6回	学校開放と民間組織の台頭	学校の開放事業や民間の学習の形態を予備知識として得ておく。
第7回	外国の生涯学習(その1)	ドイツ・フランス・イギリスの生涯学習を知識として得ておく。
第8回	外国の生涯学習(その2)	北欧の生涯学習を予備知識として得ておく。
第9回	学校教育と生涯学習(その1)	学校観「大学は学び方を学ぶ」ということを整理する。
第10回	学校教育と生涯学習(その2)	学校と社会が「学び」の場合を創造する連携を整理する。
第11回	社会教育とは何か。その施設	学習センター、図書館、美術館等の役割を考えてくる。
第12回	社会教育を支える人々	司者、学芸員、主事等の仕事を予備知識として得ておく。
第13回	生涯学習支援におけるネットワーク	生涯学習支援の課題を考えてくる。
第14回	まちづくりと生涯学習	まちづくりの実例を予備知識として得ておく。
第15回	グローバリゼーションと生涯学習	グローバリゼーションは生涯学習の研究、実践にどのような影響しているか整理する。

■履修上の注意

板書・口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。小論文、レポートは必ず提出すること。予習復習は、予習に重点を置く。6回以上(公欠含む。)欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■評価方法

定期試験、小論文、レポート、出席状況を総合的に評価する。
(目安)試験結果70%、小論文・レポート20%、出席状況10%

■教科書

「生涯学習－学びがつむぐ新しい社会－」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学理論と心理的支援			担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できるようになる。
- ②人の成長・発達と心理との関係について理解できるようになる。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解できるようになる。
- ④心理的支援の方法と実際について理解できるようになる。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理学的支援の方法について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか	「心」とは何かを考えておくこと。
第2回	性格—性格理論(類型論と特性論)と資格理解のためのアセスメント	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	感情—感情・情緒・情動・気分の定義と感情の発達と変化	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	欲求と動機づけ—動機づけの諸理論、葛藤と欲求不満、現実社会への適応	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	感覚・知覚・認知—刺激と感覚の関係、感覚と知覚の違いと特性	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第6回	学習—条件付け、観察学習と模倣学習、洞察学習	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	記憶—記憶システムと記憶内容、短期記憶から作動記憶へ	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第8回	知能・創造性・思考—知能の発達と思考過程の理解	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	人間関係と集団—対人認知と対人魅力、集団の特徴と集団形成	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第10回	対人交流とコミュニケーション—言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第11回	発達の概念—発達の定義と発達段階、生涯発達心理学の考え方	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	適応とストレス—ストレスに関する理論とストレスの影響、日常生活とこころの健康	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	見立て・面接・心理療法—心理検査法の概要と面接技法(カウンセリング)	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	脳と心—脳機能障害による思考や精神の機能障害の特徴とリハビリテーション	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	総括	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をしてとること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや国家試験などを視野に入れた小テストを毎回行う予定である。

■評価方法

- ①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学』第2版 中央法規出版 2009年

■参考書

梅本堯夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』サイエンス社 2002年

科目名	政治学I (世界と日本の関わり)		担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

最終的には、世界の国々の中での日本が、それらの国々とどのように関わっていけばよいかに大いに関心を持ってもらうことである。

■授業の概要

国際化した現代社会において、われわれはどう立ち向かっていけばよいか。世界の諸事情と日本との関わりを知り、自らの歩む道について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 政治(学)とは	政治、Politicsは、古代ギリシアのアゴラ(広場)での討論からきていることを先ず理解す
第2回	政治のこトバ	正しいこトバを使う政治社会の秩序をつくるこトバが政治の基本であることを理解する。
第3回	母語と母国語	言語と国家との関わりについて理解する。
第4回	国民国家とは	みんなの国家の実態を理解する。
第5回	独立国家、日本	日本人が描く自画像と国際社会の見方のずれを理解する。
第6回	世界を知ることは日本を知ること	他者が分かれば、それとの比較において自分が分かってくるこトバと同じであることを理解する。
第7回	歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道	因果関係を考える材料が豊富にある歴史から、国際政治学を学んでいくこトバを理解する。
第8回	「和の文化」と「神の文化」における政治と活力	それぞれの文化における政治の特徴を理解する。
第9回	日本外交の原点に位置する聖徳太子	中国の華夷秩序に対して、対等を尊ぶ日本の立場を明確にした聖徳太子より学ぶ。
第10回	朝鮮半島と日本の深い関わり	日朝文化の比較研究の重要性を理解する。
第11回	歴史・政治・外交面から見る日本のアメリカ・中国との関わり	日米関係は米中関係であると言われるこトバについて理解する。
第12回	日本人のアイデンティティ	このような根源的な問題について検討する。
第13回	脱亜入欧かアジア・中東か	福沢諭吉が語った脱亜入欧は、今日の日本人がどのように見ているか理解する。
第14回	イスラーム医療とイスラームのホスピス精神、そして赤十字社・赤新月社と政治	イスラームは「死」(モート)をどのようにとらえているか理解する。
第15回	世界と日本の間違い	日本や諸外国を巨視的にとらえる姿勢について理解する。

■履修上の注意

いつも世界の国々と関わる日本のニュースにも関心を持っていただきたい。理解補助のためのプリントを必要に応じて配布する。

■評価方法

出席状況・ミニレポート・学習意欲・最終レポートで総合的に評価する。(おおむねレポート70%、授業態度30%)

■教科書

サミュエル・ハンチントン著「文明の衝突」(邦訳、集英社)、久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	政治学Ⅱ (世界と日本の関わり)		担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

世界の国々の中での日本が、それらの国々とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国人の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える人になってもらいたい。

■授業の概要

国際化した現代社会において、われわれはどう立ち向かっていけばよいか。世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。さらに、日本と世界(諸外国)の関係がどう発展したらよいか、全受講生に、小さな発表もしていただく予定である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	東洋の政治・西洋の政治	日本の政治と欧米の政治のくい違いによる弊害について理解する。
第2回	平和憲法の共有	日本にとっても諸外国にとっても重要な憲法第9条について理解する。
第3回	優れた民主国、日本	戦後より永い間、一貫して民主主義を立派に運営している日本について理解する。
第4回	日本人のものの見方と和の文化	伝統的な日本の和の文化が、今なお日本人にいかに関与しているか理解する。
第5回	グローバリゼーション・ナショナリゼーション	両者は繰り返しながら、近代史は動いている様子を理解する。
第6回	ヨーロッパ文明とEU	アメリカからの自立について理解する。
第7回	個性と異文化との格闘・異文化理解、そして外国語	異文化を乗り越える経験から真の教養が身につけていくことを理解する。
第8回	文化・宗教が生まれる背景の違いからくる世界と日本の違い	「政治と宗教の分離」と「国家と教会の分離」の違いについて理解する。
第9回	湾岸戦争とイラクに対する救援活動 —国際貢献について思った事—	真の国際貢献(真の国際ボランティア活動)について理解する。
第10回	イスラーム諸国の民主化と日本	イスラーム圏に民主主義国家は何故極めて少ないのか、これについて理解する。
第11回	イスラエル・パレスチナ問題はなぜ解決しないのか	この問題に対するアメリカの宗教事情について理解する。
第12回	国連の拒否権	国際連盟・国際連合と拒否権の問題について理解する。
第13回	オランダ、そしてヨーロッパと日本	オランダは日本人がヨーロッパを理解するうえで極めて重要であることを理解する。
第14回	新たな日本像—世界の隅々にまで影響を及ぼすマンガ・アニメ	日本の道徳を破壊しかねないとする私の苦言は聞き入れられるのであろうか。
第15回	小さな正義・大きな正義	日常性に埋没しない姿勢の重厚さについて理解する。

■履修上の注意

いつも世界の国々と関わる日本のニュースにも関心を持っていただきたい。理解補助のためのプリントを必要に応じて配布する。

■評価方法

出席状況・ミニレポート・学習意欲・最終レポートで総合的に評価する。(おおむねレポート70%、授業態度30%)

■教科書

サミュエル・ハンチントンの著「文明の衝突」(邦訳、集英社)、久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	世界史			担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

世界史を通史として学習した上で、ヨーロッパの歴史を基盤に芸術が誕生した背景を学習し、社会人として求められる一般教養を身に付ける一助とする。

■授業の概要

前半の5回は、古代・中世・近代・現代をテーマとして世界史を概観し、後半の10回では、ヨーロッパ史の中から歴史的な事件と関係して作曲されたクラシック音楽を作品が誕生した時代背景を学習し、必要に応じて音楽鑑賞を取り入れて授業を展開する。音楽鑑賞の基準は歴史に関係した事件から、古代と中世は時代を背景として作曲された音楽を、ルネサンス時代から現代までは作曲家の作品から歴史を概観する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 世界史の概要	世界史を通史として捉える
第2回	古代の歴史 人類の誕生～西ローマ帝国の滅亡	講義資料(古代)を読む
第3回	中世の歴史 ゲルマン民族の移動～ビザンツ帝国の滅亡	講義資料(中世)を読む
第4回	近代の歴史 ルネサンス～市民革命	講義資料(近代)を読む
第5回	現代の歴史 帝国主義時代～21世紀の世界	講義資料(現代)を読む
第6回	古代オリエントと地中海世界 地中海世界を舞台として誕生した音楽	古代の事件と関係した音楽の鑑賞
第7回	中世キリスト教世界と封建制度 ローマ・カトリック教会による音楽の誕生	中世の事件と関係した音楽の鑑賞
第8回	ルネサンスと宗教改革 ルネサンス音楽の誕生	ルネサンス音楽の鑑賞
第9回	バロックと絶対主義 バロック音楽の誕生	バロック音楽の鑑賞
第10回	王権の衰退と市民階級の台頭 古典派音楽(1)	古典派音楽の鑑賞(1)
第11回	市民革命と産業革命 古典派音楽(2)	古典派音楽の鑑賞(2)
第12回	近代市民社会の成立と発展 ロマン派音楽(1)	ロマン派音楽の鑑賞(1)
第13回	市民階級の成長と自由主義 ロマン派音楽(2)	ロマン派音楽の鑑賞(2)
第14回	帝国主義と民族主義 民族主義音楽	国民楽派音楽の鑑賞
第15回	世紀末と現代世界 世紀末芸術と現代音楽	現代音楽の鑑賞

■履修上の注意

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立つ場合は、注意をした上で退席を命ずることもある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。(おおむね小論文・試験70%、授業態度30%)

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書やコンパクト・ディスクは必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	地理学			担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・地理の基礎教養を身につける。
- ・地球全体や世界、日本及び群馬県の基本的地誌や地理的感覚を認識する。
- ・各自で独自のフィールド調査を行い、それをレポートして発表する素養を身につける。

■授業の概要

地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域のフィールド調査を通して、地理教材開発の一環となるレポートを執筆・発表させる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	授業の概要説明と地理学と本質と概念	教科書を学習すること
第2回	日本地誌の概要と地域区分	〃
第3回	群馬県の地誌と地域区分	〃
第4回	フィールド調査とレポート課題及びその手順などの指導	〃
第5回	地球のあらましと世界地誌の概要	〃
第6回	世界の地形・国家と領域	〃
第7回	海外旅行に関する諸問題と世界観	〃
第8回	世界の気候区分とその問題	〃
第9回	最近の気候変化と温暖化	〃
第10回	地震と自然災害	〃
第11回	レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など	〃
第12回	身近な地域の調査の発表と考察(1)	〃
第13回	身近な地域の調査の発表と考察(2)	〃
第14回	身近な地域の調査の発表と考察(3)	〃
第15回	授業の総括	〃

■履修上の注意

出席を重視するので(欠席・遅刻は減点し、欠席が3分の1を超過した場合、単位は不可)、健康に留意し、欠席しないようにすること。

■評価方法

定期試験(50%)、出席状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価

■教科書

- ・『日本地図の楽しい読み方』(河出書房新社)
- ・高等学校で使用した地図帳(種別は問わなく、手持ちのない人は教科書販売で購入のこと)

■参考書

必要に応じて指示する。

科目名	哲学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

哲学には物事の合理的認識と人の徳を探究することが含まれる。それら人間性の探究と我が身の人生観について学んでゆくものである。

■授業の概要

哲学字の訳語は江戸後期の西周の訳語とされている。それまでは宋学における性理学の概念をもって認識していた。性理学の根拠、伝承、学統を時間の許す限りテキスト外の資料とともに講義、紹介してゆく。東西の両洋の哲学の要を論じてゆく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	哲学字、及び性理学の伝統、総合を見てゆく	テキスト 序文
第2回	儒教及び儒学の哲学思想について	テキスト 1頁
第3回	孔子と代々の儒学者について	テキスト 7頁
第4回	仁について	テキスト 56頁
第5回	義・礼・智・信について	テキスト 57頁
第6回	孔門の十哲等を中心として	テキスト 90頁～107頁
第7回	日本儒教について	テキスト 114頁～118頁
第8回	儒教哲学の本旨について	テキスト 137頁～153頁
第9回	儒学における有徳者(君子)の称を論じて論語章句に説き及ぶ	テキスト 153頁～156頁
第10回	儒学における根本思想(仁・礼)の指摘	テキスト 156頁～161頁
第11回	儒家の哲学と道家の哲学の異同	テキスト 162頁～173頁
第12回	「西田哲学」の主張について	テキスト 174頁～179頁
第13回	儒教哲学における実践(家庭編)	テキスト 180頁～192頁
第14回	(承前) (地域社会編く一))	テキスト 193頁～203頁
第15回	(承前) (地域社会編く二))	テキスト 204頁～210頁

■履修上の注意

出席は重視する。理由なく欠席・遅刻の多い者(3回以上)の者は成績評価を受ける資格を失う。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退室を命ずる。再試は一回のみ。

■評価方法

成績評価は、筆記試験(60%)、レポート(20%)、出席状況(20%)等を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究一修訂版」明治書院発行

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	道徳教育研究			担当教員 (単位認定者)	中田 勝	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の学生として、恥じない美徳を身につける。

■授業の概要

伝統の建学精神の理解と実践を学習し、我が身の人格完成につとめると共に、社会福祉、教育、看護の道を極め(含、短期大学部)、卒業後、社会に寄与する人を育成することを目標にする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	本学の沿革、並びに講義について学んでゆく	テキスト p1～p5
第2回	” (学問所の開学)	p4
第3回	” (古の人の志しについて)	p15
第4回	” (現代の人の更なる志しについて)	p15
第5回	建学精神の把握と実践、並びに先人の箴言について	p14～p35
第6回	”	”
第7回	”	”
第8回	”	”
第9回	教育理念の把握について、及び校歌、詩等について	p143を中心として
第10回	”	”
第11回	”	”
第12回	”	”
第13回	本学の特色を中心として学んでゆく	p67を中心として
第14回	”	”
第15回	王学各義(附編)	p97～p148

■履修上の注意

1. 授業に集中して勉学すること。
2. 各自、ノートに大切な点を纏めておくこと。

■評価方法

定期試験(85%)、出席点・平常点(15%)を総合して評価。

■教科書

「咸有一徳・学校法人昌賢学園の全人教育」著者(鈴木利定学長・中田勝教授)

■参考書

講義中に適宜紹介。

科目名	読書指導と文芸		担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

文字の出現が生んだ〈読書〉という行為は、人間の文化と精神に大きな変革をもたらした。しかし、〈読書〉は、いわば、〈読書〉以前の〈ことば〉と深く結び合っている。読書の意味と読書指導の方法を学び身に付ける。

■授業の概要

幼児・児童・生徒を対象とした読書指導の理論と実際が、そうした読書の本質や具体的文芸作品とどう関わっているかについて探求する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 読書の意味	多様な読書の意味を考える
第2回	読書論	自分なりの読書論を構築する
第3回	読書指導と発達段階	読書指導と発達段階の関係について考える
第4回	読書指導の方法	読書指導の具体的な方法について考える
第5回	ブックトークの方法	ブックトークとは何かについて考える
第6回	ブックトークシナリオ作成(1)	ブックトークのテーマを選定する
第7回	ブックトークシナリオ作成(2)	シナリオを完成させる
第8回	ブックトーク試演準備	試演の模擬練習を行う
第9回	ブックトーク試演(1)	各試演を評価する
第10回	ブックトーク試演(2)	各試演を評価する
第11回	ブックトーク試演(3)	各試演を評価する
第12回	ブックトークの評価	総合評価を行う
第13回	読書と古典	読書ノートを作成する
第14回	読書と現代文芸	読書ノートを作成する
第15回	まとめ	読書ノートを作成する

■履修上の注意

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

関川夏央著『新潮文庫 20世紀の100冊』新潮社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特設科目 論語		担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定 中里 昌之	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

論語には孔子が門弟に対して、その資質に応じて訓した言葉の数々、困難に堪えて生き抜く、自他の清く高き心、わが身の実践躬行の事柄等を説いた言葉が数多く収録されている。それらを学び、自己の人格を育てることを目指す。

■授業の概要

論語には孔子の飾らない人間愛が滲み出ている。論語20篇499章(論語集注本)のうち、人間形成に役立つもの、孔子の思想がよく表われているものを選んで講義してゆく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 孔子の思想と現代	孔子について調べる
第2回	論語とは何か	論語について調べる
第3回	学而第一よりの章	学而章編を復習
第4回	為政第二よりの章	為政章編を復習
第5回	八佾第三よりの章	八佾章編を復習
第6回	里仁第四よりの章	里仁章編を復習
第7回	公冶長第五よりの章	公冶長章編を復習
第8回	雍也第六よりの章	雍也章編を復習
第9回	述而第七よりの章	述而章編を復習
第10回	泰伯第八よりの章	泰伯章編を復習
第11回	子罕第九よりの章	子罕章編を復習
第12回	先進第十一よりの章(1)	先進章編を復習
第13回	先進第十一よりの章(2)	先進章編を復習
第14回	顔淵第十二よりの章(1)	顔淵章編を復習
第15回	顔淵第十二よりの章(2)	顔淵章編を復習

■履修上の注意

漢和辞典(中高時代に使用のもので可)をできるだけ持参のこと。
出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定(監修)・中田勝(編著)『注解 書き下し論語全文』、鈴木利定(著)『儒教哲学の研究』

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	日本国憲法			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。

■授業の概要

まずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	人権①(～前文)	教科書の22～26頁を読むこと
第2回	人権②(天皇～私人間効力)	教科書の27～32頁を読むこと
第3回	人権③(包括的基本権・法の下での平等)	教科書の33～35頁を読むこと
第4回	人権④(精神的自由(1))	教科書の36～37頁を読むこと
第5回	人権⑤(精神的自由(2))	教科書の38～39頁を読むこと (242～246頁も参照のこと)
第6回	人権⑥(経済的自由)	教科書の40～41頁を読むこと
第7回	人権⑦(人身の自由)	教科書の41～42頁を読むこと (240～241頁も参照のこと)
第8回	人権⑧(生存権・教育を受ける権利)	教科書の44～45頁を読むこと
第9回	人権⑨(労働権・参政権・国務請求権・国民の義務)	教科書の45～47頁を読むこと
第10回	統治①(統治機構・国会)	教科書の50～56頁を読むこと
第11回	統治②(内閣)	教科書の57～58頁を読むこと (208～239頁も参照のこと)
第12回	統治③(裁判所I)	教科書の59～65頁を読むこと
第13回	統治④(裁判所II(裁判員制度含む))	教科書の65～66頁を読むこと (255～282頁も参照のこと)
第14回	統治⑤(財政・地方自治)	教科書の67～70頁を読むこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。

■評価方法

試験(60%)、出席点(30%)授業態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館、2011年

■参考書

小六法(例:「ポケット六法」有斐閣、平成24)

科目名	日本史I			担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会科の指導者として、歴史的思考力、構成力を身につけ、現代社会、将来についてそのあり方を考え、実践できる資質を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	はじめに-「歴史を学ぶ」	教科書P1を読む
第2回	人物で学ぶ歴史…野口英世	野口英世についての資料を理解
第3回	日本列島と日本人	「教」P2～4を読み整理・理解
第4回	縄文時代	「教」P5～7縄文時代についての資料の理解
第5回	弥生時代	「教」P8～10吉野ヶ里遺跡について理解
第6回	古墳と大和王権	「教」P11～24を読み整理・理解
第7回	律令国家の形成I…推古朝	「教」P25～28を読み整理・理解
第8回	律令国家の形成II…大化の改新	「教」P29～35を読み整理・理解
第9回	律令国家の形成III…平城京の政治	「教」P39～46を読み整理・理解
第10回	貴族政治I…摂関政治	「教」P57～68を読み整理・理解
第11回	貴族政治II…院政	「教」P70～75を読み整理・理解
第12回	武家社会の成立…鎌倉幕府	「教」P76～89を読み整理・理解
第13回	武家社会の転換I…蒙古襲来	「教」P97～106を読み整理・理解
第14回	武家社会の転換II…室町幕府	「教」P107～116を読み整理・理解
第15回	武家社会の転換III…下克上と戦国の世	「教」P117～136を読み整理・理解

■履修上の注意

ノートをしっかりととり、積極的に受講すること。1/3をこえて欠席した場合は定期試験の受験資格を失う。社会科免許状を必要とするものは必修とする。

■評価方法

試験(60%)・講義への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	日本史Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会科の指導者として、歴史的思考力、構成力を身につけ、現代社会、将来についてそのあり方を考え、実践できる資質を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ヨーロッパ人の東アジア進出	「教」P138～140を読み整理・理解
第2回	織田信長	「教」P141～142を読み整理・理解
第3回	豊臣秀吉	「教」P142～149を読み整理・理解
第4回	江戸幕府の成立	「教」P150～152を読み整理・理解
第5回	将軍と大名	「教」P152～157を読み整理・理解
第6回	幕政の改革Ⅰ…享保の改革	「教」P183～189を読み整理・理解
第7回	幕政の改革Ⅱ…寛政の改革	「教」P190～194を読み整理・理解
第8回	幕政の改革Ⅲ…天保の改革と幕末	「教」P195～209を読み整理・理解
第9回	明治維新	「教」P208～218を読み整理・理解
第10回	廃藩置県	「教」P219～224を読み整理・理解
第11回	殖産興業	「教」P225～227を読み整理・理解
第12回	文明開化	「教」P228～233を読み整理・理解
第13回	自由民権運動	「教」P234～238を読み整理・理解
第14回	帝国議会	「教」P239～242を読み整理・理解
第15回	戦争と現代日本	「教」P331～338を読み整理・理解

■履修上の注意

ノートをしっかりと、積極的に受講すること。1/3をこえて欠席した場合は定期試験の受験資格を失う。

■評価方法

試験(60%)・講義への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

全集 日本の歴史(小学館)

科目名	人間と宗教			担当教員 (単位認定者)	相澤 貞順	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教の力が主です。「自分の全てを投げだしてはじめて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の思想の根源です。いろいろな人々と共に生きられる人間性を身につける。

■授業の概要

グローバルな現代社会で、多種多様な人間と接触し、互いに理解し合えるような人間形成が大切です。その根柢にある互の宗教を理解し、世界的視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	テキストによる予習
第2回	宗教の基礎知識1 人間の特徴と弱点	テキストによる予習を中心
第3回	宗教の基礎知識2 縄文人と現代人の比較	テキストによる予習を中心
第4回	宗教の基礎知識3 科学・芸術・宗教の比較	テキストによる予習を中心
第5回	世界の宗教1 アジアの環境と仏教	テキストによる予習を中心
第6回	世界の宗教2 仏陀の生涯とインド社会	テキストによる予習を中心
第7回	世界の宗教3 オリエントの社会とユダヤ教	テキストによる予習を中心
第8回	世界の宗教4 ユダヤ教とキリスト教の比較	テキストによる予習を中心
第9回	世界の宗教5 キリスト教と西欧世界	テキストによる予習を中心
第10回	世界の宗教6 イスラム教の教えとタリバン	テキストによる予習を中心
第11回	日本の宗教1 空海の生涯と密教	予習と共に自分の問題として考える
第12回	日本の宗教2 仏教の広がり鎌倉仏教	予習と共に自分の問題として考える
第13回	日本の宗教3 近世以降の文化と宗教	予習と共に自分の問題として考える
第14回	日本の宗教4 現代日本の文化と宗教	予習と共に自分の問題として考える
第15回	まとめ 人間として生きる知恵	予習と共に自分の問題として考える

■履修上の注意

誠意をもって受講し、積極的に授業に参加して下さい。

■評価方法

出席と授業態度は35%、テストは65%。テストは自分の生き方としての問題

■教科書

ノンブル社出版「人間と宗教」相澤貞順著

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	福祉情報処理			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

これからの学生生活や実社会で仕事をする上で欠かすことのできないコンピューターを使用してのコミュニケーション・プレゼンテーション技術の習得する。次に高度情報化社会における福祉分野でのシステム化やサービスに対応するために、インターネットによる情報システムの概要を理解し情報リテラシー能力を向上させる。

■授業の概要

インターネット等を利用して情報収集・整理・加工したものを発信する技術の習得と、自分の考え(意見) プレゼンテーションを通して第三者に伝えるための能力を養成する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	コミュニケーション・プレゼンテーション序論	テキストの通読しておくこと。
第2回	プレゼンテーション(1) ワードによるプレゼンテーション資料の作成(アウトラインの構想)	アウトライン構想を完了させる。
第3回	プレゼンテーション(2) ワードによるプレゼンテーション資料の作成(コンテンツ作成)	コンテンツを完成させる。
第4回	プレゼンテーション(3) ワードによるプレゼンテーション(リハーサル)	発表にそなえ十分なリハーサル・想定質疑応答の準備を行う。
第5回	プレゼンテーション(4) ワードによるプレゼンテーション(発表)	テキストの通読。
第6回	プレゼンテーション(5) パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成(アウトラインの構想)	アウトライン構想を完了させる。
第7回	プレゼンテーション(6) パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成(アウトラインによるスライド作成)	構想にそって、すべてのスライドを作成する(アウトライン完成まで)
第8回	プレゼンテーション(7) パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成(スライド毎の編集)	スライド毎の編集を完成させる。
第9回	プレゼンテーション(8) パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成(アニメーションの設定)	必要に応じ各スライドのオブジェクトにアニメーションを設定し、資料を完成させる。
第10回	プレゼンテーション(9) パワーポイントによるプレゼンテーション(リハーサル)	発表にそなえ十分なリハーサル・想定質疑応答の準備を行う。
第11回	プレゼンテーション(10) パワーポイントによるプレゼンテーション(発表)	テキストの通読。
第12回	インターネットの活用(1) Webによる福祉関連情報の収集・整理・加工	各自が収集した福祉関連情報の整理。
第13回	インターネットの活用(2) Webページの作成(Wordでの作成)	WordでのWebページを完成させる。
第14回	インターネットの活用(3) Webページの作成(HTML文での作成)	HTMLでのWebページを完成させる。
第15回	インターネットの活用(4) Webページによる情報発信とセキュリティーについて	テキストの通読。

■履修上の注意

出席を重視する。課題は必ず自分でしあげること。他者のプレゼンテーションに際しては積極的に質問すること。

■評価方法

- ①平常点(出席状況・授業態度)(40%)
- ②課題のでき具合・プレゼンテーション能力(60%)

■教科書

説得できるプレゼンの鉄則(日経BP社) 著者:永山嘉昭

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	ボランティア活動Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅲの到達目標は、ボランティア活動Ⅰ及びⅡで培った体験を基に、ボランティア活動のリーダー養成とコーディネータとしての資質や能力を養成することにある。

■授業の概要

本学園のボランティア活動とは、「建学の精神」である『仁』に基づいた人間教育育成の場である。その最大の特徴を生かすために、「人を動かす」或は「社会の有為な活動とは何か？」を研究し、実践し身につけることである。又、現代の社会情勢を見極めながら、「何が求められているのか？」「どうすれば福祉社会の実現に貢献できるのか？」を実践的に活動し体験するものである。基本は、グループ活動を通して、各グループがP.D.S.を実践し、毎月最終週に「活動報告会(批評会)」をおこない、実践力を高める。年度末に「年間活動報告書」をまとめて発表し記録として残すことにある。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーションⅠ ①ボランティア活動Ⅲの狙いと目的。 ②活動グループ編成	現実社会に目を向け、何が求められているか
第2回	研究・調査活動①: 学生ボランティア活動の歴史(世界・日本・本学園)	先輩の「活動報告書」に目を通す
第3回	活動報告会①: その月内の活動内容の『まとめ』を発表し、討議する。	社協のボランティア活動に関心を持つこと。その1
第4回	研究・調査活動②: グループ活動(目的と実践に対する反省。再構築)。社会や福祉施設等の要望を調査。	社協のボランティア活動に関心を持つこと。その2
第5回	研究・調査活動②: 主として進捗状況を中心に、質疑応答を進める。	活動報告書作成
第6回	研究・調査活動③: 活動計画を実現できるように各施設や団体等との連携する。	各施設や団体の活動について調査
第7回	研究・調査活動④: 各施設や団体等からの要望を入れた実行可能な計画を再構築する。	各施設や団体の要望について調査
第8回	活動報告会③: 前期の活動「まとめ」と夏季休暇中の活動計画を発表する。	前期の活動について、グループ内討議をすすめる。
第9回	オリエンテーションⅡ ①前期の活動について見直す。②後期の活動計画を作成し発表する。	学内及び学外の団体との連携を探る。
第10回	研究・調査活動⑤: グループ活動の情宣活動。協力者(学内・外)への要請と養成活動。	活動の意味を訴え、協力者を募る。
第11回	活動報告会④: グループ別活動発表と質疑応答。次月の活動計画を発表。休業中活動計画を発表する。	リーダーシップとコーディネータ力の養成
第12回	研究・調査活動⑥: 活動内容の自己省察と再計画。主として、活動の場を拡げ、且つ、活動の質を高める。	グループ内討議。役割分担の自己評価。その1
第13回	研究・調査活動⑦: 活動の実践報告と質疑応答。年間報告書の作成。その1	グループ内討議。 役割分担別報告書の作成。
第14回	活動報告書の作成その1: 報告書の作成形式や添付資料の整理。その2	〃
第15回	活動報告書の作成その2: 活動の社会敵評価についてグループ内で討議。	学内外の協力者への礼状作成と送付。

■履修上の注意

- ①活動メンバーで協議し、活動計画書を作成、実践、反省する。(P.D.S.活動)
- ②学外での活動が多くなるので、事前に活動計画書を提出し、許可を得てから実践すること。
- ③毎月の発表資料については、事前に指導担当者に提出すること。万一、指定された日時までに提出できない場合は、各グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- ④活動についての経費負担については、基本的にグループ内で決め、納得してから実践すること。但し、「年間報告書」作成については、指導担当教員が書くグループから提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- ⑤受講希望者が10名以下の場合には開講しない。

■評価方法

- ①活動計画書に沿った会つきの発表資料や内容を重視する。(60%)
- ②各グループの活動が社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- ③年間報告書の内容を評価する。(20%)
- ④毎月の発表報告会に3回欠席或は、発表資料を提出しなかった場合は、単位を認めない。

■教科書

「ボランティアハンドブック」(鈴木利定監修/足立勤一他編集)群馬医療福祉大学ボランティアセンター発行

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設や関係団体等への就職後の活動を想定し、実践力を高める。具体的には、ボランティア活動のリーダーシップとコーディネータとしての資質や能力を養成することにある。

■授業の概要

本学園のボランティア活動とは、「建学の精神」である『仁』に基づいた人間教育育成の場である。その最大の特徴を生かすために、「人を動かす」或は「社会の有為な活動とは何か？」を調査・研究し、実践力を身につけることである。又、現代の社会情勢を見極めながら、「求められているのは何か？」「どうすれば地域福祉の向上に貢献できるのか？」を実践的に活動し体験するものである。基本は、社会（福祉施設等関係団体等）の要請に応じて活動計画を作成し、賛同者を募り、実践する。毎月最終週に「活動報告会（批評会）」をおこない、実践力を高める。年度末に「年間活動報告書」をまとめて発表し記録として残すことにある。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーションⅠ ①ボランティア活動Ⅳの狙いと目的。 ②活動グループ編成	現実社会に目を向け、何が求められているか
第2回	研究・調査活動①: 学生ボランティア活動の歴史(世界・日本・本学園)	これまでの「活動報告書」や他大学の「報告書」に目を通す
第3回	活動報告会①: その月内の活動内容の『まとめ』を発表し、討議する。	社協のボランティア活動に連携する。その1
第4回	研究・調査活動②: 活動目的と実践に対する反省。再構築。社会や福祉施設等の要望を調査。	社協のボランティア活動に連携する。その2
第5回	活動報告会②: 主として進捗状況を中心に、質疑応答を進める。	月例活動報告書作成
第6回	研究・調査活動③: 活動計画を実現できるように各施設や団体等との連携する。メンバーを募る。	各施設や団体の活動と連携する。
第7回	研究・調査活動④: 各施設や団体等からの要望を入れた実行可能な計画を再構築し必要な人材を募る。	各施設や団体の要望について調整する。
第8回	活動報告会③: 前期の活動「まとめ」と夏季休暇中の活動計画を発表する。	前期の活動について、関係団体と討議する。
第9回	オリエンテーションⅡ ①前期の活動について見直す。②後期の活動計画を作成し発表する。	学内及び学外の団体との連携を探る。
第10回	研究・調査活動⑤: 活動の情宣活動。協力者(学内・外)への要請と養成計画を作成し活動。	活動の重要性を再検討する。協力者を募る方法を考える。
第11回	活動報告会④: 活動発表と質疑応答。次月の活動計画を発表。	リーダーシップとコーディネータとしての能力を養成
第12回	研究・調査活動⑥: 活動内容の自己省察と再計画。主として、活動の場を上げ、且つ、活動の質を高める。	リーダーシップとコーディネータとしての能力を養成
第13回	研究・調査活動⑦: 活動の実践報告と質疑応答。年間報告書の作成。その1	リーダーシップとコーディネータとしての能力を養成
第14回	活動報告書の作成その1: 報告書の作成形式や添付資料の整理。その2	活動の社会貢献度について自己省察する。
第15回	活動報告書の作成その2: 活動の社会敵評価について、関係団体等からの評価を戴くこと。	学内外の協力者への礼状作成と送付。

■履修上の注意

- ①活動計画書を作成、実践、反省する。(P.D.S.活動)
- ②学内・外での活動が多くなるので、事前に活動計画書を提出し、許可を得てから実践すること。
- ③毎月の発表資料については、事前に指導担当者に提出すること。万一、指定された日時までに提出できない場合は、自己責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- ④活動についての経費負担については、原則として自己負担で実践すること。但し、「年間報告書」作成については、指導担当教員が提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- ⑤受講希望者が7名以下の場合は開講しない。

■評価方法

- ①活動計画書に沿った月例の発表資料や内容を重視する。(60%)
- ②活動が社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- ③年間報告書の内容を評価する。(20%)
- ④毎月の発表報告会に3回欠席或は、発表資料を提出しなかった場合は、単位を認めない。

■教科書

「ボランティアハンドブック」(鈴木利定監修/足立勤一他編集)群馬医療福祉大学ボランティアセンター発行

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論			担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代のマスメディアに対する理解を深め、社会と個人のあり方について主体的に考察する力を身につけることを到達目標とする。期待される学習効果は、マスメディアに関連する内容について、理解が深まる。

■授業の概要

本講義では、マスメディアの歴史、産業、実態や報道被害、社会調査の手法について学習する。報道被害や人権と報道についてはビデオ学習を取り入れる。社会調査の手法についても基礎から学習する。マスメディア産業の現状や、マスメディア業界の経営についても、統計数字を取り上げながら学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	イントロダクション	教科書の通読
第2回	マスコミの歴史	教科書p.54～p.90
第3回	標本調査	無作為抽出
第4回	マス・メディア産業	教科書p.134～170
第5回	松本サリン事件に見る報道被害	報道被害について自分なりの意見をまとめる
第6回	テレビ番組の制作	ドキュメンタリー
第7回	人権と報道	オンブズマン
第8回	メディア各論Ⅰ	教科書p.134～170
第9回	メディア各論Ⅱ	教科書p.134～170
第10回	インターネット被害	インターネット被害について自分なりの意見をまとめる
第11回	統計から見たマス・メディア産業	産業連関表
第12回	マス・メディア業界の経営	テレビ会社の経営の現状
第13回	社会調査入門	社会調査の方法
第14回	社会調査の手法Ⅰ	統計的手法
第15回	社会調査の手法Ⅱ	統計的手法

■履修上の注意

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

春原昭彦・武市英雄【ゼミナール】日本のマス・メディア(日本評論社)

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	倫理学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定 大塚 佐一郎	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「人間および人間関係のあり方」を学ぶことにより、「道徳の本質」へ迫る哲学的な思考を深め「人間がいかに生きるべきか」という人間観・世界観を身につけさせる。

■授業の概要

課題解決学習論的授業によって倫理学という学問の内容を中心として、人間と倫理の密接不可分の関係を解明し、行為の意味や要素、良心作用等について理解させる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	倫理学とは何か。学習計画について	課題について調べ、発表の要点をまとめる
第2回	倫理と道徳	〃
第3回	倫理学の意必要性と倫理研究の目的	〃
第4回	人間と倫理	〃
第5回	社会生活上の秩序や倫理	〃
第6回	倫理学の問題領域	〃
第7回	道徳的行為	〃
第8回	良心とは何か	〃
第9回	愛とは何か	〃
第10回	愛の現象(相互作用)	〃
第11回	愛の目的(自他合一)	〃
第12回	仏教の慈悲	〃
第13回	人間苦と人生の価値	〃
第14回	教育勅語の思想	〃
第15回	先哲の教えに学ぶ・まとめ	〃

■履修上の注意

本講義は教師の指示した課題について、主として教科書を使って調べ学習をし、要領よくまとめて発表する課題解決的学習法をとるので、終始主体的な取り組みが必要であり、発表に対する質疑は活発にすることが要求される。

■評価方法

試験(60%) 受講態度(40%)を基準にし、出席状況を考慮して総合的に評価する。

■教科書

外園幸一著「哲学・倫理学講義概説」 高城書房出版 ¥2100

■参考書

参考書は適時口答で紹介する。

專 門 科 目

科目名	アクティビティ・サービス援助技術		担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉サービス（老人ホーム、障害者施設、医療機関等）利用者の心身と生活の活性化を援助するための知識と技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を身につけるようにし、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指す。

■授業の概要

近年、福祉分野で使われるようになってきた「アクティビティ」という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、「人間の尊厳の保持」「自立支援／自律支援」の視点から実践的な知識と技術を身につけるために、講義と演習による授業を展開する。特に、レクリエーションとアクティビティの違いについて実習体験やボランティア活動体験などの話し合いを通して、福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：履修上の確認。授業の進め方と授業の受け方	レクリエーション活動の復習とシラバスの読み方の復習をする
第2回	垣内理論の成り立ち：「レクリエーションからアクティビティ・サービスへ」	レクリエーションの意味を理解し福祉分野での誤解を考える
第3回	「生活の快論」と社会福祉	高齢者の生活を考え、残り少ない人生を支えるとは何かを考える
第4回	ワークショップ：お年寄りと自分の人生の比較	学習者と高齢者との世代のギャップについて考える
第5回	アクティビティ・サービスとは何か	福祉施設における実情から考える
第6回	日常生活支援とコミュニケーション・ワーク：挨拶と相槌	生活の中でのコミュニケーションとはどういうことか考える
第7回	アクティビティ・サービスの効果：アクティビティ・サービスの5つの側面	心理的や文化的な5つの側面におけるアクティビティの効果を考える
第8回	ワークショップ：日本の文化と高齢者の常識	言葉遊びと生活道具について理解する
第9回	アクティビティ・ワーカーの資質：専門職に求められる性格・能力・責任	専門職のあり方と利用者の権利の保障について考える
第10回	援助の体系と連携：援助のための専門職種間の連携	専門職間の連携とは上下関係でなく同じ平面での関係を理解する
第11回	援助のための人間理解：高齢者とは？	高齢者とはどのような人を指すのか事例を上げて考える
第12回	ワークショップ：高齢者のこども時代の映像を見る	昭和初期の生活と太平洋戦争について考える
第13回	高齢者を理解する：心理的側面から理解する	様々な側面から見ることにより、援助者の誤解について考える
第14回	高齢者を理解する：身体的側面・社会的側面から理解する	肉体的老化現象と社交性や趣味の多様性について考える
第15回	生活支援技術としてのアクティビティ・サービスについてまとめる	レクリエーションとアクティビティ・サービスの違いなどを再確認する

■履修上の注意

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的な授業態度を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

アクティビティ・サービス協議会編『アクティビティ・サービス』中央法規出版（2008年7月）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術		担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉サービス（老人ホーム、障害者施設、医療機関等）利用者の心身と生活の活性化を援助するための知識と技術を身につけるとともに、「人間の尊厳の保持」「自立支援／自律支援」の視点から実践的な知識と技術を身につけるために、講義と演習による授業を展開する。特に、レクリエーションとアクティビティの違いについて実習体験やボランティア活動体験などの話し合いを通して、福祉サービスとは何かを教授する。

■授業の概要

近年、福祉分野で使われるようになってきた「アクティビティ」という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、「人間の尊厳の保持」「自立支援／自律支援」の視点から実践的な知識と技術を身につけるために、講義と演習による授業を展開する。特に、レクリエーションとアクティビティの違いについて実習体験やボランティア活動体験などの話し合いを通して、福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	前期の振り返り：理論から実践的技術についてのガイダンス	生活支援技術の具体例を考える
第17回	生活環境の全体整備とは何か	自分の生活環境を考えながら人間関係の構築について理解する
第18回	「衣・食・住」の話題	衣食住の身近な話題を出し合い、自分の生活を考える
第19回	ワークショップ：生活の知恵や知識	昔からの言い伝えや地域の民話、高齢者の知恵を考える
第20回	情報の提供の意味	個人情報について調べるとともに情報の意味について考える
第21回	施設における情報の提供方法：アクティビティ・カレンダーの書き方	施設の生活を基にして計画を人に知らせる意味や内容を考える
第22回	生活援助の中の安全管理	「ひやりはっと」の事例を書き出しながらリスクマネジメントを考える
第23回	ワークショップ：『死』に関する詩や映画を鑑賞する	死と向き合うとはどういうことかを考えながら、未知の世界を想像する
第24回	快い旅立ちへの援助：グリーフ・ケアの考え方	身近な人の死について考えてみる
第25回	高齢者が残すものとは：家族・家の文化伝達や地域の伝統	自分の家の伝統や地域の特徴を考える
第26回	アクティビティ・サービス計画論：提供すべきプログラムの実際	施設ではどのようなプログラムが展開されているか考える
第27回	ワークショップ：計画作成について話し合ってみる	自分が提供されたいサービスプログラムを考える
第28回	リアリティ・オリエンテーション：認知症の理解	認知症の周辺症状から中核症状までの流れを理解する
第29回	アクティビティ・サービスの資料の使い方	資料のCD-ROMの使い方を理解し、自分でやってみる
第30回	まとめの講義：アクティビティ・サービスの基本理念の確認	卒後にアクティビティ・サービスをどう生かすかについて考える

■履修上の注意

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的な授業態度を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

アクティビティ・サービス協議会編『アクティビティ・サービス』中央法規出版（2008年7月）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護技術Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現場で必要とされる基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個別性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活を営む上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安心な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識や技術を習得することを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	高齢者の生活史を学び、理解する	レポート
第2回	ベッドメイキング	資料
第3回	ベッドメイキング	〃
第4回	アセスメントについての演習	テキストP8～P14
第5回	身じたくの介護・衣服着脱(全・部分介助)	テキストP16～P83
第6回	身じたくの介護・整容	テキストP23～37
第7回	身じたくの介護・口腔ケア	テキストP38～60
第8回	移動の介護・安全な杖歩行(視覚障害者)	テキストP88～182
第9回	安全な車イスの介助方法を理解する①	テキストP140～164
第10回	車イスの介助方法②	テキストP140～164
第11回	車イスの介助方法③	テキストP140～164
第12回	ベッド上での移動介助①	テキストP87～139
第13回	ベッド上での移動介助②	テキストP87～139
第14回	体位交換の介護②	テキストP97～139
第15回	入浴介護・機械浴・一般浴	テキストP218～P229

■履修上の注意

介護技術演習時はジャージを着用のこと。私語を慎むこと。誠意ある態度で受講をすること。授業が終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

テキストは「新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護技術Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現場で必要とされる基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個別性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活を営む上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安心な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識や技術を習得することを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	清潔保持の介護・清拭	テキストP212～P253
第17回	洗髪・部分浴の介護	テキストP230～P247
第18回	自立に向けた食事介護・座位姿勢での介助	テキストP183～P206
第19回	食事介護・臥床での食事介助	テキストP183～P206
第20回	食事介護・視覚に障害を持つ利用者への介助	テキストP183～P206
第21回	排泄介護・トイレ誘導の介助	テキストP261～P311
第22回	排泄介護・車イスでの介助	テキストP261～P311
第23回	排泄介護・オムツの当て方	テキストP261～P311
第24回	排泄介護・紙オムツの当て方	テキストP261～P311
第25回	利用者の状態に応じた介護方法	テキストP261～P311
第26回	睡眠介護	テキストP320～P337
第27回	安楽の姿勢	テキストP133～P139
第28回	介護技術総合演習	復習
第29回	介護技術総合演習	〃
第30回	まとめ	〃

■履修上の注意

介護技術演習時はジャージを着用のこと。私語を慎むこと。誠意ある態度で受講をすること。授業が終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

テキストは「新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護技術Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ① 加齢に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴について説明することができる。
- ② 心身状態の変化の観察とバイタルサインの観察の方法ができる。
- ③ 日常的な病気についての基本的知識をもち予防・対応ができる。
- ④ 高齢者に起こりやすい主な感染症の種類とその特徴、基本的な予防法が説明できる。

■授業の概要

生活者としての介護の対象を「人間理解」と「自立支援」「介護予防」の観点から、介護を必要とする人が、その人らしい生活が継続でき尊厳を支える介護が提供できるよう、全人的な介護の知識・技術について学習する。

授業では、身体機能が低下してきている高齢者の病気の特徴と老化が生活行為に及ぼす影響について、また感染予防と対策、介護場面で直面する頻度の高い疾病と障害についても、医学的な理解を深め学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	シラバスを読み講義の概要を把握する
第2回	健康に関する高齢者の特性	若者と高齢者の生活を比較して見る
第3回	加齢（身体機能低下）が及ぼす生活への影響	教科書を読んでおくこと
第4回	高齢者の主な疾病と生活障害	老化現象と関連付けて理解する
第5回	心身状態の観察とアセスメントの技法 ①	心身状態の観察の必要性を考える
第6回	心身状態の観察とアセスメントの技法 ②	事前にバイタルサインの計測を試みる
第7回	身体不調時・異常時の介護 ①	日常的な病状について調べる
第8回	身体不調時・異常時の介護 ②	脱水と発熱との関係について調べる
第9回	受診時の介護	受診する際の準備について考える
第10回	医療と他職種との連携	介護職と他職種との役割について考える
第11回	薬剤使用時の介護	服薬に関する高齢者の特徴を調べる
第12回	感染症の理解と予防	日常的な感染予防対策を話し合う
第13回	身体障害のある人に対する介護 ①	障害、その人を理解することについて考える
第14回	身体障害のある人に対する介護 ②	教科書を読んでおくこと
第15回	前期のまとめ	講義全体の振り返り

■履修上の注意

出席を重視する。遅刻・私語厳禁。学生らしい態度で積極的に受講すること。

出席・授業態度（30％）定期試験（50％）課題レポート（20％）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」第一法規 平成21年初版

■参考書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護福祉総論」第一法規 平成21年 初版 講義内で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ① 認知症の医学的理解をした上で認知症の人に対する対応ができる。
- ② 医療を受けている人の個性に適した介護技術が理解できる。
- ③ 終末期における介護の意義と、尊厳の保持を大切にされた支援について説明できる。
- ④ 主な緊急時の対応ができ、その状況に応じた応急手当ができる。
- ⑤ 介護の専門性を理解し、他の職種との協力や連携について説明できる。

■授業の概要

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要とする幅広い利用者に対し、質の高い実践的な介護を提供できる能力が求められている。本講義では、系統的な知識で介護実践の根拠を理解し、演習等で人間関係形成技術を学びながら、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけ、認知症の介護等へ対応できるよう学習していく。介護予防から看取りまでの対応についても学ぶ。教科書にはない専門的な「緊急事故時の対応」「医療処置を受けている人の介護」「介護と医行為」を補足し、医療機関と他職種との連携の重要性について再確認する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーション	シラバスを読むこと
第17回	睡眠の介護	高齢者の不眠の背景を調べる
第18回	認知症に対する介護 ①	脳のしくみと働きについて復習
第19回	認知症に対する介護 ②	教科書を熟読のこと
第20回	認知症に対する介護 ③	教科書を熟読のこと
第21回	緊急事故時の対応 ①	高齢者に起こりやすい事故を考える
第22回	緊急事故時の対応 ②	身近に起きたけが、事故の原因を探る
第23回	緊急事故時の対応 ③	ハンカチを活用し、きり傷の包帯を試してみる
第24回	医療処置を受けている人の介護 ①	加齢と高齢者の病気についての復習
第25回	医療処置を受けている人の介護 ②	在宅・施設での医療処置を調べる
第26回	介護と医行為	医行為とは何かを調べる
第27回	終末期の介護 ①	教科書を熟読のこと
第28回	終末期の介護 ②	ビデオの事例学習後グループワーク
第29回	終末期の介護 ③	自己の死生観に向き合って理解する
第30回	後期まとめ	講義の総復習

■履修上の注意

出席を重視する。遅刻・私語厳禁。学生らしい態度で積極的に受講すること。

■評価方法

出席・授業態度（30％） 定期試験（50％） 課題レポート（20％）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」第一法規 平成21年初版

■参考書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護福祉総論」第一法規 平成21年初版 講義内で適宜紹介する。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児美術指導法)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎技能Ⅰ(図画工作) の基盤の上に、さらに豊かな感性を育み、学生自身の造形表現能力を高めるとともに、幼児への造形表現指導能力を高める。表現を通して幼児の造形表現指導に必要な知識と技能を修得する。すべての幼児が表現を楽しむことができるような保育を構想し、実践できる創造的な幼児教育者の礎を築く。

■授業の概要

幼児期の子どもの表現は、大人が視覚で捉えた写実的イメージとは異なり、幼児特有の感性に従って表出効果からきており、子ども特有の様々な類型があることを学ぶ。このように独特の表現世界をもつ幼児の造形表現と指導方法について、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導を体験することから学ぶ。前半の制作は学生自身の造形表現能力を磨くことを主眼におき、後半の制作は身近な素材を使った制作をグループでの模擬保育という形で行い指導方法を修得する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	テキストを読む(復)
第2回	幼児期と表現の教育 表現の本質(表現と表出)	資料を読む(復)
第3回	領域「表現」のねらいと内容(幼稚園教育要領の概要)	用具の準備(はさみ、カッター)(復)
第4回	紙で作る「しかけのあるカード」作り	作品のアイディアスケッチ(復)
第5回	紙で作る「しかけのあるカード」作り	作品制作のつづき(復)
第6回	紙で作る「しかけのあるカード」作り	作品制作のつづき(復)
第7回	紙で作る「しかけのあるカード」作り	作品制作のつづき(復)
第8回	造形表現の指導計画・方法・留意点、指導案の作成	指導案の作成(復)
第9回	紙で作る「しかけのあるカード」作りの指導の展開	指導案の完成(復)
第10回	模擬保育①「カードで行事を豊かに」	模擬授業の反省(復)
第11回	子どもの感性と表現①「幼児の絵の見方・育て方」	資料を読む(復)
第12回	造形表現で保育環境を豊かに 壁面装飾の方法	壁面装飾のアイディアスケッチ(予)
第13回	紙レリーフによる壁面装飾	作品制作のつづき(復)
第14回	紙レリーフによる壁面装飾	作品制作のつづき(復)
第15回	紙レリーフによる壁面装飾	作品制作のつづき(復)

■履修上の注意

○絵具セット、4B・2Bなどの鉛筆、はさみ、カッターナイフを用意すること。

■評価方法

課題作品及びレポート、試験、出席状況・授業への参加態度を総合して評価する。(おおむねレポート・試験70%、授業態度30%)

■教科書

「造形表現の指導」 村内哲二編著 建帛社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児美術指導法)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎技能Ⅰ(図画工作) の基盤の上に、さらに豊かな感性を育み、学生自身の造形表現能力を高めるとともに、幼児への造形表現指導能力を高める。表現を通して幼児の造形表現指導に必要な知識と技能を修得する。すべての幼児が表現を楽しむことができるような保育を構想し、実践できる創造的な幼児教育者の礎を築く。

■授業の概要

幼児期の子どもの表現は、大人が視覚で捉えた写実的イメージとは異なり、幼児特有の感性に従って表出効果からきており、子ども特有の様々な類型があることを学ぶ。このように独特の表現世界をもつ幼児の造形表現と指導方法について、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導を体験することから学ぶ。前半の制作は学生自身の造形表現能力を磨くことを主眼におき、後半の制作は身近な素材を使った制作をグループでの模擬保育という形で行い指導方法を修得する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	紙レリーフによる壁面装飾	作品の完成(復)
第17回	子どもが参加する壁面制作 指導案作成	指導案の作成(復)
第18回	模擬保育② 「子どもが参加する壁面制作」	模擬保育の反省とまとめ(復)
第19回	自然物を使って作る 「松ぼっくりのクリスマスツリー」	作品の完成(復)
第20回	模擬保育③ 「折り染め」	模擬保育の反省とまとめ(復)
第21回	布描き絵具やクレヨンを使って染めよう 「ランチョンマット」	作品制作のつづき(復)
第22回	布描き絵具やクレヨンを使って染めよう 「ランチョンマット」	作品制作のつづき(復)
第23回	布描き絵具やクレヨンを使って染めよう 「ランチョンマット」	作品制作の完成(復)
第24回	模擬保育④ 「マーブリング」	模擬保育の反省とまとめ(復)
第25回	模擬保育⑤ 「ドリッピング」	模擬保育の反省とまとめ(復)
第26回	子どもの感性と表現「子どもの絵の見方・育て方」	テキストを読む(復)
第27回	子どもの感性と表現「子どもの絵の見方・育て方」	テキストを読む(復)
第28回	紙で作る動物たち	作品制作の完成(復)
第29回	造形遊びの様々な技法 「ブラッシング」	作品制作の完成(復)
第30回	幼児の造形表現の指導のあり方	資料及び作品の整理(復)

■履修上の注意

○絵具セット、4B・2Bなどの鉛筆、はさみ、カッターナイフを用意すること。

■評価方法

課題作品及びレポート、試験、出席状況・授業への参加態度を総合して評価する。(おおむねレポート・試験70%、授業態度30%)

■教科書

「造形表現の指導」 村内哲二編著 建帛社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法B) — ①		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎技能ⅡBとは、①ピアノ実技と②歌唱（声楽）である。基礎技能ⅡBnoピアノ実技、特に後期の課題は、移調演奏能力を身につけることである。年間2回、前期・後期とも実技試験を実施する。

■授業の概要

・「声楽・音楽理論」及び基礎技能（美術）と連携した総合的な芸術表現能力の向上を目指す。
 ・学生一人ひとりの、個別の芸術的表現能力の向上を目指す。・移調奏による。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーションI。ピアノ実技②Bの狙い。グレード別編成。演奏曲等の決定。	・音域と調性の感覚を身につける。
第2回	・個別の演奏能力を高める。・創造的に幅広い総合芸術的能力を高める。その1	〃
第3回	・個別の演奏能力を高める。・創造的に幅広い総合芸術的能力を高める。その2	〃
第4回	・個別の演奏能力を高める。・創造的に幅広い総合芸術的能力を高める。その3	〃
第5回	・個別の演奏能力を高める。・創造的に幅広い総合芸術的能力を高める。その4	・演奏スタイル（身体の使い方）
第6回	・表現能力の向上。移調による弾き歌い。その1	発声とダイナミックスの関係
第7回	・表現能力の向上。移調による弾き歌い。その2	〃
第8回	・表現能力の向上。移調による弾き歌い。その3	〃
第9回	・表現能力の向上。移調による弾き歌い。その4	〃
第10回	・表現能力の向上。移調による弾き歌い。その5	〃
第11回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その1	声量とピアノの音量に配慮。
第12回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その2	〃
第13回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その3	〃
第14回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その4	〃
第15回	・リハーサル その1	音楽表現に配慮した演奏。

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人のレベルに合った演奏能力の向上を目指すこと。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の発達や精神年齢等に配慮した芸術的表現の質的向上を目指す。
4. 保育所・幼稚園・小学校の行事に相応しい選曲能力を高める。

■評価方法

- ①前期は、2年次に同じ形式で演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、移調奏・唱の能力向上を目指す。各自の声域に合った調を選択できるかどうか。
- ③その他、評価基準は2年次に同じ。（受講態度30%、実技試験70%）

■教科書

1. 基本教材は、『音楽リズム』小林美実編 東京書籍版
2. 但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法B) — ①		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義 ・ (演習) ・ 実習	必修 ・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

基礎技能ⅡBとは、①ピアノ実技と②歌唱（ 声楽 ）である。基礎技能ⅡBnoピアノ実技、特に後期の課題は、移調演奏能力を身につけることである。年間2回、前期・後期とも実技試験を実施する。

■授業の概要

・「声楽・音楽理論」及び基礎技能（美術）と連携した総合的な芸術表現能力の向上を目指す。
 ・学生一人ひとりの、個別の芸術的表現能力の向上を目指す。・移調奏による。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーションⅡ。後期の狙い(移調奏・唱) 演奏曲等の決定	声域の確認と拡大。
第17回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その1	〃
第18回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その2	〃
第19回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その3	〃
第20回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その4	〃
第21回	・後期課題への取組み。幼児教育にふさわしい曲の模索。その1	対象児決定とその特徴
第22回	・幼児教育にふさわしい曲の模索。その2	〃
第23回	・幼児教育にふさわしい曲の模索。その3	〃
第24回	・幼児教育にふさわしい曲の模索。その4	〃
第25回	・主に行事にふさわしい曲決定。その1	対象児の理解①
第26回	・主に行事にふさわしい曲決定。その2	対象児の理解②
第27回	・主に行事にふさわしい曲決定。その3	対象児の理解③
第28回	・主に行事にふさわしい曲決定。その4	対象児の理解④
第29回	・リハーサル その1	体全体のパフォーマンス。
第30回	・リハーサル その2	〃

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人のレベルに合った演奏能力の向上を目指すこと。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の発達や精神年齢等に配慮した芸術的表現の質的向上を目指す。
4. 保育所・幼稚園・小学校の行事に相応しい選曲能力を高める。

■評価方法

- ①前期は、2年次に同じ形式で演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、移調奏・唱の能力向上を目指す。各自の声域に合った調を選択できるかどうか。
- ③その他、評価基準は2年次に同じ。(受講態度30%、実技試験70%)

■教科書

1. 基本教材は、『音楽リズム』小林美実編 東京書籍版
2. 但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法B) -②		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

声の出し方、楽譜の読み方に対しその都度のリズムを自宅で良く練習する。

■授業の概要

音楽の表現、鑑賞を中心に、幼児・児童に対する創造性を豊にするための教育を目指し、歌唱を題材にして学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	楽譜の読み方を学ぶ	みなおす
第2回	1の続き	〃
第3回	声の出し方をリズムを通じて学ぶ	自分でやる
第4回	3の続き	〃
第5回	4の続き	〃
第6回	5の続き	〃
第7回	先ず10人ずつ発声の基準になる腹式呼吸を習得する	〃
第8回	7の続き	〃
第9回	8の続き	〃
第10回	9の続き	〃
第11回	5人ずつ腹式呼吸を用いて発声の仕方を学ぶ	〃
第12回	11の続き	〃
第13回	12の続き	〃
第14回	13の続き	〃
第15回	14の続き	〃

■履修上の注意

一回一回学んだことを必ず復習して習得する。

■評価方法

出席40%、毎回の歌唱60%によって評価する。

■教科書

声力、童謡集

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法B) -②			担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

声の出し方、楽譜の読み方に対しその都度のリズムを自宅で良く練習する。

■授業の概要

音楽の表現、鑑賞を中心に、幼児・児童に対する創造性を豊にするための教育を目指し、歌唱を題材にして学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	めだかの学校	楽譜をよんでおく
第17回	16の続き	自分でうたう
第18回	17の続き	〃
第19回	おぼろ月夜	楽譜をよんでおく
第20回	19の続き	自分でうたう
第21回	20の続き	〃
第22回	故郷	楽譜をよんでおく
第23回	22の続き	自分でうたう
第24回	23の続き	〃
第25回	この道	楽譜をよんでおく
第26回	25の続き	自分でうたう
第27回	26の続き	〃
第28回	赤とんぼ	楽譜をよんでおく
第29回	28の続き	自分でうたう
第30回	29の続き	〃

■履修上の注意

一回一回学んだことを必ず復習して習得する。

■評価方法

出席40%、毎回の歌唱60%によって評価する。

■教科書

声力、童謡集

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法C) - ①			担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・幼児教育及び小学校教育に必要な実践的な芸術表現（パフォーマンス）の向上を目指す。
- ・式典歌を始め、季節感や行事等で演奏できる能力を身につけることを目指す。
- ・到達目標は、年齢や精神発達状況を踏まえた創造的な表現を求めた指導を目指す。

■授業の概要

～基礎技能ⅡC-①のピアノ実技は、以下の目的に沿って進める。～

- ・音楽的表現のみならず、他の美術（舞台芸術）や演技と連携した総合的な芸術表現能力の向上を目指す。
- ・指導の特徴は、現場の指導に役立つ必要な芸術的総合能力つまり、季節の歌・遊びの歌・式典歌など、実践的な音楽的能力を養成することにある。
- ・実習・採用試験等に配慮した曲目演奏や指導も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーションI・ピアノ実技ⅡCの狙い。テーマに沿った演奏曲等の決定。	・他の芸術的能力の開発
第2回	・創造的な幅広い総合芸術的能力を高める。その1	〃
第3回	・創造的な幅広い総合芸術的能力を高める。その2	〃
第4回	・創造的な幅広い総合芸術的能力を高める。その3	〃
第5回	・創造的な幅広い総合芸術的能力を高める。その4	〃
第6回	・テーマを決めた取組。その1	日本語の発声とダイナミクス
第7回	・テーマを決めた取組。その2	〃
第8回	・テーマを決めた取組。その3	〃
第9回	・テーマを決めた取組。その4	〃
第10回	・テーマを決めた取組。その5	〃
第11回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その1	歌詞の意味に配慮。
第12回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その2	〃
第13回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その3	〃
第14回	・課題曲の選定。・音量・音色に注意した音楽的演奏を目指す。その4	〃
第15回	・リハーサル その1	音楽表現に配慮した演奏。

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人の音楽的能力の向上を目指した指導を重視する。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の発達及び精神年齢等に配慮した表現の質的向上を目指す。

■評価方法

- ①前期は、実習で音楽表現できる演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、実践で使える総合芸術的能力を高く評価する。
- ③その他は3年次に同じ。（受講態度30%、実技試験70%）

■教科書

1. 基本教材は、『音楽リズム』小林美実編 東京書籍版
2. 小学校教員希望者は、「教育芸術社版」や「教育出版社版」等を使用する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法C) - ①			担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・幼児教育及び小学校教育に必要な実践的な芸術表現（パフォーマンス）の向上を目指す。
- ・式典歌を始め、季節感や行事等で演奏できる能力を身につけることを目指す。
- ・到達目標は、年齢や精神発達状況を踏まえた創造的な表現を求めた指導を目指す。

■授業の概要

～基礎技能ⅡC-①のピアノ実技は、以下の目的に沿って進める。～

- ・音楽的表現のみならず、他の美術（舞台芸術）や演技と連携した総合的な芸術表現能力の向上を目指す。
- ・指導の特徴は、現場の指導に役立つ必要な芸術的総合能力つまり、季節の歌・遊びの歌・式典歌など、実践的な音楽的能力を養成することにある。
- ・実習・採用試験等に配慮した曲目演奏や指導も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーションⅡ・採用試験の為に練習した曲を演奏する。その1	場面を想定したパフォーマンス。
第17回	・採用試験の為に練習した曲を演奏する。その2	〃
第18回	・採用試験の為に練習した曲を演奏する。その3	〃
第19回	・採用試験の為に練習した曲を演奏する。その4	〃
第20回	・採用試験の為に練習した曲を演奏する。その5	〃
第21回	・実習及び採用試験のために身につけた芸術表現の向上。その1	対象児年齢に応じた演奏
第22回	・実習及び採用試験のために身につけた芸術表現の向上。その2	〃
第23回	・実習及び採用試験のために身につけた芸術表現の向上。その3	〃
第24回	・実習及び採用試験のために身につけた芸術表現の向上。その4	〃
第25回	・実習及び採用試験のために身につけた芸術表現の向上。その5	〃
第26回	・季節感や行事に相応しいレパートリーを身につける。その1	総合的表現
第27回	・季節感や行事に相応しいレパートリーを身につける。その2	〃
第28回	・季節感や行事に相応しいレパートリーを身につける。その3	〃
第29回	・リハーサル その1	〃
第30回	・リハーサル その2	〃

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人の音楽的能力の向上を目指した指導を重視する。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の発達及び精神年齢等に配慮した表現の質的向上を目指す。

■評価方法

- ①前期は、実習で音楽表現できる演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、実践で使える総合芸術的能力を高く評価する。
- ③その他は3年次に同じ。（受講態度30%、実技試験70%）

■教科書

1. 基本教材は、『音楽リズム』小林美実編 東京書籍版
2. 小学校教員希望者は、「教育芸術社版」や「教育出版社版」等を使用する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育実習事前・事後指導 (中・高)			担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校及び高等学校の教育実習は将来教職に就くことを前提として成立する実践的課題であり、事前にその意義と課題、内容等を十分に理解する必要がある。さらに、本実習を有意義で効果的なものとするためには学習指導案の作成や授業研究に取り組むことが重要となる。

学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。

■授業の概要

3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教職への招待・ガイダンス 大学の事前指導で何を学ぶか	本実習に向けての心得・留意事項等を記録する。
第2回	教育実習の意義と目的	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第3回	教育実習の課題と実習生としての自覚	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第4回	先輩の研究授業・模擬授業の視聴	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第5回	観察実習の書き方、学習指導案の作成 ①	指導案の作成方法を提示 観察実習/指導案の作成
第6回	中学校授業参観 (朝の会、社会科、意見交換会)	授業参観の諸注意を記録する。 意見・感想の提出
第7回	中学校授業参観の検討会 (朝の会、社会科、意見交換会)	授業参観の報告 意見・感想の提出
第8回	学習指導案の作成 ②	指導案の作成方法を記録する。
第9回	模擬授業の実践 ①	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第10回	模擬授業の実践 ②	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第11回	模擬授業の実践 ③	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第12回	授業研究 ①	KJ法による授業研究 授業分析/意見・感想の提出
第13回	模擬授業の実践 ④	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第14回	模擬授業の実践 ⑤	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第15回	授業研究 ②	KJ法による授業研究・分析 授業分析/意見・感想の提出

■履修上の注意

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に課したミニレポート・模擬授業の実践(50%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 2 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	教育実習事前・事後指導 (中・高)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校及び高等学校の教育実習は将来教職に就くことを前提として成立する実践的課題であり、事前にその意義と課題、内容等を十分に理解する必要がある。さらに、本実習を有意義で効果的なものとするためには学習指導案の作成や授業研究に取り組むことが重要となる。

学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。

■授業の概要

3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	模擬授業の実践 ⑥	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第17回	模擬授業の実践 ⑦	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第18回	高等学校授業参観 (福祉、公民、意見交換会)	授業参観の諸注意を記録する。 意見・感想の提出
第19回	高等学校授業参観の検討会 (福祉、公民、意見交換会)	授業参観の報告 意見・感想の提出
第20回	模擬授業の実践 ⑧	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第21回	授業研究 ③	KJ法による授業研究 授業分析/意見・感想の提出
第22回	模擬授業の実践 ⑨	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第23回	模擬授業の実践 ⑩	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第24回	模擬授業の実践 ⑪	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第25回	授業研究 ④	KJ法による授業研究 授業分析/意見・感想の提出
第26回	模擬授業の実践 ⑫	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第27回	模擬授業の実践 ⑬	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第28回	模擬授業の実践 ⑭	指導案の作成/提出 意見・感想の提出
第29回	授業研究 ⑤	KJ法による授業研究 授業分析/意見・感想の提出
第30回	まとめ 本実習に向けて	1年間のまとめ

■履修上の注意

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に課したミニレポート・模擬授業の実践(50%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 2 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	教育実習事前・事後指導 (中・高)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念を意識しながら教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や実習中の留意点を講義し自覚を促す。

本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられるようにする。

■授業の概要

2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。

生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

後期は教員採用試験に向けて、主に教職教養・専門教養を中心に教員採用試験対策講座を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教育実習に臨み -教育実習の範囲と内容-	本実習に向けての心得・留意事項等をまとめる。
第2回	実習を受け入れる立場から ① -中学校の立場から-	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第3回	実習を受け入れる立場から ② -高等学校の立場から-	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第4回	教育実習で留意すること	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第5回	教育実習の実際 ①	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第6回	教育実習の実際 ②	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第7回	研究授業案の作成	本実習の研究授業案作成
第8回	本実習前オリエンテーション	学長訓話 本実習に向けての心得・留意事項等を記録しまとめる。
第9回	模擬授業の実践 ①	指導案の作成 / 意見・感想の提出
第10回	模擬授業の実践 ②	指導案の作成 / 意見・感想の提出
第11回	観察実習、教育実習録の書き方	教科書で事前学習 ミニレポートで内容を確認
第12回	教育実習報告・検討会 ①	実習報告書の作成 意見・感想の提出
第13回	教育実習報告・検討会 ②	実習報告書の作成 意見・感想の提出
第14回	教育実習報告・検討会 ③	実習報告書の作成 意見・感想の提出
第15回	教育実習報告・検討会 ④	実習報告書の作成 意見・感想の提出

■履修上の注意

1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や受講態度の悪い学生は、本実習中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。

2 教育実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や生徒理解を熱心に学習すること。

3 教育実習報告会では、本実習での実習内容を報告書にまとめ、発表する。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に課したミニレポート・模擬授業の実践(50%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

- 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 東京教友会編著『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

■参考書

東京教友会編著『一般教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

科目名	教育実習事前・事後指導 (中・高)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念を意識しながら教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や実習中の留意点を講義し自覚を促す。

本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられるようにする。

■授業の概要

2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。

生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

後期は教員採用試験に向けて、主に教職教養・専門教養を中心に教員採用試験対策講座を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	教員採用試験対策 ① (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第17回	教員採用試験対策 ② (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第18回	教員採用試験対策 ③ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第19回	教員採用試験対策 ④ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第20回	教員採用試験対策 ⑤ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第21回	教員採用試験対策 ⑥ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第22回	教員採用試験対策 ⑦ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第23回	教員採用試験対策 ⑧ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第24回	教員採用試験対策 ⑨ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第25回	教員採用試験対策 ⑩ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第26回	教員採用試験対策 ⑪ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第27回	教員採用試験対策 ⑫ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第28回	教員採用試験対策 ⑬ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第29回	教員採用試験対策 ⑭ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認
第30回	教員採用試験対策 ⑮ (主に教職教養・専門教養科目)	教科書で事前学習 / 解説した部分の確認

■履修上の注意

1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や受講態度の悪い学生は、本実習中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。

2 教育実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や生徒理解を熱心に学習すること。

3 教育実習報告会では、本実習での実習内容を報告書にまとめ、発表する。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に課したミニレポート・模擬授業の実践(50%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年

2 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房

3 東京教友会編著『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

■参考書

東京教友会編著『一般教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

科目名	現代社会と福祉			担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・社会福祉の役割と意義を中心に指導する。主に、概念・理念、歴史、政策・制度、実践・技術、実践体験等や最近の社会動向・展望等である。さらに、専門職資格をいかに取得するかも重要な課題である。

■授業の概要

現代社会に対応できる社会福祉の原理や基本的な知識・技術等の分野を研究する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	社会福祉の新たな展開	新社会福祉士の教育課程
第2回	福祉政策理解の枠組み	社会福祉のL字型の枠組み
第3回	福祉国家の変容	福祉多元主義の考え方
第4回	現代社会の変化と福祉	少子高齢化での福祉
第5回	社会福祉の拡大と限定	高度化する福祉ニーズ
第6回	市場の論理と倫理	市場的分配の原理
第7回	福祉の思想	福祉思想の独自性
第8回	社会政策のなかの福祉政策	社会政策の概念
第9回	福祉政策の体系	社会福祉政策の概念
第10回	近代化と福祉政策	福祉事業と福祉サービス
第11回	高度経済成長期の福祉政策	福祉の流れ
第12回	1990年代以降の福祉政策	福祉政策の調整から改革
第13回	福祉政策における必要と資源	必要と需要の関係
第14回	福祉政策の理念	自己責任原則と福祉
第15回	福祉政策資源の配分システム	生活の維持と支援

■履修上の注意

・要点は板書するのでノートをとること。配布資料、新聞、インターネット、福祉関連参考書等を自主的に読むこと。授業の進み具合でシラバスと異なる事もある。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

・授業態度(10%)・出席状況(20%)・テスト(70%)により総合評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』 中央法規出版(株) 2010年2月

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	現代社会と福祉		担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・社会福祉の役割と意義を中心に指導する。主に、概念・理念、歴史、政策・制度、実践・技術、実践体験等や最近の社会動向・展望等である。さらに、専門職資格をいかに取得するかも重要な課題である。

■授業の概要

現代社会に対応できる社会福祉の原理や基本的な知識・技術等の分野を研究する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	人権擁護と福祉政策	現代社会の人権保護
第17回	保健医療と福祉政策	医療政策の特徴
第18回	教育と福祉政策	生涯学習からみた教育
第19回	社会福祉制度と福祉サービス	措置から契約への福祉
第20回	福祉サービスの利用過程	福祉の提供組織
第21回	福祉サービスの利用過程援助過程	申請主義原則
第22回	地域福祉の展開	社会福祉士が行う活動
第23回	福祉政策の国際比較	保障給付費からみた比較
第24回	欧米の福祉政策	欧米の中の日本の位置
第25回	東アジアの福祉政策	韓国・中国等の福祉政策
第26回	社会不安と福祉政策の課題	不平等格差社会の是正
第27回	地域福祉の政策と計画	地方分権時代の福祉機能
第28回	福祉国家・福祉社会	新たな公共の福祉政策
第29回	福祉社会の福祉政策の展望	包摂型福祉社会
第30回	まとめ	福祉のあり方

■履修上の注意

・要点は板書するのでノートをとること。配布資料、新聞、インターネット、福祉関連参考書等を自主的に読むこと。授業の進み具合でシラバスと異なる事もある。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

・授業態度（10%）・出席状況（20%）・テスト（70%）により総合評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』 中央法規出版（株） 2010年2月

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	公民科教育法			担当教員 (単位認定者)	坂戸 五郎	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高等学校の「公民」科の教員免許取得のための授業である。従って高校の「公民」教科書三種類「現代社会」「倫理」「政治・経済」の内容を吟味し、これに対応した授業体系。
将来「公民」科の教員として充分対応出来る内容となっている。

■授業の概要

古代ギリシヤの哲学・倫理＝「人間の生き方」から始め、宗教の内容、政治の理論およびその歴史の分析。
三権分立を中心とした日本国憲法の内容分析を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション ー高校における「社会」の免許状の内容と「公民」教育について	教科書を学習すること
第2回	I 人間としての自覚 ー古代の思想および宗教、神話について	ギリシヤ神話を調べる
第3回	古代日本神話の内容検討	日本の神話、昔話を読む
第4回	ギリシヤ哲学 aソクラテス	ギリシヤの哲学者を調べる
第5回	ギリシヤ哲学 bプラトン cアリストテレス	ギリシヤの哲学者を調べる
第6回	II 思想と宗教 1 宗教の原理と機能	教科書を学習すること
第7回	2 宗教の理論と定義 aタイラー bエリアーデ	アニミズムについて調べる
第8回	3 各種の宗教 1) 仏教 開祖・聖典など	教典のうち一つを調べる
第9回	仏教の続き 仏教の構成ー仏・法・僧 内容	教科書を学習すること
第10回	2) 日本の仏教ー天台宗、真言宗、浄土宗など	各派の違いを見る
第11回	3) キリスト教 a旧約聖書	旧約聖書を読む
第12回	キリスト教 b新約聖書 教義 教会について	新約聖書を読む
第13回	4) イスラム教 開祖、イスラームの生活	イスラームの聖典「コーラン」を読む
第14回	イスラム教 イスラム教の宗教的特徴、戒律	教科書を学習すること
第15回	III 人間の社会生活 1. 政治について	教科書を学習すること

■履修上の注意

講義が中心であるが後半は学生に調査の発表、質疑を行う。

■評価方法

出席・授業態度（発表・質疑を含む） 50% テスト 50%

■教科書

高校の「公民」の教科書を示すので各自購入しよく読むこと。

■参考書

上記以外に講義の途中に多くの参考書を示す。

科目名	公民科教育法			担当教員 (単位認定者)	坂戸 五郎	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高等学校の「公民」科の教員免許取得のための授業である。従って高校の「公民」教科書三種類「現代社会」「倫理」「政治・経済」の内容を吟味し、これに対応した授業体系。将来「公民」科の教員として充分対応出来る内容となっている。

■授業の概要

古代ギリシヤの哲学・倫理＝「人間の生き方」から始め、宗教の内容、政治の理論およびその歴史の分析。三権分立を中心とした日本国憲法の内容分析を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	2) 政治現象	教科書を学習すること
第17回	2 近代の政治理論＝民主政治 aブライス bトックビル	トックビル「米国の民主政治」を読む
第18回	近代の政治理論＝民主政治 cケルゼン dイエーリング	ケルゼン「デモクラシーの本質」を読む
第19回	3 近代政治理論の歴史的発展 aマキャベリー bボーダン	マキャベリー「君主論」を読む
第20回	cホッグス d J. ロック	ロック「政府二論」を読む
第21回	eモンテスキュー fルソー	モンテスキューの三権分立を確かめる
第22回	gベンサム hジョン・S・ミル	ミル「自由論」を読む
第23回	i社会主義理論 マルクス	社会主義を研究する
第24回	VI 日本国憲法に基く日本の政治 1. 憲法	日本の憲法の確認
第25回	日本国憲法の基本と内容	教科書を学習すること
第26回	三権の分立 a立法－国会	日本の憲法の確認
第27回	三権の分立 b行政－内閣	日本の憲法の確認
第28回	三権の分立 c司法－裁判所	日本の憲法の確認
第29回	地方自治 a本旨 b機能	日本の憲法の確認
第30回	地方自治 c役割 d住民の権利と義務	日本の憲法の確認

■履修上の注意

講義が中心であるが後半は学生に調査の発表、質疑を行う。

■評価方法

出席・授業態度(発表・質疑を含む) 50% テスト 50%

■教科書

高校の「公民」の教科書を示すので各自購入しよく読むこと。

■参考書

上記以外に講義の途中に多くの参考書を示す。

科目名	高齢者に対する支援と 介護保険制度		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者を取り巻く生活環境問題を理解し、それに係わる法・諸施策の把握に努める。

■授業の概要

高齢化の進展にともない、介護保険制度をはじめとした法制度を把握しておくことは、極めて重要なことである。そこで、福祉専門職者（社会福祉士）としておさえておくべき下記事項を中心に概説していく。また、社会福祉士国家試験に関する情報も適宜、提供していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	シラバスの熟読
第2回	高齢者の特性（高齢者の身体的理解等）	テキスト該当ページの熟読
第3回	少子高齢社会と社会問題 ①	〃
第4回	少子高齢社会と社会問題 ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第5回	少子高齢社会と社会問題 ③	〃
第6回	介護保険制度 ①	テキスト該当ページの熟読
第7回	介護保険制度 ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第8回	介護保険制度 ③	〃
第9回	居宅サービス ①	テキスト該当ページの熟読
第10回	居宅サービス ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第11回	施設サービス ①	テキスト該当ページの熟読
第12回	施設サービス ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第13回	地域密着型サービス	テキスト該当ページの熟読
第14回	介護予防サービス	〃
第15回	前期総括	前期学習事項の確認

■履修上の注意

私語をせず、積極的に受講すること。なお、社会福祉士国家試験対策として、授業のなかで確認テスト（小テスト）を毎回実施する。

■評価方法

定期試験70%、確認テスト（小テスト）20%、出欠状況10%、それに授業態度を考慮のうえ評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座13 『高齢者に対する支援と介護保険制度（第2版）』（中央法規出版）

■参考書

社会福祉小六法

科目名	高齢者に対する支援と 介護保険制度		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者を取り巻く生活環境問題を理解し、それに係わる法・諸施策の把握に努める。

■授業の概要

高齢化の進展にともない、介護保険制度をはじめとした法制度を把握しておくことは、極めて重要なことである。そこで、福祉専門職者（社会福祉士）としておさえておくべき下記事項を中心に概説していく。また、社会福祉士国家試験に関する情報も適宜、提供していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	老人福祉法 ①	テキスト該当ページの熟読
第17回	老人福祉法 ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第18回	老人福祉法 ③	〃
第19回	高齢者の医療の確保に関する法律	テキスト該当ページの熟読
第20回	高齢者虐待防止法 ①	〃
第21回	高齢者虐待防止法 ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第22回	バリアフリー新法	テキスト該当ページの熟読
第23回	高齢者の居住の安定確保に関する法律	〃
第24回	国民健康保険団体連合会の役割	〃
第25回	高齢者支援の方法（ケアマネジメント）	〃
第26回	介護の概念及び対象 ①	〃
第27回	介護の概念及び対象 ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第28回	認知症ケア ①（認知症サポーター）	テキスト該当ページの熟読
第29回	認知症ケア ②	授業ノートおよび配布資料の内容把握
第30回	総括	授業内容の再確認作業の励行

■履修上の注意

私語をせず、積極的に受講すること。なお、社会福祉士国家試験対策として、授業のなかで確認テスト（小テスト）を毎回実施する。

■評価方法

定期試験70%、確認テスト（小テスト）20%、出欠状況10%、それに授業態度を考慮のうえ評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座13 『高齢者に対する支援と介護保険制度（第2版）』（中央法規出版）

■参考書

社会福祉小六法

科目名	児童福祉総合演習			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもたちを取り巻く環境を理解し、児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。保育の現場で行なわれている行事等について理解し、実際に体験することでさらに学びを深め、企画・実践力を養う。

■授業の概要

子どもの生活や遊びについて子どもの文化の歴史を学ぶ。「環境を通じた保育」について理解する。「あそびのなかでの子どもたちの育ち」について理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	講義概要について把握する
第2回	子どもを取り巻く環境について①(講義)	子どもたちのおかれている環境について理解する
第3回	子どもを取り巻く環境について②(グループ討議)	グループでの話し合いを整理する
第4回	子どもを取り巻く環境について③(フィールドワーク)	フィールドワークの結果を整理する
第5回	子どもを取り巻く環境について④(発表①)	発表できるように事前に準備しておく
第6回	子どもを取り巻く環境について④(発表②)	発表を聞き、感想等、整理しておく
第7回	保護者とのよりよい関係を目指して①(講義)	保護者との良好な関係とはなにか考える
第8回	保護者とのよりよい関係を目指して②(クラスたより作成)	クラス便りについて予習しておく
第9回	保護者とのよりよい関係を目指して③(ロールプレイング)	ロールプレイングで行なったことを整理しておく
第10回	保護者とのよりよい関係を目指して④(講義)	保護者との良好な関係作りについて理解する
第11回	学級経営について①(講義)	学級経営とはなにか、理解する
第12回	学級経営について②(子どもへの対応①)	実習での事例を事前に整理しておく
第13回	学級経営について③(子どもへの対応②)	実習での事例を事前に整理しておく
第14回	学級経営について④(子どもへの対応③)	実習での事例を事前に整理しておく
第15回	学級経営について⑤(発表)	学級経営について理解する

■履修上の注意

保育についていつも関心をもっておくこと。保育士資格取得を希望する学生はすべてに出席すること。予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。新聞、ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。

■評価方法

①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(40%)②グループ発表(30%)③レポートおよび提出物(30%)以上を総合的に評価する

■教科書

講義のなかで適宜指示する

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	児童福祉総合演習			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもたちを取り巻く環境を理解し、児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。保育の現場で行なわれている行事等について理解し、実際に体験することでさらに学びを深め、企画・実践力を養う。

■授業の概要

子どもの生活や遊びについて子どもの文化の歴史を学ぶ。「環境を通じた保育」について理解する。「あそびのなかでの子どもたちの育ち」について理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	保育内容について①(行事①)(講義)	保育における行事の役割について理解する
第17回	保育内容について②(行事②)(グループ討議①)	グループ討議の結果を整理しておく
第18回	保育内容について③(行事③)(グループ討議②)	グループ討議の結果を整理しておく
第19回	保育内容について④(行事④)(グループ討議③)	グループ討議の結果を整理しておく
第20回	保育内容について⑤(行事⑤)(中間発表)	スムーズに発表が行なえるよう事前準備をしておく
第21回	保育内容について⑥(行事⑥)(グループ討議④)	グループ討議の結果を整理しておく
第22回	保育内容について⑦(行事⑦)(グループ討議⑤)	グループ討議の結果を整理しておく
第23回	保育内容について⑧(行事⑧)(グループ討議⑥)	グループ討議の結果を整理しておく
第24回	保育内容について⑨(グループ発表①)	スムーズに発表が行なえるよう事前準備をしておく
第25回	保育内容について⑩(グループ発表②)	スムーズに発表が行なえるよう事前準備をしておく
第26回	保育職の意義や教員の役割について①(講義)	意義や役割とはなにか考える
第27回	保育職の意義や教員の役割について②(外部講師)	外部講師の講和について整理しておく
第28回	保育職の意義や教員の役割について③(グループ討議)	グループ討議事項について整理しておく
第29回	保育職の意義や教員の役割について③(まとめ)	意義や役割について理解する
第30回	保育職に就く者としての責任感について(総括)	保育職に就く者としての責任について理解する

■履修上の注意

保育についていつも関心をもっておくこと。保育士資格取得を希望する学生はすべてに出席すること。予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。新聞、ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。

■評価方法

①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(40%)②グループ発表(30%)③レポートおよび提出物(30%)以上を総合的に評価する

■教科書

講義のなかで適宜指示する

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	児童文化（演習）			担当教員 （単位認定者）	八幡 眞由美	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもたちを取り巻く環境を理解し、児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。保育園・幼稚園の実践は、さまざまな児童文化財の活用を通して展開され、豊かな保育実践と児童文化財は密接な関係にあるといえる。保育実践における児童文化財の活用に関する具体的な示唆のもとに保育現場での実践について理解し、体験することでさらに学びを深め、児童文化を介した豊かな遊びを創り出す企画・実践力を養う。

■授業の概要

児童文化財を保育実践にいかす方法や児童文化財を用いた実践事例について解説し、児童文化財別に実践の場へつなげるための基礎知識、子どもたちの発達との関係を学び、活用方法を体験することで理解する。ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の製作・実践、「折り紙100選」の作成を通じてさらなる実践力強化を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	講義概要について把握する
第2回	児童文化とは	教科書を学習すること
第3回	保育実践としての児童文化	〃
第4回	児童文化の現状と課題	〃
第5回	児童文化と年中行事①	〃
第6回	児童文化と年中行事②	〃
第7回	児童文化と年中行事③	〃
第8回	児童文化財の保育への展開① 絵本 理論	〃
第9回	児童文化財の保育への展開① 絵本 実践	〃
第10回	児童文化財の保育への展開② 紙芝居 理論	〃
第11回	児童文化財の保育への展開② 紙芝居 実践	〃
第12回	児童文化財の保育への展開③ 童謡・わらべうた	〃
第13回	児童文化財の保育への展開④ 折り紙	「折り紙100選」について計画する
第14回	児童文化財の保育への展開⑤ ペープサート 理論	ペープサート製作
第15回	児童文化財の保育への展開⑥ パネルシアター 理論	パネルシアター製作

■履修上の注意

- ・児童文化に関する事項に常に関心を持つこと。
- ・実践活動は「見る人がいる」ということを意識し、製作を行なうこと。製作がゴールではなく、活用することで得るものも多いので、多くの場面で活用すること。
- ・製作したシアターは適宜発表を行うので準備しておくこと。
- ・空き時間等を利用して、計画的に「折り紙100選」を作成すること。

■評価方法

①授業への取り組み、発表姿勢 等（50%）②提出物（50%）を総合して評価する

■教科書

『児童文化がひらく豊かな保育実践』保育出版社

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	児童文化（演習）			担当教員 （単位認定者）	八幡 眞由美	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもたちを取り巻く環境を理解し、児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。保育園・幼稚園の実践は、さまざまな児童文化財の活用を通して展開され、豊かな保育実践と児童文化財は密接な関係にあるといえる。保育実践における児童文化財の活用に関する具体的な示唆のもとに保育現場での実践について理解し、体験することでさらに学びを深め、児童文化を介した豊かな遊びを創り出す企画・実践力を養う。

■授業の概要

児童文化財を保育実践にいかす方法や児童文化財を用いた実践事例について解説し、児童文化財別に実践の場へつなげるための基礎知識、子どもたちの発達との関係を学び、活用方法を体験することで理解する。ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の製作・実践、「折り紙100選」の作成を通じてさらなる実践力強化を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	児童文化財の保育への展開⑤ ペープサート 発表	発表できるよう準備しておく
第17回	児童文化財の保育への展開⑥ パネルシアター 発表	〃
第18回	児童文化財の保育への展開⑦ 人形あそび 理論	教科書を学習すること
第19回	児童文化財の保育への展開⑦ 人形あそび 実践	〃
第20回	児童文化財の保育への展開⑧ 劇あそび 理論	各グループで計画する
第21回	児童文化財の保育への展開⑧ 劇あそび 実践	発表できるよう準備しておく
第22回	児童文化財の保育への展開⑧ 劇あそび 発表	発表できるよう準備しておく
第23回	児童文化財の保育への展開⑨ 玩具・遊具1	教科書を学習すること
第24回	児童文化財の保育への展開⑩ 児童文化施設	教科書を学習すること
第25回	児童文化財の保育への展開⑪ あやとり	教科書を学習すること
第26回	児童文化財の保育への展開⑫ ゲーム・コンピュータ	教科書を学習すること
第27回	児童文化財の保育への展開⑬ 伝承文化	教科書を学習すること
第28回	児童文化財の保育への展開⑭ エプロンシアター 理論	エプロンシアター製作
第29回	児童文化財の保育への展開⑭ エプロンシアター 発表	発表できるよう準備しておく
第30回	総括	児童文化が保育実践に与える効果について考える

■履修上の注意

- ・児童文化に関する事項に常に興味を持つこと。
- ・実践活動は「見る人がいる」ということを意識し、製作を行なうこと。製作がゴールではなく、活用することで得るものも多いので、多くの場面で活用すること。
- ・製作したシアターは適宜発表を行うので準備しておくこと。
- ・空き時間等を利用して、計画的に「折り紙100選」を作成すること。

■評価方法

①授業への取り組み、発表姿勢 等（50%）②提出物（50%）を総合して評価する

■教科書

『児童文化がひらく豊かな保育実践』保育出版社

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度		担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストの目次を読んでおく。年間計画を立てる。
第2回	少子高齢社会と次世代育成支援	少子高齢化対策の流れを理解する。
第3回	現代社会と子ども家庭の問題	子育て環境の変化を理解する。
第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ	子どもに対する社会の価値観の変化を知る。
第5回	子どものための福祉の原理	子ども、児童という用語の定義を理解する。
第6回	子ども家庭福祉の理念	子ども家庭福祉の定義を理解する。
第7回	子どもと家庭の権利保障	子どもと家庭の権利について理解する。
第8回	児童福祉の発展	児童福祉の歴史を学ぶ。
第9回	子ども家庭福祉の法体系	子ども家庭福祉の法体系を理解する。
第10回	子ども家庭福祉の実施体制	子ども家庭福祉の実施体制を理解する。
第11回	子ども家庭福祉の財政	子ども家庭福祉の財政状況を理解する。
第12回	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉に関係する専門職について理解する。
第13回	苦情解決と権利擁護	苦情解決と権利擁護システムについて理解する。
第14回	母子家庭	母子家庭の現状について理解する。
第15回	前期まとめ	中間テストを行う

■履修上の注意

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度		担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	障害・難病のある子どもと家庭への支援	障害児・難病児童や家庭に対する支援を理解する。
第17回	児童健全育成	児童の健全育成について理解する。
第18回	保育	保育制度について理解する。
第19回	子育て支援	子育て支援システムについて理解する。
第20回	ひとり親家庭の福祉	ひとり親家庭の現状と支援について理解する。
第21回	児童の社会的擁護サービス	児童に対する社会的擁護サービスについて理解する。
第22回	非行児童・情緒障害児への支援	非行児童・情緒障害児への支援について理解する。
第23回	児童虐待対策1	児童虐待の現状について理解する。
第24回	児童虐待対策2	児童虐待の対策について理解する。
第25回	子どもと家庭に関わる女性福祉	子どもと家庭にかかわる女性への支援について理解する。
第26回	子ども家庭への相談援助活動	子ども家庭への相談援助活動について理解する。
第27回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動	施設ケアについて理解する。
第28回	地域援助活動とネットワーク	地域支援活動について理解する。
第29回	後期のまとめ1	基本用語のミニテスト
第30回	後期のまとめ2	期末テスト

■履修上の注意

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な知識を身に付ける。

■授業の概要

社会科教育の戦前と戦後の教育内容の相違を論証し、教育の目標と地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習内容を模擬授業・研究授業を通じて教授する。また、教育課程、学習指導要領、関係法規などの歴史も併せて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 大学の歴史	社会科教育法の概要を把握する
第2回	教育とは何か	教育の意味を理解する
第3回	社会科の教育実習論①	教育実習の心構えを持つ
第4回	社会科の教育実習論②	教育実習の心構えを持つ
第5回	社会科の模擬授業	授業の展開方法を考える
第6回	日本の社会科教育	日本の社会科教育を理解する
第7回	アメリカの社会科教育	アメリカの社会科教育を理解する
第8回	戦前の社会科教育の歴史①	戦前の社会科教育の歴史を考える
第9回	戦前の社会科教育の歴史②	戦前の社会科教育の歴史を考える
第10回	戦後の社会科教育の歴史①	戦後の社会科教育の歴史を考える
第11回	戦後の社会科教育の歴史②	戦後の社会科教育の歴史を考える
第12回	戦後の社会科教育の歴史③	戦後の社会科教育の歴史を考える
第13回	社会科学学習指導要領の誕生	学習指導要領の誕生を考える
第14回	社会科学学習指導要領の改訂①	学習指導要領の改訂を考える
第15回	社会科学学習指導要領の改訂②	学習指導要領の改訂を考える

■履修上の注意

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立つ場合は、注意をした上で退席を命ずることもある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。(おおむね小論文・試験70%、授業態度30%)

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な知識を身に付ける。

■授業の概要

社会科教育の戦前と戦後の教育内容の相違を論証し、教育の目標と地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習内容を模擬授業・研究授業を通じて教授する。また、教育課程、学習指導要領、関係法規などの歴史も併せて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	文章表現論（小論文の書き方）	社会科関係の論文の書き方
第17回	社会科教育の目標論①	社会科の目標を理解する
第18回	社会科教育の目標論②	社会科の目標を理解する
第19回	教育基本法と学校教育法	教育法規の根拠と背景を考える
第20回	地理科の教科内容①	地理科の教科内容を把握する
第21回	地理科の教科内容②	地理科の教科内容を把握する
第22回	歴史科の教科内容①	歴史科の教科内容を把握する
第23回	歴史科の教科内容②	歴史科の教科内容を把握する
第24回	公民科の教科内容①	公民科の教科内容を把握する
第25回	公民科の教科内容②	公民科の教科内容を把握する
第26回	研究授業論①	研究授業を実施して検討する
第27回	研究授業論②	研究授業を実施して検討する
第28回	研究授業論③	研究授業を実施して検討する
第29回	研究授業論④	研究授業を実施して検討する
第30回	学校教育の現状と課題	学校教育の問題点を考える

■履修上の注意

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立つ場合は、注意をした上で退席を命ずることもある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。（おおむね小論文・試験70%、授業態度30%）

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 中学校社会科学学習指導要領（主に公民的分野）の指導に必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 中学校社会科（主に公民的分野）における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、社会科の「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 社会科（主に公民的分野）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】 (1) 授業の進め方(2) 中学校社会科を思い出そう!(3) アンケート	中学校学習指導要領解説社会編を読む。
第2回	【生徒の学力の課題】 (1) 高校入試問題から(2) 現場教師の意見から(3) アンケート結果	中学校学習指導要領解説社会編を読む。
第3回	【学習指導要領】 (1) 改訂の要点、目標・内容の概観(2) 学習指導要領と教科書の関連	中学校学習指導要領解説社会編を読む。
第4回	【社会科教師の基礎基本①】 (1) 心構え(政治的中立等)(2) 地理的・歴史的分野の基礎知識	解説社会編、地理・歴史領域を読む。
第5回	【社会科教師の基礎基本②】 (1) 資料活用能力(2) ディベート(3) 主権と領土問題	中学校社会科教科書(公民)を読む。
第6回	【社会科教師の基礎基本③】 (1) 公民的分野の重要用語(2) 平成の大合併(3) 日本国憲法	中学校社会科教科書(公民)を読む。
第7回	【授業づくり①】 (1) 「現代社会とわたしたちの生活」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	解説社会編、公民領域を熟読する。
第8回	【授業づくり②】 (1) 「人権と日本国憲法」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	解説社会編、公民領域を熟読する。
第9回	【授業づくり③】 (1) 「人権と共生社会」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	解説社会編、公民領域を熟読する。
第10回	【授業づくり④】 (1) 「現代の民主政治」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	解説社会編、公民領域を熟読する。
第11回	【授業づくり⑤】 (1) 「国の政治のしくみ」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	解説社会編、公民領域を熟読する。
第12回	【授業づくり⑥】 (1) 「地方の政治と自治」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	略案を仕上げる。
第13回	【授業づくり⑦】 (1) 「わたしたちの生活と経済」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	略案を仕上げる。
第14回	【授業づくり⑧】 (1) 「市場経済と金融」の教材研究と略案作成(2) 採用試験対策	略案を仕上げる。
第15回	【定期試験】(1) 前期のまとめ(2) 前期末テスト	前期のまとめと確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

- 1 ①中学校生徒用教科書「新編 新しい社会 公民」東京書籍、694円、②「中学校学習指導要領(社会編)」日本文教出版、175円を使用します。
- 2 上記①・②の他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	社会科教育法Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 中学校社会科学学習指導要領（主に公民的分野）の指導に必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 中学校社会科（主に公民的分野）における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、社会科の「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 社会科（主に公民的分野）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	【授業づくり⑨】 (1)「国際問題と地球市民」の教材研究と略案作成(2)採用試験対策	略案を仕上げる。
第17回	【授業づくり⑩】 (1)「国際社会と世界平和」の教材研究と略案作成(2)採用試験対策	略案を仕上げる。
第18回	【授業づくり⑪】 (1)「調べ学習」の教材研究と略案作成(2)採用試験対策	略案を仕上げる。
第19回	【授業づくり⑫】 (1)「体験学習(裁判の傍聴)」の教材研究と略案作成(2)採用試験対策	略案を仕上げる。
第20回	【学習形態の工夫】 (1)一斉指導(2)個別指導(3)IT(4)グループ学習	各学習形態の長所と短所をまとめる。
第21回	【学習指導案作成】 (1)学習指導案の作成(2)教材教具の作成(3)授業の流し方	各学習形態の長所と短所をまとめる。
第22回	【授業の評価方法】 (1)略案検討(2)授業中の教師・子どもの観察方法(3)授業検討会	授業検討会の進め方をまとめる。
第23回	【授業実践①】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第24回	【授業実践②】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第25回	【授業実践③】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第26回	【授業実践④】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第27回	【授業実践⑤】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第28回	【授業実践⑥】(1)略案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第29回	【目指す社会科教師像】 (1)講義を振り返り目指す社会科教師についての協議(2)まとめ	目指す教師像のレポートを仕上げる。
第30回	【定期試験】(1)1年間のまとめ(2)学年末テスト	学習内容のまとめと確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

- 1 ①中学校生徒用教科書「新編 新しい社会 公民」東京書籍、694円、②「中学校学習指導要領(社会編)」日本文教出版、175円を使用します。
- 2 上記①・②の他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	社会福祉特講Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とします。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。
特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	社会福祉士の受験を目指す、意義・目的を考える。
第2回	人体の構造と機能及び疾病 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第3回	心理学理論と心理的支援 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第4回	社会理論と社会システム (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第5回	福祉行財政と福祉計画 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第6回	保健医療サービス (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第7回	相談援助の基盤と専門職 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第8回	高齢者に対する支援と介護保険制度 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第9回	人体の構造と機能及び疾病 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第10回	心理学理論と心理的支援 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第11回	社会理論と社会システム (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第12回	福祉行財政と福祉計画 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第13回	保健医療サービス (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第14回	相談援助の基盤と専門職 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第15回	まとめ	夏季休暇中の勉強の計画を立てる。

■履修上の注意

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと暗記するように努めること。
確認テストや月例テストを実施する。

■評価方法

試験(70%)、授業中の課題(30%)を総合して評価する。

■教科書

1年次に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とします。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。
特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーション	社会福祉士の受験を目指す、意義・目的を考える。
第17回	高齢者に対する支援と介護保険制度 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第18回	人体の構造と機能及び疾病 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第19回	心理学理論と心理的支援 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第20回	社会理論と社会システム (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第21回	福祉行財政と福祉計画 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第22回	保健医療サービス (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第23回	相談援助の基盤と専門職 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第24回	高齢者に対する支援と介護保険制度 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第25回	人体の構造と機能及び疾病 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第26回	心理学理論と心理的支援 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第27回	社会理論と社会システム (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第28回	福祉行財政と福祉計画 (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第29回	保健医療サービス (グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第30回	まとめ	1年次に行った科目の総復習をする。

■履修上の注意

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと暗記するように努めること。
確認テストや月例テストを実施する。

■評価方法

試験(70%)、授業中の課題(30%)を総合して評価する。

■教科書

1年次に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。
なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	テキストの該当箇所
第2回	人体の構造と機能及び疾病	テキストの該当箇所
第3回	地域福祉の理論と方法	テキストの該当箇所
第4回	心理学理論と心理的支援	テキストの該当箇所
第5回	権利擁護と成年後見制度	テキストの該当箇所
第6回	社会理論と社会システム	テキストの該当箇所
第7回	社会調査の基礎	テキストの該当箇所
第8回	低所得者に対する支援と生活保護制度	テキストの該当箇所
第9回	月例テスト	テキストの該当箇所
第10回	福祉行財政と福祉計画	テキストの該当箇所
第11回	現代社会と福祉	テキストの該当箇所
第12回	月例テスト	テキストの該当箇所
第13回	保健医療サービス	テキストの該当箇所
第14回	相談援助の基盤と専門職	テキストの該当箇所
第15回	前期のまとめのテスト	テキストの該当箇所

■履修上の注意

授業内容に該当する科目のテキスト等を事前に通読しておくことが望ましい。授業で取り上げた内容については、復習し理解できるよう努めること。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」（最新版）

■参考書

社会福祉小六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典

科目名	社会福祉特講Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。
なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	相談援助の理論と方法	テキストの該当箇所
第17回	高齢者に対する支援と介護保険制度	テキストの該当箇所
第18回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	テキストの該当箇所
第19回	月例テスト	テキストの該当箇所
第20回	就労支援サービス	テキストの該当箇所
第21回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	テキストの該当箇所
第22回	社会保障	テキストの該当箇所
第23回	月例テスト	テキストの該当箇所
第24回	更生保護制度	テキストの該当箇所
第25回	福祉サービスの組織と経営	テキストの該当箇所
第26回	月例テスト	テキストの該当箇所
第27回	国家試験重要ポイント 解説 ①	テキストの該当箇所
第28回	国家試験重要ポイント 解説 ②	テキストの該当箇所
第29回	月例テスト	テキストの該当箇所
第30回	まとめ 総括テスト	テキストの該当箇所

■履修上の注意

授業内容に該当する科目のテキスト等を事前に通読しておくことが望ましい。授業で取り上げた内容については、復習し理解できるよう努めること。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」（最新版）

■参考書

社会福祉小六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典

科目名	社会福祉特講Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになれる。
社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	参考書の復習
第2回	問題演習	過去問題の復習
第3回	問題演習	レポート作成
第4回	問題演習	レポート作成
第5回	月例テスト	過去問題の復習
第6回	問題演習	レポート作成
第7回	問題演習	レポート作成
第8回	問題演習	レポート作成
第9回	月例テスト	過去問題の復習
第10回	問題演習	レポート作成
第11回	問題演習	レポート作成
第12回	問題演習	レポート作成
第13回	月例テスト	過去問題の復習
第14回	問題演習	参考書の復習
第15回	月例テスト	過去問題の復習

■履修上の注意

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となる。試験の結果によって課題を課すので、課題を提出する事。
履修条件として社会福祉特講Ⅲの単位を取得している事。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）その他自分にあった参考書

科目名	社会福祉特講Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになれる。社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	問題演習	レポート作成
第17回	月例テスト	過去問題の復習
第18回	問題演習	レポート作成
第19回	問題演習	レポート作成
第20回	月例テスト	過去問題の復習
第21回	問題演習	レポート作成
第22回	問題演習	レポート作成
第23回	問題演習	レポート作成
第24回	月例テスト	過去問題の復習
第25回	問題演習	レポート作成
第26回	問題演習	レポート作成
第27回	問題演習	レポート作成
第28回	月例テスト	過去問題の復習
第29回	問題演習	参考書の復習
第30回	月例テスト	過去問題の復習

■履修上の注意

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となる。試験の結果によって課題を課すので、課題を提出する事。履修条件として社会福祉特講Ⅲの単位を取得している事。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョンバンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）その他自分にあった参考書

科目名	社会保障			担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

日本の社会保障の歴史・理論及び世界の社会保障の歴史・理論を学びながら、新聞報道等で指摘されている社会保障の問題点を理解し、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

社会保障の源流となったイギリスの歴史から始まり、日本と諸外国の社会保障制度の理論や歴史を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストを読んでおく
第2回	現代社会と社会保障	社会保障の理念と機能について調べ理解する。
第3回	欧米における社会保障の歴史的展開	救貧法から社会保障までの流れを理解する。
第4回	日本における社会保障の歴史的展開	近代国家の成立と社会保険の成立過程を理解する。
第5回	社会保障制度の体系	体系、制度仕組みの理解。図示できるようにする。
第6回	社会保険の構造	年金、医療、介護、労働保険を俯瞰する。
第7回	社会扶助の構造	生活保護システムを理解する。
第8回	社会保障給付費の推移	社会保障費用等の経緯を俯瞰する。
第9回	社会保障の財源	財源規模、構成、国地方の役割を理解する。
第10回	年金保険制度の沿革と概要	公的年金制度の概要をつかむ。
第11回	国民年金	国民年金制度を理解する。
第12回	厚生年金保険	厚生年金保険制度を理解する。
第13回	共済年金	共済年金制度を理解する。
第14回	医療保険制度の沿革と概要	医療保険制度の概要を理解する。
第15回	まとめ	前期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

社会保障は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。
第2回以降毎回終了時にミニテストを実施

■評価方法

出席点(受講態度含む)を30%、期末試験を60%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等で注意された者については注意1回について3点減点する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	社会保障			担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

日本の社会保障の歴史・理論及び世界の社会保障の歴史・理論を学びながら、新聞報道等で指摘されている社会保障の問題点を理解し、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

社会保障の源流となったイギリスの歴史から始まり、日本と諸外国の社会保障制度の理論や歴史を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	健康保険と共済制度	被雇用者保険制度の概要を理解する。
第17回	国民健康保険制度	国民健康保険制度について理解する。
第18回	後期高齢者医療制度	後期高齢者医療制度について理解する。
第19回	国民医療費をめぐる最近の動向	国民医療費の問題点について理解する。
第20回	介護保険制度1	介護保険制度の創設経緯について理解する。
第21回	介護保険制度2	介護保険制度の問題点について理解する。
第22回	労働保険制度	労働保険制度について理解する。
第23回	社会福祉制度、生活保護制度	生活保護制度について理解する。
第24回	児童福祉、障害者福祉、母子・寡婦福祉	児童福祉、障害者福祉、母子・寡婦福祉について理解する。
第25回	高齢者福祉、手当制度	高齢者福祉、手当制度について理解する。
第26回	少子高齢化、労働市場の変化と社会保障	少子高齢化問題について理解する。
第27回	欧州の社会保障制度	欧州主要国の社会保障制度について理解する。
第28回	アメリカの社会保障制度	アメリカの社会保障制度について理解する。
第29回	東アジアの社会保障制度	東アジアの社会保障制度について理解する。
第30回	まとめ	後期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

社会保障は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。
第2回以降毎回終了時にミニテストを実施

■評価方法

出席点(受講態度含む)を30%、期末試験を60%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等で注意された者については注意1回について3点減点する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	障害者教育総論		担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

・障害者が置かれてきた歴史や現状、今後のあり方について、ノーマライゼーションや特別支援教育と関連付けながら学び理解する。
 ・各種障害者の理解や支援を学び、社会のあり方にかかわっていく諸課題を身近な問題として明確にとらえる。障害者と教育、障害者と社会などのかかわりを学ぶことを通して、特別支援教育や高等学校の「福祉」の教師を目指すための基礎能力をつけることができる。

■授業の概要

障害者の歴史、ノーマライゼーション、福祉とのかかわり、各種障害者への理解や支援を学ぶ。事前に課題を提示し、自ら、調べて発表する、KJ法などを使いグループワークを行う、キーワードを調べ組み合わせて小論文に仕上げるなどを行う。小テストも行う。基本的には講義の予習、復習のためレジュメを配布する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習する、資料を学習する
第2回	障害者の歴史	教科書を学習する、資料を学習する
第3回	ノーマライゼーション等の展開と特別支援教育	教科書を学習する、資料を学習する
第4回	障害者福祉サービス	教科書を学習する、資料を学習する
第5回	障害者理解・支援の基本的な考え方	教科書を学習する、資料を学習する
第6回	視覚障害者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第7回	聴覚障害者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第8回	知的障害者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第9回	肢体不自由者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第10回	病弱者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第11回	重度・重複障害者への理解と支援	教科書を学習する、資料を学習する
第12回	発達障害者への支援と理解	教科書を学習する、資料を学習する
第13回	キャリア教育と進路指導	教科書を学習する、資料を学習する
第14回	社会福祉援助技術	教科書を学習する、資料を学習する
第15回	まとめ	教科書を学習する、資料を学習する

■履修上の注意

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。必要に応じて、ミニレポートを課する。講義の中に出でくる重要なキーワードについて調べたり発表したりする。小テストを課する。

■評価方法

出席(20%)、テスト(70%)、小テスト等(10%)及び受講態度など総合的に評価する。

■教科書

大南、宮崎、木船「特別支援教育総論」(財)放送大学教育振興会

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	障害児教育総論		担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

・各種の障害のある児童生徒の理解を通して特別支援教育の仕組みやノーマライゼーションについて学ぶ。
 ・特別支援教育になった今、各種特別支援学校や特別支援学級、普通学校でどのように障害のある児童生徒の教育がなされているかを学ぶ。
 障害児と特別支援教育とのかかわりを学ぶことを通して、特別支援教育や高等学校の「福祉」の教師を目指すための基礎能力をつけることができる。

■授業の概要

特別支援教育、ノーマライゼーション、各種障害児への理解や支援を学ぶ。事前に課題を提示し、自ら、調べて発表する、キーワードを調べ組み合わせる小論文に仕上げるなども行う。小テストも行う。基本的には講義の予習、復習のためレジュメを配布する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーション	教科書を学習する、資料を学習する
第17回	特別支援教育の現状	教科書を学習する、資料を学習する
第18回	特別支援教育の仕組み	教科書を学習する、資料を学習する
第19回	視覚障害児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第20回	聴覚障害児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第21回	知的障害児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第22回	肢体不自由児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第23回	病弱児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第24回	重度・重複障害児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第25回	自閉症児の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第26回	LD、ADHD、高機能自閉症児等の理解	教科書を学習する、資料を学習する
第27回	特別支援学級、小・中学校における特別支援教育	教科書を学習する、資料を学習する
第28回	特別支援学校の小・中学部の教育	教科書を学習する、資料を学習する
第29回	特別支援学校の高等部の教育	教科書を学習する、資料を学習する
第30回	まとめ	教科書を学習する、資料を学習する

■履修上の注意

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。必要に応じて、ミニレポートを課する。講義の中に出でくる重要なキーワードについて調べたり発表したりする。小テストを課する。

■評価方法

出席（20%）、テスト（70%）、小テスト等（10%）及び受講態度など総合的に評価する。

■教科書

大南、緒方、吉田「特別支援教育基礎論」（財）放送大学教育振興会

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	小学校教科教育法 (音楽)		担当教員 (単位認定者)	今井 浩三	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校指導要領に提示された音楽科学習に関する指導事項を把握し、かつ音楽科学習の基礎的・実践的な指導方法の理解と教授方法技術を習得する。

■授業の概要

- 1、小学校における音楽科の授業づくりについて学び、音楽科教師としての基礎的な心構えや、指導技能について学ぶ。
- 2、学習指導要領等によって、小学校音楽科の全体像を捉え、「歌う、奏する、創る、聴く」の各領域について学習上の諸問題について検討し、具体的な教材研究を通して授業構想づくりを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	前期学習内容の理解
第2回	学習指導要領音楽の目的及び全体像	指導要領音楽の目的、全体像理解
第3回	1, 2年の指導内容「表現」「鑑賞」「共通事項」について	1,2年指導内容の理解
第4回	3, 4年の指導内容「表現」「鑑賞」「共通事項」について	3,4年指導内容の理解
第5回	5, 6年の指導内容「表現」「鑑賞」「共通事項」について	5,6年指導内容の理解
第6回	学習指導案の作成について演習① グループ学習	指導案の組み立て方
第7回	学習指導案の作成について演習② グループ学習	本時の授業の組み立てと書き方
第8回	授業の展開と板書、発問、指示について	授業展開の技術の習得
第9回	歌唱の指導方法について 低学年	正しい姿勢と声の出し方
第10回	歌唱の指導方法について 中学年	正しい姿勢、発声、言葉の発音
第11回	歌唱の指導方法について 高学年	正しい姿勢、発声、変声期、詩と発音
第12回	鑑賞教材の指導法について低学年	低学年の選曲と感性の育成
第13回	鑑賞教材の指導法について中学年	選曲と曲の仕組み
第14回	鑑賞教材の指導法について高学年	選曲と曲の構成
第15回	前期学習のまとめ	各学年の特色と指導法の理解

■履修上の注意

小学校教育は子どもたちにとって、人間形成の基礎を創る重要な時である。特に基礎的知識、技能に加えて、他を思いやる心、美しいものに感動する感性、ものを作り上げる達成感や意欲等を引き出す教師の高い能力が要求される。このような要求にこたえられる教師としての能力や技能を身に付ける心構えを持って授業に取り組んでもらいたい。

■評価方法

定期試験 単元ごとの確認テスト、実技テスト、レポート、(70%) 出席状況、授業への取り組み(30%) を総合して評価する。

■教科書

- 1、小学校学習指導要領解説(音楽編) 文部科学省
- 2、初等科音楽教育法 初等科音楽教育研究会編 音楽の友社

■参考書

授業中において適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法 (音楽)		担当教員 (単位認定者)	今井 浩三	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校指導要領に提示された音楽科学習に関する指導事項を把握し、かつ音楽科学習の基礎的・実践的な指導方法の理解と教授方法技術を習得する。

■授業の概要

- 1、小学校における音楽科の授業づくりについて学び、音楽科教師としての基礎的な心構えや、指導技能について学ぶ。
- 2、学習指導要領等によって、小学校音楽科の全体像を捉え、「歌う、奏する、創る、聴く」の各領域について学習上の諸問題について検討し、具体的な教材研究を通して授業構想づくりを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	音楽的表現方法 歌唱法①歌詞の理解と発音 グループ	歌詞の内容理解と表現方法
第17回	音楽的表現方法 歌唱法②曲の分析と表現 グループ	曲の分析と歌唱表現
第18回	音楽的表現方法 合唱とハーモニー① グループ	パートの役割とハーモニー
第19回	音楽的表現方法 合唱とハーモニーとダイナミック グループ	合唱から生まれるダイナミック
第20回	指揮法の理論と演習 (合唱の指揮法)	指揮の基本
第21回	指揮の振り方と表現 (合唱の指揮法)	曲の表情の付け方
第22回	器楽合奏と楽器の奏法 (ソプラノリコーダー)	リコーダーの機能と合奏
第23回	器楽合奏の方法 チューニングとアーテュレーション	他のパートを聞き分け合わせる
第24回	ソプラノリコーダー合奏と指揮法 グループ	合奏と指揮法の演習 パート練習
第25回	音楽理論 音の特性 性質 倍音	音の持つ特性について
第26回	音楽理論 音符 休符 音程 について	音符、休符の種類 音程の理論
第27回	音楽理論 和音構成 主要三和音と属七の和音	和音の特色について
第28回	日本の伝統音楽について 雅楽、箏、三味線、尺八、琵琶	日本の伝統音楽について理解する
第29回	箏と日本の伝統音楽 特別授業	実演と演習
第30回	世界の国々の音楽の特色	世界の音楽について理解する

■履修上の注意

小学校教育は子どもたちにとって、人間形成の基礎を創る重要な時である。特に基礎的知識、技能に加えて、他を思いやる心、美しいものに感動する感性、ものを作り上げる達成感や意欲等を引き出す教師の高い能力が要求される。このような要求にこたえられる教師としての能力や技能を身に付ける心構えを持って授業に取り組んでもらいたい。

■評価方法

定期試験 単元ごとの確認テスト、実技テスト、レポート、(70%) 出席状況、授業への取り組み(30%) を総合して評価する。

■教科書

- 1、小学校学習指導要領解説(音楽編) 文部科学省
- 2、初等科音楽教育法 初等科音楽教育研究会編 音楽の友社

■参考書

授業中において適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法 (家庭)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童が、衣食住などに関する基礎的・基本的知識及び技能を「楽しく」身につけられるよう工夫できること。また、各児童が身につけた知識・技能を発揮して、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができること。

■授業の概要

「家庭科」は実践的な学習を通して、問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から前期には、ワークシートに基づき実験や実習を行って知識を確かなものとする。そして後期には、教材研究を行い、アイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 家庭科教育の意義 ・家庭科の歴史 ・家庭科教育と他領域の関係 ・家庭科教育の性格 ・今日の児童と家庭科教育	小学校5・6年生の生活について理解する。
第2回	家庭科教育の目標 ・家庭・地域社会との関連	「家庭科概論」で学んだことがどのように役立っているかを考える。
第3回	家庭生活と家族 家族の生活と役割知らべ	自分と自分の家族について深く考える。
第4回	家庭生活と家族 ライフコースの作成	人生におけるライフステージ・ライフイベントについて考えるために、身近な人に聞き取り調査を行う。
第5回	衣服への関心 衣服の形態・素材の観察	衣服を装うためのTPOと各種素材について調べる。
第6回	衣服への関心 洗濯に関する実験	洗濯を実践しながら、問題点を把握する。
第7回	生活に役立つものの製作① 被服実習	裁縫の基礎を活用した製作品には何があるか調べる。
第8回	生活に役立つものの製作② 被服実習	他者の製作品を参考にし、材料・方法などを記録する。
第9回	食事への関心 献立作り	朝・昼・晩・間食について記録する。
第10回	簡単な調理 調理実習(計画)	調理の基礎技能を用いた料理を調べる。
第11回	簡単な調理 調理実習	食材購入・手順・後片付け。会食の雰囲気などを考える。
第12回	住まいへの関心 汚れ調べと清掃に関する実験	実験が家庭生活に活用できる場所を学内で探す。
第13回	住まいへの関心 明るさ・風通し・暖かさ(涼しさ)に関する実験・実践	実験が家庭生活に活用できる場所を学内で探す。
第14回	物や金銭の使い方と買い物 賢い消費者になるための工夫	自分の消費生活を見直す(金銭納納の記録)。
第15回	家庭生活の工夫 様々なタイプの家族と団らんの工夫	児童の家庭での生活の様子について情報交換を行う。

■履修上の注意

「家庭科概論」で学んだ内容を基礎として進めていくため、日常生活に関する科学的知識をきちんと身に付けておくこと。ワークシート・実験レポート・作品の提出が頻繁にあるので、提出期限を厳守すること。

■評価方法

提出物(50%)、授業への参加態度(50%)を総合して評価する。
提出期限を過ぎて出された提出物は、一切評価の対象とはならない。

■教科書

『小学校学習指導要領解説家庭編』

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (家庭)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童が、衣食住などに関する基礎的・基本的知識及び技能を「楽しく」身につけられるよう工夫できること。また、各児童が身につけた知識・技能を発揮して、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができること。

■授業の概要

「家庭科」は実践的な学習を通して、問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から前期には、ワークシートに基づき実験や実習を行って知識を確かなものとする。そして後期には、教材研究を行い、アイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	家庭科教育の特性をふまえた学習指導(1) 指導の形態 (・一斉学習 ・小集団学習 ・個別学習)	教育実習時に経験した各場面の学習形態を思い出し、有効性を理解する。
第17回	家庭科教育の特性をふまえた学習指導(2) 学習指導の方法と効果的な領域(講義法、示教・示範法、視聴覚的方法、観察・見学法、実験法、実習法、劇化法、討議法、問題解決法、構案法 など)	各学習指導の方法と効果的な領域について具体的に考える。
第18回	家庭科教育の学習指導計画(1) ・種類と形式 ・年間指導計画	対象学年を捉え、それに適した学習の種類・形式を選ぶことを理解する。
第19回	家庭科教育の学習指導計画(2) ・題材指導計画案 ・時案	時間配分等を意識しながら、実践学習の指導案を考える。
第20回	家庭科教育の評価 ・目的と対象 ・手順 など	自己評価・相互評価の意義について考える。
第21回	実践的研究(1) 衣服についての実践的・体験的学習の指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第22回	実践的研究(2) 被服製作の基礎的スキルを楽しく身につけることができる学習の指導例を考え、実施する	指導案(素案)を考える。
第23回	実践的研究(3) 調理に関する2年間を見通しての学習計画を立案する	指導案(素案)を考える。
第24回	実践的研究(4) 調理の基礎的スキルを体験を通して身につけるための学習指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第25回	実践的研究(5) 住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うことができる指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第26回	実践的研究(6) 環境に配慮した生活の工夫について、体験的実践学習の指導例を考える	指導案(素案)を考える。
第27回	実践的研究(7) 「家庭生活と家族」の内容と「日常の食事と調理の基礎」の内容を関連づけた指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第28回	実践的研究(8) 被服等の製作と「家庭生活と家族」の内容を関連づけた指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第29回	実践的研究(9) 身近な消費生活と環境について、課題意識を持たせるための指導例を考え実施する	指導案(素案)を考える。
第30回	1年間のまとめとして、衣・食・住・経済の内容を盛り込んだお別れ会(パーティー)を企画し実施する	家庭生活をトータルに考え、創意のある会食のあり方を考案する。

■履修上の注意

「家庭科概論」で学んだ内容を基礎として進めていくため、日常生活に関する科学的知識をきちんと身に付けておくこと。ワークシート・実験レポート・作品の提出が頻繁にあるので、提出期限を厳守すること。

■評価方法

提出物(50%)、授業への参加態度(50%)を総合して評価する。
提出期限を過ぎて出された提出物は、一切評価の対象とはならない。

■教科書

『小学校学習指導要領解説家庭編』

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (国語)		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 学習指導要領に示された小学校国語科の指導に必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 小学校国語科における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、国語科の「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】(1) 授業の進め方、(2) 国語科教育の意義、(3) アンケート	小学校学習指導要領解説国語編を読む。
第2回	【児童の学力の課題】(1) PISA調査や全国学力テストから、(2) 現場教師の意見から	小学校学習指導要領解説国語編を読む。
第3回	【学習指導要領】(1) 国語科目標・内容の概観、(2) 学習指導要領と教科書の関連	児童用教科書の単元題材を読む。
第4回	【国語科教師の基礎基本①】(1) 心構え、(2) 平仮名・片仮名、ローマ字、配当漢字の知識	平仮名、片仮名ローマ字、配当漢字を正しく書けるようにする。
第5回	【国語科教師の基礎基本②】(1) 朗読、(2) 筆順、(3) 敬語、(4) 原稿用紙の使い方、(5) 古典	児童用教科書の単元題材を朗読する。
第6回	【国語科教師の基礎基本③】(1) 書写(硬筆と毛筆)の実習	書写教科書の硬筆・毛筆の練習をする。
第7回	【授業づくり①】(1) 「読むこと(説明文1・2年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、1・2年)を読む。
第8回	【授業づくり②】(1) 「読むこと(説明文3・4年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、3・4年)を読む。
第9回	【授業づくり③】(1) 「読むこと(説明文5・6年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、5・6年)を読む。
第10回	【授業づくり④】(1) 「書くこと(作文1・2年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(書くこと、1・2年)を読む。
第11回	【授業づくり⑤】(1) 「書くこと(作文3・4年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(書くこと、3・4年)を読む。
第12回	【授業づくり⑥】(1) 「書くこと(作文5・6年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(書くこと、5・6年)を読む。
第13回	【授業づくり⑦】(1) 「話すこと・聞くこと(1・2年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(話すこと・聞くこと、1・2年)を読む。
第14回	【授業づくり⑧】(1) 「話すこと・聞くこと(3・4年)」の教材研究と略案づくり、(2) 授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(話すこと・聞くこと、3・4年)を読む。
第15回	【定期試験】(1) 前期のまとめ、(2) 前期末テスト	前期のまとめと確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず届け出ること。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

- 1 小学校児童用教科書「ひろがる言葉 小学2年上、3年上、4年上、5年上(教育出版)」の4冊を使用します。
- 2 上記の他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(国語編)〈文部科学省〉平成20年8月 東洋館出版社 122円(税込)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	小学校教科教育法 (国語)		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 学習指導要領に示された小学校国語科の指導に必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 小学校国語科における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、国語科の「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	【授業づくり⑨】(1)「話すこと・聞くこと(5・6年)」の教材研究と略案作成、(2)授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(話すこと・聞くこと、5・6年)を読む。
第17回	【授業づくり⑩】(1)「読むこと(物語文1・2年)」の教材研究と略案作成、(2)授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、1・2年)を読む。
第18回	【授業づくり⑪】(1)「読むこと(物語文3・4年)」の教材研究と略案作成、(2)授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、3・4年)を読む。
第19回	【授業づくり⑫】(1)「読むこと(物語文5・6年)」の教材研究と略案作成、(2)授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(話すこと・聞くこと、5・6年)を読む。
第20回	【授業づくり⑬】(1)「読むこと(詩)」の教材研究と略案作成、(2)授業づくり	小学校学習指導要領解説国語編(読むこと、詩)を読む。
第21回	【学習形態の工夫】(1)一斉指導、(2)個別学習、(3)IT、(4)グループ学習	各学習形態の長所と短所をまとめる。
第22回	【授業の評価方法】(1)略案検討、(2)授業中の教師・子どもの観察方法、(3)授業検討会	授業検討会の進め方を整理する。
第23回	【授業実践①】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第24回	【授業実践②】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第25回	【授業実践③】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第26回	【授業実践④】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第27回	【授業実践⑤】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第28回	【授業実践⑥】(1)略案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業の省察をする。
第29回	【読書指導】(1)図書館の活用、(2)読書の質的・量的向上を目指して、(3)感想文の指導	読書に関する教科書教材を読む。
第30回	【定期試験】(1)1年間のまとめ、(2)学年末テスト	学習内容のまとめを確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず届け出ること。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

- 1 小学校児童用教科書「ひろがる言葉 小学2年上、3年上、4年上、5年上(教育出版)」の4冊を使用します。
- 2 上記の他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(国語編)〈文部科学省〉平成20年8月 東洋館出版社 122円(税込)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	小学校教科教育法 (算数)		担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつける。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容及び指導法について基本的な理解を深める。さらに、教科書教材に即した授業方法を模擬授業等を通して究明するとともに、数学の問題演習も並行して実施し、数学問題の解決能力も高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	※第1・2学年の「数と計算」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第2回	※第3・4学年の「数と計算」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第3回	※第5・6学年の「数と計算」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第4回	※第1・2学年の「量と測定」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第5回	※第3・4学年の「量と測定」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第6回	※第5・6学年の「量と測定」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第7回	※第1・2学年の「図形」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第8回	※第3・4学年の「図形」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第9回	※第5・6学年の「図形」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第10回	※第1・2学年の「数量関係」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第11回	※第3・4学年の「数量関係」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第12回	※第5・6学年の「数量関係」	説明する分担領域の事前学習と、講義中に課題された課題の解決
第13回	算数ビデオ教材による授業分析	ビデオ視聴・分析用のレポート用紙の準備
第14回	算数学習指導案の構成要素	ビデオ教材の算数学習指導案の研究
第15回	まとめ	授業記録ノートと、課題解決レポート用紙の提出

■履修上の注意

私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。模擬授業の実施に当たっては、事前に指導案を作成するとともに、授業に必要なフラッシュカードや児童用ワークシート等の準備しておくこと。

■評価方法

毎時間のノートを含むレポート(50%)、出席数、授業への参加態度(30%)、数学演習(20%)
 ※毎時間のノート用紙は、課題等も含めてその都度配布します。
 ◎授業への参加態度は、欠席、遅刻、私語、居眠りなどが減点の対象になります。

■教科書

- ①小学校学習指導要領解説 算数編(文部科学省)
- ②楽しく学べる小学校算数 明治図書(数学概論履修者は購入済み)

■参考書

- ①小学校算数教科書(東京書籍、学校図書)
 - ②群馬県教員採用模擬試験問題(星野出題)
- ※上記は、いずれも講師手持ち資料

科目名	小学校教科教育法 (算数)		担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつける。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容及び指導法について基本的な理解を深める。さらに、教科書教材に即したし授業方法を模擬授業等を通して究明するとともに、数学の問題演習も並行して実施し、数学問題の解決能力も高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	※・加法・減法の相互関係	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第17回	※・わり算の計算方法	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第18回	※・長さ、かさ、重さ	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第19回	※・二等辺三角形、正三角形	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第20回	※・式のはたらき	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第21回	※・およその大きさ	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第22回	※・複合図形の求積	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第23回	※・図形の意味と数学的な思考力・表現力	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第24回	※・三角形の内角の和と機能的な考え	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第25回	※・比例	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第26回	※・縮図・拡大図の見方	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第27回	※・三角柱の体積	分担する模擬授業の指導案作成、授業に必要な教材・教具の準備、模擬授業の実施、授業記録の整理
第28回	模擬授業に活用した指導案の反省	模擬授業の指導案の反省と整理
第29回	模擬授業に活用した指導案の整理	模擬授業の指導案の反省と整理
第30回	模擬授業に活用した指導案の提出	第16回～第30回の授業記録の整理とレポートを提出

■履修上の注意

私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。模擬授業の実施に当たっては、事前に指導案を作成するとともに、授業に必要なフラッシュカードや児童用ワークシート等の準備もしておくこと。

■評価方法

毎時間のノート及び指導案(50%)、出席数、授業への参加態度(30%)、模擬授業(20%)

※毎時間のノート用紙は、課題等も含めてその都度配布します。

◎授業への参加態度は、欠席、遅刻、私語、居眠りなどが減点の対象になります。

■教科書

①小学校学習指導要領解説 算数編(文部科学省)

②楽しく学べる小学校算数 明治図書(数学概論履修者は購入済み)

■参考書

①小学校算数教科書(東京書籍、学校図書)

②群馬県教員採用模擬試験問題(星野出題)

※上記は、いずれも講師手持ち資料

科目名	小学校教科教育法 (社会)		担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・小学校社会科教育(主として3・4学年)の目標・内容、指導方法、評価の在り方等について、具体的に理解を深める。
- ・地域素材の教材化について現地視察を伴って研究し、学習意欲の高め方等についての実践的な力を育成する。

■授業の概要

- ・学習指導要領の目標・内容について理解を深め、小学校社会科学習の実際を学習指導案からイメージできるようにする。
- ・主として小学校3・4学年の社会科学習に欠かせない地域素材の教材化について、現地研修を通してその手法を具体的に理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	小学校社会科教育法の前・後期の内容等について概観する
第2回	3・4学年の目標・内容のポイントや特色 について	学習指導要領をもとに3・4学年の学習内容の特色等を理解する
第3回	地域素材の教材化の必要性について	地域素材を教材化する意義・必要性について理解する
第4回	地域教材の具体例(4学年:天狗岩用水を開く)について	4年教材「きょう土を開くー天狗岩用水ー」の資料について研究する
第5回	前橋市総社地域に残る天狗岩用水に関する資料の研究	現地視察を前提とした地域素材(用水を中心)について研究する
第6回	総社地域の古墳資料の研究・現地視察研修の計画立案	事前学習と観察のポイント、順路の確認等を行う
第7回	教育実習を通して得られた成果・疑問点などについて	実習で行った指導について反省点や課題について話し合いまとめる
第8回	現地視察研修(1日 7.5時間の集団行動) 前橋市総社方面(古墳・天狗岩用水関係)・他 (※教育実習期間の講義時間4時限を含む) ◎各自課題レポートは、夏期休業後提出	総社地域に残る天狗岩用水、用水の分水地点、力田遺愛碑、総社領主秋元家の墓<以上4学年教材>、宝塔山・蛇穴山古墳<以上6学年教材>、及び群馬県立歴史博物館(見学のまとめ)における研修を実施し、地域素材の教材化の方法を理解する
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回	現地視察研修のまとめ	見学した地域素材(用水開さく・古墳等の遺跡)についてまとめる
第14回	単元「きょう土を開くー天狗岩用水ー」の展開と見学学習	単元「きょう土を開くー天狗岩用水ー」の見学学習の位置づけを学ぶ
第15回	3・4学年における社会科資料の活用について	3・4学年における資料の活用を具体的な事例を通して理解する

■履修上の注意

- ・小学校学習指導要領解説(社会編)を必ず用意し、常にそれに基づいて考えるようにする。
- ・現地視察研修には主体的に臨み、事後のまとめや各自の課題に対しても積極的に取り組むこと。

■評価方法

- ・レポート、指導案の作成結果及び提案授業を主とし(70%)、出席状況・受講態度等日常の履修状況を加味(30%)して、後期に評価する。

■教科書

文部科学省(著)「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版 2008年8月

■参考書

大澤克美(著)「『確かな学力』を育む小学校社会科の授業づくり」東洋館出版 2008年

科目名	小学校教科教育法 (社会)		担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・小学校社会科教育（主として3・4学年）の目標・内容、指導方法、評価の在り方等について、具体的に理解を深める。
- ・5・6学年の教材の中の題材をもとに、資料から社会的な意味を読み取る力を付ける指導方法を考え、提案することができる。

■授業の概要

- ・学習指導要領の目標・内容について理解を深め、小学校社会科学習の実際を学習指導案からイメージできるようにする。
- ・各自5・6学年の教材の中から題材を選択し、資料活用に焦点を当て自らの考えを指導案に表し提案授業を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	5学年の目標・内容のポイントや特色 について	学習指導要領をもとに5学年の学習内容の特色等を理解する
第17回	6学年の目標・内容のポイントや特色 について	学習指導要領をもとに6学年の学習内容の特色等を理解する
第18回	子どもの見る目を育てる(資料の読み取りの事例から)	合戦絵巻等の資料の読み取りを通して、ポイントを考える
第19回	体験活動、資料館・地図帳・コンピュータ等の活用	資料館・地図帳・コンピュータ等の具体的な活用方法を考える
第20回	提案授業の内容の選択と方法、教材研究	提案授業について、各自授業の学年・内容等を検討する
第21回	提案授業の内容の選択と方法、教材研究	提案授業について、各自授業の学年・内容等を検討する
第22回	教材研究と社会科学習指導案の作成	各自選定した単元(題材)について教材研究し、指導案を作成する
第23回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第24回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第25回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第26回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第27回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第28回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第29回	提案授業を通した指導方法の検討	教師役の学生が提案授業をし、全員で研究協議を行う
第30回	提案授業を終えた感想及び1年間のまとめ	提案授業及び1年間を通して考えたことを話し合う

■履修上の注意

- ・小学校学習指導要領解説(社会編)を必ず用意し、常にそれに基づいて考えるようにする。
- ・現地視察研修には主体的に臨み、事後のまとめや各自の課題に対しても積極的に取り組むこと。

■評価方法

- ・レポート、指導案の作成結果及び提案授業を主とし(70%)、出席状況・受講態度等日常の履修状況を加味(30%)して、後期に1年度間を通しての評価を行う。

■教科書

文部科学省(著)「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版 2008年8月

■参考書

大澤克美(著)「『確かな学力』を育む小学校社会科の授業づくり」東洋館出版 2008年

科目名	小学校教科教育法 (図画工作)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校の図画工作を指導する上で必要な造形的な基礎理論と技能を制作や模擬授業体験を通して習得する。この講義を通して、学生自身の感性や造形表現能力を高めるとともに、子どもへの創造的な造形指導能力を高め、激動する教育現場に対応できるように、教材開発の力、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。

■授業の概要

「小学校学習指導要領(図画工作)」に示されている趣旨を基盤に、造形教育基礎理論、指導要領概要、指導の実践(造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞)、教育評価の考え方と方法等を習得する。また、実技制作として鉛筆デッサン、水彩画の技法、ペーパークラフトに取り組む。模擬授業体験から指導の方法について実際的な知見をうる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	資料を読む(復)
第2回	造形教育の理念と構造	資料を読む(復)
第3回	図画工作科教育の役割と課題、子どもの発達と造形活動	資料を読む(復)
第4回	デッサンの基礎練習 (立方体、円柱)	作品の完成(復)
第5回	デッサンの基礎練習 (手指)	作品の完成(復)
第6回	指導要領の概要 (図画工作科の目標及び内容)	「指導要領解説」を読む(復)
第7回	指導要領の概要 (指導計画の作成と内容の取扱い)	「指導要領解説」を読む(復)
第8回	授業の組み立てと学習指導案	「図画工作科の指導」を読む(復)
第9回	教育評価の考え方と方法	「図画工作科の指導」を読む(復)
第10回	「造形遊び」の指導	「図画工作科の指導」を読む(復)
第11回	「造形遊び」の指導 (指導案の作成)	指導案の作成(復)
第12回	「造形遊び」の指導 (指導案の作成)	指導案の作成(復)
第13回	「造形遊び」の指導 (模擬授業)	模擬授業の反省をまとめる(予)
第14回	「造形遊び」の指導 (授業検討)	授業検討のまとめ(復)
第15回	「絵に表す」の指導	資料を読む(復)

■履修上の注意

絵具セット、4B・2Bの鉛筆、はさみ等を持参すること。

■評価方法

課題造形作品及びレポート、試験、出席状況・授業への参加態度等を総合して評価する。
(おおむねレポート・試験70%、授業態度30%)

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編著 日本文教出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (図画工作)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義 ・ (演習) ・ 実習	必修 ・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校の図画工作を指導する上で必要な造形的な基礎理論と技能を制作や模擬授業実践を通して習得する。この講義を通して、学生自身の感性や造形表現能力を高めるとともに、子どもへの創造的な造形指導能力を高め、激動する教育現場に対応できるように、教材開発の力、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。

■授業の概要

「小学校学習指導要領(図画工作)」に示されている趣旨を基盤に、造形教育基礎理論、指導要領概要、指導の実践(造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞)、教育評価の考え方と方法等を習得する。また、実技制作として鉛筆デッサン、水彩画の技法、ペーパークラフトに取り組む。模擬授業体験から指導の方法について実際的な知見をうる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	「工作に表す」指導の展開 (ポップアップカードの制作)	ポップアップカードの作成(復)
第17回	「工作に表す」指導の展開 (指導案作成)	指導案の作成(復)
第18回	「工作に表す」指導の展開 (指導案作成)	指導案の作成(復)
第19回	「工作に表す」指導の展開 (模擬授業)	授業の反省のまとめ(予)
第20回	「工作に表す」指導の展開 (授業検討)	授業の反省のまとめ(復)
第21回	「立体に表す」指導の展開	資料を読む(復)
第22回	「鑑賞」の指導	資料を読む(復)
第23回	「水彩画」の指導方法	資料を読む(復)
第24回	水彩画の制作	〃
第25回	水彩画の制作	〃
第26回	水彩画の制作	水彩画の完成(復)
第27回	児童画の見方・育て方	資料のまとめ(復)
第28回	児童画の見方・育て方	資料のまとめ(復)
第29回	図画工作科教育の歴史	「図画工作の指導」を読む(復)
第30回	図画工作科と教師の役割資料を読む(復) 資料を読む(復)	1年間の資料や作品の整理(復)

■履修上の注意

絵具セット、4B・2Bの鉛筆、はさみ等を持参すること。

■評価方法

課題造形作品及びレポート、試験、出席状況・授業への参加態度等を総合して評価する。
(おおむねレポート・試験70%、授業態度30%)

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編著 日本文教出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (生活)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童（小学校1・2年生）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができること。

■授業の概要

生活科は児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会との関わりについて学ぶものであるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、「生活科概論」で制作した『生活科ずかん』も用い、ワークシートに基づき実践体験を行いながら対象領域を習熟する。また課題研究においては、実践した事柄をもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員として細部にまで注意を払うことができる能力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 生活科の目標 学年の目標 生活科の内容	小学校1・2年生について理解する。
第2回	実践研究 春の景色	四季の変化が顕著にわかる場所を探し、記録する。
第3回	実践研究 植物の栽培と観察（開始）	植物栽培に必要なものを準備する。
第4回	実践研究 春を探そう（植物）	春の植物について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。
第5回	実践研究 春を探そう（生き物）	春の生き物について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。
第6回	製作 不要になったものを用いて、遊ぶものを作ろう	生活の中で不要になったものを準備する。
第7回	製作 不要になったものを用いての製作（遊ぶもの・生活に役立つものなど）	子どもが簡単に作れるものは何かを調べる。
第8回	実践研究 生き物の採集と飼育・観察（開始）	学校周辺に生息している生き物について調べる。
第9回	実践研究 植物の栽培と観察	植物の成長の記録を行う際に必要な道具を準備する。
第10回	実践研究 夏の景色	夏の景色と春の景色の違いを理解し、『生活科ずかん』に補充する。
第11回	実践研究 夏を探そう（植物）	夏の植物について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。
第12回	実践研究 夏を探そう（生き物）	夏の生き物について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。
第13回	地域マップの作成 自然・店舗・公共施設・地域の行事・バリアフリー など	学校周辺の地域についてどんなものがあるか調べる。
第14回	地域マップの作成 自然・店舗・公共施設・地域の行事・バリアフリー など	学校周辺の地域についてどんなものがあるか調べる。
第15回	実践研究 家族の生活について考える	子どもに「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える。

■履修上の注意

積極的に実践したり調べたりすること。
「生活科概論」で制作した『生活科ずかん』の内容を充填するとともに充実させ、現場で使えるものとする。

■評価方法

提出物（50%）、授業への参加度（50%）を総合して評価する。
提出期限を過ぎて出された提出物は、一切評価の対象とはならない。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (生活)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童(小学校1・2年生)が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができること。

■授業の概要

生活科は児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会との関わりについて学ぶものであるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかなければならない。そこで実践研究においては、「生活科概論」で制作した『生活科ずかん』も用い、ワークシートに基づき実践体験を行いながら対象領域を習熟する。また課題研究においては、実践した事柄をもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員として細部にまで注意を払うことができる能力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	実践研究 植物の栽培と観察のまとめ	栽培した植物の活用方法について考える。
第17回	実践研究 バスに乗ってぐんまの森に行こう 秋の景色・秋を探そう (集中授業)	公共交通機関を調べ、利用マナーについて考える。 秋の植物・生き物・景色について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。 集団行動の意義と注意点について考える。
第18回		
第19回		
第20回		
第21回	実践研究 秋の植物や実を使っての製作(遊ぶもの・生活に役立つもの・プレゼントなど)	秋の植物で作れるものを考える。
第22回	実践研究 冬の景色	冬の景色と秋の景色の違いを理解し、『生活科ずかん』に補充する。
第23回	実践研究 冬の植物と生き物	冬の植物・生き物について調べた内容を『生活科ずかん』に補充する。
第24回	実践研究 冬の暮らし	冬ならではの暮らし方・遊び方について調べる(地域性も考慮)。
第25回	生活課科指導計画・指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本過程 ・単元構成・年間指導計画・学習の評価	教科書を熟読し、「生活科」についても一度確認する。
第26回	課題研究 学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考える	指導案を作成する。
第27回	課題研究 植物の栽培・動物の飼育についての学習指導を考える	指導案を作成する。
第28回	課題研究 季節の変化と生活についての学習指導を考える	指導案を作成する。
第29回	課題研究 家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考える	指導案を作成する。
第30回	公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考える	指導案を作成する。

■履修上の注意

積極的に実践したり調べたりすること。
「生活科概論」で制作した『生活科ずかん』の内容を充填するとともに充実させ、現場で使えるものとする。

■評価方法

提出物(50%)、授業への参加度(50%)を総合して評価する。
提出期限を過ぎて出された提出物は、一切評価の対象とはならない。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	小学校教科教育法 (体育)		担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもが心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と積極的に運動に親しむ資質や能力を育て、健康的な明るい豊かな生活を営む態度を育成できるよう、小学校体育教科の指導について、必要な知識・技能を習得する。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、機会運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域教材の指導方法を理論、実技で事例研究をとおしながら教育内容を理解し、実践的問題を本質的に捉える基礎的能力を高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	体育の新しい方向	教科書を学習すること。
第2回	総則と体育	〃
第3回	体育の目標	〃
第4回	体育の内容	〃
第5回	体育の指導計画	〃
第6回	体育の学習指導	〃
第7回	体育の学習評価	〃
第8回	選択制授業、男女共修授業	〃
第9回	体づくり運動①体ほぐし運動	〃
第10回	体づくり運動②体力づくり運動	〃
第11回	器械運動系①マット運動	〃
第12回	器械運動系②鉄棒運動	〃
第13回	器械運動系③跳び箱運動	〃
第14回	表現運動系①リズム運動	〃
第15回	表現運動系②創作運動	〃

■履修上の注意

前期前半は講義形式により基礎・基本的内容を学習、前期後半は実技をとおして実践的な学習をおこなう。
初等教育コースの学生は必修

■評価方法

前後期とも試験、レポート(60%)出席状況(40%)により総合的に評価をする。

■教科書

杉山重利、園山和夫(編著)「体育科教育法」大修館:2年次「体育概論」でも使用

■参考書

小学校学習指導要領解説(体育)文部科学省

科目名	小学校教科教育法 (体育)		担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもが心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と積極的に運動に親しむ資質や能力を育て、健康的な明るい豊かな生活を営む態度を育成できるよう、小学校体育教科の指導について、必要な知識・技能を習得する。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域教材の指導方法を理論、実技で事例研究をとおしながら教育内容を理解し、実践的問題を本質的に捉える基礎的能力を高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	水泳系①基礎泳法(クロール、平泳ぎ)	教科書を学習すること。
第17回	水泳系②応用泳法(遠泳、救急法)	〃
第18回	陸上運動系①走る(短距離、ハードル)	〃
第19回	陸上運動系②跳ぶ(幅跳び、高跳び)	〃
第20回	陸上運動系③自然とのふれあい(野外走)	〃
第21回	ボール運動系①バスケットボール型	〃
第22回	ボール運動系②ベースボール型	〃
第23回	ボール運動系③サッカー型	〃
第24回	保健:総則と健康、目標、内容	〃
第25回	保健:指導計画、学習指導、学習評価	〃
第26回	課題研究:準備運動の作成①	〃
第27回	課題研究:準備運動の作成②	〃
第28回	課題研究:準備運動の作成③	〃
第29回	課題研究:発表と評価	〃
第30回	まとめ	〃

■履修上の注意

後期前半は実技をとおして実践的な学習をおこなう。後期後半は保健の講義と、各自の課題研究を実践的に捉え発表し、相互評価を行う。その研究はCDに保存する。

■評価方法

前後期とも試験、レポート(60%)出席状況(40%)により総合的に評価をする。

■教科書

杉山重利、園山和夫(編著)「体育科教育法」大修館:2年次「体育概論」でも使用

■参考書

小学校学習指導要領解説(体育)文部科学省

科目名	小学校教科教育法 (理科)		担当教員 (単位認定者)	境野 芳子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

この講義には超高倍率・超スローモーション、超高速カメラ等による映像を活用して学習内容の理解を深める。
前期 第1～15回では生命・地球の分野を学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	1. 小学校理科の目標 2. 学習内容の構成 3. 新学習指導要領(理科編)変更点	教科書 序章 配布資料内容の復習
第2回	学習指導案の書き方	教科書 第8章、配布資料
第3回	教材研究、授業づくり	教科書 第9章、配布資料
第4回	指導内容の学習：身近な植物の種、発芽、成長、結実 上記のテーマにおける、小3と小5児童への指導の相違	教科書 第4章-4 配布資料内容の復習
第5回	指導内容の学習：植物の生活と水 題材：小6、「植物の養分と水の通り道」、指導法	教科書 第4章-4 配布資料内容の復習
第6回	指導内容の基礎：光合成 題材：小4、「植物の成長と季節」、指導法	教科書 第4章-4 配布資料内容の復習
第7回	指導内容の基礎：植物の種子散布戦略 題材：小4、実をつける植物、植物の1年、指導法	教科書 第4章-4 配布資料内容の復習
第8回	指導内容の基礎：植物ホルモン、花芽形成	配布資料内容の復習
第9回	指導内容の基礎：世界に生息する蟻 小3教材：蟻の観察、アリの世界、指導法	身近な場所での蟻の観察
第10回	指導内容の基礎：擬態 題材：小3、昆虫の育ち方、野原の虫、指導法	身近な場所での昆虫の観察
第11回	指導内容の基礎：蝶の羽の不思議、昆虫の能力とその利用、	蝶の観察
第12回	体験学習：風やゴムの力で動く昆虫おもちゃ、天体観察用教材等の作成	自作教材の工夫
第13回	体験学習：天体望遠鏡の組み立てと操作法の学習	実習準備
第14回	体験学習：月の観察、星の観察	実習内容の復習
第15回	復習	各回のポイントを書き出す

■履修上の注意

意欲的な学習態度を望む。

■評価方法

受講態度30%、定期試験70%、欠席回数が5回を超えた時点で失格となる。

■教科書

左巻健男・小田切真・小谷卓也編著 「授業に活かす 理科教育法」 小学校編 東京書籍

■参考書

授業内で適宜紹介する。 毎回 プリントを配布する。

科目名	小学校教科教育法 (理科)		担当教員 (単位認定者)	境野 芳子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

第15～30回では生命地球の分野に加え物質エネルギー分野(化学)も学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	指導内容の学習：秋の虫、虫の音 題材：小3、「たんけん秋の森」、指導法	教科書第8章-2 配布資料内容の復習
第17回	指導内容の学習：夏の天気、秋の天気 題材：小5、「秋の天気と台風」、「水の恵みと災害」、指導法	教科書 第4章-5 配布資料内容の復習
第18回	指導内容の学習：大峡谷、水害 題材：小5、「大地を削る水」、「かたちを変える川」、指導法	教科書 第4章-5 配布資料内容の復習
第19回	指導内容の学習：地殻変動のあかし 題材：小6「地層の出来方と化石」、指導法	教科書 第4章-5 配布資料内容の復習
第20回	指導内容の学習：きしみ割れる大地、 題材：小6、ゆれる大地、指導法	教科書 第4章-5 配布資料内容の復習
第21回	指導内容の学習：火山活動とその影響、世界の活火山 題材：小6、「火を噴く山」、指導法	教科書 第4章-5 配布資料内容の復習
第22回	指導内容の学習：プレートは動く、大地溝帯 題材：東日本大震災と阪神淡路大震災について	配布資料内容の復習
第23回	時事問題：放射化学の基礎。	配布資料内容の復習
第24回	指導内容の学習：酸と塩基 題材：小6、「酸とアルカリ」、指導法	配布資料内容の復習
第25回	酸・塩基の強さとpH 題材：小6、「物を溶かす水」、指導法	配布資料内容の復習
第26回	無機化合物の命名	薬品のラベルを読んでみる
第27回	試薬の調製法	学習内容の復習
第28回	指導内容の基礎：日常生活と化学「衣・食・住」 題材：小6、役に立つ化学、指導法	日常生活を科学の目で見てみる
第29回	指導内容の基礎：廃棄物と再資源化 題材：小6、未来のエネルギー、指導法	日常生活で自己のエネルギー消費を考える。
第30回	復習	各講義のポイントを書き出す

■履修上の注意

意欲的な学習態度を望む。

■評価方法

受講態度30%、定期試験70%、欠席回数が5回を超えた時点で失格となる。

■教科書

左巻健男・小田切真・小谷卓也編著 「授業に活かす 理科教育法」 小学校編 東京書籍

■参考書

授業内で適宜紹介する。 毎回 プリントを配布する。

科目名	小児保健（実習）			担当教員 （単位認定者）	李 英姿	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。
 ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。
 ③保育における安全な環境を提供することができる。

■授業の概要

小児保健で学んだ知識をもとに、子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■授業計画（前期）

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	保育における健康観察の方法（体温、呼吸、脈拍の観察による健康把握）	今週と来週の授業内容
第3回	発育の観察と評価、身体計測の方法	今週と来週の授業内容
第4回	生理・感覚機能の発達の観察と評価	今週と来週の授業内容
第5回	運動・精神機能の発達の観察と評価	今週と来週の授業内容
第6回	保育環境の整備	今週と来週の授業内容
第7回	乳児の抱き方、外気浴	今週と来週の授業内容
第8回	睡眠リズム形成への支援	今週と来週の授業内容
第9回	排泄習慣自立への支援	今週と来週の授業内容
第10回	衣服着脱自立への支援	今週と来週の授業内容
第11回	食習慣形成への支援	今週と来週の授業内容
第12回	食習慣形成にかかわる問題	今週と来週の授業内容
第13回	清潔習慣自立への支援	今週と来週の授業内容
第14回	遊びへの保健的な支援	今週の授業内容
第15回	前期まとめ	前期の授業内容

■履修上の注意

実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込む。

■評価方法

受講態度（20%）と期末試験（80%）を総合して評価する。

■教科書

テキスト：新時代の保育双書 小児保健実習（株）みらい

■参考書

改訂4版保育士養成講座 第5巻 小児保健 保育士養成講座編集委員会 / 編 全国社会福祉協議会

科目名	小児保健（実習）			担当教員 （単位認定者）	李 英姿	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。
- ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。
- ③保育における安全な環境を提供することができる。

■授業の概要

小児保健で学んだ知識をもとに、子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■授業計画（後期）

回数	授業内容	予習・復習
第16回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア	今週と来週の授業内容
第17回	冷却用具の種類と作り方、薬の与え方	今週と来週の授業内容
第18回	子どもの事故	今週と来週の授業内容
第19回	保育における安全教育	今週と来週の授業内容
第20回	保育の場における応急手当	今週と来週の授業内容
第21回	子どもにおける一次救命処置	今週と来週の授業内容
第22回	起こりやすい事故と応急処置（1）	今週と来週の授業内容
第23回	起こりやすい事故と応急処置（2）	今週と来週の授業内容
第24回	起こりやすい事故と応急処置（3）	今週と来週の授業内容
第25回	予防すべき伝染病（1）	今週と来週の授業内容
第26回	予防すべき伝染病（2）	今週と来週の授業内容
第27回	予防接種	今週と来週の授業内容
第28回	保育の場で行う感染症の予防	今週と来週の授業内容
第29回	母子保健対策と健康管理	今週の授業内容
第30回	後期まとめ	後期の授業内容

■履修上の注意

実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込む。

■評価方法

受講態度（20%）と期末試験（80%）を総合して評価する。

■教科書

テキスト：新時代の保育双書 小児保健実習（株）みらい

■参考書

改訂4版保育士養成講座 第5巻 小児保健 保育士養成講座編集委員会 / 編 全国社会福祉協議会

科目名	初等教育実習事前・事後指導			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 充実した教育実習を目指し、教職への意欲を高めるとともに必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 小学校の各領域における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 近隣の小学校の授業参観等を通して、実際の教師の授業づくりや教師の仕事について学ぶ。
- 2 小学校の各領域の学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。
- 3 4年次の教員採用試験に向けて、受験する自治体の過去問題を実際に解くなど、対策講座を受ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】 (1) 授業の進め方、(2) 教育実習の意義・事務手続き、(3) 採用試験	受験自治体の情報収集をする。
第2回	【教採対策①】 (1) 試験内容、(2) 勉強方法、(3) 過去問題を実際に解く。	受験自治体の情報収集をする。
第3回	【小学校教師の基礎基本①、教採対策②】 (1) 心構え(政治的中立・服装等)、(2) 一般教養	受験自治体の過去問題を解く。
第4回	【小学校教師の基礎基本②、教採対策③】 (1) 学級担任、学級経営、(2) 一般教養	受験自治体の過去問題を解く。
第5回	【現場教員から学ぶ①】(1) 授業参観、(2) 指導内容及び子ども理解	授業参観記録・参加記録を書く。
第6回	【現場教員から学ぶ②】(1) 授業参観、(2) 指導内容及び子ども理解	授業参観記録・参加記録を書く。
第7回	【現場教員から学ぶ③】(1) 授業参加、(2) 指導内容及び子ども理解	授業参観記録・参加記録を書く。
第8回	【現場教員から学ぶ④】(1) 授業参加、(2) 指導内容及び子ども理解	授業参観記録・参加記録を書く。
第9回	【現場教員から学ぶ⑤】(1) 授業参加、(2) 指導技術を学ぶ	授業参観記録・参加記録を書く。
第10回	【現場教員から学ぶ⑥】(1) 授業参加、(2) 指導技術を学ぶ	授業参観記録・参加記録を書く。
第11回	【現場教員から学ぶ⑦】(1) 授業参加、(2) 指導技術を学ぶ	授業参観記録・参加記録を書く。
第12回	【現場教員から学ぶ⑧】(1) 授業参加、(2) 指導技術を学ぶ	授業参観記録・参加記録を書く。
第13回	【授業参加報告会①、教採対策④】 (1) 現場教員から学んだことを分かち合う、(2) 教職教養	受験自治体の過去問題(教職教養)を解く。
第14回	【授業参加報告会②、教採対策⑤】 (1) 現場教員から学んだことを分かち合う、(2) 教職教養	受験自治体の過去問題(教職教養)を解く。
第15回	【授業参加報告会③、教採対策⑥】 (1) 現場教員から学んだことを分かち合う、(2) 教職教養	受験自治体の過去問題(教職教養)を解く。

■履修上の注意

- 1 3年次と4年次を合わせての単位取得となります。欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。
- 3 第5回から第12回までは、協力校の大利根小学校で授業参観・参加を実施します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、学習指導案作成や授業実践(50%)を総合的に評価します。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	初等教育実習事前・事後指導			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 充実した教育実習を目指し、教職への意欲を高めるとともに必要な知識・技能及び心構えを身に付ける。
- 2 小学校の各領域における教材研究の仕方、学習指導案の作成、教材教具の作成、授業づくり等を学び、「実践的指導力」を身に付ける。

■授業の概要

- 1 近隣の小学校の授業参観等を通して、実際の教師の授業づくりや教師の仕事について学ぶ。
- 2 小学校の各領域の学習指導案の作成、模擬授業等、実践的な授業について学ぶ。
- 3 4年次の教員採用試験に向けて、受験する自治体の過去問題を実際に解くなど、対策講座を受ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	【学習指導案①】(1)学習指導案の意義と作成方法、(2)教材研究の仕方	教材研究をする。
第17回	【学習指導案②】(1)略案作成の仕方、(2)実際の授業展開	教材研究、略案の作成をする。
第18回	【示範授業①】 (1)国語科学習指導案に基づく示範授業、(2)学習指導案、授業展開の協議	細案の書き方を整理する。
第19回	【示模授業②】 (1)算数科学習指導案に基づく示範授業、(2)学習指導案、授業展開の協議	細案の書き方を整理する。
第20回	【授業実践①】(1)国語科学習指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第21回	【授業実践②】(1)算数科学習指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第22回	【授業実践③】(1)社会科学習指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第23回	【授業実践④】(1)理科学習指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第24回	【授業実践⑤】(1)音楽科学習指導案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第25回	【授業実践⑥】(1)体育科学習指導案に基づく模擬授業(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第26回	【授業実践⑦】(1)特別活動(学級活動)指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第27回	【授業実践⑧】(1)道徳学習指導案に基づく模擬授業、(2)授業検討会	模擬授業を省察する。
第28回	【教採対策⑦】(1)主に一般教養に関する科目	受験自治体の過去問題集を解く。
第29回	【教採対策⑧】(1)主に教職教養に関する科目	受験自治体の過去問題集を解く。
第30回	【教採対策⑨とまとめ】(1)主に教科教育法に関する科目、(2)1年間のまとめ	受験自治体の過去問題集を解く。

■履修上の注意

- 1 3年次と4年次を合わせての単位取得となります。欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。
- 3 第5回から第12回までは、協力校の大利根小学校で授業参観・参加を実施します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、学習指導案作成や授業実践(50%)を総合的に評価します。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	初等教育実習事前・事後指導			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 教育実習の事前指導を通して実習準備を、事後指導を通して自己の授業省察を行い、「実践的指導力」を身に付け、より質の高い授業づくりを目指す。
- 2 教員採用試験の過去問題を解き、教員採用試験の概要を知る。

■授業の概要

- 1 教育実習で行った授業を発表し合い、自己の授業の省察及び他の授業から学ぶ。
- 2 前期は、受験自治体の教員採用試験の過去問題を解くなど、対策講座を受ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】 (1) 授業の進め方、(2) 教育実習書類について、(3) アンケート	受験自治体の過去問題を解く。
第2回	【教育実習の目的】(1) アンケート結果から、(2) 教育実習、(3) 採用試験について	受験自治体の過去問題を解く。
第3回	【教員採用試験対策①、実習準備①】 (1) 主に一般教養に関する科目、(2) 略案、(3) 実習事務	教育実習前に必要な書類を書く。
第4回	【外部講師による対策講座①】自己アピール文の書き方	自己アピール文を書く。
第5回	【教員採用試験対策②、実習準備②】 (1) 主に教職教養に関する科目、(2) 略案、(3) 実習事務	教育実習の諸準備を行う。
第6回	【教員採用試験対策③、実習準備③】 (1) 主に教科教育法に関する科目、(2) 略案、(3) 実習事務	教育実習の諸準備を行う。
第7回	【教員採用試験対策④、実習準備④】 (1) 主に教科教育法に関する科目、(2) 略案、(3) 実習事務	教育実習の諸準備を行う。
第8回	【外部講師による対策講座②】論文の書き方	論文を書く。
第9回	【教育実習について①】実習校での実践	実習録を整理する。
第10回	【教育実習について②】実習校での実践	実習録を整理する。
第11回	【教育実習について③】実習校での実践	実習録を整理する。
第12回	【教育実習について④】実習校での実践	実習録を整理する。
第13回	【教育実習報告会①】実習報告書に基づいた報告と協議	教育実習を省察する。
第14回	【教育実習報告会②】実習報告書に基づいた報告と協議	教育実習を省察する。
第15回	【教育実習報告会③】実習報告書に基づいた報告と協議	教育実習を省察する。

■履修上の注意

- 1 3年次と4年次を合わせての単位取得となります。欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。
- 3 6月に1か月間、教育実習があります。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、学習指導案作成や授業発表(50%)を総合的に評価します。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	初等教育実習事前・事後指導			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 教育実習の事前指導を通して実習準備を、事後指導を通して自己の授業省察を行い、「実践的指導力」を身に付け、より質の高い授業づくりを目指す。
- 2 教員採用試験の過去問題を解き、教員採用試験の概要を知る。

■授業の概要

- 1 教育実習で行った授業を発表し合い、自己の授業の省察及び他の授業から学ぶ。
- 2 前期は、近隣自治体の教員採用試験の過去問題を解くなど、対策講座を受ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	【教員採用試験報告会①】教員採用試験の情報交換	教員採用試験を省察する。
第17回	【教員採用試験報告会②】教員採用試験の情報交換	教員採用試験を省察する。
第18回	【学級経営①】(1)学級経営の意義、(2)学級経営案	学級経営案の略案をたてる。
第19回	【危機管理】(1)学校に潜む危険、(2)交通安全、(3)避難訓練	安全・安心な学校づくりについて考える。
第20回	【集団指導】 (1)子どもの動かし方、(2)学習ゲームアラカルト、(3)休み時間の対応	模擬的に子どもの動かし方を学び合う。
第21回	【学級経営②】(1)週案、(2)学級だよりについて	学級だよりを書く。
第22回	【模擬授業①】 (1)指導案検討、(2)授業中の教師・子どもの観察、(3)授業検討会	授業の省察をする。
第23回	【模擬授業②】 (1)指導案検討、(2)授業中の教師・子どもの観察、(3)授業検討会	授業の省察をする。
第24回	【模擬授業③】 (1)指導案検討、(2)授業中の教師・子どもの観察、(3)授業検討会	授業の省察をする。
第25回	【模擬授業④】 (1)指導案検討、(2)授業中の教師・子どもの観察、(3)授業検討会	授業の省察をする。
第26回	【自己課題①】自己課題の発見	自己課題を見つける。
第27回	【自己課題②】自己課題の追究	自己課題を追究する。
第28回	【自己課題③】自己課題のまとめ	自己課題をパワーポイントでまとめる。
第29回	【自己課題④】自己課題の発表	自己課題をパワーポイントでまとめる。
第30回	【学級経営③】(1)学級活動「お楽しみ会の指導」、(2)まとめ「理想とする教師像」	小論文「理想とする教師像」を書く。

■履修上の注意

- 1 3年次と4年次を合わせての単位取得となります。欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。
- 3 6月に1か月間、教育実習があります。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、学習指導案作成や授業発表(50%)を総合的に評価します。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

- 1 小学校学習指導要領解説(各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動)
- 2 その他、講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	心理学実験実習 I			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・(実習)	必修・選択	一覧表参照		

■授業の到達目標・期待される学習効果

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになること。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。
講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。
各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス・相関と因果関係	授業内で指示を出す。
第2回	相関と因果関係	授業内で指示を出す。
第3回	錯視実験	授業内で指示を出す。
第4回	錯視実験	授業内で指示を出す。
第5回	錯視実験	授業内で指示を出す。
第6回	統計グラフの書き方	授業内で指示を出す。
第7回	ストループ課題(解説)	授業内で指示を出す。
第8回	ストループ課題(実験)	授業内で指示を出す。
第9回	ストループ課題(解説)	授業内で指示を出す。
第10回	ストループ課題(説明)	授業内で指示を出す。
第11回	レポートの書き方	授業内で指示を出す。
第12回	記憶実験(解説)	授業内で指示を出す。
第13回	記憶実験(実験)	授業内で指示を出す。
第14回	記憶実験(解説)	授業内で指示を出す。
第15回	記憶実験(解説)	授業内で指示を出す。

■履修上の注意

データ整理・保存のためのUSBメモリとPC用のメールアドレスを用意しておいて下さい。

■評価方法

レポート(70%)、授業内小テスト(30%)

■教科書

上田 尚一 (2005) 統計グラフのウラ・オモテ(ブルーバックス)(新書) 講談社.

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学実験実習 I			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・(実習)		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになること。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。
講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。
各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	ガイダンス	授業内で指示を出す。
第17回	アクションスリップ(解説)	授業内で指示を出す。
第18回	アクションスリップ(実験)	授業内で指示を出す。
第19回	アクションスリップ(分析解説)	授業内で指示を出す。
第20回	アクションスリップ(分析解説)	授業内で指示を出す。
第21回	漢字とかなの処理過程(解説)	授業内で指示を出す。
第22回	漢字とかなの処理過程(実験)	授業内で指示を出す。
第23回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)	授業内で指示を出す。
第24回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)	授業内で指示を出す。
第25回	統計グラフの書き方	授業内で指示を出す。
第26回	スキーマ課題(解説)	授業内で指示を出す。
第27回	スキーマ課題(実験)	授業内で指示を出す。
第28回	スキーマ課題(解説・分析)	授業内で指示を出す。
第29回	スキーマ課題(分析)	授業内で指示を出す。
第30回	まとめ・到達テスト	授業内で指示を出す。

■履修上の注意

データ整理・保存のためのUSBメモリとPC用のメールアドレスを用意しておいて下さい。

■評価方法

レポート(70%)、授業内小テスト(30%)

■教科書

上田 尚一 (2005) 統計グラフのウラ・オモテ(ブルーバックス)(新書) 講談社.

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理統計学			担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	イントロダクション 心理学研究の基礎としての統計学	統計学の位置づけを知る
第2回	統計学の初歩I 「統計をとる」ことの意義	統計の意義
第3回	統計学の初歩II 変数と尺度、シグマ(Σ)記号の意味	基礎概念の復習
第4回	度数分布I 質的変数の度数分布	質的変数の度数概念
第5回	度数分布II 量的変数の度数分布	〃
第6回	記述統計量I 代表値(平均値、中央値、最頻値)	代表値の使い分け
第7回	記述統計量II 散布度(分散、標準偏差)	分散概念の重要性
第8回	記述統計量III 分布型(歪度、尖度、正規性)	分布の形が持つ意味
第9回	記述統計量 標準正規分布の使い方	正規分布の意味
第10回	相関と回帰I 散布図、相関関係の理解	相関概念の復習
第11回	相関と回帰II Pearsonの積率相関係数	係数の算出方法の復習
第12回	相関と回帰III 相関行列、多変数間の相関分析	係数の算出方法をマスター
第13回	相関と回帰IV 回帰分析	応用を知る
第14回	相関と回帰V 回帰分析の応用(重回帰分析)	多変量の分析について
第15回	前期の総括	試験への復習

■履修上の注意

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分に検討した上で履修の採否を決定することをお勧めします。また、受講に際しては必ず恒常的に出席して下さい。

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(70%)に、平常点(30%)(出席率及び受講態度)を加味した総合評価を行います。また、平常点における出席率のウェイトは20%と大きな割合を占めます。

■教科書

吉田寿夫(著)「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房、1998年

■参考書

適宜紹介

科目名	心理統計学		担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	統計的検定Ⅰ 母集団と標本	基礎概念の復習
第17回	統計的検定Ⅱ 統計的検定の考え方	検定の考え方について
第18回	カイ2乗検定Ⅰ Pearsonの適合度の検定	単純集計と検定
第19回	カイ2乗検定Ⅱ Pearsonの独立性の検定	クロス集計と検定
第20回	2つの平均値の差の検定Ⅰ 対応のある標本のt検定	対応のある標本について
第21回	2つの平均値の差の検定 独立した2標本のt検定	独立した標本について
第22回	2つの平均値の差の検定Ⅲ Welchの方法によるt検定	等分散性について
第23回	3つ以上の平均値の差の検定Ⅰ 分散分析の考え方	分散の分析
第24回	3つ以上の平均値の差の検定Ⅱ 多重比較法	下位検定
第25回	その他の検定 中央値の検定 ほか	ノンパラメトリックの検定
第26回	統計的検定をめぐる諸問題 その限界と適用上の留意点	検定の限界について
第27回	多変量解析の概説Ⅰ 因子分析	潜在因子について
第28回	多変量解析の概説Ⅱ クラスタ分析	類似度による分類について
第29回	統計的知識と日常 情報を正しく判断するために	日常との接点を考える
第30回	後期の総括	試験への復習

■履修上の注意

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根拠と思考力を要します。十分に検討した上で履修の採否を決定することをお勧めします。また、受講に際しては必ず恒常的に出席して下さい。

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(70%)に、平常点(30%)(出席率及び受講態度)を加味した総合評価を行います。また、平常点における出席率のウェイトは20%と大きな割合を占めます。

■教科書

吉田寿夫(著)「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房、1998年

■参考書

適宜紹介

科目名	精神医学			担当教員 (単位認定者)	吉野 昭男	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神医学の基礎知識を、精神保健福祉士指定養成カリキュラムの分野を中心に習得する。
 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。 3 精神医学の概念について理解させる。 4 精神医学診断の基本的な方法について理解させる。 5 代表的な精神障害について理解させる。 6 治療の概要について理解させる。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

■授業の概要

教科書の読解を主とし、板書で解説とまとめを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	授業オリエンテーション	教科書予習、今回の要約
第2回	1 精神医学、精神医療の歴史	教科書予習、今回の要約
第3回	2 脳および神経の生理・解剖	教科書予習、今回の要約
第4回	3 精神医学の概念 1) 精神医学の概念	教科書予習、今回の要約
第5回	3 精神医学の概念 2) 精神障害の成因と分類	教科書予習、今回の要約
第6回	4 診断法 1) 診断の手順と方法	教科書予習、今回の要約
第7回	4 診断法 2) 精神症状と状態像	教科書予習、今回の要約
第8回	4 診断法 3) 心理検査と身体的検査	教科書予習、今回の要約
第9回	5 代表的な精神障害 1) 病状性を含む器質性精神障害(老人性痴呆を含む)	教科書予習、今回の要約
第10回	5 代表的な精神障害 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書予習、今回の要約
第11回	5 代表的な精神障害 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害	教科書予習、今回の要約
第12回	5 代表的な精神障害 4) 気分(感情)障害	教科書予習、今回の要約
第13回	5 代表的な精神障害 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書予習、今回の要約
第14回	5 代表的な精神障害 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書予習、今回の要約
第15回	まとめ	教科書予習、今回の要約

■履修上の注意

人間を直接の対象とする職業に就く者にとっては、人間に対する深い洞察力が求められる。その洞察力を涵養するうえで、精神医学を学ぶことは非常に重要である。興味を持って真剣に取り組むことによって、収穫は大となる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

講義終了後に、授業内容のまとめとしての筆記試験(100%)を行う。

■教科書

精神医学

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	精神医学		担当教員 (単位認定者)	吉野 昭男	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神医学の基礎知識を、精神保健福祉士指定養成カリキュラムの分野を中心に習得する。
 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。 3 精神医学の概念について理解させる。 4 精神医学診断の基本的な方法について理解させる。 5 代表的な精神障害について理解させる。 6 治療の概要について理解させる。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

■授業の概要

教科書の読解を主とし、板書で解説とまとめを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	5 代表的な精神障害 7) 成人の人格および行動の障害	教科書予習、今回の要約
第17回	5 代表的な精神障害 8) 精神遅滞	教科書予習、今回の要約
第18回	5 代表的な精神障害 9) 心理的発達の障害	教科書予習、今回の要約
第19回	5 代表的な精神障害 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書予習、今回の要約
第20回	5 代表的な精神障害 11) 神経系の疾患(てんかんを含む)	教科書予習、今回の要約
第21回	6 治療法 1) 身体的療法 (1) 薬物療法とその副作用	教科書予習、今回の要約
第22回	6 治療法 1) 身体的療法 (2) 電気ショック療法	教科書予習、今回の要約
第23回	6 治療法 2) 精神療法	教科書予習、今回の要約
第24回	6 治療法 3) 環境・社会療法	教科書予習、今回の要約
第25回	6 治療法 4) 精神科リハビリテーション	教科書予習、今回の要約
第26回	7 病院精神医療および地域精神医療 1) 病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む)	教科書予習、今回の要約
第27回	7 病院精神医療および地域精神医療 2) 精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む)	教科書予習、今回の要約
第28回	7 病院精神医療および地域精神医療 3) 地域精神医療	教科書予習、今回の要約
第29回	精神保健福祉士について	教科書予習、今回の要約
第30回	まとめ	国家試験対策

■履修上の注意

人間を直接の対象とする職業に就く者にとっては、人間に対する深い洞察力が求められる。その洞察力を涵養するうえで、精神医学を学ぶことは非常に重要である。興味を持って真剣に取り組むことによって、収穫は大となる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

講義終了後に、授業内容のまとめとしての筆記試験(100%)を行う。

■教科書

精神医学

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	精神科リハビリテーション学		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神科リハビリテーションの概念、構成について理解させる。
- 2) 精神科リハビリテーションのプロセスについて理解させる。
- 3) 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 4) リカバリー（回復）の概念を理解できることが目標である。

■授業の概要

精神保健福祉士になるためには必修であり、精神科リハビリテーション施設（精神科病院、診療所、精神科デイケア等）での実習理解にを深めるために学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書
第2回	精神科リハビリテーションの概念・プロセス	教科書
第3回	医療機関におけるリハビリテーションの方法	教科書
第4回	社会復帰施設における方法	教科書
第5回	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	教科書
第6回	生活技能訓練の特訓	プリント
第7回	生活技能訓練の特訓	プリント
第8回	生活技能訓練の特訓	プリント
第9回	生活技能訓練の特訓	プリント
第10回	生活技能訓練の特訓	プリント
第11回	生活技能訓練の特訓	プリント
第12回	生活技能訓練の特訓	プリント
第13回	生活技能訓練の特訓	プリント
第14回	生活技能訓練の特訓（実習に向けて）	プリント
第15回	生活技能訓練の特訓（実習に向けて）	プリント

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない（おおむね試験・レポート70%、授業態度30%）

■教科書

[増補] 精神科リハビリテーション学 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神科リハビリテーション学		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神科リハビリテーションの概念、構成について理解させる。
- 2) 精神科リハビリテーションのプロセスについて理解させる。
- 3) 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 4) リカバリー（回復）の概念を理解できることが目標である。

■授業の概要

精神保健福祉士になるためには必修であり、精神科リハビリテーション施設（精神科病院、診療所、精神科デイケア等）での実習理解にを深めるために学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	実習での生活技能訓練の再演	プリント
第17回	実習での生活技能訓練の再演	プリント
第18回	実習での生活技能訓練の再演	プリント
第19回	精神科デイケアでのプログラム活動	教科書
第20回	精神科デイケアでのプログラム活動	教科書
第21回	精神科デイケアでのプログラム活動	教科書
第22回	精神科デイケアでのプログラム活動	教科書
第23回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第24回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第25回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第26回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第27回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第28回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士	教科書
第29回	精神科リハビリテーションの総合化	教科書
第30回	精神科リハビリテーションの総合化	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない（おおむね試験・レポート70%、授業態度30%）

■教科書

[増補] 精神科リハビリテーション学 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2) ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3) 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書
第2回	精神保健とは何か? 保健とメンタルヘルス	教科書
第3回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第4回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第5回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第6回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第7回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第8回	ライフサイクルと精神保健	教科書
第9回	精神保健の実際	教科書
第10回	精神保健の実際	教科書
第11回	精神保健福祉法と精神保健	教科書
第12回	精神科治療とリハビリテーションの特殊性	教科書
第13回	薬物依存、アルコール依存と精神保健	教科書
第14回	自殺いじめと精神保健	教科書
第15回	世界の精神保健の動向	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない（おおむね試験・レポート70%、授業態度30%）

■教科書

[増補] 精神保健学 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2) ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3) 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	精神保健の歴史①（異常とは、量・質）	教科書
第17回	精神保健の歴史②オランダ、ゲールの地域活動	教科書
第18回	大脳、中枢神経、記憶の障害	教科書
第19回	知能の異常、知覚の異常	教科書
第20回	感情の異常、不安、パニック、抑うつ	教科書
第21回	不眠と精神保健	教科書
第22回	精神障害者対策① 精神障害者の現状	教科書
第23回	精神保健福祉法の成立と見直し	教科書
第24回	障害者自立支援法	教科書
第25回	医療観察法	教科書
第26回	更生保護との関連	教科書
第27回	生活保護法との関連	教科書
第28回	地域保健と地域精神保健	教科書
第29回	世界の精神保健、アメリカ、イギリスの現状と実際	教科書
第30回	精神保健学の新しい取り組み	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない（おおむね試験・レポート70%、授業態度30%）

■教科書

[増補]精神保健学 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助の理論と方法を基盤に、対人援助分野での実践に共通する対人援助技術を再確認しながら、援助者としての自己覚知を深めることを目指す。本演習では対人援助職として必要な、聴く・話す・記述することを具体的に実践できるようになることに重点を置き学習を行う。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、次年度の精神保健福祉援助実習に繋げる具体的課題を見つける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	精神保健福祉援助演習（基礎）について オリエンテーション	レポート作成
第2回	援助者としての自己覚知 ①	レポート作成
第3回	援助者としての自己覚知 ②	レポート作成
第4回	援助者としての自己覚知 ③	レポート作成
第5回	援助者としての自己覚知 ④	レポート作成
第6回	コミュニケーションと対人関係 ①	レポート作成
第7回	コミュニケーションと対人関係 ②	レポート作成
第8回	コミュニケーションと対人関係 ③	レポート作成
第9回	コミュニケーションと対人関係 ④	レポート作成
第10回	コミュニケーションと対人関係 ⑤	レポート作成
第11回	倫理と守秘義務について ①	レポート作成
第12回	倫理と守秘義務について ②	レポート作成
第13回	援助者としての自己覚知 ⑤	レポート作成
第14回	援助者としての自己覚知 ⑥	レポート作成
第15回	前期のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
- ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。

■評価方法

- ① 講義の出席状況（時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること） 20%
 - ② 日常の授業態度（授業内での参加状況を含む） 20%
 - ③ 提出物（通常提出物の提出状況及び内容） 30%
 - ④ 定期試験及び課題レポート 30%
- ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008

■参考書

実習へのガイドブック（学生用） 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習I			担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助の理論と方法を基盤に、対人援助分野での実践に共通する対人援助技術を再確認しながら、援助者としての自己覚知を深めることを目指す。本演習では対人援助職として必要な、聴く・話す・記述することを具体的に実践できるようになることに重点を置き学習を行う。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、次年度の精神保健福祉援助実習に繋げる具体的課題を見つける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	相談援助実習をとおしての振り返り	レポート作成
第17回	記録の記述方法 ①	配布資料の事前学習およびレポート作成
第18回	記録の記述方法 ②	配布資料の事前学習およびレポート作成
第19回	記録の記述方法 ③	配布資料の事前学習およびレポート作成
第20回	記録の記述方法 ④	配布資料の事前学習およびレポート作成
第21回	記録の記述方法 ⑤	配布資料の事前学習およびレポート作成
第22回	記録の記述方法 ⑥	配布資料の事前学習およびレポート作成
第23回	記録の記述方法 ⑦	配布資料の事前学習およびレポート作成
第24回	記録の記述方法 ⑧	配布資料の事前学習およびレポート作成
第25回	記録の記述方法 ⑨	配布資料の事前学習およびレポート作成
第26回	記録の記述方法 ⑩	配布資料の事前学習およびレポート作成
第27回	観察と考察 ①	配布資料の事前学習およびレポート作成
第28回	観察と考察 ②	配布資料の事前学習およびレポート作成
第29回	振り返りと今後の課題	レポート作成
第30回	全体のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
- ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。

■評価方法

- ① 講義の出席状況(時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること) 20%
 - ② 日常の授業態度(授業内での参加状況を含む) 20%
 - ③ 提出物(通常提出物の提出状況及び内容) 30%
 - ④ 定期試験及び課題レポート 30%
- ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008

■参考書

実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にしていく。また、配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉実習についての理解を深め、実習後の振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え	レポート作成
第2回	精神保健福祉現場実習について 配属施設の決定	自己紹介表作成
第3回	自己紹介表の意義と目的および作成	自己紹介表作成
第4回	実習計画書の作成 実習先施設の情報収集及び概要書作成指導	実習計画書作成
第5回	実習計画書の作成 ① 作成の意義・目的	実習計画書作成
第6回	実習計画書の作成 ② 内容の検討	実習計画書作成
第7回	実習計画書の作成 ③ 内容の検討	実習計画書作成
第8回	現場実習に係わる留意事項 ①	レポート作成
第9回	現場実習に係わる留意事項 ②	レポート作成
第10回	現場実習に係わる留意事項 ③	レポート作成
第11回	実習記録・日誌の記述方法 ①	レポート作成
第12回	実習記録・日誌の記述方法 ②	レポート作成
第13回	実習先への事前訪問について	レポート作成
第14回	自らの課題検討	レポート作成
第15回	前期のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

- ・配属現場実習をとおして精神障害者に寄り添いながら、自己の価値・観と向き合うことが必要になります。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
- ・自ら具体的に考え、工夫し、実践することを目標に積極的な授業参加および取り組みへの努力を期待します。
- ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
- ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
- ・精神障害者および精神保健福祉実習受入れ機関について学ぶために、受入可能施設等の状況により随時現場での体験学習活動（精神科病院の季節行事の見学および運営の手伝い等）を実施する予定です。

■評価方法

- ① 講義の出席状況（時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること） 20%
- ② 日常の授業態度（授業内での参加状況を含む） 20%
- ③ 提出物（通常提出物の提出状況及び内容） 30%
- ④ 定期試験及び課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
メンタルヘルス原論 熊倉伸宏 新興医学出版社 2004

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008
その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にしていく。また、配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉実習についての理解を深め、実習後の振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	現場実習の振り返り ①レポートの作成方法について	レジュメの講読
第17回	配属実習の振り返り ① 個別事例の検討	配布資料の事前学習およびレポート作成
第18回	配属実習の振り返り ② 個別事例の検討	配布資料の事前学習およびレポート作成
第19回	配属実習の振り返り ③ 個別事例の検討	配布資料の事前学習およびレポート作成
第20回	配属実習の振り返り ④ 個別事例の検討	配布資料の事前学習およびレポート作成
第21回	配属実習の振り返り ⑤ 機関における活動	配布資料の事前学習およびレポート作成
第22回	配属実習の振り返り ⑥ 機関における活動	配布資料の事前学習およびレポート作成
第23回	配属実習の振り返り ⑦ 機関における活動	配布資料の事前学習およびレポート作成
第24回	配属実習の振り返り ⑧ 機関における活動	配布資料の事前学習およびレポート作成
第25回	自らの課題検討 実習報告会 ①	レポート作成
第26回	自らの課題検討 実習報告会 ②	レポート作成
第27回	自らの課題検討 実習報告会 ③	レポート作成
第28回	自らの課題検討 実習報告会 ④	レポート作成
第29回	振り返りと今後の課題	レポート作成
第30回	全体のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

・配属現場実習をとおして精神障害者に寄り添いながら、自己の価値・観と向き合うことが必要になります。
 ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
 ・自ら具体的に考え、工夫し、実践することを目標に積極的な授業参加および取り組みへの努力を期待します。
 ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
 ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
 ・精神障害者および精神保健福祉実習受入れ機関について学ぶために、受入可能施設等の状況により随時現場での体験学習活動（精神科病院の季節行事の見学および運営の手伝い等）を実施する予定です。

■評価方法

- ① 講義の出席状況（時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること） 20%
- ② 日常の授業態度（授業内での参加状況を含む） 20%
- ③ 提出物（通常提出物の提出状況及び内容） 30%
- ④ 定期試験及び課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」
 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
 メンタルヘルス原論 熊倉伸宏 新興医学出版社 2004

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008
 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助技術各論			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 個別援助技術の実際と適用分野を具体的事例に基づき理解させる。
- 2) 集団援助技術も同様に理解させる。
- 3) 精神障害者ケアマネジメント、精神障害者を対象にした地域援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

■授業の概要

前年の総論で学んだ理論、実践方法を各論では具体的事例に基づき深める。各論では教科書順に個別援助技術から進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書
第2回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第3回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第4回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第5回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第6回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第7回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第8回	精神障害者を対象にしたケースワーク	教科書
第9回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第10回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第11回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第12回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第13回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第14回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書
第15回	精神障害者対象にしたグループワーク	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補]精神保健福祉援助技術各論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉援助技術各論			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 個別援助技術の実際と適用分野を具体的事例に基づき理解させる。
- 2) 集団援助技術も同様に理解させる。
- 3) 精神障害者ケアマネジメント、精神障害者を対象にした地域援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

■授業の概要

前年の総論で学んだ理論、実践方法を各論では具体的事例に基づき深める。各論では教科書順に個別援助技術から進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第17回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第18回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第19回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第20回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第21回	精神障害者を対象にしたコミュニティーワーク	教科書
第22回	精神障害者ケアマネジメント	教科書
第23回	精神障害者ケアマネジメント	教科書
第24回	精神障害者ケアマネジメント	教科書
第25回	精神障害者ケアマネジメント(施設)	教科書
第26回	精神障害者ケアマネジメント(施設)	教科書
第27回	精神障害者を対象にしたチーム援助技術	教科書
第28回	精神障害者を対象にしたチーム援助技術	教科書
第29回	スーパーヴィジョンとコンサルテーション	教科書
第30回	医療機関の援助技術と地域での援助技術	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い) この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補] 精神保健福祉援助技術各論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉援助技術総論			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神障害者を中心においた社会福祉サービスと援助活動について理解させる。
- 2) 社会福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解させる。
- 3) 精神保健福祉士と専門的技術について理解させる。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。まずコミュニティーミーティング(大集団精神療法)を体験し、次にSST(生活技能訓練)を学ぶ。後期は個別援助(ケースワーク)を具体的に学ぶ。伝統的援助技術、ホリスの『心理社会的アプローチ』と新しい個別援助技術を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	プリント
第2回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第3回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第4回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第5回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第6回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第7回	精神障害者を対象にした集団援助技術	プリント
第8回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第9回	精神障害者を対象にした集団援助技術(SST)	教科書
第10回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第11回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第12回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第13回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第14回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書
第15回	精神障害者を対象にした集団援助技術	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験、レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補]精神保健福祉援助技術総論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉援助技術総論			担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 精神障害者を中心においた社会福祉サービスと援助活動について理解させる。
- 2) 社会福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解させる。
- 3) 精神保健福祉士と専門的技術について理解させる。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。まずコミュニティーミーティング(大集団精神療法)を体験し、次にSST(生活技能訓練)を学ぶ。後期は個別援助(ケースワーク)を具体的に学ぶ。伝統的援助技術、ホリスの『心理社会的アプローチ』と新しい個別援助技術を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	精神障害者を対象にした個別援助技術	教科書
第17回	精神障害者を対象にした個別援助技術	プリント
第18回	精神障害者を対象にした個別援助技術	プリント
第19回	精神障害者を対象にした個別援助技術	教科書
第20回	精神障害者を対象にした個別援助技術	プリント
第21回	精神障害者を対象にした個別援助技術	教科書
第22回	精神障害者を対象にした個別援助技術	教科書
第23回	精神障害者を対象にした地域援助技術	教科書
第24回	精神障害者を対象にした地域援助技術	プリント
第25回	精神障害者を対象にした地域援助技術	プリント
第26回	精神障害者を対象にした地域援助技術	教科書
第27回	精神障害者を対象にした地域援助技術	教科書
第28回	精神障害者を対象にした地域援助技術	教科書
第29回	精神障害者ケアマネジメント	プリント
第30回	精神障害者ケアマネジメント	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補]精神保健福祉援助技術総論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉援助演習実習指導Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にしていく。また、配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉実習についての理解を深め、実習後の振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え	レポート作成
第2回	精神保健福祉現場実習について 配属施設の決定	自己紹介表作成
第3回	実習計画書の作成 実習先施設の情報収集及び概要書作成指導	自己紹介表作成
第4回	実習計画書の作成 ① 作成の意義・目的	実習計画書作成
第5回	実習計画書の作成 ② 内容の検討	実習計画書作成
第6回	実習計画書の作成 ③ 内容の検討	実習計画書作成
第7回	実習計画書の作成 ④ 内容の検討	実習計画書作成
第8回	現場実習に係わる留意事項 ①	レポート作成
第9回	現場実習に係わる留意事項 ②	レポート作成
第10回	現場実習に係わる留意事項 ③	レポート作成
第11回	実習記録・日誌の記述方法 ①	レポート作成
第12回	実習記録・日誌の記述方法 ②	レポート作成
第13回	実習先への事前訪問について	レポート作成
第14回	自らの課題検討	レポート作成
第15回	前期のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

- ・配属現場実習をとおして精神障害者に寄り添いながら、自己の価値観と向き合うことが必要になります。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
- ・自ら具体的に考え、工夫し、実践することを目標に積極的な授業参加および取り組みへの努力を期待します。
- ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
- ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
- ・精神障害者および精神保健福祉実習受入れ機関について学ぶために、受入可能施設等の状況により随時現場での体験学習活動（精神科病院の季節行事の見学および運営の手伝い等）を実施する予定です。

■評価方法

- ① 講義の出席状況（時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること）20%
 - ② 日常の授業態度（授業内での参加状況を含む）20%
 - ③ 提出物（通常提出物の提出状況及び内容）30%
 - ④ 定期試験及び課題レポート 30%
- ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
 実習へのガイドブック（学生用） 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
 メンタルヘルス原論 熊倉伸宏 新興医学出版社 2004

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008
 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習実習指導Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にしていく。また、配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉実習についての理解を深め、実習後の振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	現場実習の振り返り ① レポートの作成方法について	報告書作成
第17回	配属実習の振り返り ② 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第18回	配属実習の振り返り ③ 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第19回	配属実習の振り返り ④ 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第20回	配属実習の振り返り ⑤ 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第21回	配属実習の振り返り ⑥ 機関における活動	記録講読およびレポート作成
第22回	配属実習の振り返り ⑦ 機関における活動	記録講読およびレポート作成
第23回	配属実習の振り返り ⑧ 機関における活動	記録講読およびレポート作成
第24回	配属実習の振り返り ⑨ 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第25回	配属実習の振り返り ⑩ 個別事例の検討	記録講読およびレポート作成
第26回	自らの課題検討 ① 実習報告会	レポート作成
第27回	自らの課題検討 ② 実習報告会	レポート作成
第28回	自らの課題検討 ③ 実習報告会	レポート作成
第29回	振り返りと今後の課題	レポート作成
第30回	全体のまとめ	レポート作成

■履修上の注意

- ・配属現場実習をとおして精神障害者に寄り添いながら、自己の価値観と向き合うことが必要になります。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、授業出席及び受講態度を重視します。
- ・自ら具体的に考え、工夫し、実践することを目標に積極的な授業参加および取り組みへの努力を期待します。
- ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
- ・提出期限の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
- ・精神障害者および精神保健福祉実習受入れ機関について学ぶために、受入可能施設等の状況により随時現場での体験学習活動（精神科病院の季節行事の見学および運営の手伝い等）を実施する予定です。

■評価方法

- ① 講義の出席状況（時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること）20%
 - ② 日常の授業態度（授業内での参加状況を含む）20%
 - ③ 提出物（通常提出物の提出状況及び内容）30%
 - ④ 定期試験及び課題レポート 30%
- ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012
 実習へのガイドブック（学生用） 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
 メンタルヘルス原論 熊倉伸宏 新興医学出版社 2004

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008
 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎・専門)		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神保健福祉士と社会福祉士の共通点と相違点を明確にし両方の資格が取得できる福祉系の大学の特色を生かし福祉の多方面の視点を養う。ここでは精神保健福祉の基本を忠実に学ぶ。国民の精神保健、精神障害者の福祉を規定している「精神保健福祉法の理念」や次年度以降につながる精神保健福祉関連法との係わりも見ていく。

■授業の概要

「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」と「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」を修得するための「精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)」と「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」を一体的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション(精神保健福祉士の役割と意義)	教科書
第2回	精神保健福祉士制度化の歩み	教科書
第3回	精神保健福祉士の専門性	教科書
第4回	社会福祉と精神保健福祉	教科書
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ	教科書
第6回	社会福祉士の専門性	教科書
第7回	社会福祉士の役割と精神保健福祉士との協働	教科書
第8回	精神障害者とは何か	プリント
第9回	相談援助の定義	教科書
第10回	相談援助活動の定義と概念	教科書
第11回	相談援助の理念と価値	教科書
第12回	エンパワメントとリカバリー	教科書
第13回	相談援助における権利擁護の概念と範囲	教科書
第14回	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	教科書
第15回	専門職倫理と倫理的ジレンマ	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

未定

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎・専門)		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神保健福祉士と社会福祉士の共通点と相違点を明確にし両方の資格が取得できる福祉系の大学の特色を生かし福祉の多方面の視点を養う。ここでは精神保健福祉の基本を忠実に学ぶ。国民の精神保健、精神障害者の福祉を規定している「精神保健福祉法の理念」や次年度以降につながる精神保健福祉関連法との係わりも見ていく。

■授業の概要

「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」と「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」を修得するための「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」と「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」を一体的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	ソーシャルワークの源流と形成過程	教科書
第17回	日本におけるソーシャルワークの形成過程	教科書
第18回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	教科書
第19回	福祉モデル、イギリスでの展開、NHSとコミュニティケア法	プリント
第20回	精神保健福祉分野における相談援助活動の対象	教科書
第21回	精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義	教科書
第22回	精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の展開	教科書
第23回	精神保健福祉分野の相談援助体系について(討論会)	教科書
第24回	精神保健福祉士概念	教科書
第25回	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務	教科書
第26回	総合的・包括的な援助を支える理論	教科書
第27回	総合的・包括的な援助の機能と概要	教科書
第28回	多職種連携(チームアプローチ)の意義と概要	教科書
第29回	多職種連携における精神保健福祉士の役割	教科書
第30回	精神保健福祉活動における多職種連携の展望と課題	教科書

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

未定

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	相談援助演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等を基本を養う。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ソーシャルワークの価値と倫理 倫理綱領	社会福祉士の倫理綱領を理解しておく
第2回	ソーシャルワークの価値と倫理 行動規範	社会福祉士の行動規範を理解しておく
第3回	ソーシャルワーク実践 面接技法	面接の目的を理解しておく
第4回	ソーシャルワーク実践 面接技法	コミュニケーションの基本を復習しておく
第5回	ソーシャルワーク実践 面接技法	普段の自分の話の聞き方を振り返っておく
第6回	ソーシャルワーク実践 面接技法	面接技法の効果的な使用方法を考える
第7回	ソーシャルワーク実践 面接技法	応答技法の効果について振り返る
第8回	ソーシャルワーク実践 記録技法	自分の文章の書き方を振り返っておく
第9回	ソーシャルワーク実践 記録技法	記録の種類を理解しておく
第10回	ソーシャルワーク実践 記録技法	日記と記録の違いを理解しておく
第11回	ソーシャルワーク実践 記録技法	専門職としての記録の書き方を理解しておく
第12回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク	それぞれの段階の意味を理解しておく
第13回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク	情報収集の方法を理解しておく
第14回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク 個別援助計画	利用者の本当のニーズとは何かを考えておく
第15回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク 個別援助計画	計画をためるときの注意点を理解しておく

■履修上の注意

- (1) 履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。
グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁
- (2) 学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3) 予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。

■評価方法

試験またはレポート（40％） 授業への出欠席（40％） 授業への参加態度（20％）

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）

科目名	相談援助演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方を基本を養う。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク	グループワークの対象を理解しておく
第17回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク	グループワークの効果を考える
第18回	ソーシャルワークの展開過程 コミュニティワーク	コミュニティワークの対象を理解しておく
第19回	ソーシャルワークの展開過程 コミュニティワーク	コミュニティワークの効果を考える
第20回	総合的・包括的な相談援助について	基本的技術、行動規範、倫理綱領を繰り返す
第21回	総合的・包括的な相談援助について ロールプレイ・分析ツールの活用	エコマップ・ジェノグラムの意味を理解しておく
第22回	総合的・包括的な相談援助について 危機介入アプローチ	危機介入アプローチについて理解しておく
第23回	総合的・包括的な相談援助について ケアマネジメントアプローチ	ケアマネジメントアプローチについて理解しておく
第24回	総合的・包括的な相談援助について チームアプローチ	チームとは何かを考える
第25回	総合的・包括的な相談援助について ネットワーク	ネットワークのつくり方を考える
第26回	総合的・包括的な相談援助について 家族療法的アプローチ	家族療法について理解しておく
第27回	総合的・包括的な相談援助について ストレングスアプローチ	ストレングスモデルについて理解しておく
第28回	社会的排除ソーシャルインクルージョンについて学ぶ	社会的に抑圧を受けやすい人を理解してする。
第29回	社会的排除ソーシャルインクルージョンについて学ぶ	ソーシャルインクルージョンについて理解しておく
第30回	社会的排除ソーシャルインクルージョンについて学ぶ	高齢者・障害者の法律、制度について理解しておく

■履修上の注意

- (1) 履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。
グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁
- (2) 学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3) 予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。

■評価方法

試験またはレポート (40%) 授業への出欠席 (40%) 授業への参加態度 (20%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典 (出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助演習Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助演習Ⅱでの学びを踏まえたうえで、総合的・包括的な援助を具体的な事例を通し理解し、相談援助実習を考慮した事例研究を通して実践レベルでのソーシャルワーク技術・知識の習得を目標とする。

■授業の概要

・グループワークで事例研究を行い、ソーシャルワーカーとしての対応方法、考え方の理解を深める。
・実習後には自分が体験してきた実習をもとにして事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての対応方法、考え方を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	虐待の現状を理解し、その対応を学ぶ	虐待の定義を理解しておく
第2回	虐待の現状を理解し、その対応を学ぶ	虐待を受けている人に対しての法律、制度を理解しておく
第3回	虐待の現状を理解し、その対応を学ぶ	虐待を受けている人に対する支援を考える
第4回	家族関係の相談援助	家族システム論を理解しておく
第5回	家族関係の相談援助	家族への介入方法を理解しておく
第6回	家族関係の相談援助	家族関係に対する自分の考えをまとめておく
第7回	世代間交流による地域ネットワーク作り	世代間交流とはどのようなものか考えておく
第8回	世代間交流による地域ネットワーク作り	住んでいる地域の世代間交流を調べておく
第9回	世代間交流による地域ネットワーク作り	世代間交流について自分の考えをまとめておく
第10回	低所得者の相談援助	社会保障制度を理解しておく
第11回	低所得者の相談援助	社会保障の使用方法を理解しておく
第12回	低所得者の相談援助	低所得者の支援に対して自分の考えをまとめておく
第13回	事例研究・苦情解決の対処方法	苦情解決の制度を理解しておく
第14回	事例研究・苦情解決の対処方法	苦情の事実関係の確認方法を理解しておく
第15回	事例研究・苦情解決の対処方法	苦情解決に対する自分の意見をまとめておく

■履修上の注意

- (1)履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。
グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁
- (2)学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3)予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。

■評価方法

試験またはレポート（40％） 授業への出欠席（40％） 授業への参加態度（20％）

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）

科目名	相談援助演習Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

相談援助演習Ⅱでの学びを踏まえたうえで、総合的・包括的な援助を具体的な事例を通し理解し、相談援助実習を考慮した事例研究を通して実践レベルでのソーシャルワーク技術・知識の習得を目標とする。

■授業の概要

・グループワークで事例研究を行い、ソーシャルワーカーとしての対応方法、考え方の理解を深める。
・実習後には自分が体験してきた実習をもとにして事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての対応方法、考え方を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	事例研究・成年後見制度と相談援助	成年後見制度を理解しておく
第17回	事例研究・成年後見制度と相談援助	成年後見制度を利用している人の現状を理解しておく
第18回	事例研究・成年後見制度と相談援助	成年後見制度を利用する人の支援を考えておく
第19回	実習での事例検討	事例をまとめておく
第20回	実習での事例検討	プレゼンテーションの基礎を理解しておく
第21回	実習での事例検討	事例について自分の考えをまとめておく
第22回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第23回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第24回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第25回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第26回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第27回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第28回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第29回	実習での事例検討	事例について法律、制度、自分の考えをまとめておく
第30回	演習まとめ	これまでの演習を振り返っておく

■履修上の注意

- (1)履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。
グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁
- (2)学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3)予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。

■評価方法

試験またはレポート(40%) 授業への出欠席(40%) 授業への参加態度(20%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①現場実習に係る個別指導及び集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について復習すると共に、実習先に関する情報収集、実習分野の制度論・援助技術・利用者のニーズ等の知識を整理する。問題関心の具体化、実習動機・実習課題の明確化を行う中で、「実習計画書」等を作成する。また、「実習記録」の書き方や実習体験者の講話等、実習に当たっての留意事項も含め学習をしていく。後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、課題の整理、問題点を意識化する作業を行う。更に、相談援助実習における「実習総括のレポート」の作成や「実習報告会」を行うことにより、自己の学びについて確認し、明確化していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション ・シラバス説明、授業方法と留意事項 ・実習先の確認	シラバスを通読し、実習の意義、提出物等をガイドブックで確認する
第2回	実習の意義と目的の理解 事前学習の理解 ・事前学習の課題と学習方法	事前学習の課題を明確にし、学習方法を調べる
第3回	実習体験者（先輩）の講話 ・実習への心構え ・事前学習の必要性	実習先の実習内容、実習プログラム等について調べる
第4回	実習先機関・施設の基本的理解① ・設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容	実習先の根拠法令、業務内容、ニーズ、職種について調べる
第5回	実習先機関・施設の基本的理解② ・地域の状況、機関・施設の課題 *「実習機関（施設）の概要」の完成	実習先の地域を理解し、機関・施設の課題を明確にする
第6回	実習プログラムの理解① 実習委託契約書の理解	実習委託契約書を通読し、わからない所を調べる
第7回	実習計画書作成の理解① ・実習の目的 ・実習先選定の動機	実習の目的、実習先選定の動機を明確にする
第8回	実習計画書作成の理解② ・実習の目標 ・実習課題	実習の目標・課題を明確にする
第9回	実習計画書作成の理解③ *「実習計画書」の完成 *「実習生紹介票」、「誓約書」	実習計画書、紹介票、誓約書の見直しをする
第10回	実習プログラムの理解② ・個別支援プログラムの作成	個別支援プログラムの作成方法を調べる
第11回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解 ・連絡方法・挨拶・身だしなみ ・訪問の目的と確認事項	事前訪問におけるマナーを調べる
第12回	実習受け入れ体制の理解 ・実習指導者の講話（全体）	実習指導者の所属先機関・施設について調べる
第13回	記録方法の理解① ・実習記録	実習記録方法について調べる
第14回	実習生が求められる基本姿勢の理解 ・職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理	職業倫理、権利擁護、守秘義務等について調べる
第15回	全体オリエンテーション ・学長の講話 ・巡回指導及び帰学日指導等	実習に対する心構えを再確認する

■履修上の注意

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得ができないこと（公欠を含む）。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。
- ③相談援助実習を行うに当たっては、「相談援助実習指導Ⅰ」、「相談援助実習指導Ⅱ」の履修が前提となること。
- ④5月に行う予定の「相談援助実習資格履修試験」に合格しない場合は単位取得ができないこと。

■評価方法

試験又はレポート（30%）、授業の出欠席（30%）、受講態度（10%）、提出物の提出状況及び内容（20%）、実習先の実習評価（10%）を総合して評価する。

■教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版 2009年
「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学出版

■参考書

社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	富澤 一央、橋本 好広 柳澤 充、宮本 雅央 渡辺 俊行、松永 尚樹	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①現場実習に係る個別指導及び集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について復習すると共に、実習先に関する情報収集、実習分野の制度論・援助技術・利用者のニーズ等の知識を整理する。問題関心の具体化、実習動機・実習課題の明確化を行う中で、「実習計画書」等を作成する。また、「実習記録」の書き方や実習体験者の講話等、実習に当たっての留意事項も含め学習をしていく。後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、課題の整理、問題点を意識化する作業を行う。更に、相談援助実習における「実習総括のレポート」の作成や「実習報告会」を行うことにより、自己の学びについて確認し、明確化していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション ・シラバス説明、授業方法と留意事項	シラバスを通読し、後期提出書類をガイドブックで確認する
第17回	記録方法の理解② ・実習報告書、実習レポート等 ・礼状作成	報告書、レポート、礼状の書き方をガイドブックを元に学習する
第18回	実習評価の理解 ・自己評価、実習先評価、実習指導者の講評	実習を振り返り、良かった点や課題などを明確にする
第19回	実習の振り返り① ・事前学習 *グループ討議と発表	実施した事前学習についてまとめる
第20回	実習の振り返り② ・自己理解、自己覚知、職業倫理 *グループ討議と発表	実習で学んだ職業倫理や自身のことで理解したことをまとめる
第21回	実習の振り返り③ ・クライアントとの関わり、職員との関わり *グループ討議と発表	実習での利用者や職員との関わりについてまとめる
第22回	実習後の個別スーパービジョン① *実習レポート等の作成	レポート作成方法を調べる
第23回	実習後の個別スーパービジョン② *実習レポート等の作成	実習で印象に残った点、学んだこと、課題などをまとめる
第24回	実習後の個別スーパービジョン③ *実習レポート等の作成	まとめた内容を整理する
第25回	実習の総括① *実習レポート等の完成	レポートを推敲する
第26回	実習の総括② ・クラス内実習報告会 ・プレゼンテーション技術	プレゼンテーション技術について調べる
第27回	実習の総括③ ・クラス内実習報告会	発表内容を見直す
第28回	実習の総括④ ・クラス内実習報告会	同種別あるいは同分野の実習発表と自身の発表を比較・考察する
第29回	実習の総括⑤ ・クラス内実習報告会	発表内容を振り返る
第30回	全体実習報告会	発表原稿・資料等を準備する

■履修上の注意

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得ができないこと(公欠を含む)。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。
- ③相談援助実習を行うに当たっては、「相談援助実習指導Ⅰ」、「相談援助実習指導Ⅱ」の履修が前提となること。
- ④5月に行う予定の「相談援助実習資格履修試験」に合格しない場合は単位取得ができないこと。

■評価方法

試験又はレポート(30%)、授業の出欠席(30%)、受講態度(10%)、提出物の提出状況及び内容(20%)、実習先の実習評価(10%)を総合して評価する。

■教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版 2009年 「実習へのガイドブック(学生用)」群馬医療福祉大学出版

■参考書

社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談援助の基盤と専門職			担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解する。ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解する。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知る。その後、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに確認する。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	課題用紙(予習)、授業まとめ
第2回	第1章 社会福祉士の役割と意義①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第3回	第1章 社会福祉士の役割と意義②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第4回	第2章 相談援助の定義と構成要素①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第5回	第2章 相談援助の定義と構成要素②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第6回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第7回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ② 第4章 相談援助の形成過程Ⅱ①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第8回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第9回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ③	課題用紙(予習)、授業まとめ
第10回	第5章 相談援助の理念Ⅰ①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第11回	第5章 相談援助の理念Ⅰ②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第12回	第6章 相談援助の理念Ⅱ①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第13回	第6章 相談援助の理念Ⅱ②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第14回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第15回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ②	課題用紙(予習)、授業まとめ

■履修上の注意

毎時間、予習として課題用紙への記入を課している。課題用紙には、次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ記述する。また、毎時間、授業ノートを提出すること。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。これらは、当然、評価の対象となる。さらに、毎時間小テストを行なう。

■評価方法

定期試験70%、授業ノート・小テスト15%、出欠状況・授業態度15%とする。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
②山縣文治、柏女霊峰編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）（最新版）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	相談援助の基盤と専門職			担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解する。ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解する。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知る。その後、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに確認する。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第17回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第18回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像③	課題用紙(予習)、授業まとめ
第19回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第20回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第21回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論③	課題用紙(予習)、授業まとめ
第22回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第23回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第24回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲③	課題用紙(予習)、授業まとめ
第25回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲④	課題用紙(予習)、授業まとめ
第26回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①	課題用紙(予習)、授業まとめ
第27回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②	課題用紙(予習)、授業まとめ
第28回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③	課題用紙(予習)、授業まとめ
第29回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④	課題用紙(予習)、授業まとめ
第30回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑤	課題用紙(予習)、授業まとめ

■履修上の注意

毎時間、予習として課題用紙への記入を課している。課題用紙には、次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ記述する。また、毎時間、授業ノートを提出すること。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。これらは、当然、評価の対象となる。さらに、毎時間小テストを行なう。

■評価方法

定期試験70%、授業ノート・小テスト15%、出欠状況・授業態度15%とする。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
 ②山縣文治、柏女霊峰編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）（最新版）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	中村 雪江	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

個人・家族・小集団・組織・地域社会といったクライアント・システムの問題に、的確に対応するため、ソーシャルワーカーに必要な知識や技術をさまざまな実践事例の検討やロールプレイなどを通して「実践能力」のあるソーシャルワーカーとして機能することができることを目標とする。

■授業の概要

ソーシャルワーカーを統一し理論的にとらえ、その教育を進めていくという教科書を中心に理論や技術について理解を深めるとともに、具体的な事例等を通して社会生活機能を高め、質の高い生活を目指すことを目標に現場で役立つ技術と感性を身につけたソーシャルワーカーを育成する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	1章 オリエンテーション : シラバスの説明・授業の進め方	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第2回	1章 仕事からとらえたソーシャルワークの定義と役割	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第3回	1章 ソーシャルワークを構成する要素	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第4回	1章 ソーシャルワークの職場および所属する組織	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第5回	2章 ソーシャルワークの構造と機能 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第6回	2章 構造・ニーズ・機能・機能から出されるワーカーの役割	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第7回	3章 人と環境の相互作用=システム理論からの視点	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第8回	4章 相談援助における援助関係の意義	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第9回	4章 援助関係の質と自己覚知 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第10回	4章 援助関係とミクロからマクロ実践領域	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第11回	5章 相談援助の展開過程Ⅰ	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第12回	5章 ニーズ把握・アセスメント・プランニング・支援の実施	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第13回	6章 相談援助の展開過程Ⅱ 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第14回	6章 経過観察・再アセスメント・支援の強化・支援の終結	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第15回	7章 相談援助のためのアウトリーチの技術 (定期試験)	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出

■履修上の注意

- 1) 教科書を熟読する
- 2) 復習課題は1章ごとにしっかり書く
- 3) 実践力をつけるための事例検討には、積極的な姿勢で望む
- 4) 必修科目なので欠席しないように

■評価方法

平常点(10%) 復習課題(20%) 定期試験(70%)等を総合的に評価する

■教科書

相談援助の理論と方法Ⅰ 編集 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

■参考書

必要に応じて適宜紹介する

科目名	相談援助の理論と方法 I (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	中村 雪江	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ソーシャルワーカーは、クライアントの相談に応じ、助言・指導・連絡・調整などの援助を行う。理論の具体的な方法、具体的な事例などをどのように深めることができるかを目標とする。

■授業の概要

ソーシャルワーカーは、マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベルなりに技術を駆使して、クライアントや家族、地域の住民たちと援助関係を形成し、実践を行う。ソーシャルワーカーは、助言的役割・資源管理的役割・教育的役割等をソーシャルワークとし、業務としてはマイクロ・メゾ・マクロソーシャルワークをソーシャルワーカーの役割としてどのように果たすのか等について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	8章 相談援助のための契約の技術	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第17回	8章 契約の目的・方法と留意点 過去問題等の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第18回	9章 相談援助のためのアセスメントの特性・援助関係	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第19回	9章 アセスメントの際の留意点と16項目の情報	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第20回	9章 アセスメント面接で得た情報の使い方 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第21回	10章 介入の意義と目的・方法と留意点 過去問題等の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第22回	11章 経過観察・再アセスメント・効果測定・評価の技術	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第23回	12章 相談援助における面接の目的・展開・ロールプレイング	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第24回	12章 相談援助における面接の目的・展開	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第25回	12章 面接に用いる技術とコミュニケーション・カウンセリング	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第26回	13章 記録の意義と活用目的・種類と活用 過去問題のテスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第27回	13章 記録の方法とIT化・記録の技術の実例	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第28回	13章 スーパービジョン・ケースカンファレンス等の記録	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第29回	14章 交渉の意義と目的・交渉の方法と留意点 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第30回	14章 プレゼンテーションの技術 (定期試験)	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出

■履修上の注意

- 1) 教科書を熟読する
- 2) 復習課題は1章ごとにしっかり書く
- 3) 実践力をつけるための事例検討には、積極的な姿勢で望む
- 4) 必修科目なので欠席しないように

■評価方法

平常点(10%) 復習課題(20%) 定期試験(70%)等を総合的に評価する

■教科書

相談援助の理論と方法 I 編集 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

■参考書

必要に応じて適宜紹介する

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	中村 雪江	単位数	4
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ソーシャルワーカーとして専門知識・技術を実践的に学び、実践現場で有効かつ適切に活用できるよう対人援助のエキスパートとして機能できることを目標とする

■授業の概要

社会福祉実践現場で適切に援助技術を駆使できるよう概念・構造・目的・機能・過程・役割・評価のあり方等、理論と技術全般について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	1章 オリエンテーション：シラバスの説明・授業の進め方	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第2回	1章 相談援助における対象と理解・対象をどうとらえるか	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第3回	2章 ケースマネジメントの目的・構成要素・過程	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第4回	2章 ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第5回	2章 ケアプランの作成・実施・実践事例の考察	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第6回	3章 グループを活用した相談援助	過去問題の確認テスト 教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第7回	3章 自助グループを活用した相談援助	過去問題の確認テスト 教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第8回	4章 コーディネーションの目的と意義・方法・技術	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第9回	4章 ネットワーキングの意義と目的・方法	過去問題の確認テスト 教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第10回	4章 地域福祉推進のためのネットワーク・システム化	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第11回	5章 社会資源の活用・調整・開発の意義・目的・方法	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第12回	5章 ソーシャルアクションによるシステムづくり	過去問題の確認テスト 教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第13回	6章 実践モデル・治療・生活・ストレスモデル	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第14回	6章 ジェネラリスト・心理社会・機能的・問題解決	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第15回	アプローチは、事例検討により実践モデル理解	定期試験 教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出

■履修上の注意

- 1) 教科書を熟読する
- 2) 復習課題はしっかり書く
- 3) 実践力をつけるための事例検討には、積極的な姿勢で望む
- 4) 必修科目なので欠席しないように

■評価方法

平常点(10%) 復習課題(20%) 定期試験(70%)等を総合的に評価する

■教科書

相談援助の理論と方法Ⅱ 編集 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

■参考書

必要に応じて適宜紹介する

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	中村 雪江	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

各理論と具体的実践とを結びつけることができるようになり、小集団・組織や地域社会を対象とする仕事にも広がりを持つようにならなければならない。各理論を駆使でき、実践に役立つようにすることを目標にしたい。

■授業の概要

アプローチは多様化する傾向にあり、それぞれの特徴や強み限界等を理解し、クライアントの社会的抑圧の根絶を意図した社会変革も求められる。クライアントの社会的機能を高めていくことが必要となる。ソーシャルワーカーとして理論を踏まえて介入することができるように事例検討等で学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	7章 課題中心・危機介入・行動変容アプローチ 事例検討	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第17回	8章 エンパワメント・ナラティブアプローチ 事例検討	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第18回	8章 実存主義・フェミニストアプローチ 事例検討	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第19回	8章 解決志向アプローチ 事例検討 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第20回	9章 スーパービジョンの意義と目的・方法と留意点	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第21回	9章 コンサルテーションの意義・コンサルテーションとは	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第22回	10章 ケースカンファレンスの意義と目的・運営と過程	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第23回	10章 ケースカンファレンスの実際：事例検討の過程	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第24回	10章 ケースカンファレンスの評価と普遍化	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第25回	11章 個人情報の保護・情報通信技術（ICT）の活用	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第26回	12章 事例研究の目的と意義・方法と留意点 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第27回	13章 事例分析の目的と意義・方法と留意点 過去問題の確認テスト	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第28回	14章 児童虐待が疑われた事例・（DV）の事例・事例検討	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第29回	14章 ホームレスの人への相談援助事例・事例検討	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出
第30回	14章 認知症夫婦を支えた事例・事例検討 定期試験	教科書の熟読・復習課題を渡し翌週提出

■履修上の注意

- 1) 教科書を熟読する
- 2) 復習課題はしっかり書く
- 3) 実践力をつけるための事例検討には、積極的な姿勢で望む
- 4) 必修科目なので欠席しないように

■評価方法

平常点（10％）復習課題（20％）定期試験（70％）等を総合的に評価する

■教科書

相談援助の理論と方法Ⅱ 編集 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

■参考書

必要に応じて適宜紹介する

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	高瀬 智津子	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

「相談援助の定義と役割・意義目的」「相談援助の概念と範囲・理念」「相談援助における人と環境との交互作用の理解」「相談援助過程とそれに係る知識と技術―援助関係・面接技術」等の基礎知識の習得を確実にし、相談援助の理論と方法が福祉援助活動の現場において応用活用できる社会福祉士を期待する。

■授業の概要

社会福祉士は、身体上または精神上的の障害があること又は環境上の理由で日常生活に支障がある者の福祉の相談にクライアントのストレングスを基本に助言、指導、福祉サービスを提供する専門職である。その際留意すべきことは、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムとして包括的にとらえることと、同時に他職種と連携した援助活動であることの大切さを理解することである。

■授業計画

	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	本科目の目的。授業の展開方法、レポート提出
第2回	ソーシャルワークとは何か ―ソーシャルワーカーの役割	定義と枠組み。教科書事例(p.2)
第3回	ソーシャルワークを構成する要素	目的、方法、技能、知識、価値
第4回	ソーシャルワークの職場 ―仕事の分類	教科書の図(p.20)から学習
第5回	ソーシャルワークの構造	人と環境との関係、社会資源、ソーシャルワーク・ニーズ(p.38)
第6回	ソーシャルワークの過程からとらえた機能・役割	教科書の図2-4(p.44)から学習
第7回	人と環境の交互作用 ―一人にとっての環境の意味	システム論的パースペクティブ
第8回	相談援助における援助関係の意義	教科書事例学習(p.69-71)、環境のミクロ・メゾ・マクロ
第9回	援助関係の形成プロセスに影響する要因	援助原則・技法・自己覚知
第10回	援助関係とミクロからマクロ実践領域	生活保護事例学習―国試より
第11回	相談援助の展開過程Ⅰ	ケースの発見、インテーク、ニーズ確定。国試事例学習
第12回	援助過程におけるアセスメント、援助計画・実施	教科書事例学習1-3(p.119)
第13回	相談援助の展開過程Ⅱ ―支援計画実施後について	モニタリング、再評価、グループ、事例学習1-8(p.134)、1-9(p.138)
第14回	ソーシャルワークの援助過程について	グループによる国試事例学習
第15回	講義に対する質疑応答。テストに対する質問及び形式	テストの説明・準備、国試関係

■履修上の注意

遅刻・私語厳禁、前期・後期とも5日以上欠席した場合は受験不可。予習として教科書の読むべき範囲を事前に指定し、授業前にその内容を学生に確認し、社会福祉士国試と関連付け説明する。本教科ではコミュニケーション重視のため板書は最小限とする。講義の中で、重要な点は指摘するので、主体的に自分でノートは工夫して書くことを期待する。

■評価方法

授業中の態度、出欠席の状況、レポート、小テスト、定期試験の結果を総合し評価する。
[大体の目安] 試験結果(70%)、レポート提出(10%)、平常点―出席、授業への積極的参加、毎回行う豆テスト(20%)

■教科書

新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版 第2版 2010

■参考書

阿部志郎著『福祉の哲学』改訂版 誠信書房 2010 岡本民夫、平塚良子編著『新しいソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2010

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	高瀬 智津子	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

「相談援助における人と環境との相互作用の理解」「相談援助過程とそれに係る知識と技術―援助・面接技術」の基礎知識の前期の学習効果を基本に相談援助の理論と方法が他職種との連携を視野に入れ、福祉現場の援助活動にどの様に具体化されるかを多くの事例から習得する。

■授業の概要

前期では社会福祉士は相談援助の専門職であることを学習した。その際留意すべきこととして、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムとして包括的にとらえ、他職種と連携した援助活動であることの重要性を指摘した。後期では事例を活用してクライアント・システムについて個人、小集団、組織や地域社会を対象とすることを学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	相談援助のためのアウトリーチの意義と目的、方法	アウトリーチを必要とする人の理解、教科書事例学習
第17回	相談援助のための契約の技術	目的、意義：方法（事例学習）
第18回	相談援助のためのアセスメントの技術、特性、援助関係	教科書事例学習
第19回	アセスメント面接で得た情報の使い方	支援計画、方針、内容の説明と同意
第20回	相談援助のための介入の技術	意義と目的、方法と留意点、教科書事例学習
第21回	相談援助のための経過観察（モニタリング）	再アセスメント、効果測定、評価技術
第22回	モニタリングの手続きについて	教科書事例学習、モニタリング対象の明確化
第23回	再アセスメントの手続と援助の方法	支援の終結と効果測定、アフターケア
第24回	有効性の検証としての効果測定	復習―評価とサービス開発
第25回	相談援助のための面接技術	目的、契約と面接の展開、小グループによる教科書及び国試事例学習
第26回	面接におけるコミュニケーション技術	相談援助における面接形態、教科書事例学習
第27回	相談援助のための記録技術、記録方法とIT化	倫理的配慮、相談援助と個人情報保護
第28回	記録の技術の実際例と今後の課題	小グループによる国試事例学習
第29回	相談援助のための交渉の技術、意義・目的	コミュニケーション・エンパワメント技術、小グループ国試事例研究
第30回	後期を振り返っての質疑応答	テストについての説明、授業についての評価

■履修上の注意

本講義では遅刻、私語厳禁、前期・後期とも5日以上欠席した場合は受験不可。予習として教科書の読むべき範囲を事前に指定。授業前にその内容を学生に確認し社会福祉士国試と関連付け説明する。多くの国家試験の事例を活用するが、本教科は4年制大学における社会福祉の基礎知識であり、必ずしも社会福祉士取得者だけの教科ではない。板書は最小限とする。講義の中で、重要な点は指摘するので主体的に自分でノートを工夫して書くことを期待する。

■評価方法

授業中の態度、出欠席の状況（遅刻3回を欠席1回とする）レポート、小テスト、定期試験の結果を総合し評価する。
[大体の目安]試験結果（70%）、レポート提出（10%）、平常点―出席、積極的授業参加、毎回の豆テスト（20%）

■教科書

新・社会福祉士要請講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版 第2版 2010

■参考書

岡本民夫、平塚良子編著『新しいソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2010

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	高瀬 智津子	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「ケースマネジメントとケアマネジメント」「アウトリーチ」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」「相談援助における他職種・他機関との連携・ネットワーキング」「集団を活用した援助」「スーパービジョン」「相談援助と個人情報の保護」「事例分析」等を学習することにより多様な実践モデル・アプローチを実践援助活動に応用可能な社会福祉士を期待する。

■授業の概要

当科目における相談援助とは身体上または精神上の障害があること又は環境上の障害により日常生活に支障がある者に対する福祉相談である。援助過程では、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムとして全体的に理解することが重要である。本授業では、クライアントの生活課題解決、社会的機能改善のため多様な実践モデル・アプローチを学習し、実践現場でその理論と方法を具現化できるソーシャルワーカーを育成することである。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	二年次の本教科の重要ポイント
第2回	相談援助における対象の理解	システム理論による視点、相談援助の対象の概念と範囲
第3回	ケースマネジメントの目的	利用者の社会生活上のニーズ充足
第4回	ケースマネジメントとケアマネジメントの構成要素	コミュニティ・ケアとの関係、事例学習
第5回	ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴・方法	ケアプランの重要性
第6回	相談援助の過程と介護保険法によるサービス	グループ事例学習、介護予防サービス計画、居宅サービス計画
第7回	コーディネーションとネットワーキング：意義、目的、方法	多職種、多機関との連携、教科書事例学習
第8回	集団を活用した相談援助の意義、目的、留意点	グループダイナミックス、教科書事例学習
第9回	ネットワーキングの意義、目的、方法	家族、近隣、サービス提供者間のネットワーキング
第10回	地域福祉推進のための総合的なネットワーク形成、実践現場事例	ネットワーキングと地域福祉のシステム化
第11回	社会資源の活用・調整・開発の意義	ソーシャルワーク実践と社会資源
第12回	相談援助の実際、権利擁護活動	社会的排除、事例、教科書p.284、ホームレス、p.293
第13回	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	実践モデルの意味、教科書事例学習
第14回	三つの実践モデル（治療・生活・ストレスモデル）	実践モデル相互の関係
第15回	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル、講義に対する質疑応答	教科書事例学習、テストの説明。準備

■履修上の注意

遅刻・私語厳禁、前期・後期とも5日以上欠席した場合は受験不可。教科書の読むべき範囲を事前に指定するので必ず予習してくること。予習内容については社会福祉士国試と関連付け説明する。本講義は4年制大学における社会福祉の基礎知識であり、必ずしも社会福祉士取得者のための教科でない。本教科は人と人とのコミュニケーションを重視するため、重要な点は講義中または教科書で指摘するので自分で何を筆記すべきか自己決定した上でノートは書く。

■評価方法

授業中の態度、出欠席の状況（遅刻3回を欠席1回とする）、レポート、小テスト、定期試験の結果を総合し評価する。
[大体の目安] 試験結果（70%）、レポート提出（10%）、平常点（出席、積極的授業参加、毎回の豆テスト（20%））

■教科書

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 第2版 2010

■参考書

Z. I. プトゥリム、川田誉音訳『ソーシャルワークとは何か-その本質と機能』川島書店 1986；
岡本民夫・平塚良子編著『新しいソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2010

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	高瀬 智津子	単位数	4
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	選択
					一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

後期では前期で学習した相談援助の方法・理論を基本に「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」「相談援助における他職種・他機関との連携」等、教科書をベースに国試問題、事例等についてグループ学習、発表する。その結果、学生は自分の考え意見に理論的根拠が不可欠であることを習得し、多様な実践モデル・アプローチを実践援助活動に応用可能なソーシャルワーカーとして成長する。

■授業の概要

相談援助過程では、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムとして全体的に理解し実践現場で応用可能なソーシャルワーカーを育成することである。本授業では、クライアントの生活課題解決、社会的機能改善のため多様な実践モデル・アプローチを学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ	社会福祉士にとってクライアントの個別・特殊の生活課題に対応
第17回	心理社会的アプローチ	起源と基盤理論
第18回	心理社会的アプローチ(対象適用課題)	視点・焦点、基本文献
第19回	機能的アプローチ	起源と基盤理論、支援展開
第20回	問題解決アプローチ	起源と基盤理論、適用対象、支援展開
第21回	課題中心アプローチの支援展開	起源と基盤理論、適用対象、課題
第22回	危機介入アプローチの支援展開、行動変容アプローチの支援展開	起源と基盤理論、適用対象、事例学習
第23回	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ、エンパワメント、ナラティブ、その他	実存主義、フェミニスト解決思考
第24回	スーパービジョンの意義と目的	国試事例学習、グループ討議による話し合い
第25回	コンサルテーションの意義と目的	国試事例学習、グループ討議による話し合い
第26回	スーパービジョンとコンサルテーション	事例学習を通してその違いを学ぶ
第27回	ケースカンファレンスの目的、技術と実際	教科書の事例学習、対象事例の要因・原因を明らかにする
第28回	ケースカンファレンスの実際・過程	評価と普遍化
第29回	相談援助における個人情報の保護	個人情報保護法の運用
第30回	相談援助の実際—教科書の事例分析・児童虐待	テストの準備、質疑応答

■履修上の注意

遅刻・私語厳禁、前期、後期とも5日以上欠席した場合は受験不可。教科書の読むべき範囲を事前に指定するので必ず予習してくる。予習内容については授業の開始前に質問し、理解度を確認する。本教科は学生と教師とのコミュニケーションを大切にしたいので、板書は最小限にする。講義の中で重要な点は指摘するので自立的に自分でノートは工夫して書くことを期待する。

■評価方法

授業中の態度、出欠席の状況(遅刻3回を欠席1回とする)、レポート、小テスト、定期試験の結果を総合し評価する。
[大体の目安] 試験結果(70%)、レポート提出(10%)、平常点(出席、授業への積極的参加、毎回の豆テスト(20%))

■教科書

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法』中央法規出版 第2版 2010

■参考書

Z.I. プトゥリム、川田誉音訳『ソーシャルワークとは何か—その本質と機能』川島書店 1986;
岡本民夫、平塚良子編著『新しいソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2010

科目名	乳児保育I（演習）			担当教員 （単位認定者）	今年度は 開講せず	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

乳児とは何か、その特徴及び母体との関係等を考えながら、養護と教育の根幹である乳児保育の概念や意義を明らかにし、乳幼児にかかわる職に就くことへの意欲を増す。

■授業の概要

予習・復習の効果を利用した教員の話や写真・模型、乳児専門保育所見学等により、初歩的・具体的な乳児保育技術や配慮法を身に付ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	○ 講義を始めるに当たって 1 保育士資格と11講義の内容 2 乳児保育の最新情報（毎回）	本講義の内容認識。関連情報への関心喚起
第2回	I 出産と母性、新生児 1 不妊及び出産前後の不安、母性	出産前後のうつの実情及び母性本能の継続時間の認識
第3回	2 生命の誕生及びヒトの特徴 3 誕生祝い（各月）	乳児と原始人との共通点及び自分出生の感謝の気持ち喚起
第4回	4 乳児について5 新生児（法の規定）とその原始反射	「児童福祉法」や「母子保健法」による規定と保育現場の捉えの違い新生児の不思議な現象認識
第5回	II 乳児の特徴 1 成長・発達・発育の定義及び計測法	15の健康診査でも再認識
第6回	2 内臓及び脳神経の発達、栄養法	同上及び先天性異常児について発表
第7回	III 乳児期の心身の発達と保育 1 各時期の心身の発達と保育	〃
第8回	2 新生児（1か月未満児）と	新米ママの悩みと保育士の任務との関連認識
第9回	3 1か月から3か月未満児	〃
第10回	4 3か月から8か月未満児	〃
第11回	5 8か月から12か月・3歳未満児	〃
第12回	IV 乳幼児の事故や病気 1 健康管理の意義	施設・保育所実習にも役立つ認識
第13回	2 事故とその対策・予防・事故	〃
第14回	3 病気の主要症状と養護のポイント	〃
第15回	4 予防接種と健康診査	5と合わせて認識

■履修上の注意

児童福祉専攻 保育士受験資格取得のための必修科目である。授業には積極的に参加すること。授業態度を重視し、積極的発言を賞賛するほか、例えば、理由なき遅刻や注意しても伏せ寝等を30分近くしていた場合、3日間で1欠席とする。

■評価方法

筆記試験・アンケートを含むミニレポート・おもちゃ製作（60%）や態度・出席日数（40%）から総合的に評価する。

■教科書

「最新版 育児大百科」ベネッセコーポレーション2009 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル社2008（未所持学生）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	乳児保育I（演習）			担当教員 （単位認定者）	今年度は 開講せず	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照		

■授業の到達目標・期待される学習効果

乳児とは何か、その特徴及び母体との関係等を考えながら、養護と教育の根幹である乳児保育の概念や意義を明らかにし、乳幼児にかかわる職に就くことへの意欲を増す。

■授業の概要

予習・復習の効果を利用した教員の話や写真・模型、乳児専門保育所見学等により、初歩的・具体的な乳児保育技術や配慮法を身に付ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	V 望ましい乳児の生活と環境、養護の及び 教育的配慮とは -市内めぐみ保育園見学-	5と合わせて認識
第17回	VI 乳児委託制度の歴史と現状、 他国の動向	4から、これまでをふりかえって再認識
第18回	1 児童福祉法及び保育所保育指針における乳児保育	〃
第19回	2 認可施設と無認可施設の現状	東京都の例を挙げての実情認識
第20回	VII 保育園における保育 1 保育園の生活の特徴 2 保育園の計画と実際	12から、これまで、及び、特にVIIと合わせて認識
第21回	3 教材の工夫-絵本等紹介（毎回）	〃
第22回	VIII 乳児院における保育 1 乳児院の生活の特徴	12から、これまで、及び、特にVIIと合わせて認識
第23回	2 乳児院の計画と実際	〃
第24回	3 おもちゃ作り	同乳児用は当然ながら、実習が近い施設での活用も可とする柔軟性のある認識
第25回	4 おもちゃ仕上げ・発表・製作物とレポート提出	個人差に応じてもらいながらも、揃って発表使用とする心情・意欲・態度喚起
第26回	IX 他機関との連携及び子育て支援策	各市町村の対応・現状認識
第27回	X 国内外の実情からの「子どもの権利条約」について	グローバルな子ども保護の立ち場と国内の共通点の認識
第28回	同上 -感想発表-	その条約が気になるか表明
第29回	XI 保育士資格試験における過去問	特に基本知識把握及び記述の基本の大切さの認識
第30回	O 総まとめ	同上及び精神衛生担当教員から（「避妊等」）の伝達事項の認識

■履修上の注意

児童福祉専攻 保育士受験資格取得のための必修科目である。授業には積極的に参加すること。授業態度を重視し、積極的発言を賞賛するほか、例えば、理由なき遅刻や注意しても伏せ寝等を30分近くしていた場合、3日間で1欠席とする。

■評価方法

筆記試験・アンケートを含むミニレポート・おもちゃ製作（60%）や態度・出席日数（40%）から総合的に評価する。

■教科書

「最新版 育児大百科」ベネッセコーポレーション2009 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル社2008（未所持学生）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	発達心理学 a			担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持つてみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解することを目標とする。

■授業の概要

子どもが大人へと成長する発達の变化的過程を理解し、出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の变化的過程をさまざまな角度から学習する。また、現代の高齢社会を鑑み成人期以降の発達についても学習を進める。この授業では人間の発達や行動の変化を乳幼児期から老年期までを、トピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーションー生涯発達心理学とは	教科書を学習すること
第2回	生命の誕生	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	人間の潜在能力	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	発達を規定する要因	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	発達の原理・発達心理学の研究手法	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第6回	発達段階の区分・発達課題	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	乳児期の発達①身体機能の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第8回	乳児期の発達②認知的発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	愛着について	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第10回	幼児期の発達①身体機能の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第11回	幼児期の発達②幼児期の認知発達・ピアジェの理論	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	幼児期の発達③社会性の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	児童期の発達①身体機能の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	児童期の発達②社会的側面・認知的側面から見た発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	前期総括	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■評価方法

- ①平常点（出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等）（40%）②学期末試験（60%）
①～②を総合的に評価する。

■教科書

無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 編『よくわかる発達心理学 第2版』ミネルヴァ書房 2004年

■参考書

矢野喜夫 落合正行 共著『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年

科目名	発達心理学 a		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持つてみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解することを目標とする。

■授業の概要

子どもが大人へと成長する発達の变化の過程を理解し、出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の变化の過程をさまざまな角度から学習する。また、現代の高齢社会を鑑み成人期以降の発達についても学習を進める。この授業では人間の発達や行動の変化を乳幼児期から老年期までを、トピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	思春期の発達①身体的特徴	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第17回	思春期の発達②心理的特徴、生じやすい問題	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第18回	青年期(成人初期)の発達①アイデンティティ	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第19回	青年期(成人初期)の発達②キャリア発達	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第20回	青年期・成人期の発達①恋愛・結婚における心理学的意義	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第21回	青年期・成人期の発達②親になること	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第22回	青年期・成人期の発達③親子関係の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第23回	青年期・成人期の発達④父親の役割	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第24回	青年期・成人期の発達⑤さまざまな家族の問題について	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第25回	中年期の発達①心理的危機を考える	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第26回	中年期の発達②社会的側面と身体的側面	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第27回	高齢期の発達①身体的側面	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第28回	高齢期の発達②認知的側面	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第29回	高齢期の発達③高齢者を理解するために	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合
第30回	後期総括	前回授業の復習・テキストと各自のノート の照合

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■評価方法

- ①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%) ②学期末試験(60%)
①～②を総合的に評価する。

■教科書

無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 編『よくわかる発達心理学 第2版』ミネルヴァ書房 2004年

■参考書

矢野喜夫 落合正行 共著『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年

科目名	福祉科教育法			担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高校教育課程に専門教育に関する教科「福祉」が設けられた。そこでこの教科「福祉」の学習を通して教員採用試験に対処できる実力をつけることを目標とする。

■授業の概要

学習指導要領についての理解を深めながら、高校生に対し①社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させること②社会福祉の理念と意義を理解させること③社会福祉に関する諸問題を主体的に解決し社会福祉の増進に関する諸問題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てることを目的とし、いかに指導し授業を展開していくべきかに焦点をあて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	高校福祉科の設置経緯とねらい1	教科書を学習する事
第2回	高校福祉科の設置経緯とねらい2	〃
第3回	高校生への理解と子ども・青年の発達の歪み	〃
第4回	子ども・青年の「孤独」とある教室の光景から	〃
第5回	増加するフリーターと高校における問題対策	〃
第6回	携帯コミュニケーションと「社会」	〃
第7回	「自分を生きる」授業実践	〃
第8回	社会福祉従事者と福祉科卒業生と大学教育	〃
第9回	実践家としての自己研鑽と研修の必要性	〃
第10回	奉仕活動かボランティア活動か	〃
第11回	「新しい義務観」と学習権と教養教育	〃
第12回	「総合的な学習の時間」をめぐって	〃
第13回	学校外の社会福祉資源の活用法・連携法(1)	〃
第14回	学校外の社会福祉資源の活用法・連携法(2)	〃
第15回	諸外国の福祉教育実践(1)	〃

■履修上の注意

講義中、私語や受講態度が悪く注意の上、退席させた場合、総評価100%のうち30%を取り消す。

■評価方法

定期試験85%、出席状況15%、計100%の比率で評価する。

■教科書

大橋謙策・編集代表 「福祉科指導法入門」 中央法規発行 高等学校・学習指導要領(平成21年3月告示)文部科学省東山書房発行

■参考書

社会福祉小六法 2010年版 (株)みらい発行

科目名	福祉科教育法			担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高校教育課程に専門教育に関する教科「福祉」が設けられた。そこでこの教科「福祉」の学習を通して教員採用試験に対処できる実力をつけることを目標とする。

■授業の概要

学習指導要領についての理解を深めながら、高校生に対し①社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させること②社会福祉の理念と意義を理解させること③社会福祉に関する諸問題を主体的に解決し社会福祉の増進に関する諸問題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てることを目的とし、いかに指導し授業を展開していくべきかに焦点をあて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	諸外国の福祉教育実践(2)	教科書を学習する事
第17回	教育基本法と学校教育法	〃
第18回	学校教育法施行規則と高等学校指導要領	〃
第19回	「福祉」の関係科目(第1～第9)	〃
第20回	具体的な授業展開	〃
第21回	第1.「社会福祉基礎」	〃
第22回	第2.「介護福祉基礎」	〃
第23回	第3. コミュニケーション技術	〃
第24回	第4.「生活支援技術」	〃
第25回	第5.「介護過程」	〃
第26回	第6.「介護総合演習」	〃
第27回	第7.「介護実習」	〃
第28回	第8.「こころとからだの理解」	〃
第29回	第9.「福祉情報活用」	〃
第30回	講義の「総括」	〃

■履修上の注意

講義中、私語や受講態度が悪く注意の上、退席させた場合、総評価100%のうち30%を取り消す。

■評価方法

定期試験85%、出席状況15%、計100%の比率で評価する。

■教科書

大橋謙策・編集代表 「福祉科指導法入門」 中央法規発行 高等学校・学習指導要領(平成21年3月告示)文部科学省東山書房発行

■参考書

社会福祉小六法 2010年版 (株)みらい発行

科目名	福祉サービスの組織と経営 (社会福祉施設経営論)		担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学の基及び最新の経営理論も学ぶことができ、社会福祉施設の経営状況が判断できるようにする。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えてオリジナルの経営学等の基礎理解のためのレジュメを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。古典的経営学からコトラ一等まで初心者でも理解できるように講義を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストを読んでおく。
第2回	経営学と企業の特徴	経営学とは何か理解する。企業の分類を理解する。
第3回	経営理論の流れ1 経営学の発生	経営学の歴史的展開を理解する。
第4回	経営理論の流れ2 古典理論	テイラーシステムを調べ、理解する。
第5回	経営理論の流れ3 古典から現代理論へ	さまざまな経営理論を調べ理解する。
第6回	経営理論の流れ4 ドラッカー、コトラ一等	コトラ一等の理論を調べ理解する。
第7回	福祉サービスにおける組織・経営	福祉サービスの特徴を理解する。
第8回	社会福祉法人	社会福祉法人の特徴を理解する。
第9回	法人とは。	法人の種類と特徴を理解する。
第10回	特定非営利活動法人	NPOの特徴を理解する。
第11回	戦略	さまざまな戦略理論を理解する。
第12回	事業計画	事業計画の流れを理解する。
第13回	組織論	理想的な組織について理解する。
第14回	管理運営の基礎理論	管理運営に必要な基礎理論を理解する。
第15回	まとめ	前期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

簿記会計額や経営学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。必要に応じて理解補助の資料のプリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を80%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	福祉サービスの組織と経営 (社会福祉施設経営論)		担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学の基及び最新の経営理論も学ぶことができ、社会福祉施設の経営状況が判断できるようにする。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えてオリジナルの経営学等の基礎理解のためのレジュメを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。古典的経営学からコトラー等まで初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	リーダーシップ	多様なリーダーシップ論を理解する。
第17回	サービスマネジメント	サービスマネジメントについて理解する。
第18回	サービスの質の評価	第三者評価などの質の評価を理解する。
第19回	苦情対応とリスクマネジメント	クレーマー対策など危機管理を理解する。
第20回	人事・労務管理の基礎	人事労務管理に必要な基礎知識を学ぶ。
第21回	労働法1労働基準法	労働基準法について理解する。
第22回	労働法2労災法	労災法について理解する。
第23回	労働法3雇用保険法	雇用保険法について理解する。
第24回	人事労務管理	実際の人事労務管理を学ぶ。
第25回	人材育成	多様な人材育成法を学ぶ。
第26回	簿記会計の基礎	簿記会計の基礎的な仕組みを学ぶ。
第27回	簿記会計の基礎	簿記会計の基礎的な仕組みを学ぶ。
第28回	会計管理と財務管理	財務諸表の読み方を理解する。
第29回	情報管理	情報管理の実際と常用性を理解する。
第30回	まとめ	後期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

簿記会計額や経営学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。必要に応じて理解補助の資料のプリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を80%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	保育原理Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	4
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・保育に関する基本原理を理解し、保育者として必要な基礎的な知識の習得を目指す。

■授業の概要

保育の思想、歴史、制度等について基礎的事項を学習する。保育の方法、評価等について基礎的事項を学習する。家庭や地域社会での子育ての問題等にふれ、今日の保育の問題を捉える。加えて、講義の中で採用試験対策も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	講義概要について把握する
第2回	保育とは何か ～保育の専門性とは何か～	保育の専門性とは何か復習する
第3回	保育の場について知る①保育・教育施設における保育	保育・教育施設について予習しておくこと
第4回	保育の場について知る②求められる多様な保育の場とその背景	多様な保育の場とはなにか理解する
第5回	保育の思想・歴史を学ぶ①西洋における保育の歴史①	西洋における保育の歴史について復習する
第6回	保育の思想・歴史を学ぶ①西洋における保育の歴史②	西洋における保育の歴史について復習する
第7回	保育の思想・歴史を学ぶ③レッジョ・エミリア市の保育実践(ビデオ視聴)	レッジョ・エミリア氏の保育実践の長所・短所について考える
第8回	保育の思想・歴史を学ぶ④日本における保育の歴史①	日本における保育の歴史について復習する
第9回	保育の思想・歴史を学ぶ⑤日本における保育の歴史②	日本における保育の歴史について復習する
第10回	保育の思想・歴史を学ぶ⑥日本における保育の歴史③	日本における保育の歴史について復習する
第11回	保育をどのように考え、進めるべきか①保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方①	保育所保育指針を読んでおく事
第12回	保育をどのように考え、進めるべきか②保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方②	保育所保育指針にある保育原理について理解する
第13回	保育をどのように考え、進めるべきか③子どもを理解する①	子どもの発達について理解する
第14回	保育をどのように考え、進めるべきか④子どもを理解する②	子どもの発達について理解する
第15回	保育をどのように考え、進めるべきか⑤保育者自身の保育観を考える	自身の保育観とは何か考えよう

■履修上の注意

保育についていつも関心をもっておくこと。保育士資格取得を希望する学生はすべてに出席すること。予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。新聞、ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと

■評価方法

・①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(30%)②期末試験(テストまたはレポート)(70%) ・①、②を総合的に評価する

■教科書

三宅茂夫編「新・保育原理 第2版」(株)みらい、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	保育原理Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・保育に関する基本原理を理解し、保育者として必要な基礎的な知識の習得を目指す。

■授業の概要

保育の思想、歴史、制度等について基礎的事項を学習する。保育の方法、評価等について基礎的事項を学習する。家庭や地域社会での子育ての問題等にふれ、今日の保育の問題を捉える。加えて、講義の中で採用試験対策も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	保育所保育の内容を学ぶ①保育所保育の内容について	保育所保育とはなにかを理解する
第17回	保育所保育の内容を学ぶ②幼稚園教育要領とのかかわり	保育所と幼稚園の違い等について理解する
第18回	保育課程・教育課程を学ぶ①計画するとはどのようなことか	保育課程・教育課程とはなにかを理解する
第19回	保育課程・教育課程を学ぶ②保育課程・教育課程の意義	なぜ計画することが必要なのか考える
第20回	保育課程・教育課程を学ぶ③保育課程・教育課程の実践	保育課程の実際について理解する
第21回	指導計画の構造と作成の実際を学ぶ①指導計画とはなにか	指導計画について理解する
第22回	指導計画の構造と作成の実際を学ぶ②指導計画と実際	指導計画の実際について理解する
第23回	子どもの健康と安全への配慮を考える①子どもの健康と運動遊び	子どもの運動遊びについて予習しておく
第24回	子どもの健康と安全への配慮を考える②食育	食育について予習しておく
第25回	子どもの健康と安全への配慮を考える③事故への対応と安全教育	事故への対応について理解する
第26回	多様化する保育ニーズを理解する①多様化する保育ニーズの形態	多様な保育ニーズとはなにかを理解する
第27回	多様化する保育ニーズを理解する②障がい児保育	障がい児保育について理解する
第28回	多様化する保育ニーズを理解する③求められる乳児保育とその対応	なぜ乳児保育が必要なのか考える
第29回	保育者に求められる子育て支援	子育て支援とはなにかを理解する
第30回	まとめ	保育原理について復習する

■履修上の注意

保育についていつも関心をもっておくこと。保育士資格取得を希望する学生はすべてに出席すること。予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。新聞、ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと

■評価方法

・①平常点（授業への取り組み、授業時に課す課題等）（30％）②期末試験（テストまたはレポート）（70％） ・①、②を総合的に評価する

■教科書

三宅茂夫編「新・保育原理 第2版」(株)みらい、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	保育実習指導（施設）			担当教員 （単位認定者）	浅野 康夫	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①施設実習の意義・目的を理解する。
- ②実習全体の流れを理解する。
- ③実習の目標と実習内容を理解する。
- ④実習施設を決定する。
- ⑤実習施設の概要を理解する。
- ⑥事前学習の必要性和学習内容を理解する。

■授業の概要

前期は、「実習へのガイドブック」を使用し、実習の意義・目的、実習の流れを学習するとともに、教員配付資料や「社会福祉小六法」を使用して児童福祉施設及び障害者支援施設等の設置目的・役割・業務内容・利用者の状況等を学習する。また、実習施設の選定について、希望調査を行い、教員と学生で話し合い実習施設を最終決定をする。実習施設の決定後は、事前学習の必要性や学習内容について学習し、実習の準備を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション（シラバス説明・授業の方法及び留意事項・子ども専攻学生が行う実習の説明）	シラバスを通読し、留意点を整理する
第2回	施設実習の概要、実習の意義と目的、実習スケジュールと手続きの流れ	実習の目的を理解し、実習の流れを把握する
第3回	施設実習の目標と実習内容	実習の目標と実習内容の重点を整理する
第4回	実習施設の理解①（乳児院・児童養護施設）	施設の根拠法令、設置目的・役割、職員の配置状況、利用者の状況等を調べる
第5回	実習施設の理解②（知的障害児通園施設・知的障害児施設）	〃
第6回	実習施設の理解③（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設）	〃
第7回	実習施設の理解④（障害者支援施設）	〃
第8回	実習施設の理解⑤（障害者支援施設・児童相談所）	〃
第9回	実習施設の選定方法（実習施設希望調査）	将来の目標、関心のある施設、実習地域を整理しておく
第10回	実習施設の決定	実習施設を確認し、事前学習の準備に入る
第11回	実習施設提出書類の作成指導①（実習生紹介票・誓約書）	自己の経歴、特徴等をまとめておく
第12回	実習担当者の講話	実習の流れ実習生の態度について考察し、問題点を整理する
第13回	事前学習指導①（事前学習の必要性和学習内容）	事前学習の学習内容を整理する
第14回	事前学習指導②（ボランティア活動等による実習施設の理解）	実習施設での確認事項を整理する
第15回	夏期休暇中の事前学習課題（実習施設概要書の作成）	実習施設への連絡の取り方等の準備を行う

■履修上の注意

- ①保育士資格の取得を目指す学生は必ず履修する。
- ②事前学習を積極的に行う。
- ③欠席届は必ず提出する。
- ④授業中の私語は認められない。

■評価方法

試験またはレポート課題（50%）提出物の提出状況・内容（20%）出欠席・遅刻状況（15%）授業態度（15%）

■教科書

実習へのハンドブック

■参考書

社会福祉小六法、教員配付資料

科目名	保育実習指導（施設）			担当教員 （単位認定者）	浅野 康夫	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①実習施設の内容を理解する。
- ②施設実習の実際の流れや留意点を理解する。
- ③実習計画書を作成する。
- ④実習日誌や実習報告書等の実習記録の記載内容と記載方法を理解する。
- ⑤実習に当たっての心構えと実践内容を理解する。

■授業の概要

後期は、実習施設の概要を理解し、DVDを通して施設実習の実習の流れや留意点を理解した上で実習計画書を作成するとともに、実習中に作成する実習日誌等の記載方法や実習終了後に作成する実習報告書等の記載内容について学習する。また、実習施設への事前オリエンテーションの対応方法や腸内細菌検査方法等の実習に当たっての準備内容について学習する。さらに、学長講話等を通して実習に当たっての心構えを学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション（前期の総括・実習先施設の確認・後期授業計画）	前期授業の振り返り、確認点を整理し、事前学習内容をまとめる
第17回	事前学習内容のまとめ（事前学習実施状況報告書・実習施設概要書の作成）	未調査事項については確認をする
第18回	発達障害者の理解（DVD鑑賞）施設実習の実際①（DVD：障害者支援施設）	実習の流れと留意点を整理する
第19回	施設実習の実際②（DVD：乳児院・肢体不自由児施設）	〃
第20回	施設実習の実際③（DVD：重症心身障害児施設）	〃
第21回	実習計画書の作成演習	実習施設概要書の内容を確認する
第22回	実習計画書の作成（個別指導）	実習計画書の見直しを行う
第23回	実習記録の作成演習①（実習日誌）	実習日誌記載要領及び記載例を自己学習する
第24回	実習記録の作成演習②（実習日誌）	実習日誌記載要領及び記載例を自己学習する
第25回	実習記録の作成演習③（実習のまとめと反省・実習報告書）	作成上の留意点を整理する
第26回	実習記録等の取り扱い（実習出欠表・実習時間自己申告書）	〃
第27回	事前オリエンテーション対応（目的・実習施設への連絡方法・報告書の提出） 腸内細菌検査等の対応	実習施設の連絡先及び報告書の記載事項を確認する
第28回	実習直前指導①（実習の心構え）	実習に当たっての留意点を整理する
第29回	実習直前指導②（学長等の講話・実習の心構えの総括）	〃
第30回	実習終了後の事後対策と留意事項	実習終了後の提出書類及び提出期限を確認する

■履修上の注意

- ①事前学習を積極的に行う。
- ②提出物の期限を守る。
- ③健康に留意する。
- ④欠席届は必ず提出する。
- ⑤授業中の私語は認められない。

■評価方法

試験またはレポート課題（50%）提出物の提出状況・内容（20%）出欠席・遅刻状況（15%）授業態度（15%）

■教科書

実習へのハンドブック

■参考書

社会福祉小六法、教員配付資料

科目名	保育実習指導I（保育所）			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育所実習の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等、習得する。事後指導として、実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション実習における手続き等	授業内容の事前学習をしておくこと
第2回	保育実習の意義・目的	授業内容の事前学習をしておくこと
第3回	保育実習の具体的内容と実習計画	授業内容の事前学習をしておくこと
第4回	実習施設の理解①保育所の生活とは	授業内容の事前学習をしておくこと
第5回	実習施設の理解②乳幼児と保育者のかかわり	授業内容の事前学習をしておくこと
第6回	保育実技① 自己紹介等	授業内容の事前学習をしておくこと
第7回	保育実技② ペーパーサート等	授業内容の事前学習をしておくこと
第8回	実習方法の理解①実習の段階と具体的内容	授業内容の事前学習をしておくこと
第9回	実習方法の理解②保育士の職務と役割の理解	授業内容の事前学習をしておくこと
第10回	実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等	授業内容の事前学習をしておくこと
第11回	実習の心構えの理解①実習生としての心構え	授業内容の事前学習をしておくこと
第12回	実習課題の明確化	授業内容の事前学習をしておくこと
第13回	保育実技③ 手作り教材	授業内容の事前学習をしておくこと
第14回	保育所見学	授業内容の事前学習をしておくこと
第15回	保育所見学	授業内容の事前学習をしておくこと

■履修上の注意

保育士資格取得希望者は必ず履修すること。
科目の特性上、遅刻・欠席は一切認めないので注意すること。
提出物の期限は必ず守ること。

■評価方法

出席状況（50%）、授業態度（15%）、講義の感想、レポート等の提出物（35%）の総合評価

■教科書

「よくわかる保育所実習」百瀬ユカリ編著 創成社

■参考書

『保育所保育指針解説書』

科目名	保育実習指導I（保育所）			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育所実習の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等、習得する。事後指導として、実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	実習記録について① 実習記録の意義と内容	授業内容の事前学習をしておくこと
第17回	実習記録について② 実習記録の記録方法	授業内容の事前学習をしておくこと
第18回	実習記録について③ 模擬日録作成	授業内容の事前学習をしておくこと
第19回	指導計画① 保育計画・指導計画の意義	授業内容の事前学習をしておくこと
第20回	指導計画② 指導計画立案（乳児期）	授業内容の事前学習をしておくこと
第21回	指導計画③ 指導計画立案（幼児期）	授業内容の事前学習をしておくこと
第22回	模擬保育① 指導案に基づき模擬保育実施	授業内容の事前学習をしておくこと
第23回	模擬保育② 指導案に基づき模擬保育実施	授業内容の事前学習をしておくこと
第24回	模擬保育③ 指導案に基づき模擬保育実施	授業内容の事前学習をしておくこと
第25回	実習園での事前オリエンテーション	授業内容の事前学習をしておくこと
第26回	実習施設の理解③ 保育所長講演（外部講師招聘）	授業内容の事前学習をしておくこと
第27回	直前指導① 先輩の実習体験談	授業内容の事前学習をしておくこと
第28回	直前指導② 実習準備事項の確認	授業内容の事前学習をしておくこと
第29回	事後指導 実習のまとめと報告書作成	授業内容の事前学習をしておくこと
第30回	事後指導 実習のまとめと報告書作成	授業内容の事前学習をしておくこと

■履修上の注意

保育士資格取得希望者は必ず履修すること。
科目の特性上、遅刻・欠席は一切認めないので注意すること。
提出物の期限は必ず守ること。

■評価方法

出席状況（50%）、授業態度（15%）、講義の感想・レポート等の提出物（35%）の総合評価

■教科書

「よくわかる保育所実習」百瀬ユカリ編著 創成社

■参考書

『保育所保育指針解説書』

科目名	保育の表現技術Ⅰ (音楽) — ①		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育の表現技術Ⅰとは①ピアノ実技と②音楽理論・ソルフェージュである。保育の表現技術Ⅰ-①のピアノ実技は、基本的に個人のレベルに合わせた指導を展開しているが、バイエル終了程度を単位認定の最低ラインとして設定されている。

■授業の概要

保育の表現技術Ⅰのピアノ実技はグレード別に3グループ分けて担当している。最大の特徴は、保育所・幼稚園・小学校にて、児童・生徒の芸術的な感性を生かすために必要な能力を養成することにある。
指導の基本はグループレッスン(集団的個人レッスン)を通して、一人ひとりの学生の音楽的能力を高めることである。年間2回、前期末・後期末に「実技試験」を実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーションⅠ。 ピアノ実技の狙い。グレード別編成。個人の指導曲等の決定。	姿勢・弾き方・手の形
第2回	集団的個人レッスン。5～6人程度のグループでレッスンを受講する。	〃
第3回	同 上。演奏の姿勢・タッチ・腕や身体の使い方・音の出し方等について	〃
第4回	同 上。楽譜の読み方(ソルフェージュとの関連)	〃
第5回	同 上。練習の方法。音楽の三要素について①テンポの統一	〃
第6回	同 上。音楽の三要素について②リズムの取り方	ドレミ唱について
第7回	同 上。練習方法。音楽の三要素について③強弱について	〃
第8回	同 上。音楽の三要素に基づく演奏その①	〃
第9回	同 上。音楽の三要素に基づく演奏その②	〃
第10回	同 上。音楽の三要素に基づく演奏その③	〃
第11回	同 上。前期試験曲の決定	強弱やフレーズについて
第12回	同 上。前期試験曲のレッスン①	〃
第13回	同 上。前期試験曲のレッスン②	〃
第14回	同 上。前期試験曲のレッスン③	〃
第15回	同 上。前期試験曲のレッスン仕上げ	暗譜の練習

■履修上の注意

週1回のレッスンを受講するために、毎日練習することがピアノ演奏能力を向上する第一歩である。個人のレベルに合わせてレッスンを進める。従って、前・後期の試験後、担当を変えることもある。試験を受験するためには、13回以上のレッスン受講が条件である。レッスン受講票は、指示された日時・場所に提出すること。未提出の場合は、受講を認めないこともある。

■評価方法

- ①半期ごとの実技試験受験資格は、13回受講である。
- ②毎回のレッスン受講態度(予習・復習の状況)を30%として評価する。
- ③前期及び後期の実技試験の評価を70%とする。

■教科書

- ①基本的にはバイエル教則本を用いる。
- ②但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材(演奏曲等)を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅰ (音楽) — ①			担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育の表現技術Ⅰとは①ピアノ実技と②音楽理論・ソルフェージュである。保育の表現技術Ⅰ-①のピアノ実技は、基本的に個人のレベルに合わせた指導を展開しているが、バイエル終了程度を単位認定の最低ラインとして設定されている。

■授業の概要

保育の表現技術Ⅰのピアノ実技はグレード別に3グループに分けて担当している。最大の特徴は、保育所・幼稚園・小学校にて、児童・生徒の芸術的な感性を生かすために必要な能力を養成することにある。
指導の基本はグループレッスン(集団的個人レッスン)を通して、一人ひとりの学生の音楽的能力を高めることである。年間2回、前期末・後期末に「実技試験」を実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーションⅡ。前期試験に基づいてグレード別再編成。演奏曲等の決定。	前期の継続
第17回	前期同様、レベルに合わせた5～6人程度のグループレッスン。音階や調性	#・bの場所と音符の関係
第18回	前期同様、レベルに合わせた5～6人程度のグループレッスン。音階や調性	〃
第19回	グループレッスン。音階・調性やリズム	〃
第20回	グループレッスン。音階・調性やリズム	〃
第21回	グループレッスン。ダイナミクスその①	強弱記号に注意
第22回	グループレッスン。ダイナミクスその②	〃
第23回	グループレッスン。ダイナミクスその③	〃
第24回	グループレッスン。ダイナミクスその④	〃
第25回	課題曲の練習方法について リズム・強弱を正しく演奏する①	曲全体の構成
第26回	同 上。後期試験曲の決定	〃
第27回	同 上。後期試験曲のレッスン	〃
第28回	同 上。後期試験曲のレッスン	〃
第29回	同 上。後期試験曲のレッスン	〃
第30回	同 上。後期試験曲のレッスン仕上げ	暗譜の練習

■履修上の注意

週1回のレッスンを受講するために、毎日練習することがピアノ演奏能力を向上する第一歩である。個人のレベルに合わせてレッスンを進める。従って、前・後期の試験後、担当を変えることもある。試験を受験するためには、13回以上のレッスン受講が条件である。レッスン受講票は、指示された日時・場所に提出すること。未提出の場合は、受講を認めないこともある。

■評価方法

- ①半期ごとの実技試験受験資格は、13回受講である。
- ②毎回のレッスン受講態度(予習・復習の状況)を30%として評価する。
- ③前期及び後期の実技試験の評価を70%とする。

■教科書

- ①基本的にはバイエル教則本を用いる。
- ②但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材(演奏曲等)を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I (音楽) — ②		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

音楽理論の理解と読譜力。

■授業の概要

音楽の基礎、理論、ソルフェージュ、楽譜の読み方などを学び、音楽の鑑賞法、演奏の基礎を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	音楽の基礎、理論の講義（楽譜の成り立ち）	学んだ事をみる
第2回	1に同じ（楽譜の仕組み）	〃
第3回	音符の仕組み	〃
第4回	リズムの仕組み	〃
第5回	調子記号	〃
第6回	上記の続き	〃
第7回	上記の続き	〃
第8回	これまでの講義の試験	もう一度みなおす
第9回	和音の仕組み	学んだ事をみておく
第10回	8の続き	〃
第11回	9の続き	〃
第12回	これまでの講義の試験	もう一度みる
第13回	メロディーと和音の関係	学んだ事をみる
第14回	上記の続き	もう一度みる
第15回	まとめ	みなおす

■履修上の注意

授業の進度に遅れないように自主練習を日々行う。

■評価方法

出席40%、毎時間、毎時間の課題を着実に把握していることを確認60%で評価する。
--

■教科書

コールユーブンゲン、基礎音楽理論

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I (音楽) — ②		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

音楽理論の理解と読譜力。

■授業の概要

音楽の基礎、理論、ソルフェージュ、楽譜の読み方などを学び、音楽の鑑賞法、演奏の基礎を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	楽譜の読み方、ソルフェージュを題材に訓練をする。	自分でやってみる
第17回	コールユーブンゲン 基礎編	〃
第18回	17の続き	〃
第19回	18の続き	〃
第20回	19の続き	〃
第21回	20の続き	〃
第22回	コールユーブンゲン ハ長調	〃
第23回	22の続き	〃
第24回	23の続き	〃
第25回	24の続き	〃
第26回	25の続き	〃
第27回	26の続き	〃
第28回	27の続き	〃
第29回	28の続き	〃
第30回	29の続き	〃

■履修上の注意

授業の進度に遅れないように自主練習を日々行う。

■評価方法

出席40%、毎時間、毎時間の課題を着実に把握していることを確認60%で評価する。
--

■教科書

コールユーブンゲン、基礎音楽理論

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ (音楽)		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・子どもの感性を伸ばすことが第一目標です。そのため、音楽的な表現を重視する。
- ・具体的には、「弾き歌い」できる演奏能力を身につけることを目指す。
- ・最終到達目標は、総合芸術表現。つまり、「年齢に配慮した創作、相応しい絵画表現・音楽表現」を協働製作し発表する。

■授業の概要

- ・基礎技能ⅡA-②の「声楽・音楽理論」及び基礎技能(美術)と連携したピアノ演奏能力の向上を目指す。
- ・その他、レッスン方法や、注意事項等については1年次に同じ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション1・基礎演習ⅡA(ピアノ実技)の狙い。グレード別編成。演奏等の決定。	・演奏スタイル(身体の使い方)
第2回	・ピアノ演奏能力を高める。音の表現のみならず、体全体の使い方を学ぶ。その1	〃
第3回	・ピアノ演奏能力を高める。音の表現のみならず、体全体の使い方を学ぶ。その2	〃
第4回	・ピアノ演奏能力を高める。音の表現のみならず、体全体の使い方を学ぶ。その3	〃
第5回	・ピアノ演奏能力を高める。音の表現のみならず、体全体の使い方を学ぶ。その4	〃
第6回	・ピアノの表現能力の向上。弾き歌いその1	弾き歌いの練習(f・p)
第7回	・ピアノの表現能力の向上。弾き歌いその2	〃
第8回	・ピアノの表現能力の向上。弾き歌いその3	〃
第9回	・ピアノの表現能力の向上。弾き歌いその4	〃
第10回	・ピアノの表現能力の向上。弾き歌いその5	〃
第11回	・課題曲の選定。歌詞とメロディー・伴奏を総合的に演奏する。	声とピアノの音量に配慮。
第12回	・課題曲の選定。歌詞とメロディー・伴奏を総合的に演奏する。	〃
第13回	・課題曲の選定。歌詞とメロディー・伴奏を総合的に演奏する。	〃
第14回	・課題曲の選定。歌詞とメロディー・伴奏を総合的に演奏する。	〃
第15回	・曲の表現方法、形式を理解した上で、自信を持って演奏する。	〃

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人指導を重視する。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の精神年齢等に配慮した芸術的表現や言語表現の質的向上を目指す。
4. 後期の協働創作は原則として、同じ指導教員のグループで編成すること。基本は二人一組である。但し、奇数の場合は、三人組みも認める。

■評価方法

- ①前期は、1年次に同じ形式で演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、「音楽劇」創作のために、協働作業を通して一つの作品を作り上げる能力を評価。
- ③その他、評価基準は1年次に同じ。(受講態度30%、実技試験70%)

■教科書

1. 基本教材は、『こどもの歌200』・『子どものうた200続』チャイルド社版
2. 但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ (音楽)		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・子どもの感性を伸ばすことが第一目標です。そのため、音楽的な表現を重視する。
- ・具体的には、「弾き歌い」できる演奏能力を身につけることを目指す。
- ・最終到達目標は、総合芸術表現。つまり、「年齢に配慮した創作、相応しい絵画表現・音楽表現」を協働製作し発表する。

■授業の概要

- ・基礎技能ⅡA-②の「声楽・音楽理論」及び基礎技能(美術)と連携したピアノ演奏能力の向上を目指す。
- ・その他、レッスン方法や、注意事項等については1年次に同じ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	・夏季休業中に練習した曲を弾き歌いする。	声域の確認と拡大。
第17回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その1	〃
第18回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その2	〃
第19回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その3	〃
第20回	・ピアノ移調奏。・歌詞とメロディーの関係を重視した演奏。その4	〃
第21回	・後期課題への取組み。物語協働創作とふさわしい曲の模索。その1	対象児決定とその特徴
第22回	・物語協働創作とふさわしい曲の模索。その2	〃
第23回	・物語協働創作とふさわしい曲の模索。その3	〃
第24回	・物語協働創作とふさわしい曲の模索。その4	〃
第25回	・物語協働創作とふさわしい曲の決定。その1	創作場面の絵画表現①
第26回	・物語協働創作とふさわしい曲の決定。その1(合同レッスン)	創作場面の絵画表現②
第27回	・物語協働創作とふさわしい曲の決定。その2(合同レッスン)	創作場面の絵画表現③
第28回	・物語協働創作とふさわしい曲の決定。その3(合同レッスン)	創作場面の絵画表現④
第29回	・リハーサル その1(合同レッスン)	体全体のパフォーマンス。
第30回	・リハーサル その2(合同レッスン)	〃

■履修上の注意

1. グループレッスンであるが、個人指導を重視する。
2. 他の学生のレッスン状況を批判的精神で参観し、より高い音楽的表現について追求すること。
3. 常に、幼児・児童の精神年齢等に配慮した芸術的表現や言語表現の質的向上を目指す。
4. 後期の協働創作は原則として、同じ指導教員のグループで編成すること。基本は二人一組である。但し、奇数の場合は、三人組みも認める。

■評価方法

- ①前期は、1年次に同じ形式で演奏技術の向上を規準として評価。
- ②後期は、「音楽劇」創作のために、協働作業を通して一つの作品を作りあげる能力を評価。
- ③その他、評価基準は1年次に同じ。(受講態度30%、実技試験70%)

■教科書

1. 基本教材は、『こどもの歌200』・『子どものうた200続』チャイルド社版
2. 但し、進んでいる学生の場合は、個人レベルに沿った教材を指導担当者が指定する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅰ (図画工作)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもの敏感な造形表現に生き生きと反応する感性を練磨し、また、自己自身の造形表現能力や幼児への造形表現指導能力を高める。保育実践の場で、幼児が造形表現を楽しめるような保育を構想し、実践できる創造的保育者としての礎を築く。

■授業の概要

保育実践に必要な造形表現に関わる知識と技能を体験的に習得する。幼児の造形表現の特色と内容、子どもの造形表現の発達、子どもの造形表現にあらわれる類型、子どもの絵の見方、育て方等を学ぶ。また、デッサン、植物の写生、デザイン構成、彫塑、紙工作、染め物、造形遊びの様々な技法の実技演習から、自己の基礎的な造形表現能力を高めるとともに、幼児への指導能力を高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	領域「表現」のねらいと内容 幼稚園教育要領、保育所指針がめざすもの	教育要領・保育所指針の復習
第2回	デザインのためのデッサン「ピーマン」	材料、用具の準備
第3回	スクラッチ「ピーマンの構成」	作品の制作つづき(復)
第4回	スクラッチ「ピーマンの構成」	作品の完成(復)
第5回	子どもの造形表現能力の発達 ①錯画期 象徴期 前図式期	子供の描画発達研究の背景復習
第6回	植物の写生	材料、用具の準備用具(予)
第7回	植物の写生	作品の制作つづき(復)
第8回	植物の写生	作品の完成(復)
第9回	子どもの造形表現能力の発達 ②図式期 擬実期	描画表現の発達の復習
第10回	紙で作る指導の展開	何を作るか考えアイデアスケッチ
第11回	紙工作「お伽噺の世界」①	用具の準備(予)
第12回	紙工作「お伽噺の世界」②	作品の制作つづき(復)
第13回	紙工作「お伽噺の世界」③	〃
第14回	紙工作「お伽噺の世界」④	作品の完成(復)
第15回	子どもの描画の表現にあらわれる傾向と類型	子どもの絵傾向と類型の復習

■履修上の注意

- 絵の具セットや2B、4Bの鉛筆を準備すること。
- 熱心で積極的な態度での受講を望む。

■評価方法

○課題作品(60%)、試験(30%)、出席状況・授業への参加態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

長谷喜久一(著)「図画工作」 建帛社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅰ (図画工作)		担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもの敏感な造形表現に生き生きと反応する感性を練磨し、また、自己自身の造形表現能力や幼児への造形表現指導能力を高める。保育実践の場で、幼児が造形表現を楽しめるような保育を構想し、実践できる創造的保育者としての礎を築く。

■授業の概要

保育実践に必要な造形表現に関わる知識と技能を体験的に習得する。幼児の造形表現の特色と内容、子どもの造形表現の発達、子どもの造形表現にあらわれる類型、子どもの絵の見方、育て方等を学ぶ。また、デッサン、植物の写生、デザイン構成、彫塑、紙工作、染め物、造形遊びの様々な技法の実技演習から、自己の基礎的な造形表現能力を高めるとともに、幼児への指導能力を高める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	粘土による表現の指導の方法	粘土表現の意義、指導の復習
第17回	粘土による表現「野菜の形」①	材料、身支度の準備(予)
第18回	粘土による表現「野菜の形」②	作品の制作つづき(復)
第19回	粘土による表現「野菜の形」③	作品の完成(復)
第20回	色の基礎理論 ①	色の基礎の資料を読んでおく(予)
第21回	色の基礎理論 ②	色の基礎についてまとめる。(復)
第22回	造形遊びの指導の展開 スタンプング デカルコマニー	幼児への指導のあり方(復)
第23回	ブラッシング スパッターリング	〃
第24回	折り染め	〃
第25回	染め物「ハンカチ、Tシャツ」①	用具の準備 下絵づくり
第26回	染め物「ハンカチ、Tシャツ」②	作品の完成
第27回	染め物「ハンカチ、Tシャツ」③	〃
第28回	子どもの絵の見方・育て方 ①	子どもの描画の傾向と類型予習
第29回	子どもの絵の見方・育て方 ②	〃
第30回	子どもの造形活動の指導	1年間の資料や作品の整理

■履修上の注意

- 絵の具セットや2B、4Bの鉛筆を準備すること。
- 熱心で積極的な態度での受講を望む。

■評価方法

○課題作品(60%)、試験(30%)、出席状況・授業への参加態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

長谷喜久一(著)「図画工作」建帛社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	LD等教育総論 (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	選択
					一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

2005年から「発達障害者支援法」が施行され、それまでの法律においても対象とされなかったLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症等、発達障害をもつ子ども達への教育的支援を行うことが明確化され、わが国の特殊教育は特別支援教育へと変遷をとげた。

これにより、通常学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症といった子ども達の理解が急務となった。講義では発達障害をもつ子ども達の「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。

■授業の概要

特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD、ADHD、高機能自閉症といわれる発達障害をもつ子ども達の学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。

LD通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障害をもつ子どもにとって有効な指導・支援方法を探る。学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 特殊教育から特別支援教育へ	特殊教育と特別支援教育の違い 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第2回	特別支援教育の意義・目的	特別支援教育とは何か 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第3回	LDとは LDの定義-アメリカにみる歴史的な背景-	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第4回	ADHDとは ADHDの定義	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第5回	高機能自閉症と自閉症 自閉症の定義	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第6回	発達障害をもつ子どもの「困り感」に寄り添う支援 ①	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第7回	発達障害をもつ子どもの「困り感」に寄り添う支援 ②	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第8回	発達障害をもつ子どもの「困り感」に寄り添う支援 ③	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第9回	発達障害をもつ子どもの「困り感」に寄り添う支援 ④	教科書の事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第10回	LD通級指導教室の指導の実際 ①	LD通級指導教室に通う子どもの実態を知る① 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第11回	LD通級指導教室の指導の実際 ②	LD通級指導教室に通う子どもの実態を知る② 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第12回	LD通級指導教室の指導の実際 ③	子どもに合った教材とは① 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第13回	LD通級指導教室の指導の実際 ④	子どもに合った教材とは② 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第14回	LD通級指導教室の指導の実際 ⑤	子どもに合った教材とは③ 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第15回	／まとめ	第2回から第14回までの復習

■履修上の注意

- 1 遅刻・欠席は必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 2 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 3 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■評価方法

出席点(15%)、授業中に課したミニレポート・授業態度(15%)、試験またはレポート(70%)を総合して評価する。

■教科書

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』、東洋館出版、2005年

■参考書

佐藤暁著 『見てわかる 困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社、2008年

科目名	音楽概論			担当教員 (単位認定者)	島村 武男	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

音楽の理論を理解し、演奏の仕方、内容の理解力を高める。

■授業の概要

音楽の基礎から表現まで、鑑賞能力と演奏能力の基礎を学び、児童の感覚と応用を学ぶ。
--

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	音楽の基礎知識、理論の講義	学んだことをみしておく
第2回	1についての試験 1を基盤における音楽の展開	〃
第3回	2についての試験	もう一度みなおす
第4回	1、3を基盤にしての音楽の展開	学んだことをみしておく
第5回	4における実践	もう一度みなおす
第6回	5に同じ	〃
第7回	5に同じ	〃
第8回	演奏の基礎を学ぶ。指揮法などの実践と音楽の感じ方を学ぶ。	自分でやってみる
第9回	歌唱法についての究明。発声法と曲の解釈	〃
第10回	9の実践、童謡を教材に実践する。	楽譜をみしておく
第11回	10に同じ	〃
第12回	10に同じ	自分でもう一度歌う
第13回	演奏における試験	もう一度みなおす
第14回	13に同じ	自分でやりなおす
第15回	13に同じ	〃

■履修上の注意

復習をしっかりやる。

■評価方法

出席数40%、授業その都度における試験60%において評価する。

■教科書

応用音楽概論

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	カウンセリング (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

カウンセリングという援助方法の意義と機能について理解する。対人援助職に求められるカウンセリングの知識と基礎技能を習得し、援助技術の向上をめざす。

■授業の概要

対人援助において、相手の話しを理解し、求めている援助ニーズを的確に捉えることは極めて重要な課題である。本講義では、カウンセリングの基本的な考え方について学んだ上で、カウンセリングの中核的な方法である傾聴（受容的かつ共感的に相手の話しを聴くこと）の基礎的なトレーニングを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	カウンセリングの考え方	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	傾聴という援助法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	傾聴を妨げる要因① 思い込みとステレオタイプ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	傾聴を妨げる要因② 好き・嫌いという感情	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	傾聴を妨げる要因③ 転移-逆転移関係	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	カウンセリング・マインド	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	自分の話し方、聴き方の検証	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	傾聴の技法① くり返し、要約	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	傾聴の技法② 感情の反射、明確化	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	傾聴の技法③ 開かれた質問、閉ざされた質問	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	カウンセリングロールプレイ①	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	カウンセリングロールプレイ②	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	カウンセリングロールプレイ③	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

前半の授業ではカウンセリングおよび傾聴の考え方について講義を行う。後半の授業では、演習を通して傾聴の基礎的スキルを習得することを目標とする。主体的で、熱心な授業態度が求められる。

■評価方法

授業への参加態度を50%、レポートを50%として、総合的に評価する。

■教科書

國分康孝 1979「カウンセリングの技法」誠信書房

■参考書

適宜紹介する

科目名	カウンセリング (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育・教育分野におけるカウンセリングの意義と機能について理解する。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に求められるカウンセリングの知識と基礎技能を習得する。

■授業の概要

近年は、発達の問題や心理的問題、不適切な養育の問題など様々な面で「気になる子ども」が増加傾向にあると言われている。その為、保育や教育の現場においても、子どもや保護者からの相談に応じることが求められている。本講義では、乳幼児期から児童期を中心に、子どもやその保護者に対するカウンセリングの進め方について基礎的内容を学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	保育・教育分野におけるカウンセリングとは	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	最近の子どもをめぐる問題① 愛着形成と母子分離の問題	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	最近の子どもをめぐる問題② ストレスと情緒的問題	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	最近の子どもをめぐる問題③ 発達障害	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	子どもへのカウンセリングの実際① 教育モデル	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	子どもへのカウンセリングの実際② 表現・洞察モデル	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	プレイセラピー（遊戯療法）とプレイルームの機能	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	保護者へのカウンセリングの実際	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	傾聴という援助法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	傾聴の技法① くり返し、要約、感情の反射・明確化	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	傾聴の技法② 質問技法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	カウンセリング・ロールプレイ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	事例検討	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

前半の授業では保育・教育分野におけるカウンセリングの基礎的内容について講義を行う。後半の授業では、子どものカウンセリングに関する様々な事例を読み、教員と受講生でディスカッションをしながら授業を進めていく。主体的で、熱心な授業態度が求められる。

■評価方法

授業への参加態度を50%、レポートを50%として、総合的に評価する。

■教科書

鎌倉利光・藤本昌樹(編著) 2011「子どもの成長を支える発達教育相談」北樹出版

■参考書

適宜紹介する

科目名	学習指導と学校図書館		担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学校図書館は、学校教育が体系化されるに従って発展してきた。充実した学校図書館メディアを自在に駆使して、学習の成果をあげるための理論を学び、その方法を身に付ける。

■授業の概要

司書教諭は、学校図書館の経営や学習指導ならびに学校図書館メディア活用の中心にあつて、どのような役割を果たすことができるのかを学び考える。レファレンス・サービスの項では、その基礎演習の1つとしての参考図書の評価表の作成などを試みる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 学校教育と学校図書館	大学図書館の利用案内を読む
第2回	教育課程の編成と学校図書館(1) 教育課程の編成	図書館と教育課程の関係を考える
第3回	教育課程の編成と学校図書館(2) 学習指導要領の変遷	図書館と学習指導要領の関係を考える
第4回	発達段階に応じた学習指導と学校図書館(1) 生涯学習の理念	図書館と生涯学習の関係を考える
第5回	発達段階に応じた学習指導と学校図書館(2) 生涯発達課題論	図書館と生涯発達課題論の関係を考える
第6回	発達段階に応じた学習指導と学校図書館(3) 学習指導と発達段階	図書館指導と学習指導の関係を考える
第7回	メディアと学校図書館(1) 現代メディア論	メディアとは何かについて考える
第8回	メディアと学校図書館(2) 発達段階に応じたメディア活用の実例	図書館メディアと発達段階の関係を考える
第9回	教科学習と図書館の利用法	具体的な図書館利用の方法を試みる
第10回	レファレンス・サービス(1) レファレンス・サービスの意味	レファレンスサービスとは何かについて考える
第11回	レファレンス・サービス(2) レファレンス・サービスの実例	図書館でレファレンスサービスを受けてみる
第12回	レファレンス・サービス(3) 参考図書の評価表の作成	参考図書の評価表を作成する
第13回	情報検索の方法	検索サービスの評価レポートを作成する
第14回	教師への支援と働きかけ	図書館利用計画と教科サポートについて考える
第15回	まとめ	レファレンスブックの総合評価を試みる

■履修上の注意

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

朝比奈大作(編著)『学習指導と学校図書館』樹村房

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	学習心理学			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士・精神保健福祉士試験に対応できる知識を身につける。

■授業の概要

学習心理学は、学習というヒトや動物に見られる変化を心理学の視点から解明する学問である。本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見いだされた研究の解説を体系的に行うことになる。内容としては、学習の基本的メカニズム、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、社会的学習、記憶と学習を取り上げる。理解をより深化させるために、簡単な実験や小テスト、アンケートの実施を予定している。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス(講義の進め方・諸注意) 心理学における学習とは(アンケート・小テスト)	テキストを購入し、第1章を読んでおくこと
第2回	心理学における学習とは 研究の方法と応用	テキスト第1章を読んでおくこと
第3回	馴化(じゅんか)と鋭敏化 日常例と研究例の紹介	テキスト第2章を読んでおくこと
第4回	古典的条件づけ(1) 研究紹介と基本的特徴	テキスト第3章を読んでおくこと
第5回	古典的条件づけ(2) 信号機能	テキスト第3章を読んでおくこと
第6回	古典的条件づけ(3) 学習の内容と発現システム	テキスト第4章を読んでおくこと
第7回	到達テスト・中間授業評価	テキスト第4章を読んでおくこと
第8回	オペラント条件づけ(1) 研究紹介と基本的メカニズム	テキスト第6章を読んでおくこと
第9回	オペラント条件づけ(2)、(3) 強化・制御	テキスト第6章を読んでおくこと
第10回	概念学習・観察学習・問題解決(1) 研究紹介	テキスト第9章を読んでおくこと
第11回	概念学習・観察学習・問題解決(2) 最近の研究動向について	テキスト第9章を読んでおくこと
第12回	記憶と学習(1) 実験	テキスト第10章を読んでおくこと
第13回	記憶と学習(1) 実験	用語忘却曲線を調べておくこと
第14回	記憶と学習(2)	テキスト第10章を読んでおくこと
第15回	まとめおよび到達テスト	これまでの小テストを復習しておくこと

■履修上の注意

講義の際に10分程度の小テストが行われる場合がある。実験・アンケート実施に伴い準備等の協力が求められることがある。

■評価方法

小テスト・アンケートの提出(50%)、授業内発言・コメント(10%)、到達テスト(40%)

■教科書

実森 正子・中島 定彦(著) 2000 学習の心理-行動のメカニズムを探る(コンパクト新心理学ライブラリ 2) サイエンス社

■参考書

別途指示する。

科目名	家族援助論			担当教員 (単位認定者)	荒井 洌	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子育ての核としての家庭についての認識、子育て家庭に対する社会的な支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的な方法を知る。

■授業の概要

ライフサイクルにおける家庭のさまざまな様相、特に子育て家庭についての理解を深め、子育て家庭支援の理念と実際とを、日本および先進国の試みを視野に入れながら学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	「子育て家庭支援」についてのオリエンテーション	テキストの通読
第2回	ライフサイクルにおける家庭	テキストの熟読 講義内容の整理
第3回	子育ての原点としての家庭	〃
第4回	社会的エネルギー源としての家庭	〃
第5回	保育施設のモデルとしての家庭	〃
第6回	家庭と保育施設とのつながり	〃
第7回	家庭の歴史と、家庭のユートピア	〃
第8回	日本の伝統的な子育て文化	〃
第9回	日本の伝統的な育児思想	〃
第10回	世界各地の子育て文化(1)	〃
第11回	世界各地の子育て文化(2)	〃
第12回	世界の思想史上の育児思想(1)	〃
第13回	世界の思想史上の育児思想(2)	〃
第14回	北欧諸国の子育て家庭支援への取り組み	〃
第15回	復習・ポイントの指摘	テキストのポイントの把握

■履修上の注意

若い学生諸君にとっては、実に大変な学習内容です。しかし、近い将来、人間として、そして保育者として立ち向かう必須の課題です。前もってテキストを熟読し、興味を深めるようにしてください。

■評価方法

授業への参加態度姿勢 30% 試験の結果 70%

■教科書

荒井 洌著『ファミリー・サポートの保育園』明治図書

■参考書

荒井 洌著『エレン・ケイ「児童の世紀」より ことばの花びら』富山房インターナショナル

科目名	学校経営と学校図書館		担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学校図書館は、学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。学校図書館とはいかなるものか、一応の全体像を描くことを試みる。

■授業の概要

近代国家形成過程における日本が、情報リテラシーとしての図書館や学校図書館をどのように獲得していったか、学校図書館は学校の経営計画とどう関わっているか、司書教諭は何ができるか、といったテーマを掘り下げる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 図書館の誕生	図書館とは何かについて考える
第2回	戦後の図書館と図書館の現在	地域の図書館を利用する
第3回	学校図書館と教育思想(1) 明治期の図書館	明治期の図書館について調べる
第4回	学校図書館と教育思想(2) 大正期の図書館	大正期の図書館について調べる
第5回	学校図書館と教育思想(3) 昭和以後の図書館	昭和以後の図書館について調べる
第6回	学校図書館の法的基礎(1) 憲法、教育基本法	日本国憲法、教育基本法について調べる
第7回	学校図書館の法的基礎(2) 学校教育法、学校図書館法	学校教育法、学校図書館法について調べる
第8回	学校教育計画と学校図書館(1) 教育課程	教育課程とは何かについて考える
第9回	学校教育計画と学校図書館(2) 学校図書館の経営計画とその評価	学校経営と図書館経営の関係について考える
第10回	学校教育計画と学校図書館(3) 司書教諭の役割	司書教諭の役割の全体像について考える
第11回	学校図書館メディア(1) メディアの収集と選択	図書館メディアの実際を確認する
第12回	学校図書館メディア(2) メディアの活用	図書館で各メディアを利用してみる
第13回	学校図書館活動の内容	図書委員会の仕事について調べる
第14回	学校図書館と地域社会	図書館と地域連携について調べる
第15回	まとめ	どんな司書教諭になりたいかについて考える

■履修上の注意

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

福永義臣(編著)『学校経営と学校図書館』樹村房

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	学校図書館メディアの構成		担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

司書教諭として学校図書館メディアの構成(選択・収集・組織・保存等)ができる。

■授業の概要

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、学校図書館メディアの意義及び役割	本科目に関する予習・復習方法の説明
第2回	学校図書館メディアの種類と特性	授業内容に関する小レポート作成
第3回	学校図書館メディアの選択と構成	授業内容に関する小レポート作成
第4回	学校図書館メディアの組織化(1) 分類の意義と機能	授業内容に関する小レポート作成
第5回	学校図書館メディアの組織化(2) 日本十進分類法の使い方①	演習問題の解答を順に発表させる
第6回	学校図書館メディアの組織化(3) 日本十進分類法の使い方②	演習問題の解答を順に発表させる
第7回	学校図書館メディアの組織化(4) 日本十進分類法の使い方③	演習問題の解答を順に発表させる
第8回	学校図書館メディアの組織化(5) 日本十進分類法の使い方④	演習問題の解答を順に発表させる
第9回	学校図書館メディアの組織化(6) 件名標目の概要	授業内容に関する小レポート作成
第10回	学校図書館メディアの組織化(7) 目録の意義と機能	授業内容に関する小レポート作成
第11回	学校図書館メディアの組織化(8) 日本目録規則の使い方①	演習問題の解答作成
第12回	学校図書館メディアの組織化(9) 日本目録規則の使い方②	演習問題の解答作成
第13回	学校図書館メディアの組織化(10) 日本目録規則の使い方③	演習問題の解答作成
第14回	学校図書館メディアの組織化(11) 目録の電算化	授業内容に関する小レポート作成
第15回	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、まとめ	全般の復習

■履修上の注意

- 1) 2～4回、9～10回、14回の授業内に、授業内容に関する小レポートを作成・提出させるので、講義をよく聞き理解すること。
- 2) 5～8回は演習問題を解かせ、順に発表させる。
- 3) 11～13回は演習問題を解かせ、提出させる。(正解の解説は提出した次の授業)
- 4) 2～14回の授業では、毎回次回までに教科書の読むべきところを指定するので、精読しておくこと。

■評価方法

試験 50%、小レポート 20%、授業への参加態度 30%として、総合的に評価する。

■教科書

志保田務・高鷲忠美著「資料組織法」第6版 第一法規(最新刷)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	家庭科概論		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、その根底にある生活(衣・食・住・家庭の経済と経営)に関する基本的知識を身につけるとともに、各事象の背景にある原理原則を根本的に理解する。
食と経済・衣と住などのように複数分野にわたる授業を実施できる素地を培う。

■授業の概要

教員として「家庭科」の授業を行うための幅広い知識を身につけるため、生活事象の原理・原則を学ぶ。また、“生活を科学する”態度とともに、生活をトータルに考える能力を培うことを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 「生活感性チェックテスト」(生活者としての習熟度チェック)	自分自身の周囲の事物について「何故そうなっているのか」を考える。
第2回	家庭科とは ・家庭科のめざすものと内容 ・実践的・体験的教科としての家庭科 ・家庭科と家政学	実践しながら原理・原則を学ぶことについての意義を考える。
第3回	家庭生活と家族(家庭生活の経営と管理) ・家族・家庭生活の現状 ・家族周期と生活設計 ・生活時間	自分と家族のメンバーについて深く考える。
第4回	家庭生活と家族(家庭生活の経営と管理) ・家庭経済と消費生活 ・消費生活の課題	自分の家族の消費生活について考える。
第5回	衣服への関心(衣生活) ・衣服の役割と機能 ・被服の選択	自身が衣服をどうやって選び着用しているかを考えると同時に、他者の様子はどうかを観察する。
第6回	衣服への関心(衣生活) ・被服素材と品質表示 ・被服の衛生	どのような繊維製品があり、どんなところで用いられているかを調べる。
第7回	衣服への関心(衣生活) ・被服の管理	洗濯を実践して学んだ事柄を活用する。
第8回	食事への関心(食生活) ・生活と食事 ・身体の機能と栄養 ・食品の成分と保存・管理 ・食品の安全	自分の1週間分の食事について記録する。
第9回	食事への関心(食生活) ・献立作成と料理 ・食材の選び方	自分の食生活を改善する方法を見出す。
第10回	食事への関心(食生活) ・食材の調理法 ・調理操作の概要	自身で食材の購入・調理・後片付け、すべてを行う。
第11回	住まいへの関心(住生活) ・住居の役割と機能 ・快適な室内環境	自分の部屋などについて、室内環境整備を見直す。
第12回	住まいへの関心(住生活) ・住居の安全と管理 ・バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー構造とユニバーサルデザインの物品を調べる。
第13回	家庭生活の工夫 ・環境問題 ・地域社会と生活	自分の住む地域の環境問題対策と住民の活動について調べる。
第14回	家庭生活の工夫 ・家族の団らんの工夫	家族の大切さを確認し、自分が家族のためにできることを考える。
第15回	まとめ ・生活を統合する	衣・食・住・家庭経済と経営のつながりを確認する。

■履修上の注意

まず、日常生活を自力で営めるようになっておくこと。また、食材や生活用具・用材などについて知らない講義で扱っている事柄を十分に理解できないので、常に身の周りの生活に関する事物に興味を持つこと。

■評価方法

定期試験の結果(50%)、授業態度(30%)、提出物(20%)を総合して評価する。

■教科書

『小学校学習指導要領解説家庭編』 佐々井啓監修『家政学概論』(共栄出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能I(体育)			担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

乳幼児が明るくのびのびと行動し充実感を味わい、自分の体を十分に動かし進んで運動する心を育て、健康・安全な生活に必要な習慣や態度が、どのような運動の体験をとおして習得できるかを学ぶ。

■授業の概要

乳幼児期の発育・発達段階に応じた体育の教材研究と授業内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に且つ安全に関われるかを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	運動遊びの必要性と目的(必要性と目標)	教科書を学習すること
第2回	乳幼児期の心身の発達(身体、運動能力、心の発達の特徴)	〃
第3回	運動あそびの指導の実際(計画、種類、分類、留意点)	〃
第4回	「歩く、跳ぶ」運動	〃
第5回	「走る」運動	〃
第6回	「ボール」を使った運動	〃
第7回	「縄」を使った運動	〃
第8回	「マット」を使った運動	〃
第9回	「巧技台」を使った運動	〃
第10回	「フープ、箱積み木」を使った運動	〃
第11回	身近なものを使った運動	〃
第12回	鬼遊び	〃
第13回	伝承遊び	〃
第14回	グループ発表①	〃
第15回	グループ発表②	〃

■履修上の注意

幼児教育をめざす学生としての自覚を持って履修すること。

■評価方法

実技試験とグループ発表(60%)、授業への出席状況(40%)を総合して評価する。

■教科書

岩崎洋子(著) 「体育あそび120」 チャイルド本社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎技能Ⅱ (幼児音楽指導法C)－②		担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

今までに習得した能力の上にとって声楽の歌唱法の習得。

■授業の概要

三年生までに習得した事をもとに、専門的声楽を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	声力のリトミックの演習	発声を研究する
第2回	リトミックと声のつながり	詩をよむ
第3回	歌の実践	楽譜をよむ
第4回	ヤシの実	楽譜をみておく
第5回	〃	歌の練習
第6回	まちぼうけ	楽譜をみておく
第7回	〃	詩と楽譜をみる
第8回	赤とんぼ	楽譜をみておく
第9回	〃	詩と楽譜をみる
第10回	コールユーブンゲンの2重唱	楽譜をみておく
第11回	〃	何回もうたう
第12回	〃	おぼえる
第13回	夏の思い出の2重唱	楽譜をみておく
第14回	〃	何回もうたう
第15回	〃	おぼえる

■履修上の注意

一回ずつの講義を毎回習得するように復習する。

■評価方法

出席40%、一回ずつのレッスンにおいて評価60%で評価する

■教科書

声力 日本歌曲

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育原理 (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学習指導要領の「総則」に示されるこれからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、これからの日本の教師はどうあるべきか、を学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

そのために、教育の本質、歴史、を学ぶとともに、学校教育の内容、教育活動の展開の実際、そして、教育現場の実態の理解と対応のあり方を身につける。

■授業の概要

教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル(①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル)を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。

子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等)-授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。-毎回、【視点】にそったミニレポートを課す。レポートをまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。予習を行うことで授業内容が理解しやすくなる。 教育における人間観-「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ 【視点】「教育」とは何かを考える・意識することが出来る	「教育」とは何かを考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認 テキスト第1章「なぜ教育学をまなぶのか」を熟読する
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点 【視点】2つのモデルの解明とそれらの特徴と問題点	2つのモデルの解明とそれらの特徴と問題点 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点 【視点】3つ目のモデルの特徴と問題点	3つ目のモデルの特徴と問題点 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム 【視点】学校のでき方を知る	学校のでき方を知る 課題のミニレポートを作成し内容を確認 第2章「学校はどのようにつくられたか」を熟読する
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態:複線型、分岐型、単線型 【視点】就学形態を知る	学校の役割を考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる 【視点】義務教育の意義を知る	義務教育の歴史を辿る 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷 【視点】日本の義務教育史を辿り、背景からその意義を探索する	日本の義務教育の変遷 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第8回	生産モデル体制(閉鎖性)の諸問題 【視点】生産モデルがもたらす問題点を探索	生産モデルがもたらす問題点を探索 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第9回	人間モデルによる体制(開放性) 【視点】生産モデルから人間モデルへと移っていったのはなぜか	生産モデルから人間モデルへの移行の意味 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第10回	「わかる」「できる」 ① 【視点】「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-	事例学習-「わかる」とはどういうことか 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第11回	「わかる」「できる」 ② 【視点】「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-	事例学習-「できる」とはどういうことか 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第12回	非言語コミュニケーション ① 【視点】人は気持ちをどう伝え合うのか-近言語的、非言語-	非言語で伝え合うということ捉える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第13回	非言語コミュニケーション ② 【視点】人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境-	自分たちの体験から非言語のあり方を考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第14回	言語コミュニケーション 【視点】言語を通してのコミュニケーションの役割	言語コミュニケーションの役割 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第15回	発問と質問/まとめ 【視点】14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。	第1回から第14回までの復習 定期テストの課題等の提示 第6章「子どもにまなぶということ」をまとめる

■履修上の注意

- 遅刻・欠席は必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■評価方法

出席点(15%)、授業中に課したミニレポート・授業態度を(15%)、試験またはレポートを(70%)として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育原理 (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学習指導要領の「総則」に示されるこれからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、これからの日本の教師はどうあるべきか、を学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

そのために、教育の本質、歴史、を学ぶとともに、学校教育の内容、教育活動の展開の実際、そして、教育現場の実態の理解と対応のあり方を身につける。

■授業の概要

教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル(①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル)を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。

子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校あるいは幼稚園における教育的効果について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等)-授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。-毎回、【視点】にそったミニレポートを課す。レポートをまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。予習を行うことで授業内容が理解しやすくなる。 教育における人間観-「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ 【視点】「教育」とは何かを考える・意識することが出来る	「教育」とは何かを考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認 テキスト第1章「なぜ教育学をまなぶのか」を熟読する
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点 【視点】2つのモデルの解明とそれらの特徴と問題点	2つのモデルの解明とそれらの特徴と問題点 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点 【視点】3つ目のモデルの特徴と問題点	3つ目のモデルの特徴と問題点 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム 【視点】学校のでき方を知る	学校のでき方を知る 課題のミニレポートを作成し内容を確認 第2章「学校はどのようにつくられたか」を熟読する
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態:複線型、分岐型、単線型 【視点】就学形態を知る	学校の役割を考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる 【視点】義務教育の意義を知る	義務教育の歴史を辿る 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷 【視点】日本の義務教育史を辿り、背景からその意義を探索する	日本の義務教育の変遷 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第8回	生産モデル体制(閉鎖性)の諸問題 【視点】生産モデルがもたらす問題点を探る	生産モデルがもたらす問題点を探る 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第9回	人間モデルによる体制(開放性) 【視点】生産モデルから人間モデルへと移っていったのはなぜか	生産モデルから人間モデルへの移行の意味 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第10回	「わかる」「できる」 ① 【視点】「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-	事例学習-「わかる」とはどういうことか 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第11回	「わかる」「できる」 ② 【視点】「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-	事例学習-「できる」とはどういうことか 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第12回	非言語コミュニケーション ① 【視点】人は気持ちをどう伝え合うのか-近言語的、非言語-	非言語で伝え合うということ捉える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第13回	非言語コミュニケーション ② 【視点】人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境-	自分たちの体験から非言語のあり方を考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第14回	言語コミュニケーション 【視点】言語を通してのコミュニケーションの役割	言語コミュニケーションの役割 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第15回	発問と質問/まとめ 【視点】14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。	第1回から第14回までの復習 定期テストの課題等の提示 第6章「子どもにまなぶということ」をまとめる

■履修上の注意

- 遅刻・欠席は必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■評価方法

出席点(15%)、授業中に課したミニレポート・授業態度を(15%)、試験またはレポートを(70%)として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育実習事前・事後 指導(幼稚園)			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。

■授業の概要

- ・本講義は幼稚園での教育実習の事前・事後指導を行う科目である。
- ・事前指導では教育実習(幼稚園)の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等、習得する。
- ・事後指導として、実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	幼稚園実習へ向けての意欲を持ち、よりよい実習とはなにか考える
第2回	教育実習(幼稚園)の意義・目的	幼稚園実習の意義・目的について確認しておく
第3回	教育実習(幼稚園)の具体的内容と方法、実習計画	実習の内容、方法、計画について把握する
第4回	教育実習(幼稚園)の実習方法と心構え	実習方法を確認し、しっかりした心構えを持つ
第5回	実習施設理解 幼稚園長講話(外部講師招聘)	外部講師講話から、現場での様子を把握する
第6回	実習記録について① 実習記録の意義と内容	実習記録について、いままで行なった実習の記録を基に確認しておく
第7回	実習記録について② 実習日誌の書き方、模擬日誌作成	日誌の書き方について、重要点はどこか考える
第8回	教材研究と指導技術①	現場で求められる教材と技術について調べておく
第9回	教材研究と指導技術②	実施する際に考慮すべき点はなにか、考える。
第10回	指導計画① 指導計画と指導案の書き方	指導計画の必要性について再確認する。
第11回	指導計画② 指導案作成(部分実習)	作成した指導案は実施可能なものか検討する。
第12回	指導計画③ 指導案作成(一日実習)	内容、時間配分に無理はないか検討する。
第13回	直前指導 実習準備事項の確認	実習準備について再確認する
第14回	事後指導 実習のまとめと報告書作成	実習で学んだことについて整理する
第15回	実習反省会 自己課題設定等	他の学生の発表も参考にし、今後の課題を検討する。

■履修上の注意

- ・幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。

■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(30%)
 - ②期末試験(テストまたはレポート)(30%)
 - ③発表および提出物(40%)
- ・①～③を総合的に評価する。

■教科書

名須川知子編 『幼稚園教育実習の展開』北大路書房
 岡本祐子編 『実習に役立つ表現遊び』北大路書房 幼稚園教育要領解説

■参考書

講義中に適宜指示する

科目名	教育実習事前・事後指導 (中・高・特支)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

全国の自治体で実施される教員採用試験合格へ向け、教職教養、専門教養を中心に講義を行うと同時に過去問題を解きながら実力をつけていく。

願書の書きかた、自己アピール文の作成、小論文、面接練習を通して将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

3年次の後期から開講している教員採用試験対策講座を教職教養、専門教養を中心に継続して行う。外部講師を招き、願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験の練習を行い、教員採用試験合格に向け取り組む。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明 教員採用試験対策①(教員採用試験の概要説明))	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第2回	教員採用試験対策②(願書の書きかた、自己アピール文の作成方法・解説)	願書、自己アピール文の作成 / 解説した部分の確認
第3回	教員採用試験対策③(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第4回	教員採用試験対策④(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第5回	教員採用試験対策⑤(小論文の書きかた)	小論文の作成 / 解説した部分の確認
第6回	教員採用試験対策⑥(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第7回	教員採用試験対策⑦(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第8回	教員採用試験対策⑧(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第9回	教員採用試験対策⑨(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第10回	教員採用試験対策⑩(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第11回	教員採用試験対策⑪(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第12回	教員採用試験対策⑫(主に教職教養・専門教養科目)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第13回	教員採用試験対策⑬(面接試験の練習)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第14回	教員採用試験対策⑭(集団面接試験の練習)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認
第15回	教員採用試験対策⑮(集団面接試験の練習)	教科書の内容を事前に学習すること / 解説した部分の確認

■履修上の注意

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に実施した試験・レポート(70%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 2 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 東京教友会編著『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

■参考書

東京教友会編著『一般教養ランナー』一ツ橋書店、2012年度版

科目名	教育実習事前・事後指導 (特支)			担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・特別支援学校教員免許状取得のための教育実習に臨むにあたり、実習に必要な知識、技能、態度を学ぶ。
 ・教育実習の実施及び反省等を通して教員となるための資質が育ち意欲が高まるようになる。

■授業の概要

教育実習を行うために必要な、障害のある児童生徒の理解の仕方、実習への取り組み姿勢などを学ぶ。指導案の書き方を学んだり、模擬授業などを行う。実習後は反省やまとめなどの中で教員になるための資質を培う。毎回の授業の最後に教員採用試験問題の小テストを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	実習に臨むのに必要なことをまとめる。
第2回	事前指導 実習の意義と心得	授業をまとめ提出する
第3回	事前指導 実習校の理解と組織・教育課程	実習校の資料を用意して説明できるようにしておく
第4回	事前指導 授業観察、授業参加、実習録	大学で今まで学んだ知識を整理しておく
第5回	事前指導 学習指導案について	先輩の実習録を用意しておく
第6回	事前指導 学習指導案作り(各教科、日生、遊び、生単、作業、自活等)	先輩の実習録を用意しておく
第7回	事前指導 学習指導案作り(各教科、日生、遊び、生単、作業、自活等)	先輩の実習録を用意しておく
第8回	事前指導 模擬授業と反省(教材作りを含む)	模擬授業の準備をする
第9回	事前指導 模擬授業と反省(教材作りを含む)	模擬授業の準備をする
第10回	事前指導 模擬授業と反省(教材作りを含む)	模擬授業の準備をする
第11回	事前指導 模擬授業と反省	模擬授業の準備をする
第12回	事前指導 模擬授業と反省	模擬授業の準備をする
第13回	事後指導 実習のまとめと反省	実習資料を読んでおく
第14回	事後指導 実習のまとめと反省(特別支援学校教員としての自分を想定する)	自分の考えをまとめておく
第15回	まとめ	全体のまとめをする

■履修上の注意

遅刻、欠席は必ず届け出る。毎回小テストを行う。
 授業には課題意識を持って臨むこと。教師になる意思を固めておくこと。学習指導要領、解説等を読んでおくこと。

■評価方法

出席(20%)、授業への取り組み姿勢(30%)、テスト(40%)、小テスト等(10%)及び受講態度など総合的に評価する。

■教科書

文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領」「要領解説総則等編」「要領解説自立活動編」

■参考書

(独法)「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所 ジアース教育新社

科目名	教育社会学		担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・「子どもの社会化過程(社会的発達過程)」を中心に、具体的な教育事象を社会学の視点に立って考察する。
- ・教員養成の一環としても役立つよう、この講義を通してこれからの教師に必要な資質・能力を身に付ける。

■授業の概要

- ・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に理解する。
- ・教師や親と児童生徒の相互行為が行われる社会関係としての教育、教育に対する社会からの影響、教育の社会に及ぼす影響等について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	教育社会学の学習内容全体を概観する
第2回	家族集団と子どもの社会化	家族の中で子どもはいかに「社会化」されるか考える
第3回	仲間集団と子どもの社会化	仲間集団における子どもの「社会化」について考える
第4回	近隣集団と子どもの社会化	近隣集団における子どもの「社会化」について考える
第5回	学校集団の構成	学校の構造・組織を理解し、学校集団について考える
第6回	学校集団の社会化機能	学校集団における子どもの「社会化」について考える
第7回	教育の病理現象—いじめ問題の解釈と国際比較—	いじめの現代的特質や国際比較等について考える
第8回	子どもの社会化と逸脱行動	逸脱行動を集団からの疎外という観点から考察する
第9回	マス・コミュニケーションと社会化環境	マス・コミが「社会化」に及ぼす影響について考える
第10回	ニューメディアと子どもの社会化	インターネット等の普及が「社会化」に及ぼす影響について考える
第11回	学歴社会の変貌	学歴の意味、実力・能力を量るものについて考える
第12回	教育におけるジェンダーをめぐる諸問題	ジェンダーについて理解し、隠れたカリキュラム等について考える
第13回	若者と仕事をめぐる諸問題	学校から仕事への移行の問題(フリーター、ニート等)について考える
第14回	生涯学習社会の展望	生涯学習の現状と学習のボーダレス化について考える
第15回	グローバル時代における社会化の課題	グローバル時代に、社会化が抱えている学習課題について考察する

■履修上の注意

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つ姿勢をもって受講すること。
- ・教育に関するニュースなどに関心を持ち、問題意識を持って誠意ある態度で受講すること。

■評価方法

- ・試験またはレポートの成績の結果を主とする(80%)
- ・出席状況・受講態度等日常の履修状況を加味する(20%)

■教科書

住田正樹・高島秀樹(編)「子どもの発達社会学—教育社会学入門」北樹出版 2011年

■参考書

岩永雅也・稲垣恭子(編)「新版 教育社会学」(財)放送大学教育振興会 2007年

科目名	教育心理学			担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学校教育において学習指導や生活指導を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法について理解することを目的とする。 教員採用試験および社会福祉士国家試験心理科目に対応するための知識を習得する。

■授業の概要

教育心理学の主要4領域とされる「発達」「教授・学習」「性格・適応」「評価・測定」を中心に学ぶ。また、「いじめや子ども問題行動」「特別支援教育」「教師のメンタルヘルス」など、最近の学校教育をめぐる問題・課題についても取り上げる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	発達Ⅰ 発達段階と発達課題	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	発達Ⅱ 2つの発達観-遺伝か環境か?-	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	教授・学習Ⅰ 学習のメカニズム	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	教授・学習Ⅱ 記憶と学習方略	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	教授・学習Ⅲ 知能と学力	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	性格・適応Ⅰ やる気を育む	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	性格・適応Ⅱ 性格を理解する	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	性格・適応Ⅲ 人間関係と集団	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	性格・適応Ⅳ 学校不適応とその支援	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	教育評価	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	最近の教育心理学的テーマⅠ 特別支援教育① 理念と考え方	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	最近の教育心理学的テーマⅡ 特別支援教育② 支援の実際	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	最近の教育心理学的テーマⅢ 教師のメンタルヘルス	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

原則として講義形式で授業を行うが、可能な限り作業や心理テストなど体験的な学習を行う。また、視聴覚教材等を用いて授業を行う。受講生には、毎回、授業の最後に、その日の講義内容に関連する簡単な課題を提示する。

■評価方法

授業への参加態度を50%、定期試験を50%として、総合的に評価する。

■教科書

桜井茂男 2006 「楽しく学べる最新教育心理学-教職にかかわるすべての人に-」 図書文化社

■参考書

適宜紹介する

科目名	教育相談論			担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

講義や実習、課題発表等をおして、教師として児童生徒の悩みや諸課題の解決への援助ができる能力や人間としての心の痛みを理解できたり、一人ひとりの児童生徒の能力を引き出すことができたりする資質の育成を図る。

■授業の概要

教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導等を学ぶとともに、カウンセリング実習をおして教育相談の基礎的技法を身に付け、教師としての必要な教育相談的資質や能力を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、教育相談の意義と目的	個別課題の割り当て
第2回	教育相談の心理的基礎①	前時の復習、本時のまとめ
第3回	教育相談の心理的基礎②	前時の復習、本時のまとめ
第4回	教育相談の心理的基礎③	レポート課題の出題
第5回	教育相談の進め方①	リフレクション①
第6回	教育相談の進め方②	前時の復習、本時のまとめ
第7回	教育相談の進め方③	レポート課題提出
第8回	心理アセスメント①	前時の復習、本時のまとめ
第9回	心理アセスメント②	前時の復習、本時のまとめ
第10回	教育相談の技法①	レポート課題の出題
第11回	教育相談の技法②	リフレクション②
第12回	教育相談(カウンセリング)実習	レポート課題の提出
第13回	教育相談の技法③	前時の復習、本時のまとめ
第14回	問題行動の理解と指導①	前時の復習、本時のまとめ
第15回	問題行動の理解と指導②、まとめ	前時の復習、本時のまとめ

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。自己決定による座席指定をします。

■評価方法

定期試験(70%)、レポート課題(20%)、出席状況、受講態度等(10%)を総合して評価します。

■教科書

江川びん成編著 教育相談―その理論と方法― 学芸図書株式会社 定価1470円

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育方法論 (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

問題事例の検討、授業のシステム化、情報機器活用等、教育方法の学習を通して、独自の自作教材を開発する。

■授業の概要

教育方法の内容を概観すると同時に授業に役立てる自作教材の開発の方法を紹介する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	序章 授業案内 第1章 教育方法の意義と内容	復習 テキストと配布資料を読む
第2回	事例による問題提起	復習 テキストと配布資料を読む
第3回	教育方法の潮流	復習 「課題1」の検討
第4回	第2章 授業の方法	復習 テキストと配布資料を読む
第5回	授業のシステム化事例	復習 テキストと配布資料を読む
第6回	第3章 教材開発の方法	「課題2」や「課題3」のテーマの検討
第7回	三種類の自作教材	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第8回	自作テキスト教材の特徴	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第9回	第4章 情報機器の活用の方法	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第10回	第5章 授業評価の方法	自作教材の改善に取り組む
第11回	目標分析	自作教材の改善に取り組む
第12回	第6章 授業の実践と評価	自作教材の発表準備に取り組む
第13回	自作教材の発表と評価(1)	復習 発表された作品から学ぶ
第14回	自作教材の発表と評価(2)	復習 発表された作品から学ぶ
第15回	第7章 総括	復習 テストへの整理・総復習

■履修上の注意

試験の他にレポート課題提出があり、評価の対象になる。

■評価方法

試験(40%)、レポート(40%)、授業への参加態度(20%)

■教科書

島田昌幸著「教育方法論」研文社、2012年

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	教育方法論 (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 教育理論が教育現場ではこのように具現化するという理論と実践の融合を図る実践的な授業を展開する。従って、講義形式だけでなく、グループ協議、プレゼンテーション、ミニシンポジウム等も取り入れることで、学生は学ぶことへの主体性を身に付ける。
- 2 授業や保育に関わる諸要素(学習指導・教育要領、教育課程、学習・保育指導案、授業づくり等)について、具体的な授業を通して、指導者に必要な人間力を身に付ける。

■授業の概要

幼稚園教諭・保育士、小学校教諭の仕事と役割、幼稚園教諭・保育士、小学校教諭に求められる力量、幼稚園・保育所での事故・事件事例、学習形態、学習評価、幼稚園教諭・保育士の適性検査、小学校教員採用試験の実態を主な授業内容とする。これらのテーマに関わる知識・技能を身に付け、自らの教職への意欲を高め、適性等を考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】(1)授業の進め方、(2)自己紹介、(3)教師の体験談、(4)アンケート	幼稚園教育要領解説を概観する。
第2回	【幼稚園教諭や保育士の仕事と役割(1)】(1)上述アンケートを振り返る。 (2)実際の幼稚園や保育所の記録映像などから、仕事や役割を話し合う。 【幼稚園教諭の仕事と役割(1)】(1)上述アンケートを振り返る。 (2)実際の幼稚園の記録映像より、仕事や役割を話し合う。	保育所保育指針解説書を概観する。
第3回	【小学校教諭の仕事と役割(2)】(1)実際の小学校の記録映像や学習指導要領解説より、教職の意義を考える。	小学校学習指導要領を概観する。
第4回	【教育法制】(1)教育法制(憲法・教育基本法・学校教育法等)を理解する。 (2)教員の服務・研修を理解する。(3)事故・事件事例を読む。	教育法例で重要なものは、覚える。
第5回	【幼稚園・保育所、小学校について】(1)幼稚園教育と小学校教育の異同を話し合う。 (2)幼少連携について理解する。(3)事故・事件事例を読む。	教育法例で重要なものは、覚える。
第6回	【幼稚園・保育所での事故・事件事例】(1)事例を用い園運営や幼児をめぐる問題を知る。(2)グループでプレゼンを行う。	プレゼンの準備をする。
第7回	【小学校での事故・事件事例】(1)事例を用い学校運営や児童をめぐる問題を知る。(2)グループでプレゼンを行う。	プレゼンの準備をする。
第8回	【幼稚園教諭、保育士、小学校教諭に求められる力量】(1)三者に求められる力量について話し合う。(小集団)(2)KJ法、(3)小集団や全体で協議する。	三者に求められる力量の相違を考える。
第9回	【三者に求められる力量の共通点、相違点】ミニシンポジウムの形で話し合う。	幼稚園教育要領解説を読む。
第10回	【学習形態の工夫】(1)一斉指導、(2)個別学習、(3)チームティーチングの演示(習熟の程度に応じた指導)、(4)各形態の長所・短所の協議	保育所保育指針解説書を読む。
第11回	【授業を支える学級経営】(1)学級経営の意義、(2)学習規律と集団指導、(3)学級経営案と学級便り、(4)教師の温かさや厳しさ、(5)学級崩壊	小学校学習指導要領を読む。
第12回	【学習の評価方法】(1)診断的評価・形成的評価・総括的評価、(2)カルテ・座席表、(3)通知表と指導要録、(4)PDCAサイクル	適性検査の過去問を解く。
第13回	【幼稚園・保育士適性検査】(1)適性検査の現状と試験内容について知る。 (2)実際、試験問題を解いてみる。	適性検査の過去問を解く。
第14回	【小学校教員採用試験】(1)教員採用試験の現状と試験内容について知る。 (2)実際、試験問題を解いてみる。	教員採用試験の過去問を解く。
第15回	【定期試験】	学習内容のまとめと確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成20年10月1日、フレーベル館、厚生労働省「保育所保育指針解説書」2008年5月13日、文部科学省「小学校学習指導要領」平成20年7月25日、東京書籍

■参考書

授業の中で、適宜紹介していきます。

科目名	教職概論			担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・教職について、学習指導・生徒指導・学級経営などの観点から理解する。
- ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について考える。

■授業の概要

- ・教師の日常の仕事を、授業づくり・生徒指導などの観点から概観する。
- ・わが国の近代教育の成立から今日までの教師像の変遷をたどり、教職の意義及び教師の役割を理解する。
- ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えを構築する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	あるべき教師像や教師の仕事について概観する
第2回	授業をつくるー学習指導(1)	授業の構成や成立要件などについて理解する
第3回	授業から学ぶー学習指導(2)	評価者及び共に学び続ける教師について考える
第4回	カリキュラムをデザインするー学習指導(3)	単元を組織し、学びを構成することについて考える
第5回	子どもの心を育むー生徒指導	共感と受容等子どもの心の捉え方を理解する
第6回	学級の経営	担任教師の仕事内容や姿勢について理解する
第7回	生涯を教師として生きる	新任期からベテラン教師まで、具体的に概観する
第8回	教職の専門性	教職の国際的認識・教師の育成について理解する
第9回	教師の職場環境	教師の勤務実態、悩み・不安等について理解する
第10回	教師の仕事とジェンダー	女性にとつての教職や子育てについて考える
第11回	時代の流れと教師像の変遷	明治・大正・昭和期の教師像の変遷を概観する
第12回	教師の資質向上と研修	教師の資質・能力と力量形成について考える
第13回	教員の身分と服務義務	教員の資格・服務・身分保障について理解する
第14回	学校・家庭・地域社会の役割と連携	開かれた学校・学校外活動等について考える
第15回	これからの学校教育ー中教審答申・改訂学習指導要領等	今後の学校教育と教師の在り方について考える

■履修上の注意

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用すること。
- ・教育職員免許状取得上の必修科目であり、資格取得希望者は出席すること。
- ・新聞・ニュースなどの教師に関する記事等に関心を持ち、誠意ある積極的な態度で受講すること。

■評価方法

- ・試験またはレポートの成績の結果を主とする(80%)
- ・出席状況・受講態度等日常の履修状況を加味する(20%)

■教科書

秋田喜代美・佐藤 学(編)「新しい時代の教職入門」有斐閣 2006年

■参考書

佐藤徹(編著)「教職論」ー教職につくための基礎・基本ー 東海大学出版会 2010年

科目名	教職総合演習I (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

将来、教職に携わる者として、人類に共通する課題や我が国の社会に共通する課題について、理解を深めると共に対応のあり方を身につける。

近年、学校教育において青少年の心の問題が深刻化している。急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けられるような教員としての資質を育てる。

■授業の概要

講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会教育、福祉、性教育、スクールカウンセラーの立場から、広い視野をもって将来教員を目指す学生の資質の向上を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 共生社会を生きる	共生社会のあり方を考える 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第2回	「障害児」教育を考える	特別支援教育と障害児教育の役割 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第3回	子どもの世界	子どもとは、大人との違いをどう捉えるか 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第4回	教職について考える ①	教職の意義・役割 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第5回	教職について考える ②	教師の仕事とは何か 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第6回	教職について考える ③	教師の資質 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第7回	教職について考える ④	子どもと向き合える教師とは 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第8回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生心の問題について考える ①	学校現場におけるカウンセラーの役割 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第9回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生心の問題について考える ②	事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第10回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生心の問題について考える ③	事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第11回	自立する高齢社会について英語で考える	事前に英文プリントを配布する 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第12回	共に生きる社会づくりについて英語で考える	事前に英文プリントを配布する 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第13回	性教育について ①	学校教育における性教育の意義・目的 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第14回	性教育について ②	事例学習 課題のミニレポートを作成し内容を確認
第15回	「教職総合演習I」のまとめ	第2回から第14回までの復習 教職に就く心構え/教師の資質

■履修上の注意

- 遅刻・欠席は必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■評価方法

出席点・授業態度(30%)、授業中に課したレポート(50%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

各担当教員が準備する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教職総合演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 教職の意義や教員の役割を再確認し、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の基礎を身に付ける。
- 2 課題解決能力、プレゼンテーション能力、表現力を高める。

■授業の概要

- 1 教師に求められる力量、教育判例、いじめ、不登校、学級崩壊、中1ギャップ、教師のメンタルヘルス、保護者対応等教育課題について、グループ討議、模擬授業、事例研究実践、パワーポイント発表等を取り入れることで、学生は学ぶことへの主体性を身に付ける。
- 2 授業成立に関わる諸要素(学習指導要領、学習指導案、授業づくり等)について、実践的指導力を身に付ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】(1)授業の進め方、(2)自己紹介、(3)新学習指導要領の概観、(4)教師の体験談①	中学校・高等学校学習指導要領の概観
第2回	【教師に求められる力量】(1)グループ討議、(2)KJ法→発表、(3)文科省の求める力量	文科省の教育に関わる答申
第3回	【教育判例①】(1)「校長の授業参観」の教育判例を読む(全体討議)、(2)教育判例の担当を決める。	教育判例の熟読
第4回	【教育判例②】(1)前半グループの発表、(2)全体討議	教育判例の熟読
第5回	【教育判例③】(1)後半グループの発表、(2)全体討議	教育判例の熟読
第6回	【公教育制度、教育委員会】(1)公教育制度、(2)教育委員会制度	教育法令の概観
第7回	【学級経営】(1)学級経営の意義、(2)宝を見つける活動、(3)学級経営に生かせるゲーム、(4)教師の体験談	学級経営のまとめ
第8回	【教育課題①】(1)いじめ、不登校、学級崩壊、中1ギャップ等教育課題の概要を把握する。(2)教育課題の担当を決める。	プレゼンテーション準備
第9回	【教育課題②】(1)第一グループ、パワーポイントによるプレゼン。(2)全体討議	プレゼンテーション準備
第10回	【教育課題③】(1)第二グループ、パワーポイントによるプレゼン。(2)全体討議	プレゼンテーション準備
第11回	【教育課題④】(1)第三グループ、パワーポイントによるプレゼン。(2)全体討議	学習指導案作成
第12回	【授業実践Ⅰ】(1)略案に基づく模擬授業(学生が授業者・子ども・参観教師役となる)、学級活動、(2)授業検討会	学習指導案作成
第13回	【授業実践Ⅱ】(1)略案に基づく模擬授業(学生が授業者・子ども・参観教師役となる)、道徳、(2)授業検討会	学習指導案作成
第14回	【授業実践Ⅲ】(1)略案に基づく模擬授業(学生が授業者・子ども・参観教師役となる)、社会、(2)授業検討会	模擬授業のまとめ
第15回	【定期試験】	学習内容のまとめと確認

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(20%)、授業態度(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	権利擁護と成年後見制度			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。

■授業の概要

相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	権利擁護と憲法Ⅰ	教科書の7～19頁を読むこと
第2回	権利擁護と憲法Ⅱ	教科書の19～25頁を読むこと
第3回	権利擁護と行政法Ⅰ	教科書の26～32頁,42～44頁を読むこと
第4回	権利擁護と行政法Ⅱ	教科書の32～42頁を読むこと
第5回	権利擁護と民法Ⅰ	教科書の45～62頁を読むこと
第6回	権利擁護と民法Ⅱ	教科書の62～72頁を読むこと
第7回	成年後見の概要	教科書の76～83頁を読むこと
第8回	保佐の概要、補助の概要	教科書の84～91頁を読むこと
第9回	法定後見制度の手続等	教科書の92～100頁を読むこと
第10回	任意後見制度、日常生活自立支援事業	教科書の101～124頁を読むこと
第11回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体	教科書の129～159頁を読むこと
第12回	権利擁護にかかわる専門職の役割	教科書の161～182頁を読むこと
第13回	権利擁護活動の実際Ⅰ	教科書の183～229頁を読むこと
第14回	権利擁護活動の実際Ⅱ	ノート等を見直すこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■評価方法

試験(50%)、小テスト(10%、原則として各回行う)、出席点(30%)授業態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座19)」中央法規

■参考書

六法(例:「ポケット六法」有斐閣,平成24、ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2012年)
宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年

科目名	公衆衛生学			担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職(又は医療専門職としての)各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べるができる。

■授業の概要

社会福祉専門職(又は医療専門職)として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒の身体的・精神的健康と福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 公衆衛生学概論 公衆衛生学の目的・範囲等	教科書を学習すること
第2回	保健統計 公衆衛生学における人口問題 人口静態・人口動態・生命表	〃
第3回	衛生行政 機構・業務等及び地域保健・保健活動	〃
第4回	社会保障制度 概念・医療保障・医療供給システム	〃
第5回	環境衛生 大気・住居・振動・衣服・飲料水・産業廃棄物・公害等	〃
第6回	国民栄養と食品衛生 栄養学・食品衛生・食中毒	〃
第7回	母子保健 意義・歴史的背景・現状・出生率・母性保護	〃
第8回	成人保健・老人保健 成人病・高齢化社会・老人保健	〃
第9回	学校保健 目標・目的・内容・発育・保健管理・学校給食・衛生教育・学校体育	〃
第10回	産業衛生 作業環境・労働時間と形態・職業病・産業災害	〃
第11回	(1)疫学と感染症 (2)優生学と精神衛生 感染症 伝染病 遺伝・精神障害	〃
第12回	医療福祉コミュニケーション 医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション	〃
第13回	医療福祉危機管理 医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法	〃
第14回	口腔ケア 口腔ケア・オーラルリハビリテーション	〃
第15回	総括 まとめ	〃

■履修上の注意

口述・板書した内容は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。

■評価方法

オリジナルプリント等を配布します。80%定期試験 20%ノート・教科書の点検

■教科書

オリジナルプリント等を配布します

■参考書

授業中に指示する

科目名	更生保護制度			担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることの理解を深め、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の試験科目なので、合格水準到達を目標とする。

■授業の概要

相談援助活動において必要となる更生保護について考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について学習すると共に、他機関との連携の在り方について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	刑事司法のなかの更生保護	更生保護の意義を整理する。
第2回	仮釈放等	仮釈放の種類と手続を整理する。
第3回	保護観察	保護観察対象者の種類と特徴を予備知識として得ておく。
第4回	生活環境の調整	収容中の者、裁判確定前等の調整を整理する。
第5回	更生緊急保護・犯罪被害者	更生緊急保護の意義と被害者等の施策を考えておく。
第6回	恩赦・犯罪予防活動	政令恩赦と個別恩赦の違いを理解し、整理する。
第7回	保護観察官・保護司	観察官とボランティアである保護司の役割分担を考える。
第8回	更生保護施設・民間協力者	施設と協力者のそれぞれの役割を考える。
第9回	裁判所との連携	保護観察を開始するまでの流れを予備知識として得ておく。
第10回	検察庁・矯正施設との連携	検察庁、少年院、刑務所の位置付けを考えておく。
第11回	公共職業安定所・福祉事務所との連携	社会的に排除された者を社会に再統合していく有効な就労支援としての役割を考える。
第12回	医療観察法に基づく処遇制度、生活環境の調査・調整	医療観察制度の新しい役割を考える。
第13回	地域社会における処遇、関係機関との連携	関係機関だけでなく民間団体等も含めて考える。
第14回	保護観察官・社会復帰調整官の業務の実際	社会復帰調整官の役割を予備知識として得ておく。
第15回	更生保護の今後の展望	更生保護の今後について、福祉制度、就労支援策をまとめる。

■履修上の注意

板書、口述内容は定期試験に重要なので整理すること。国家試験の過去、予想問題を含めての小テストを原則として毎回実施する。6回以上(公欠を含む)欠席は、定期試験の資格を失う。

■評価方法

定期試験、小論文、小テスト、出席状況を総合的に評価する。
(目安)試験結果70%、小論文・小テスト20%、出席状況10%

■教科書

新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	高等学校教育実習 (公民)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			
必修・選択	この科目は、高等学校教員免許取得希望、社会福祉専攻の必修科目である					

■実習の目的または到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期、4年次前期に教育実習事前事後指導で行われる教員採用試験対策講座を受講する者
- 7 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者
(都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること)

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間(3週間)の実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習記録」の提出を必須とする。

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習の記録の評価(40%)

科目名	高等学校教育実習 (福祉)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			
必修・選択	この科目は、高等学校教員免許状取得希望、社会福祉専攻の必修科目である					

■実習の目的または到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術I、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期、4年次前期に教育実習事前事後指導で行われる教員採用試験対策講座を受講する者
- 7 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者
(都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること)

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間(3週間)の実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習記録」の提出を必須とする。

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習の記録の評価(40%)

科目名	国語科概論		担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1 小学校国語科学習指導要領の目標及び内容の概要を理解し、授業実践に繋がられる基礎的知識・技能を身に付ける。
- 2 上記知識・技能を用い、授業の展開が考えられる。

■授業の概要

- 1 国語科指導の基礎基本、学習指導要領の目標や内容、各学年の具体的な内容を学ぶ。
- 2 学習指導要領の理解に基づいた授業展開例を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	【オリエンテーション】(1) 授業の進め方、(2) 新学習指導要領、(3) 採用試験までの道のり、(4) アンケート(目指す職業、教師像、実習校等)	学習指導要領(国語編)を読む。
第2回	【国語科指導の基礎基本①】(1) アンケート結果より(2) 心構え、(3) 教師の話し方、(4) 読み聞かせと範読	学習指導要領(国語編)を読む。
第3回	【国語科指導の基礎基本②】(1) 板書法、(2) 各学年の配当漢字、(3) 書写(硬筆と毛筆)の指導、(4) 子どもの国語科の学力の課題	各学年の配当漢字を概観する。
第4回	【学習指導要領と教育課程】(1) 学習指導要領の意義と内容、(2) 学習指導要領→教育課程→授業実践の流れ、(3) 実際の教科書について	学習指導要領解説(国語編)を読む。
第5回	【学習指導要領の理解①】(1) 改訂の趣旨と要点、(2) 国語科の目標、(3) 国語科の4つの内容、(4) 各学年の内容の概観	学習指導要領解説(国語編)を読む。
第6回	【学習指導案作成①】(1) 学習指導案について(2) 教科書2年上「かたかなで書く言葉」の指導案を書く、(3) 国語科学習指導要領解説	学習指導案の残りを書きあげる。
第7回	【学習指導案作成②】(1) 「2年かたかなで書く言葉」の指導案作成、(2) ワークシート、板書について、(3) 国語科学習指導要領解説	ワークシートや板書計画を仕上げる。
第8回	【模擬授業と授業検討会①】(1) 模擬授業「かたかなで書く言葉①」、(2) 授業検討会	模擬授業を省察する。
第9回	【模擬授業と授業検討会②】(1) 模擬授業「かたかなで書く言葉①」、(2) 授業検討会	模擬授業を省察する。
第10回	【学習指導案作成③】(1) 「2年すみれとあり」の指導案作成、(2) ワークシート、板書について、(3) 国語科学習指導要領解説	学習指導案の残りを書きあげる。
第11回	【模擬授業と授業検討会③】(1) 模擬授業「すみれとあり①」、(2) 授業検討会	模擬授業を省察する。
第12回	【模擬授業と授業検討会④】(1) 模擬授業「すみれとあり②」、(2) 授業検討会	模擬授業を省察する。
第13回	【学習指導要領の理解②】(1) 学習指導要領と採用試験	国語科に関わる教授過去問を解く。
第14回	【学習指導要領の理解③】(1) 学習指導要領と採用試験	国語科に関わる教授過去問を解く。
第15回	【定期試験】	学習内容のまとめと確認をする。

■履修上の注意

- 1 欠席・遅刻・早退は必ず申し出て下さい。
- 2 出席を重視し、授業中の発言や課題等授業態度も評価するので、積極的な授業参加を期待します。

■評価方法

出席点(30%)、授業態度(20%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。

■教科書

- 1 「小学校学習指導要領 国語編」、東洋館出版社、116円+税。
- 2 小学校児童用教科書「ひろがる言葉、2年上、3年上、4年上、5年上(教育出版)」の4冊を使用します。
- 3 上記の他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用します。

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	国際福祉論			担当教員 (単位認定者)	吉田 滋	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

我が国と世界の福祉の違いを理解し、国際的な視野を福祉の現場で活かせるようにする。
社会福祉士国家試験の世界の社会保障領域がカバーできる。

■授業の概要

受講生の興味のある国の中からその国の福祉(社会保障も含む)を自ら調べ個人またはグループで発表する。発表に対して教員と受講生が質疑応答を行い多角的な視野から幅広く福祉について学び、理解していく。基本的な国の福祉については講義形式となるが、それ以外は受講生の自由な発表を行う。調査方法などは随時指導する。第1回目のときに発表順序の決定、グループ分け等を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション、グループ分け	興味のある国を選びグループを選択する。
第2回	ヨーロッパ諸国	イギリス、フランス
第3回	ヨーロッパ諸国	イタリア、ドイツ
第4回	ヨーロッパ諸国	スウェーデン、デンマーク
第5回	北米諸国	アメリカ
第6回	北米諸国	カナダ、メキシコ
第7回	中南米諸国	ブラジル、チリ
第8回	中南米諸国	ペルー、キューバ
第9回	中東諸国	サウジアラビア、イラン
第10回	中東諸国	エジプト、イスラエル
第11回	東アジア諸国	ベトナム、中国
第12回	東アジア諸国	インド、シンガポール、韓国
第13回	アフリカ諸国	ケニア等
第14回	ロシア	ロシア
第15回	東欧諸国	ハンガリー等

■履修上の注意

第1回目の講義でグループ分け等を行うので1回目の講義に出ないものは2回目以降からの受講を認めない。
グループ発表を各自1回、個人発表を2回は必ず行う。
受身の授業ではなく自ら進んで調査してまとめる力とチームワークが問われる。
他の受講生の迷惑となるので必ず発表の順番は守ること。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、発表のプレゼンテーションを40%、レポートを50%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。欠席回数6回以上は単位を与えない。私語等厳禁。既定の発表回数を満たさない者には単位を与えない。レポートは自分で調べ自分の言葉で表現すること。

■教科書

『世界国勢図絵』国勢社

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	子どもの食と栄養			担当教員 (単位認定者)	梅山 節子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

発育の基盤となる要素の1つである食事を通じて身体のこと食物のことなど多くのことを学び、それによって自らの食生活も確立できるよう理論と実践を行う。

■授業の概要

小児の身体の特徴、発育を知り、それに応じた栄養と食事を実習を通じて学んでいく。そういった中で食育基本法、また、アレルギーへの対応といった幅広い知識を習得する。
(1回の授業は2コマ連続である。)

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション、実習室の使い方、服装、ノートについて	教科書を読む・ノート整理
第2回	保育所に求められる食事 ①献立の基本	〃
第3回	〃 ②母乳、調乳について	〃
第4回	〃 ③離乳食について、作り方	〃
第5回	〃 ④幼児食	〃
第6回	栄養素不足を補う献立 (鉄)	〃
第7回	〃 (カルシウム)	〃
第8回	おやつ例(理論と実践)	〃
第9回	幼児への食育に必要な食事 (主食ごはん)	〃
第10回	〃 (麺)	〃
第11回	〃 (パン)	〃
第12回	〃 (お弁当)	〃
第13回	学童期の食事①	〃
第14回	〃 ②	〃
第15回	20代のための食事	ノート整理・まとめ

■履修上の注意

「授業」であるという態度を求めます。おしゃべりや遊びは控えてください。
特に火や包丁といった危険な物もあるので、まじめな態度を求めます。また、エプロン、三角布は必ずつけて下さい。

■評価方法

授業態度(50%)とノート内容(50%)で評価します。コピーは厳禁

■教科書

小児栄養 発育期の食生活と栄養 (学建書院) ¥1600+税

■参考書

食育調理技術の基礎 (全国料理学校協会編纂)

科目名	肢体不自由教育Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

・肢体不自由教育の基本を理解する。
 ・特別支援教育における肢体不自由教育を充実させていくための課題を知る。
 肢体不自由教育の基本を理解し課題を知ることを通して、特別支援教育や高等学校の「福祉」の教師を目指すための基礎能力をつけることができる。

■授業の概要

肢体不自由教育の基礎や課題、特に特別支援教育への変換やノーマライゼーションの趨勢の中で肢体不自由教育がどのようにあるべきかについて学ぶ。さらに肢体不自由特別支援学校の現状を学ぶことで特別支援教育の中身を知る。特別支援教育の中で使われるキーワードを学ぶ中で、それを文章化したり小テストで整理することで特別支援教育の基礎を学んでいく。基本的には講義の予習、復習のためのレジュメを配布する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習する、資料を学習する
第2回	肢体不自由教育の歴史	教科書を学習する、資料を学習する
第3回	肢体不自由の概念	教科書を学習する、資料を学習する
第4回	肢体不自由児の病理・生理・心理	教科書を学習する、資料を学習する
第5回	特別支援教育としての肢体不自由教育	教科書を学習する、資料を学習する
第6回	肢体不自由教育の現状	教科書を学習する、資料を学習する
第7回	肢体不自由教育における教育課程	教科書を学習する、資料を学習する
第8回	個別の教育支援計画	教科書を学習する、資料を学習する
第9回	肢体不自由教育における自立活動	教科書を学習する、資料を学習する
第10回	個別の指導計画	教科書を学習する、資料を学習する
第11回	授業づくり(身体の動きを中心に)	教科書を学習する、資料を学習する
第12回	授業づくり(視覚に障害のある場合)	教科書を学習する、資料を学習する
第13回	評価と授業改善	教科書を学習する、資料を学習する
第14回	高等部の教育	教科書を学習する、資料を学習する
第15回	まとめ	教科書を学習する、資料を学習する

■履修上の注意

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。必要に応じて、ミニレポートを課する。講義の中に出てくる重要なキーワードについて調べたり発表したりする。小テストを課する。

■評価方法

出席(20%)、テスト(70%)、小テスト等(10%)及び受講態度など総合的に評価する。

■教科書

日本肢体不自由教育研究会監修「肢体不自由教育の基本とその展開」慶応義塾大学出版

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	肢体不自由教育Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

・肢体不自由教育の現状 と仕組みを理解する。
 ・特別支援教育における肢体不自由教育の実際を知り課題を知る。
 肢体不自由特別支援学校の指導内容や方法について学ぶことで肢体不自由教育の基本を理解し課題を知り、特別支援教育や高等学校の「福祉」の教師を目指すための基礎能力をつけることができる。

■授業の概要

肢体不自由教育の実際的課題、ノーマライゼーション、ICF、進路、社会福祉とのかかわりを学んでいく。肢体不自由教育や特別支援教育の中で使われるキーワード等を学ぶ中で、文章化したり、テストで整理することで特別支援教育としての肢体不自由教育を学んでいく。基本的には講義の予習、復習のためのレジュメを配布する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習する、資料を学習する
第2回	肢体不自由教育の現状と仕組み	教科書を学習する、資料を学習する
第3回	肢体不自由教育の実際	教科書を学習する、資料を学習する
第4回	脳性まひ、二分脊椎、筋ジス他Ⅰ	教科書を学習する、資料を学習する
第5回	脳性まひ、二分脊椎、筋ジス他Ⅱ	教科書を学習する、資料を学習する
第6回	自立活動(ポジショニング、動作法、ポバース法)Ⅰ	教科書を学習する、資料を学習する
第7回	自立活動(ポジショニング、動作法、ポバース法)Ⅱ	教科書を学習する、資料を学習する
第8回	重度・重複障害児とその指導法	教科書を学習する、資料を学習する
第9回	病弱教育	教科書を学習する、資料を学習する
第10回	自助具、補助具、コミュニケーション機器	教科書を学習する、資料を学習する
第11回	特別支援教育とノーマライゼーション	教科書を学習する、資料を学習する
第12回	ICFと肢体不自由	教科書を学習する、資料を学習する
第13回	高等部の教育課程と進路指導	教科書を学習する、資料を学習する
第14回	進路指導と移行支援と社会の現状	教科書を学習する、資料を学習する
第15回	まとめ	教科書を学習する、資料を学習する

■履修上の注意

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。必要に応じて、ミニレポートを課する。講義の中に出てくる重要なキーワードについて調べたり発表したりする。小テストを課する。

■評価方法

出席(20%)、テスト(70%)、小テスト等(10%)及び受講態度など総合的に評価する。

■教科書

日本肢体不自由教育研究会監修「肢体不自由教育の基本とその展開」慶応義塾大学出版

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	肢体不自由者の 心理・生理・病理		担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①肢体不自由をきたす疾患について説明することができる。
 ②肢体不自由児の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

肢体不自由児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。肢体不自由児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、肢体不自由児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	脳性まひ(1)	今週と来週の授業内容
第3回	脳性まひ(2)	今週と来週の授業内容
第4回	二分脊椎	今週と来週の授業内容
第5回	筋ジストロフィー	今週と来週の授業内容
第6回	ペルテス病	今週と来週の授業内容
第7回	骨系統疾患	今週と来週の授業内容
第8回	手足の先天奇形	今週と来週の授業内容
第9回	先天性多発性関節拘縮症	今週と来週の授業内容
第10回	ダウン症の合併症	今週と来週の授業内容
第11回	先天性股関節脱臼	今週と来週の授業内容
第12回	褥瘡	今週と来週の授業内容
第13回	肢体不自由児のケガの特徴	今週と来週の授業内容
第14回	肢体不自由児の心理学	今週の授業内容
第15回	まとめ、レポート作成	いままでの授業内容

■履修上の注意

肢体不自由児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。

■評価方法

学ぶ意欲(ノート+授業態度)50%とレポート50%を総合して評価する。

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	社会科概論			担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小学校社会科は、社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを教科の目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。

■授業の概要

学習指導要領改訂のポイント、学習指導要領のねらい・特色、小学校社会科の学習目標と学習内容、基礎となる考え方を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領改訂のポイント	指導要領を読むこと
第2回	学習指導要領改訂のねらい	指導要領を読むこと
第3回	小学校社会科指導要領の特色	指導要領を読むこと
第4回	特色を活かすためのポイント、指導要領の構成	学習内容の復習
第5回	学年ごとの学習内容を体系的にまとめるⅠ	ワークシートを確認する
第6回	学年ごとの学習内容を体系的にまとめるⅡ	ワークシートを確認する
第7回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容Ⅰ	指導要領を読み、確認する。
第8回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容Ⅱ	指導要領を読み、確認する。
第9回	第5学年の学習目標と学習内容Ⅰ	基礎的な学習内容を復習する。
第10回	第5学年の学習目標と学習内容Ⅱ	基礎的な学習内容を復習する。
第11回	第6学年の学習目標と学習内容Ⅰ	基礎的な学習内容を復習する。
第12回	第6学年の学習目標と学習内容Ⅱ	基礎的な学習内容を復習する。
第13回	学習指導要領の推移と社会科の教育課程Ⅰ	学習内容の復習
第14回	学習指導要領の推移と社会科の教育課程Ⅱ	学習内容の復習
第15回	まとめ	学習内容の確認

■履修上の注意

小学校教諭を目指すものとしての自覚を持って履修すること。また、教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようしておくこと。また、地理・歴史・公民の基礎的知識について確認しておくこと。

■評価方法

出席状況(50%)、授業態度(20%)、定期試験(30%)を目安とし、総合的に評価する。

■教科書

「小学校学習指導要領解説 社会編」

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	社会心理学		担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人の心理や行動を、その個人だけではなく、場の力や行動の背景を考慮したうえで捉える視点を獲得
 ②人をとりまく人間関係の影響を理解できる
 ③偶然のようにも見える人の行動の中に存在する、パターンや法則性を理解できる

■授業の概要

人の心の背後に常に在りながら、行動や思考を方向づけていく多様な事柄を学ぶ。人は、個人としても、社会的存在としても、無意識的に多くの制約の中で能動的に生きていることを理解し、自分や他者を社会という大きな“場の力”のもとに捉える視点を学んでいく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	人や心をとらえる心の仕組み① バイアスを中心に	教科書第1章前半を予習
第2回	人や心をとらえる心の仕組み② 連合ネットワーク理論、ヒューリスティックを中心に	教科書第1章後半を予習
第3回	気分や感情や主観的感覚の影響	教科書第2章を予習
第4回	非意識的・自動的過程	教科書第3章を予習
第5回	“私”を作り上げる仕組み 作業自己概念、自己評価維持を中心に	教科書第4章を予習
第6回	態度と態度変化 認知的斉同性理論などを中心に	教科書第6章を予習
第7回	対人関係 対人魅力、囚人のジレンマなどを中心に	教科書第7章を予習
第8回	集団の中の個人	教科書第8章を予習
第9回	集団間の関係 集団間の対立のメカニズムと対立の乗り越えを中心に	教科書第9章を予習
第10回	ソーシャル・ネットワーク	教科書第11章を予習
第11回	マスメディアとインターネット	教科書第12章を予習
第12回	世論と社会過程	教科書第14章を予習
第13回	組織と個人のダイナミクス	教科書第16章を予習
第14回	集合行動とマイクロ=マクロ過程	教科書第17章を予習
第15回	まとめ	教科書を復習

■履修上の注意

ボリュームがある教科書を使用しているため、あらかじめ講義前に予習をして講義に臨むこと。毎年消極的な受講者が見受けられるが、受け身な受講態度では内容理解が困難なレベルになるとと思われるので、積極的な受講態度を求めたい。

■評価方法

原則として試験100%で評価。ただし、受講態度が悪いもの、欠席が多いものは、20%を上限に減点処理をする。

■教科書

社会心理学 池田謙一・唐沢穰・工藤理恵子・村本由紀子著 有斐閣 2010年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	社会調査の基礎 (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士受験のための知識習得を目指す。

■授業の概要

本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポートの作成方法についての解説がなされることになる。また、定量的な分析だけでなく、参与観察法や事例研究法といった定性的研究法にも触れていくことにしたい。なお、毎回、授業の前後で国家試験対策用の小テストを実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	授業ガイダンス インTRODクシヨN・社会調査の意義と目的	第1章、第2章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第2回	社会調査の対象	第2章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第3回	社会調査における倫理および個人情報保護	第2章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第4回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査	第3章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第5回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査	第3章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第6回	量的調査の方法 測定	第3章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第7回	量的調査の方法 質問紙作成の留意点 調査票の配布と回収	第3章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第8回	到達テスト	これまでの小テストを復習しておくこと
第9回	データ分析	配布プリントを読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第10回	データ分析	配布プリントを読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第11回	質的調査の方法 観察法 参与観察・非参与観察	第4章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第12回	質的調査の方法 面接法 自由面接法、構造化面接法、半構造化面接法	第4章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第13回	質的調査における記録の方法と留意点 コード化の問題について	第4章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第14回	質的調査のデータ整理と分析	第4章を読んでおくこと テスト問題をチェックすること
第15回	まとめ・到達テスト	これまでの小テストを復習しておくこと

■履修上の注意

データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。
マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識(if関数等)を前もって習得しておくことが望ましい。

■評価方法

レポートの提出(20%)、到達テスト(50%)、小テスト(30%)

■教科書

新・社会福祉士養成講座 第5巻
社会調査の基礎 第2版(2010) 中央法規

■参考書

別途、授業の際に指示する。

科目名	社会調査の基礎 (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学び、実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象(ex. 社会問題、流行)について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	イントロダクション 社会調査を学ぶにあたって	社会調査の意義について考える
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査	社会調査と福祉実践の関係を考える
第3回	社会調査のプロセス 社会調査研究の手順とプレゼンテーション	社会調査の手順について振り返る
第4回	社会調査の種類 「社会調査」の歴史の変遷とその大別	社会調査の歴史を知る
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法	確率論の基礎を振り返る
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習	標本抽出法の考え方について振り返る
第7回	データの収集法 質問紙調査法、参与観察法、生活史法 ほか	データの種類について振り返る
第8回	質問紙調査票(アンケート)の作成方法 質問項目の執筆における留意点を中心に	アンケートの作成手順について振り返る
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計	データ整理の基本について振り返る
第10回	統計分析Ⅰ 記述統計量(代表値、散布度、分布型)	1変数の記述統計量について振り返る
第11回	統計分析Ⅱ ピアソンの積率相関係数	2変数の記述統計量について振り返る
第12回	統計分析Ⅲ 統計的検定とは	検定の基本について振り返る
第13回	統計分析Ⅳ カイ2乗検定の実際	カイ2乗検定について振り返る
第14回	質的調査法 質的データによる研究方法	質的調査の基本について振り返る
第15回	総括	定期試験に向けた復習

■履修上の注意

「社会調査」とは、より平易に表現すれば「世の中を知るために調べること」です。世の中(社会)をちょっと違った角度から眺めてみたい・そんな好奇心あふれる受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席すること。また、原則的に毎回、5分程度の小テストを行う。

■評価方法

定期試験(60%)・課題レポート(20%)の結果に、平常点(20%)(出席率及び受講態度)を加味した総合評価を行います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会(編)「新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第2版」
中央法規出版、2010年

■参考書

黒田宣代・東 巧(著)「新版 よくわかる社会調査法 ―基礎から統計分析まで―」大学教育出版、2008年
ほか適宜紹介

科目名	社会的養護Ⅰ (養護原理Ⅰ)		担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・児童虐待等要保護児童が急増している社会的背景や、さらに要保護児童が生活している児童福祉施設の現況と役割について学び理解する。
 ・社会的養護の必要性についてしっかり理解し、要保護児童および家庭に対する支援方法等について基礎的な内容を学び今後の児童福祉の学習に反映させる。

■授業の概要

・社会的支援を受けて生活している子ども達について、その養護の今日までの歴史的流れを学びます。
 ・急増している児童虐待等要保護児童の対策の現況・課題と児童福祉施設の役割について学びます。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション・児童養護とは何か	・児童養護という言葉の意味を理解する ・社会的養護の内容について考察してみよう
第2回	現代社会に暮らす子どもと家庭	・現代に暮らす子どもと家族の現況について理解する ・子どもと家族への支援について考察する
第3回	子どもの権利	・人権としての子どもの権利を理解する ・子どもの権利の実現に求められる大人社会を考察する
第4回	子どもの養護の歴史	・1945年後から今日までの児童養護の変遷を理解する ・現代の養護問題とこれからの養護のあり方を考察する
第5回	児童養護の体系・家庭・施設・里親	・児童養護の役割とその体系について理解する ・施設養護・家庭養護の今後の方向性について考察する
第6回	児童養護の制度	・児童相談所と市町村の役割について理解する ・児童養護の担い手である施設の役割と現状を理解する
第7回	施設養護の特質	・施設養護の役割について理解する ・施設養護のメリットとマイナス面について考察する
第8回	施設養護の基本原則	・施設養護の四つの基本原則について理解する ・基本原則に必要な施設職員の知識・技術を考察する
第9回	施設養護の実際→日常生活および自立支援	・施設養護の役割と日常生活支援の内容を理解する ・施設養護における自立支援の必要性と現況を理解する
第10回	施設養護の実際→治療的・支援的援助	・治療的・支援的援助が必要とされる背景を考察する ・施設内の治療的・支援的内容の現況を理解する
第11回	施設養護の実際→親子・地域との関係調整	・施設入所児童と家族との関係調整の必要性を考察する ・施設入所児童と家族との関係調整の現況を理解する ・施設養護における地域支援の意義を理解する
第12回	児童養護とソーシャルワーク	・児童自立支援計画を作成して実行する意義と具体的方法について理解し、それに必要な専門的技術について考察する。
第13回	児童福祉施設の運営管理	・児童福祉施設の運営管理の仕組みについて理解する ・最低基準と措置制度の内容について理解する
第14回	児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理	・児童福祉施設の職員として求められる資質・倫理について考察する
第15回	児童養護のあるべき姿へ	・施設養護の課題とこれからのあり方について考察する

■履修上の注意

・保育士資格を希望する学生は全て出席すること。
 ・児童虐待、少子化問題等について、日頃から関心をもって新聞等の関連記事をチェックしておくこと。

■評価方法

① 定期試験(60%) ②授業への出欠状況(30%) ③授業への参加態度(10%) → ①から③を総合して評価する。

■教科書

小池由佳/山縣文治編著・『社会的養護』・ミネルヴァ書房

■参考書

社会福祉小六法(授業に持参すること)

科目名	社会福祉史			担当教員 (単位認定者)	桑畑 裕子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉の歴史の変遷を俯瞰し、現代に至るまでの歴史的事実だけでなく福祉市王の変遷も理解する。
日本及び欧米の福祉史を頭の中に描くことで現在の福祉の問題点を見極めることができる。
制度や政策の歴史を学ぶことは、今後の国家試験対策の基礎力となるはずである。

■授業の概要

日本及び主要各国の福祉(社会保障も含む)の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。
日本史や世界史を高校時代に受講しなかった学生にも配慮しつつ、可能な限り身近な事件等の例を取りあげ、覚えやすい解説を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	高校時代に日本史世界史を履修したものはテキストをよく読んでおく。
第2回	イギリス1イギリスの歴史基礎知識	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第3回	イギリス2重商主義の貧民政策	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第4回	イギリス3新救貧法における経済的自由主義の勝利	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第5回	帝国主義と自由・社会改良	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第6回	福祉国家イギリスの理想と現実	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第7回	アメリカ1自助・貧窮・個人責任の論理、ソーシャルワークの成立	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第8回	アメリカ2ニューディールの救済政策、貧困戦争の破綻と福祉権運動	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第9回	日本1古代から江戸時代まで	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第10回	日本2敗戦と戦後社会福祉の成立	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第11回	日本3社会福祉と皆保険体制	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第12回	日本4高度成長と社会福祉	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第13回	日本5高度成長の破綻と社会福祉	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第14回	サッチャー政権誕生から二十世紀末へ	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。
第15回	社会福祉基礎構造改革	適す該当部分を読んでおくこと。キーワードを調べておく。

■履修上の注意

高校時代に歴史を学んだことを前提に講義を進めるが、可能な限り歴史を学んだことのない者も理解できるよう配慮する。
アトランダムに基本事項を質問する。講義中に紹介した参考文献等は後で必ず読んでおくこと。必要に応じて理解補助のための資料を配布する。

■評価方法

出席点を10%、期末試験を80%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。欠席6回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。注意に従わないものには退学を命じる。

■教科書

『社会福祉の歴史』右田紀久恵、高澤武司、古川孝順編、有斐閣選書。

■参考書

講義中に適宜指摘する。

科目名	社会福祉特講Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	国家試験対策 担当教員	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とする。また、社会福祉士国家試験に向けて、自立的な学習習慣を形成することを目標とする。

■授業の概要

この授業では、社会福祉士として身につけておくことが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習支援していく。医学、心理学、社会学、相談援助理論、社会調査を中心に学習していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	社会福祉士になるために①-社会福祉士に求められる知識・技能・態度	配布資料を読んでおくこと
第3回	社会福祉士になるために②-学習の進め方	国家試験に向けた学習計画を立てる
第4回	社会福祉士になるために③-社会福祉士になった先輩たち	国家試験に向けた学習計画を立てる
第5回	人体の構造と機能及び疾病①	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第6回	人体の構造と機能及び疾病②	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第7回	心理学理論と心理的支援①	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第8回	心理学理論と心理的支援②	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第9回	社会理論と社会システム①	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第10回	社会理論と社会システム②	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第11回	相談援助の理論と方法①	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第12回	相談援助の理論と方法②	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第13回	社会調査の基礎①	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第14回	社会調査の基礎②	模擬問題の自己採点を行い、解説を読んでおくこと
第15回	まとめ	国家試験に向けた学習計画の見直し

■履修上の注意

- ・授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。
- ・毎時間、確認テスト(小テスト)を実施する。
- ・社会福祉士相談援助実習を行うために必ず履修すること。

■評価方法

出席および受講態度(提出物含む)60%、試験40%を総合して評価する。

■教科書

いとう総研資格取得支援センター「見て覚える社会福祉士国家試験ナビ2012」(中央法規)

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士2012」(メディックメディア)

科目名	社会福祉法制			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉6法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。

■授業の概要

社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	社会福祉法制の意義と体系、社会福祉の法と行政のあゆみⅠ	教科書の2～14頁を読むこと
第2回	社会福祉の法と行政のあゆみⅡ	教科書の15～26頁を読むこと
第3回	日本国憲法と社会福祉	教科書の27～33頁を読むこと
第4回	社会福祉法Ⅰ	教科書の34～44頁を読むこと
第5回	社会福祉法Ⅱ	教科書の45～54頁を読むこと
第6回	生活保護法Ⅰ	教科書の55～64頁を読むこと
第7回	生活保護法Ⅱ	教科書の64～71頁を読むこと
第8回	児童福祉法	教科書の72～81頁を読むこと
第9回	母子及び寡婦福祉法、身体障害者福祉法Ⅰ	教科書の81～99頁を読むこと
第10回	身体障害者福祉法Ⅱ、知的障害者福祉法	教科書の100～108頁を読むこと
第11回	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者自立支援法Ⅰ	教科書の109～121頁を読むこと
第12回	障害者自立支援法Ⅱ	教科書の121～131頁を読むこと
第13回	老人福祉法	教科書の132～140頁を読むこと
第14回	介護保険法	教科書の141～150頁を読むこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

■評価方法

試験(60%)、出席点(30%)授業態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・船水浩行 編著「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房,2010年

■参考書

社会福祉小六法(例:ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2012年)

科目名	住環境福祉論			担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②高齢者・障害者の疾患・障害別に、住環境において必要な配慮・提案をすることができる。
- ③在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ④基本的な建築用語を理解でき、設計図面から基本的な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、住環境整備のあり方を理解し、実際に問題解決を提案できる能力を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性と介護保険制度における住宅改修	教科書の該当範囲学習
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン	教科書の該当範囲学習
第3回	小テスト①、高齢者の特性と住環境整備(1)	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第4回	高齢者の特性と住環境整備(2)	教科書の該当範囲学習
第5回	高齢者の特性と住環境整備(3)、障害者の特性と住環境整備(1)	教科書の該当範囲学習
第6回	小テスト②、障害者の特性と住環境整備(2)	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第7回	住宅建築の基礎知識(1)	教科書の該当範囲学習
第8回	住宅建築の基礎知識(2)	教科書の該当範囲学習
第9回	小テスト③、住環境整備の進め方	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第10回	住環境整備の共通基本技術(1)	教科書の該当範囲学習
第11回	住環境整備の共通基本技術(2)	教科書の該当範囲学習
第12回	生活行為別住環境整備の手法(1)	教科書の該当範囲学習
第13回	生活行為別住環境整備の手法(2)	教科書の該当範囲学習
第14回	生活行為別住環境整備の手法(3)	教科書の該当範囲学習
第15回	小テスト④、高齢者や障害者のための住宅設計の考え方・事例集	教科書の該当範囲学習・小テスト準備

■履修上の注意

講義中のノート筆記は必ず行う。
小テスト(教科書準拠・テスト前回の講義時に範囲を提示する)は必ず受ける。

■評価方法

講義中に実施する小テスト4回で40%、定期試験で50%、受講態度で10%の評価をする。

■教科書

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂版 東京商工会議所編・出版

■参考書

授業中に随時紹介する

科目名	就職指導			担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数	
対象学年	4年	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

自己の適性について理解を深め、望ましい職業観、社会人としての心構えや基本的なマナーを身につけ、就職に対する意識の高揚を図る。

■授業の概要

学生一人ひとりが、建学の精神やボランティア活動を踏まえた中で、実社会において自分の力を存分に発揮できる『適職』を見つけることができるような指導を行う。また社会に貢献できる能力を高めるために、大学生活をより深化するための計画化の徹底を図り、人間にとって職業が重要であることを踏まえた「職業に就くことを志す→職業を見つける→必要な訓練を行う→職業に適応していく」という個人の一連の過程全体を支援する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	現代社会に目を向け、何が必要とされ何が求められているか
第2回	就職に対する考え方・キャリアデザイン・指導年間計画・進路希望調査	『就職の手引き』第一部1～4
第3回	自己理解・志望先の決定	『就職の手引き』第一部5～8
第4回	応募から内定までの流れ・基本原則・就職関係書類	『就職の手引き』第一部9～12
第5回	求人票の見方・就職情報システム①	『就職の手引き』第一部14～16
第6回	求人票の見方・就職情報システム②	『就職の手引き』第一部14～16 (PC室・LL教室)
第7回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出①	『就職の手引き』第一部17～19
第8回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出②	『就職の手引き』第一部17～19
第9回	マナー指導	
第10回	履歴書作成	『就職の手引き』第一部17～19
第11回	応募の基本的事項(電話対応・求人依頼等)	『就職の手引き』第二部35～39
第12回	就職試験・採用側が望む人材とは	『就職の手引き』20～24
第13回	面接の基本・成功する面接	『就職の手引き』26～29 別紙添付
第14回	面接ロールプレイ	『就職の手引き』26～29 別紙添付
第15回	試験前日の心得・採用試験当日の心得・内定後の心得	『就職の手引き』25・30

■履修上の注意

- ・就職を希望する学生は全員必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。
- ・自分自身の適正について理解を深め積極的に就職活動を行う意識を高揚させ講義を受けること。

■評価方法

単位認定外の講座

■教科書

『就職の手引き』(群馬医療福祉大学キャリアサポートセンター発行)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	就労支援サービス		担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。

具体的到達目標：

- ①労働の権利性について理解する。
- ②労働とそれを支えることの意義を理解する。
- ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解知る。
- ④就労支援組織と専門職の機能について理解する。
- ⑤就労支援を実施する上での連携について理解する。

■授業の概要

- 1) 就労と就労支援の意義
- 2) 労働市場の動向
- 3) 労働法規の概要
- 4) 就労支援制度の概要
- 5) 就労支援サービスの実施体制
- 6) 就労支援を取り巻く各分野(労働、福祉、教育など)における連携と実際
これらの内容を中心に、「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 講義の目的、到達目標、評価方法等の理解	シラバスを参照し、講義の概要について理解すること
第2回	労働の意義 働く事の意味と社会福祉士の役割	社会福祉士の業務の範囲と労働との関連性について調べること
第3回	現代の労働を取り巻く状況 労働市場の変化	テキストの該当箇所を一読すること
第4回	労働に関する法律と制度	労働、雇用の関連法規等を理解すること
第5回	障害者と就労支援 1 障害者の就労の現状	テキストの該当箇所を一読すること
第6回	障害者と就労支援 2 障害者福祉施策における就労支援	障害者を支援するための福祉施策について復習すること
第7回	障害者と就労支援 3 障害者雇用施策における就労支援	テキストの該当箇所を一読すること
第8回	障害者と就労支援 4 障害者に対する就労支援における専門職の役割	様々な専門職の業務や配置機関等について学習すること
第9回	障害者と就労支援 5 障害者に対する就労支援における民間の取り組みと諸外国の取り組み	テキストの該当箇所を一読すること
第10回	低所得者と就労支援 1 支援の対象像	テキストの該当箇所を一読すること
第11回	低所得者と就労支援 2 低所得者の就労の現状と就労支援制度	低所得者に対する支援施策を復習すること
第12回	低所得者と就労支援 3 組織や団体、専門職の役割	テキストの該当箇所を一読すること
第13回	連携とネットワーク 1 就労支援とケアマネジメント	テキストの該当箇所を一読すること
第14回	連携とネットワーク 2 ネットワークを活用した就労支援の実際①	テキストの該当箇所を一読すること
第15回	連携とネットワーク 2 ネットワークを活用した就労支援の実際②	テキストの該当箇所を一読すること

■履修上の注意

本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、福祉諸サービスだけでなく、労働関係法規や低所得者支援施策に関する知識を実務レベルで求められる。したがって、「障害者に対する支援と障害者自立支援法」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、小テストを毎時間実施し、評価対象とする。

■評価方法

定期試験50%、小テスト等の提出物、レポート等50% とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス」中央法規(最新版)

■参考書

適宜紹介する。

科目名	障害児教育総論		担当教員 (単位認定者)	久保田 米蔵	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害児教育総論の目的は、日本及び世界の障害児が置かれた状況を理解し、「その人らしい人生を送る事が出来ること」を保障するために、何が必要か?どのように支援すべきか?等調査・研究し、私たちが国民皆教育に向けて何を努力すべきか?を学びます。

■授業の概要

障害児教育総論は、障害児の置かれた社会状況や実際の家庭生活状況を調査・研究する。そのため、国連のユネスコ委員会の答申及びそれを受け入れたわが国政府による文部行政にまで視野を拡げて学びます。更に、身近な障害児の状況(障害種別・程度)を調べたり、特別支援学校でのボランティア活動を通じて、障害児を支援し、実態を知ることである。わが国の社会情勢を見極めながら、何が求められているのか?どうすれば障害児が地域の学校教育を受けられるのか?実践的に調査・研究し、対策等を考える講義である。最後に、障害児に関する「レポート」を課する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション:この講義の狙い ～特別支援教育体制とは?～	地域の障害児に関心を持つこと
第2回	講義1:「障害児」とは? 重複障害とは??知的障害とは? Etc.	地域の障害児や兄弟・姉妹・親戚関係の障害児について
第3回	講義2:障害児の置かれた歴史的状況について ～有史以来の状況～	視覚障害児(盲児)や聴覚障害児(聾児)について
第4回	講義3:わが国の障害児教育について。その1 ～特殊教育から特別支援教育へ～	視覚障害児(盲児)や聴覚障害児(聾児)について
第5回	講義4:わが国の障害児教育について。その2 ～特殊教育から特別支援教育へ～	視覚障害児(盲児)や聴覚障害児(聾児)について
第6回	講義5:「障害児の何が問題なのか?」 ～特別支援教育体制確立に向けて～	視覚障害児(盲児)や聴覚障害児(聾児)について
第7回	講義6:「障害児教育問題の根底とは何か?」 ～家庭の経済的問題や障害の種別とその発生(発症)原因は～	養護学校(旧称)の障害児たちについて
第8回	討論1:「身近に感ずる障害児問題とは?」 ～遊び・交友・交通問題など～	養護学校(旧称)の障害児たちについて
第9回	調査・発表1:「身近な障害児について」 ～親族及び障害児の通学問題など～	養護学校(旧称)の障害児たちについて
第10回	調査・発表2:「身近な障害児について」 ～親族及び障害児の通学問題など～	養護学校(旧称)の障害児たちについて
第11回	調査・発表3:「身近な障害児について」 ～親族及び障害児の通学問題など～	発達障害児とは?
第12回	講義7:「わが国の障害児対策について」その1 ～公的補助とは?～	発達障害児とは?
第13回	講義8:「わが国の障害児対策について」その2 ～就学支援対策について～	発達障害児とは?
第14回	講義8:「わが国の障害児対策について」その3 ～就業問題等に関する施策について～	障害児の現状(文科省調査による)
第15回	まとめ	教科書の復習

■履修上の注意

身近な障害児に対する支援活動を通して、実際の障害児問題を把握し、その解決の為に何が必要かを自ら考え行動しなければならない。従って、単純に受講すればよいという態度では、この講義の目的を修得することは困難である。「障害児を知る」これがポイントである。

■評価方法

障害児に対する意識及び実際の支援活動(ボランティア活動等)を通じて、自分なりの障害児感を確立すること。それがこの講義の評価ポイントである。事例発表(レポート)40%、出席60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	障害児(者)心理学		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本講義では、障がい者(児)の心理的特性について学ぶとともに、様々な障がい特性についても理解する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 障がいとその心理的影響 ⇒ 障がい者への対応」という道筋で、障がい者への心理面の援助アプローチについても考え、理解する。

■授業の概要

人間の成長発達と心理的理解を礎として、障がいをもつこととそのことによる心理的影響を理解した上で、障がい者への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 障害とは何か、障害の及ぼす影響	障害特性とはなにか考えておくこと
第2回	障害のとらえ方、「障がい」と「障害」について	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第3回	視覚障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第4回	聴覚障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第5回	運動障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第6回	知的障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第7回	発達障害と心理的特徴(自閉症)	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第8回	発達障害と心理的特徴(学習障害, ADHD)	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第9回	精神の障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第10回	コミュニケーションの障害と心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第11回	その他の障害の心理的特徴	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第12回	障害者のおかれている環境と心理的援助について	「福祉心理学」の「障害児・者の心理」の復習
第13回	障害の受容	これまでの授業をふりかえって考える
第14回	障害の受容と家族の問題	前回の復習
第15回	総括	教科書を学習すること

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックし、理解を深めるよう努力をすること。

■評価方法

①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%)②学期末試験(60%)①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤新治・田中新正・古賀精治 著『障害児・障害者心理学特論』放送大学教育振興会 2008年

■参考書

和田和弘、福屋靖子編『障害者の心理と援助』メヂカルフレンド社 1997年

科目名	障害児保育			担当教員 (単位認定者)	吉野 芳郎	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受け入れが進む中で、子供たちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。

■授業の概要

障害を理解すること、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりを気づき、障害の本質を探究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的とした。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	授業の概要について(オリ) 障害について	配布資料を学習すること
第2回	障害児福祉の理念について 障害児保育の歴史について	〃
第3回	障害の分類・特性について 障害の診断・判定について	〃
第4回	障害の原因について 障害の発見について	〃
第5回	事例1「緘黙児K君の処遇」事例2「自閉症児の対応について」	〃
第6回	障害児に起こりやすい病気について	〃
第7回	健康と発達について 基本的な生活習慣の意義について	〃
第8回	心理特性について 治療教育の在り方	〃
第9回	障害児の発見から医療・福祉の場・療育の場へ	〃
第10回	保育・教育の場から社会へ 事例3 学習障害児の対応について	〃
第11回	【福祉の思想】～糸賀一雄の世界 ハビリテーションの意	〃
第12回	アニーサリバンの実践 と中村久子・井深八重・ケラー	〃
第13回	障害児のライフスタイル(事例を通して) Tの処遇について	〃
第14回	障害児保育の形態について 分離・交流・統合の特質について	〃
第15回	統合保育の実際と課題について 親の願い	〃

■履修上の注意

人との出会いを大切にする学生、意欲的な態度や豊かな想像力のある学生の態度を望みます。

■評価方法

*授業に取り組む姿勢 *レポート *提出物(提出期限厳守)(おおむねレポート・提出物70%、授業態度30%)

■教科書

指定しない。

■参考書

指定しない。

科目名	障害者に対する支援と 障害者自立支援法		担当教員 (単位認定者)	石橋 俊一	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ノーマライゼーションを基調に命の大切さと自立支援を基本理念に障害者自立支援法による障害児者施策・制度の現状及び公私の実践を明らかにし理解させる。そのことを通じて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の問題に対応できる能力を身につけさせること。

■授業の概要

障害児・者施策は、社会福祉の分野のみならず、医療・保健・教育・労働など関係分野も幅広く存在するのでこれらの現状を含めて学習する。さらに、今日的課題となっている社会福祉基礎構造改革による“措置から選択・契約”へという社会福祉施策と障害児・者施策について障害者自立支援法を基調に学習し、今後の展望や課題を示唆するなど総合的な学習も行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	障害者を取り巻く社会情勢等について	教科書を学習すること。
第2回	障害者の生活実態をめぐって	〃
第3回	障害者基本法と障害者に関わる法律の体系(1)	〃
第4回	障害者基本法と障害者に関わる法律の体系(2)	〃
第5回	障害者自立支援法について	〃
第6回	障害者自立支援法の内容(1)	〃
第7回	障害者自立支援法の内容(2)	〃
第8回	障害者自立支援法の内容(3)	〃
第9回	障害者自立支援法の内容(4)	〃
第10回	組織・機関の役割	〃
第11回	関係団体・関係機関の役割	〃
第12回	専門職の役割(価値と倫理)	〃
第13回	専門職の役割(価値と倫理)種類と役割	〃
第14回	他職種の現状と連携(1)	〃
第15回	他職種の現状と連携(2)	〃

■履修上の注意

私語などのほか受講態度が悪く注意の上、退席させた場合、100%の評価のうち70%の評価とする。毎回小テストを実施する。

■評価方法

期末定期試験85%、出席状況15%の比率で評価する。また退席させた者は30%減価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座第14巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度-障害者福祉論 中央法規発行

■参考書

福祉小六法編集委員会編「福祉小六法」2010年版 (株)みらい発行

科目名	小学校教育実習			担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・(実習)	必修・選択	一覧表参照		

■実習の目的または到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者の求められる知識・技能を修得する。
- 2 教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

本学における小学校教育実習を履修できる者は、原則として教育職員免許法に定める「小学校教諭一種免許状」取得を目指す4年次の学生で、次に掲げる要件を全て満たす者である。

- ①将来、小学校教諭として小学校の現場で働く意思を強く持っている者
- ②心身の健康状態が、実習を行うのに適当である者
- ③上記免許状取得に必要な教育実習事前事後指導、各教科概論、各教科教育法等の単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ④基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱの単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ⑤3年次の教育実習事前事後指導で行われる教員採用試験対策講座を受講する者
- ⑥実習後に各自治体で実施している小学校教員採用試験を必ず受験する者

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、160時間(4週間)の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加する要件を備えていること(必修単位取得)
- 2 事前ガイダンスの受講及び「教育実習の記録」の提出を必須とすること。

【実習中止の措置】

本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動があった場合は、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 実習校の評価(50%)
- 「教育実習録」の評価(40%)

科目名	小児保健(講義)		担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

小児、特に発育・発達が目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の知識と事故の予防などの知識について身につけてもらいたい。小児保健の講義で学んだことを、社会人(親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言も行ってもらいたい。

■授業の概要

- ①小児の発育と発達について学ぶ。
- ②小児期に多発する疾患について学ぶ。
- ③小児の事故の特徴と安全対策について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	小児の身体発育と保育	今週と来週の授業内容
第3回	小児の生理機能と保育	今週と来週の授業内容
第4回	小児の精神運動機能発達と保育	今週と来週の授業内容
第5回	小児の栄養と食生活	今週と来週の授業内容
第6回	小児の健康増進とその実践	今週と来週の授業内容
第7回	感染症(1)	今週と来週の授業内容
第8回	感染症(2)	今週と来週の授業内容
第9回	新生児疾病、栄養障害、内分泌・代謝の疾病	今週と来週の授業内容
第10回	消化器・呼吸器の疾病	今週と来週の授業内容
第11回	循環器・血液の疾病	今週と来週の授業内容
第12回	アレルギー・泌尿器・生殖器の疾病	今週と来週の授業内容
第13回	小児のがん	今週と来週の授業内容
第14回	事故と安全対策	今週の授業内容
第15回	まとめ	いままでの授業内容

■履修上の注意

教科書を中心として、プリントを使用して講義をする。ノートをきちんととること。

■評価方法

受講態度(20%)と期末試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

テキスト:保育士養成講座(最新版)第5巻 小児保健 保育士養成講座編集委員会/編 全国社会福祉協議会

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	情報メディアの活用		担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができる。

■授業の概要

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、メディア専門職としての司書教諭	本科目に関する予習・復習方法の説明
第2回	高度情報通信社会と学校図書館	授業内容に関する小レポート作成
第3回	情報メディアの発達	授業内容に関する小レポート作成
第4回	情報メディアの特性と選択	授業内容に関する小レポート作成
第5回	視聴覚メディアの活用	授業内容に関する小レポート作成
第6回	教育用コンテンツの活用	授業内容に関する小レポート作成
第7回	データベースと情報検索(1) データベースの構造	授業内容に関する小レポート作成
第8回	データベースと情報検索(2) 情報検索の技法	授業内容に関する小レポート作成
第9回	インターネットによる情報活用(1) 概説	授業内容に関する小レポート作成
第10回	インターネットによる情報活用(2) 情報検索演習	授業内容に関する小レポート作成
第11回	インターネットによる情報発信及び情報共有	授業内容に関する小レポート作成
第12回	インターネット利用による光と影	授業内容に関する小レポート作成
第13回	著作権とメディア(1) 著作権法概説	授業内容に関する小レポート作成
第14回	著作権とメディア(2) 権利の制限・学校図書館と著作権	授業内容に関する小レポート作成
第15回	著作権とメディア(3) インターネットと著作権、まとめ	全般の復習

■履修上の注意

- 1) 2～14回の授業内に、授業内容に関する小レポートを作成・提出させるので、講義をよく聞き、理解すること。
- 2) 1～14回の授業では、毎回次回までに教科書の読むべきところを指定するので、精読しておくこと。

■評価方法

期末レポート(試験) 50%、小レポート 20%、授業への参加態度 30%として、総合的に評価する。

■教科書

井口磯夫編「情報メディアの活用」樹村房、2002年(司書教諭テキストシリーズ05)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	人格心理学			担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人を心理学的に理解する上での多様な視点を獲得する。
- ②発達心理や教育心理、臨床心理、社会心理などで学習した事柄を、「自己」「人格」概念を核として総合的に定位し、再確認できる。
- ③古典的な心理学の見方に限らず、最新の研究動向からもたらされた心への視点を理解できる。

■授業の概要

“人”を知るという時、鍵になるのが「自己」である。この「自己」（私）をこれまで心理学ではどのようにとらえてきたかについて、自己研究の理論的系譜や最近の動向をふまえて学んでいく。多様な見方を学ぶ中で、学生が自らを理解し、他者をより豊かに捉えられる複眼的視点を獲得することを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション: 自己の世界はどのように成り立っているのか	それぞれ授業中に発言できるように、教科書全体に目を通しておくこと
第2回	社会心理学における自己論の流れ	教科書1-1を予習
第3回	北山忍の文化的自己観	教科書1-2を予習
第4回	人格心理学における自己論の流れ	教科書2-1を予習
第5回	マクアダムスのナラティブ・アイデンティティ	教科書2-2を予習
第6回	認知心理学における自己論の流れ	教科書3-1を予習
第7回	コンウェイの自己一記憶システム	教科書3-2を予習
第8回	発達心理学における自己論の流れ	教科書4-1を予習
第9回	トマセロにおける自己概念の起源論	教科書4-2を予習
第10回	青年心理学における自己論の流れ	教科書5-1を予習
第11回	クローガーのアイデンティティ形成論	教科書5-2を予習
第12回	心理療法・精神分析における自己論の流れ	教科書6-1を予習
第13回	ハーマンスの対話的自己	教科書6-2を予習
第14回	自己の心理学のための研究法	教科書7を予習
第15回	プロテウス的人間あるいは多元的アイデンティティ これからの自己のあり方を考える	教科書227-237ページを予習

■履修上の注意

テーマは一貫して「自己」とその周辺であるが、大変幅広い内容を扱うので、あらかじめ予習をしておくこと。

■評価方法

レポート90% 残りの10%において出席や講義への関与度を考慮する。

■教科書

自己の心理学を学ぶ人のために 梶田叡一・溝上慎一編 世界思想社 2012年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	人権教育論		担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

人権をめぐるさまざまな課題について、自己の意見件を確立することを到達目標とします。期待される学習効果は、社会福祉士試験の児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目の知識を身につけることです。

■授業の概要

人権をめぐるさまざまな課題について、講義を行う。取り上げるテーマは、女性、子供、障害者、高齢者の人権を中心に、学習する。授業では自己の意見をまとめ、グループワークで議論する機会を設ける。また社会福祉士試験の児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目について、人権と関連のあるトピックスを扱う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス	人権について、自己の意見をまとめておく。
第2回	ジェンダー	ジェンダーについて、自己の意見をまとめておく。
第3回	女性と人権	女性と人権について、自己の意見をまとめておく。
第4回	同和問題	同和問題について、予備知識を得ておく。
第5回	児童虐待	児童虐待について、自己の意見をまとめておく。
第6回	児童福祉 I	児童虐待に関する社会福祉士の過去問を学習する。
第7回	児童福祉 II	児童福祉に関する社会福祉士の過去問を学習する。
第8回	いじめ	いじめについて、自己の意見をまとめておく。
第9回	障害者雇用	障害者雇用に関する社会福祉士の過去問を学習する。
第10回	ドメスティックバイオレンス(DV)	DVに関する社会福祉士の過去問を学習する。
第11回	障害者福祉 I	障害者福祉について、予備知識を得ておく。
第12回	障害者福祉 II	障害者福祉に関する社会福祉士の過去問を学習する。
第13回	メディアと人権	メディアと人権について、自己の意見をまとめておく。
第14回	高齢者虐待	高齢者虐待に関する社会福祉士の過去問を学習する。
第15回	高齢者福祉	高齢者福祉に関する社会福祉士の過去問を学習する。

■履修上の注意

本講義は、社会福祉士試験の児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目と関連します。そのため、上記に関連する科目の概要をあらかじめ学習しておくことが望ましい。

講義で学習した内容に関して、新聞等で最新の情勢について意識するように習慣づけること。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

「社会福祉小六法」((株) みらい)

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	人体の構造と機能及び疾病			担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉専門職(又は医療、専門福祉職)に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。

■授業の概要

社会福祉専門職(又は医療専門職)に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 人体の成長、発達、老化 身体の成長、発達、精神の成長、発達、老化に伴う身体的、精神的变化	教科書を学習すること
第2回	心身機能と身体構造の概要(1) 人体各部位の名称と方向用語	〃
第3回	心身機能と身体構造の概要(2) 各器官の構造と機能1)	〃
第4回	心身機能と身体構造の概要(3) 各器官の構造と機能2)	〃
第5回	心身機能と身体構造の概要(4) 各器官の構造と機能3)	〃
第6回	健康の捉え方 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要	〃
第7回	疾病の概要(1)	〃
第8回	疾病の概要(2)	〃
第9回	疾病の概要(3)	〃
第10回	疾病の概要(4)	〃
第11回	障害の概要(1)	〃
第12回	障害の概要(2)	〃
第13回	障害の概要(3)	〃
第14回	障害の概要(4)	〃
第15回	リハビリテーションの概要 リハビリテーションの概念と範囲	〃

■履修上の注意

教科書にのみ依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。

■評価方法

定期試験(80%)、その他教科書やノートの点検等(20%)。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集
『人体の構造と機能及び疾病-医学一般』中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学研究法			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

国家試験での心理学研究法に関連した問題を容易に解答できるようになること。

■授業の概要

本講義では、心理学における研究法としての実験、調査、観察の概要を紹介する。また、その研究方法を用いた比較的有名な研究を紹介する。また、授業中に、実験や調査などの実施も行う予定である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	イントロダクション 実証 科学と実証	第1章を読んでおくこと
第2回	実験と観察 その長所と短所	第2章を読んでおくこと
第3回	実験的研究の紹介1	第2章を読んでおくこと
第4回	実験的研究の紹介2	第2章を読んでおくこと
第5回	実験的研究の紹介3	第3章を読んでおくこと
第6回	実験的研究の紹介4	第4章を読んでおくこと
第7回	振り返り 実験の諸概念	授業中に示したキーワードを読みなおしておくこと。
第8回	観察的研究の紹介1 調査法	第10章を読んでおくこと
第9回	観察的研究の紹介2 調査法	第10章を読んでおくこと
第10回	観察的研究の紹介3 調査法	第10章を読んでおくこと
第11回	観察的研究の紹介4 観察法	第11章を読んでおくこと
第12回	観察的研究の紹介5 観察法	第11章を読んでおくこと
第13回	観察的研究の紹介6 観察法	第11章を読んでおくこと
第14回	振り返り・到達テストの解説	第9章を読んでおくこと
第15回	まとめ・到達テスト	これまでのプリントを整理し、小テストの問題をやりなおしておくこと

■履修上の注意

講義時にリアクションペーパーや小テストへの回答が求められる場合があるため、早めに着席していることが望ましい。

■評価方法

小テスト・リアクションペーパーの合計(65%)、到達テスト(35%)

■教科書

高野 陽太郎・岡 隆(編) 2004 心理学研究法-心を見つける科学のまなざし 有斐閣アルマ

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学実験実習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

調査研究に関する知識・技術を習得し、レポート作成の技術を身に付けること。

■授業の概要

心理学実験実習Ⅱでは、質問紙法を利用しての人間理解の方法を学ぶ。その基礎として質問紙の作成に関する項目作成、回答方法選択、フェイスシートの作成および倫理の問題、データ分析について触れる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス	配布プリント読んでおくこと
第2回	レポートの構成と書式	配布プリント読んでおくこと
第3回	レポートの構成と書式	配布プリント読んでおくこと
第4回	調査Ⅰ社会的影響	配布プリント読んでおくこと
第5回	調査Ⅰ社会的影響	配布プリント読んでおくこと
第6回	調査Ⅰ社会的影響	配布プリント読んでおくこと
第7回	レポート講評 中間満足度評価	配布プリント読んでおくこと
第8回	調査Ⅱ自作・質問紙の作成	第1章を読んでおくこと
第9回	調査Ⅱ自作質問紙の作成	第2章を読んでおくこと
第10回	調査Ⅱ自作質問紙の作成	第2章を読んでおくこと
第11回	推測統計による分析(t検定)	第3章を読んでおくこと
第12回	推測統計による分析(t検定)	第3章を読んでおくこと
第13回	推測統計による分析(相関分析)	第3章を読んでおくこと
第14回	推測統計による分析(相関分析)	第4章を読んでおくこと
第15回	レポート講評	レポート課題のチェック

■履修上の注意

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。

■評価方法

授業内小テスト(60%)、レポート(40%)

■教科書

鎌原雅彦、宮下一博、大野木裕明、中澤潤(編)心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房 1998
古い版ではなく、新しい版を買うこと

■参考書

授業の中で紹介していく。

科目名	心理学実験実習Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

対人援助職に求められる心理学的な査定考え方について理解する。代表的な心理検査や知能検査を実施し、結果をもとに援助計画を立案することができる。

■授業の概要

代表的な心理検査や知能検査を実際に体験し、検査の目的や実施の手続き、結果の集計方法について学習する。また、検査結果をもとにした援助計画の立案について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	心理査定とは何か-心理相談における査定的位置づけ、意義・目的、方法、注意点-	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	心理検査の種類と特徴	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	実習① 質問紙検査 その1 MMPI	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	実習① 質問紙検査 その2 Y-G検査	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	実習① 質問紙検査 その3 TEG	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	実習② 投影法検査 その1 P-Fスタディ または SCT	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	実習② 投影法検査 その2 TAT	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	実習② 投影法検査 その3 ロールシャツハテスト	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	実習③ 描画検査 その1 バウムテスト / HTP法	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	実習③ 描画検査 その2 風景構成法	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	実習③ 描画検査 その3 人物画法	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	実習④ 知能検査(WISC-ⅢまたはWAIS-Ⅲ) その1	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	実習④ 知能検査(WISC-ⅢまたはWAIS-Ⅲ) その2	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ: 心理検査の動向	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

初回の授業で、実施する心理テストと実習の進め方について詳細を説明する。受講希望者は、必ずガイダンスに出席すること。やむを得ない理由で、ガイダンスを欠席した場合、後日、報告に来ること。

■評価方法

授業への参加態度を40%、実習①～実習④それぞれのレポート(合計4本)を60%として総合的に評価する。

■教科書

特に使用しないが、実習で使用するテキストは各自が購入する(一人あたり1000円程度)。

■参考書

適宜紹介する

科目名	心理療法			担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

心理療法の種類と各々の援助技法としての特徴について理解する。各心理療法の具体的な内容を学び、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に対応するための知識を習得する。

■授業の概要

心理療法は、臨床心理学の知見を応用した援助技法の総称である。各心理療法が誕生した歴史を理解した上で、代表的な心理療法(精神分析、行動療法、認知療法、クライアント中心療法)の概要について学ぶ。可能な限り、演習形式で、心理療法的一端を体験的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	心理療法の歴史	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	精神分析理論①: フロイトの理論	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	精神分析理論②: アドラーの理論と対象関係論	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	交流分析	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	分析心理学(ユングの理論)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	行動療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	認知療法と論理療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	来談者中心療法(ロジャーズの理論)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	ゲシュタルト療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	遊戯療法① 非指示的アプローチ(アクスラインの理論)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	遊戯療法② 精神分析的アプローチ(メラニー・クラインとアンナ・フロイト)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	グループアプローチ(SGEとSST)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	家族療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

受講生が関心をもっている心理療法をとりあげ、学習する。受講生自らが調べた内容について発表し、教員が補足解説する形式で授業を行う。初回の授業で、関心のある心理療法について受講生にアンケートを実施し、発表の分担を決めるため、受講希望者は必ずガイダンスに出席すること。やむを得ない理由で、ガイダンスを欠席した場合、後日、報告に来ること。

■評価方法

授業への参加態度を50%、レポートを50%として総合的に評価する。レポートについては授業時に提示する。

■教科書

長尾博 2010「心理・精神療法ワークブック」 誠信書房

■参考書

適宜紹介する

科目名	数学概論			担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

算数教育の背景となる数学の基礎的知識を身につけるとともに、特に、小学校の単元ごとの指導のポイント、教材解釈の仕方、子どもの数学的認識過程の把握の仕方等の理解を通して、充実した算数指導ができるための基盤を養うとともに、第3学年の算数教科教育法を学習する能力を養う。

■授業の概要

まず小学校算数教育の背景となる数学の内容について講義をし、数学に関する基礎的な知識理解を深める。つづいて算数授業の指導法に関する基本的な理解を深める。その際、毎時間の講義項目や、講義内容を確認するための課題が書かれているノート用紙を配布するのでノートの持参は不要。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	講義・演習 ○数学における具象と抽象 ○数の概念の指導	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第2回	講義・演習 ○算数教育と水道方式 ○素過程とは ○集合の基礎基本	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第3回	講義・演習 ○全体集合と部分集合 ○集合の演算 ○集合が濃度	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第4回	講義・演習 ○集合の包含関係と等式の証明	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第5回	講義・演習 ○有限集合と無限集合の概念	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第6回	講義・演習 ○一対一対応と集合の濃度 ○すべての線分は半直線と対等等	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第7回	講義・演習 ○無限級数の和の求め方と極限值も求め方	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第8回	講義・演習 ○微分概念と活用	配布された講義内容の予習と課題・解答の整理
第9回	講義・演習 ○積分概念と活用	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第10回	講義・演習 ○関数の極限值とグラフ	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第11回	ゼミ方式 ○よい算数の授業とは① 指導をする教師の基本姿勢について	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第12回	ゼミ方式 ○よい算数の授業とは② 大切な教材開発の姿勢について	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第13回	ゼミ方式 ○よい算数の授業とは③ 子どもを葛藤させる場を与える教材開発	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第14回	ゼミ方式 ○よい算数の授業とは④ 授業中の子どもの「なぜ・」を大切に 授業の仕方	教科書の分担の予習と課題・解答の整理
第15回	ゼミ方式 ○子どもが教師の顔色を見て発言する授業、その問題点と教師の姿勢等	毎時間の授業記録、レポートの提出

■履修上の注意

私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。ゼミの実施に当たっては、事前に分担する教科書の該当箇所を読み、説明ができればよいしておくこと。

■評価方法

○毎時間のノートを含むレポート(50%)、出席数、授業への参加態度(30%)、数学演習(20%)
 ※毎時間のノート用紙は、課題等も含めてその都度配布します。
 授業への参加態度は、欠席、遅刻、私語、居眠りなどが減点の対象になります。

■教科書

大澤隆之著「楽しく学べる小学校算数基礎の基礎」明治図書

■参考書

数学一般(教員採用試験)問題(星野出題)

科目名	生活科概論		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもに、身近な社会・自然とのかかわりなどに関心を持たせるために必要な知識を幅広く習得する。また、日本の自然・行事などを深く理解し、将来、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」を行うことができるよう、教養を身につける。

■授業の概要

四季を通しての自然と人事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。また、具体的な活動や体験を通して、子どもたちが身近な自然や社会について楽しく学ぶ工夫ができるようになることが必要である。そのために、『生活科ずかん』の作成を各自が行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	生活科とは 生活科のめざすものと内容 (「ドリル」をやってみよう)	我々は日常生活を送る中で、様々な事物・事象とかかわりを持っていることを考える。
第2回	チェックテスト 身近な自然・文化のとらえ方	日本の風土とその特徴について考えるとともに、身近なものとしてどんな事象があるか調べる。
第3回	春の自然と文化 植物・生き物・気象・行事・遊び	春の特色を考える。
第4回	春の自然と文化 「生活科ずかん」作成に当たっての調べ方・諸注意	図書館で事典・辞典・図鑑を調べてみる。また図書館利用のマナー・有効な利用のしかたを理解する。
第5回	春の自然と文化 春の生活(実践活動)	春の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第6回	夏の自然と文化 植物・生き物・気象・行事・遊び	夏の特色を考える。
第7回	夏の自然と文化 (実践活動)	夏の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第8回	夏の自然と文化 夏の生活(実践活動)	夏の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第9回	秋の自然と文化 植物・生き物・気象・行事・遊び	秋の特色を考える。
第10回	秋の自然と文化 (実践活動)	秋の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第11回	秋の自然と文化 秋の生活(実践活動)	秋の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第12回	冬の自然と文化 植物・生き物・気象・行事・遊び	冬の特色を考える。
第13回	冬の自然と文化 (実践活動)	冬の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第14回	冬の自然と文化 冬の生活(実践活動)	冬の自然・文化について調べ、『生活科ずかん』に反映させる。
第15回	衣食住文化の諸相 日本の文様をととして	日本独自の意味を持つ文様が使われている用品・器物を捜し、日本人としての生活文化を理解する。

■履修上の注意

- ・自然や身の周りの生活事象に常に興味を持つこと。特に四季のある日本ならではの事象に注意を払うこと。
- ・講義において学習した事柄から発展し、さらに各自で調べ学習を行い知識を広げること。
- ・実践活動の時間には教員のアドバイスに従いながら、各自で創造性を発揮して製作を行うこと(その際、既成のキャラクターは用いないこと)。
- ・空き時間等を利用してコンスタントに製作を行い、より良い『生活科ずかん』を仕上げること。
- ・図書館利用のマナーを厳守すること。

■評価方法

提出物(『生活科ずかん』)(70%)、授業態度(30パーセント)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	青少年の理解と援助		担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら、青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。

■授業の概要

不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・学級崩壊・キレル青少年などといったことが社会問題になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育の実態について教育学的視点から分析しわかりやすく概説する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方。 青少年における問題点を考える。	青少年は「キレル」といわれることを考える
第2回	青少年と教育の現状について。	青少年を取り巻く環境を考える
第3回	教育学の復習：教育とは何か。	「教育」を辞書で調べる
第4回	教えることの意味について。	教えるという外的要因がなければ成長しないことを理解する
第5回	学ぶということの意味について。	学ぶという内的要因について考える
第6回	学習の現代的問題点と人間形成について。	学問や人間形成について考える
第7回	『人間の子は人間か』という問いについて。	動物学的に見た人間と狼に育てられた人間について考える
第8回	家庭環境の構成要素について。	家庭の構成要素とは何かを理解する
第9回	青少年の教育環境と家庭教育の限界について。	家庭教育のあり方を考える
第10回	家庭教育から学校教育へ変わる理由について。	集団的特殊環境の学校が必要なのかを考える
第11回	学校教育と青少年について。	教育の行われる部分について考える
第12回	教育作用について。	人間の能力に応じた教育について理解する
第13回	学校の基本的役割と成立条件について。	ジョン・デューイの教育哲学を理解する
第14回	少年期・青年期について。	少年期と青年期の違いを理解する
第15回	青少年の理解と援助のまとめ。	学生自身が自分のこととして考える

■履修上の注意

出席を重視し授業態度を評価するので積極的な授業参加を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出小テストなど20%。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	精神保健福祉援助実習		担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択	一覧表参照	

■実習の目的または到達目標

- ①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活をするを具体的に理解し、把握し、援助実践の具体的技術を体得する。
- ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を修得する。
- ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は原則として「精神保健福祉士法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ① 将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。
- ② 精神保健福祉の学習および実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。
- ③ 精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ④ 「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ⑤ 実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。
- ⑥ 実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。
実習は23日間以上かつ180時間(休憩時間を除く総実習時間)とする。

■実習上の注意

- ① 実習へのガイドブック(学生用)学校法人昌賢学園 2012 を参照し、遵守すること。
- ② 精神保健福祉援助実習のテキストを事前学習すること。
- ③ 精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を十分に事前学習すること。

■評価方法

- ① 実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合的評価(50%)
- ② 巡回および実習中の指導状況および実習態度(10%)
- ③ 実習記録(10%)
- ④ 実習後の振り返りとおした実習のまとめ(10%)
- ⑤ 実習報告書(10%)
- ⑥ その他事前提出の実習計画書および事後提出の実習関係書類の内容および提出状況(10%)

注意：実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。

注意：精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①精神科病院・精神障害者社会復帰施設・行政機関等各実習先について学ぶ(各実習先の特徴・各実習先の役割・各実習先でのPSWの役割・各実習先でのPSWの仕事内容の把握・各実習先でのPSWと他職種との連携・各実習先でのPSWの援助方法)。
- ②精神障害者について学ぶ。
- ③実習の意義について学ぶ。
- ④精神保健福祉士としての自己覚知を学ぶ。
- ⑤実習希望先について検討する。

■授業の概要

各種別の実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にしていく。また、各実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	精神保健福祉援助実習先施設についてオリエンテーション	精神保健福祉士の仕事現場を調べる
第2回	各実習先種別の学習 ①	教科書講読およびグループ発表の資料作成
第3回	各実習先種別の学習 ②	〃
第4回	各実習先種別の学習 ③	〃
第5回	各実習先種別の学習 ④	〃
第6回	各実習先種別の学習 ⑤	〃
第7回	各実習先種別の学習 ⑥	〃
第8回	各実習先種別の学習 ⑦	〃
第9回	各実習先種別の学習 ⑧	〃
第10回	各実習先種別の学習 ⑨	〃
第11回	倫理と秘密保持について ①精神保健福祉士の倫理綱領	社会福祉士の倫理綱領との違いを調べる
第12回	倫理と秘密保持について ②精神保健福祉士の倫理綱領	具体的内容の違いをまとめる
第13回	記録の記述方法 ①	教科書85-93を通読する
第14回	記録の記述方法 ②	教科書85-94を通読する
第15回	全体のまとめ	PSWの役割と職場をまとめる

■履修上の注意

- 2年生春休み期間中に精神科病院事前見学実習を実施します。
注：2年次の『精神保健福祉実習 事前オリエンテーション』の欠席及び書類未提出者は必ず申し出ること。
- ①精神保健福祉援助実習に関わる講義のため、授業出席及び受講態度を重視します。精神保健福祉援助実習に関わる講義のため、授業出席及び受講態度を重視します。
 - ②講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
 - ③提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
 - ④精神保健福祉援助実習は自己及び他者の心と向き合い、感じる必要があります。本講義及び演習をとおしての学習で自己覚知および精神障害者とともに寄り添う覚悟ができない場合は、現場実習は困難です。
 - ⑤精神障害者および精神保健福祉実習受入れ機関について学ぶために、受入可能施設等の状況により随時現場での体験学習活動(精神科病院の季節行事の見学および運営の手伝い等)を実施する予定です。

■評価方法

- ① 講義の出席状況(時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること) 20%
 - ② 日常の授業態度(授業内での参加状況を含む) 20%
 - ③ 提出物(通常提出物の提出状況及び内容) 30%
 - ④ 定期試験及び課題レポート 30%
- ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習」及び「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012

■参考書

実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012
その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉論①		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	6
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 障害者福祉の理念と意義についてすべての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2) 精神障害者の人権について理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4) 精神保健福祉法、精神保健福祉士法に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 5) 関連する法律の意義と内容を理解させる。
- 6) 精神保健福祉施策の概要について理解させる。

■授業の概要

精神障害者福祉の理解を深めるため、障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。社会における精神障害者支援の概念、人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士として支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習すること
第2回	障害者福祉の理念と基本的人権	〃
第3回	障害及び障害者、ノーマライゼーション	〃
第4回	障害者福祉の基本施策	〃
第5回	現代社会と精神障害者	〃
第6回	精神保健福祉と精神障害者	〃
第7回	障害者福祉の歴史と実際	〃
第8回	精神保健福祉の歴史と、生活支援、社会参加	〃
第9回	精神保健福祉の現状	〃
第10回	精神障害者の権利	〃
第11回	精神医療におけるインフォームドコンセント	〃
第12回	地域における精神障害者の人権	〃
第13回	精神保健福祉士の意義	〃
第14回	精神保健福祉士の対象	〃
第15回	精神保健福祉士の専門性と倫理	〃

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補][新版]精神保健福祉論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉論②		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	6
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 障害者福祉の理念と意義についてすべての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2) 精神障害者の人権について理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4) 精神保健福祉法、精神保健福祉士法に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 5) 関連する法律の意義と内容を理解させる。
- 6) 精神保健福祉施策の概要について理解させる。

■授業の概要

精神障害者福祉の理解を深めるため、障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。社会における精神障害者支援の概念、人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士として支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	精神障害者の状況と対策	教科書を学習すること
第17回	精神障害の家族の状況	〃
第18回	精神障害者と地域社会	〃
第19回	精神障害者のノーマライゼーション	〃
第20回	国際比較による我が国の精神障害者	〃
第21回	精神障害者を取り巻く社会的バリア	〃
第22回	精神障害者の主体性の尊重	〃
第23回	相談援助活動の実際と方法	〃
第24回	相談援助活動事例	〃
第25回	エコマップ、ジェノグラムの作成	プリントを学習すること
第26回	社会福祉基礎構造改革との関連	〃
第27回	障害者基本法	〃
第28回	精神保健福祉法①	〃
第29回	精神保健福祉法②	〃
第30回	障害者自立支援法①	〃

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補][新版]精神保健福祉論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	精神保健福祉論③		担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数	6
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 障害者福祉の理念と意義についてすべての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2) 精神障害者の人権について理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4) 精神保健福祉法、精神保健福祉士法に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 5) 関連する法律の意義と内容を理解させる。
- 6) 精神保健福祉施策の概要について理解させる。

■授業の概要

精神障害者福祉の理解を深めるため、障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。社会における精神障害者支援の概念、人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士として支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第31回	障害者自立支援法②	プリントを学習すること
第32回	医療観察法	〃
第33回	触法精神障害者の地域福祉活動	〃
第34回	障害者プランの背景と動向	〃
第35回	精神保健福祉行政	〃
第36回	精神障害者保健福祉手帳	〃
第37回	自立支援医療費	教科書を学習すること
第38回	精神障害者社会復帰施設等	〃
第39回	地域生活支援	〃
第40回	医療保険制度の活用	〃
第41回	介護保険法とのかかわり	〃
第42回	障害者年金	〃
第43回	生活保護と精神障害者	〃
第44回	生活環境の改善	〃
第45回	精神保健福祉の到達点と課題	〃

■履修上の注意

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)この授業は覚えるより慣れるがモットーである。内容理解には遠慮なく質問すること、精神保健福祉の特殊性を体感することから始まる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験、レポートによる評価、遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない(おおむね試験・レポート70%、授業態度30%)

■教科書

[増補][新版]精神保健福祉論 へるす出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	生徒指導論			担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的な資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について講義や個別・グループ協議発表をとおして、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、生徒指導の意義と課題①(生徒指導の目的と必要性)	生徒指導のイメージ、グループワーク(GW)
第2回	生徒指導の意義と課題②(生徒指導の領域・内容、生徒指導の今日的課題)	前時の復習、本時のまとめ
第3回	生徒指導と教育課程との関連①(生徒指導と教科との関連)	レポート課題の出題
第4回	生徒指導と教育課程との関連②(生徒指導と道徳・特別活動との関連)	前時の復習、本時のまとめ
第5回	生徒指導の原理(生徒指導に関する人間観)	レポート課題の提出
第6回	生徒指導の組織と計画	リフレクション①
第7回	児童生徒理解の考え方	前時の復習、本時のまとめ
第8回	児童生徒理解の方法	前時の復習、本時のまとめ
第9回	生徒指導の方法①(集団指導の意味と意義、集団指導の形態)	前時の復習、本時のまとめ
第10回	生徒指導の方法②(集団活動の指導、集団の評価、集団指導の観点)	前時の復習、本時のまとめ
第11回	生徒指導の方法③(個別指導、教育相談の意義と目的、学校教育相談の特質)	リフレクション②
第12回	いじめ問題の基本的理解(いじめの定義、形態、実態、事例の考察)	レポート課題の出題、GW
第13回	いじめ問題の指導の在り方、いじめの予防対策	前時の復習、本時のまとめ
第14回	進路指導の目的と内容(目的、定義、進路指導の分野と内容、進路情報、進路相談、啓発的体験等)	レポート課題の提出
第15回	まとめ	前時の復習、本時のまとめ

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。自己決定による座席指定をします。

■評価方法

定期試験(70%)、レポート課題(20%)、出席状況・受講態度(10%)を総合して評価します。

■教科書

江川びん成編 生徒指導の理論と方法 三訂版 学芸図書株式会社 定価1260円

■参考書

文部科学省 生徒指導提要 教育図書株式会社 定価290円

科目名	青年心理学		担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①生涯発達の観点から、青年期の諸特質を理解できる。
- ②アイデンティティを中心とした、心理学的な“自己”のテーマを理解できる。
- ③親子、友人、恋愛相手など、対人関係の視点から青年心理を捉える視点を獲得。
- ④青年期に生じやすい心理的苦悩や精神的問題、さらには精神障害などを理解できる。
- ⑤“自立”のテーマを背景とした青年心理の読み解きができ、青年の心理的支援の方向性を見出すことができる。

■授業の概要

成人と子どもという、明確な違いをもった時期の「間」にあって、二つの時期をつなぐ変容の時期として青年期を捉え、様々な変化、変容の意味を中心に考えていく。また、青年らしさの象徴ともいえるアイデンティティの問題など、自立や自己探索的なテーマを中心とした物語などからなるべく多くの例を挙げながら、青年期の自己の確立を中心とした諸問題を理解できるように講義を進める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション:「私」の成り立ちとゆらぎ アイデンティティについて	教科書第1章を予習
第2回	私の器:青年期の身体と性 脳と思考「私」を考える“私”	教科書第2章を予習 指示した物語を調べてくること
第3回	青年と自立「親子」という関係とその変容 心の世界の二つの土壌	教科書第3章を予習 指示した物語を調べてくること
第4回	青年と友人「私」の世界に意味を持つ他者の登場	教科書第4章を予習 指定したワークを提出
第5回	恋から愛へ 恋愛の意味論	教科書第5章を予習 指定した物語を調べてくること
第6回	青年により生きられる、時と場と文化	教科書第6章と終章を予習 指定した物語を調べてくること
第7回	青年と道徳性 青年と正義	教科書第7章を予習 指定した事件、物語を調べておくこと
第8回	青年と宗教性もしくは超越性について	教科書第8章を予習 指定した事件、物語を調べておくこと
第9回	自分を探し求めて アイデンティティゲーム、アイデンティティクエスト	教科書第9章を予習 指定した事件 物語を調べておくこと
第10回	青年期の死と再生の物語 青年としての自己の卒業に向かって	教科書第10章を予習 指定した出来事 物語を調べておくこと
第11回	青年期と生きづらさ 精神疾患、病を生きる	教科書第11章を予習 指定した物語を調べておくこと
第12回	青年期と生きづらさ 依存症のメカニズムと回復	資料を予習 指定した物語などを調べておくこと
第13回	再び、アイデンティティを考える 映画や物語を通して	指定した物語などを調べておくこと
第14回	ミューチュアリティを考える 老人と青年	指定した物語、文献などを調べておくこと
第15回	青年の回復力 青年期を生きるということ	指定した物語、文献などを調べておくこと

■履修上の注意

適宜ワークや小レポートの提出を課す。また、それぞれの授業の終わりに次週の講義に関連する物語や出来事、事件などを指示するので、あらかじめその概要を予習しておくこと。

■評価方法

レポート80% ワーク・小レポート20%

■教科書

ようこそ!青年心理学 宮下一博監修 ナカニシヤ出版 2009年

■参考書

適宜指示をする。

科目名	相談援助演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央 柳澤 充 橋本 好広 渡辺 俊行 宮本 雅央 松永 尚樹	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレングスに着目した援助を行うとともに、家族・近隣や地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネリックソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を行う。
本演習によって相談援助実習と理論との融合を目指し、相談援助実習において必要な知識・技術を習得する。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術の基礎をとして、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己理解・自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 相談援助演習の意義・目的及び位置づけ 授業の進め方、授業に参加する上での注意事項	教科書を準備し、目を通しておく。
第2回	社会福祉の基本的姿勢・定義(IFSWのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等)	社会福祉士の定義やを理解する。
第3回	社会資源の理解 社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握	身近にある社会資源を調べる。
第4回	自己理解・自己覚知(1)	自己覚知の意味を理解しておく。
第5回	自己理解・自己覚知(2) 自分自身のルーツ ジェノグラム	自分自身の家族構成についてジェノグラムを作成してみる。
第6回	自己概念及び自分の性格の把握	自分自身の性格について理解し、自己覚知する。
第7回	自己開示(広さと深さ、自己開示の互恵性・返報性)	自己開示について理解をしておく。
第8回	他者理解(共感の意味と深さ)	共感の意味について理解しておく。
第9回	他者理解・価値観の違い	価値観について理解しておく。
第10回	コミュニケーション技法(1) コミュニケーションの基本	コミュニケーションとは何か教科書に目を通しておく。
第11回	コミュニケーション技法(2) 言語的コミュニケーション	言語的コミュニケーションの意味を理解しておく。
第12回	コミュニケーション技法(3) 言語的コミュニケーション	コミュニケーションによる信頼関係の形成について考えておく。
第13回	コミュニケーション技法(4) 非言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーションの意味・意義を理解しておく。
第14回	コミュニケーション技法(5) 非言語的コミュニケーション	言語・非言語的コミュニケーションの違いを理解する。
第15回	まとめ	教科書を振り返りわからないことをまとめておく。

■履修上の注意

- (1) 履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、“気づき”の感性を養い、知識・技術の習得に努めること。
遅刻・欠席厳禁
- (2) 学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3) 予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。

■評価方法

試験またはレポート(40%) 授業への出席(40%) 授業への参加態度(20%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助実習		担当教員 (単位認定者)	富澤 一央 柳澤 充 橋本 好広 渡辺 俊行 宮本 雅央 松永 尚樹	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			

■実習の目的または到達目標

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

■実習履修資格者

- 群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。
相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。
- 1 将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者
 - 2 社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者
 - 3 健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者
 - 4 3年次(編入生は4年次)までに哲学、倫理学、道徳教育研究、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰの単位を修得した者
 - 5 3年次(編入生は4年次)において専門演習Ⅰ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱを履修見込みの者
 - 6 社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者
 - 7 ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び援助技術の向上を努力している者
 - 8 相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者
 - 9 相談援助実習資格履修試験に合格している者
 - 10 学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者

■実習時期及び実習日数・時間

相談援助実習は3年次(編入生は4年次)において実施する。
相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。

■実習上の注意

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準及び実習へのガイドブック(学生用)を参照し、遵守すること。

【相談援助実習中止の措置】

相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。

- 1 重大なルール違反(実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反)を行ったとき
- 2 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき
- 3 心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき
- 4 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき
- 5 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 6 実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき
- 7 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 8 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- ①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(40%)
- ②巡回及び帰学日での指導状況及び実習態度(10%)
- ③実習施設の概要(10%)
- ④相談援助実習記録(10%)
- ⑤実習のまとめ(10%)
- ⑥実習報告書(10%)
- ⑦その他提出物の提出状況(10%)

※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。
※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。

科目名	相談援助実習指導 I			担当教員 (単位認定者)	富澤 一央 柳澤 充 橋本 好広 渡辺 俊行 宮本 雅央 松永 尚樹	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①相談援助実習の意義・目的について理解する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③3年次(8月中旬～9月下旬)に行われる相談援助実習先選定のための実習先希望調査票を提出する。
- ④事前学習の目標を設定する。

■授業の概要

相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題について理解することを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション ・シラバス説明、授業方法及び留意事項	シラバスを通読する 相談援助実習規程を読んで理解をする。
第2回	相談援助実習の意義と目的の理解	相談援助実習の意義と目的について事前学習をする
第3回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解 ・社会福祉士に求められる職業倫理	社会福祉士の倫理綱領を通読し、わからない所を調べる
第4回	実習先機関・施設の理解 ・行政機関	社会福祉行政機関(福祉事務所、更生保護施設)について調べる
第5回	実習先機関・施設の理解 ・行政機関	社会福祉行政機関(福祉事務所、更生保護施設)について調べる
第6回	実習先機関・施設の理解 ・社会福祉協議会、地域包括支援センター	社会福祉協議会、地域包括支援センターについて調べる
第7回	実習先機関・施設の理解 ・高齢者施設	高齢者施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービス、養護老人ホーム)について調べる
第8回	実習先機関・施設の理解 ・高齢者施設	高齢者施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービス、養護老人ホーム)について調べる
第9回	実習先機関・施設の理解 ・児童福祉施設	児童福祉施設(児童養護施設、児童相談所、通園施設等)について調べる
第10回	実習先機関・施設の理解 ・児童福祉施設	児童福祉施設(児童養護施設、児童相談所、通園施設等)について調べる
第11回	実習先機関・施設の理解 ・障害者支援施設	障害者支援施設(障害者自立支援法に規定されている事業等)について調べる
第12回	実習先機関・施設の理解 ・障害者支援施設、医療福祉関連施設	障害者支援施設(障害者自立支援法に規定されている事業等)、医療機関(病院、診療所)について調べる
第13回	実習先機関・施設の理解 ・その他の機関・施設	婦人・寡婦福祉施設、生活保護施設について調べる
第14回	事前学習の意義・目的・方法の理解 *実習先希望調査票の提出	なぜ、実習をするのかを明確にし、希望する実習先を決定する
第15回	実習開始までの取り組み まとめ、レポート課題	事前学習の方法について理解する

■履修上の注意

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。

■評価方法

試験またはレポート(50%)、授業への出席(30%)、受講態度(10%)、提出物の提出状況及びその内容(10%)を総合して評価する。

■教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂
出版 2009年「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版 2009年

■参考書

社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談心理学			担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉の専門職として、相談援助に必要な心理学的知識・技術を習得する。クライアントの転移反応、アクティングアウトといった相談場面にみられる困難な状況への対応について理解を深めることを目標とする。

■授業の概要

本講義では、相談援助理論の背景にある考え方について検討することを目的とする。事例検討を通して、福祉や教育の専門職者として、意味のある対人援助とはどのようなものであるかを自分なりに考え、理解することを期待する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	個別援助の考え方	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	集団援助の考え方	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	援助的関係とは	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	共感的に理解する	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	転移反応	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	理解しがたいクライアントをどう理解するか	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	相談援助における制限設定	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	相談援助の事例検討①：相談援助場面における依存	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	相談援助の事例検討②：相談援助場面における“死にたい”	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	相談援助の事例検討③：相談援助場面における怒りの表出(攻撃)	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	相談援助の事例検討④：相談援助場面におけるアクティングアウト	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	相談援助の事例検討⑤：悩めない心性	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	相談援助の事例検討⑥：不安耐性	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ	配布資料を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

SW・PSWが行う相談援助の考え方を学んだ上で、さまざまな相談事例を検討していく。相談事例について、教員および受講生がディスカッションを行う形式で授業を進めていく。主体的で、熱心な授業態度が求められる。

■評価方法

授業への参加態度を50%、レポートを50%として、総合的に評価する。

■教科書

指定しない

■参考書

適宜紹介する

科目名	卒業研究		担当教員 (単位認定者)	専任教員	単位数	6
対象学年	3・4	授業方法	講義・演習・実習・その他(研究内容による)			

■授業の到達目標・期待される学習効果

大学での学習の集大成として、自身の専門領域に関する研究を行い、各自の専門性を高める。

■授業の概要

卒業研究は各自が特定のテーマを決め、それについて調査等を行い、資料や文献を集め、学識を深めることを目的とし、最終的に論文としてまとめることになる。なお、研究目的、方法、結果等を述べ、先人の業績や意見と自分のそれを比較して論ずるので、単なる事例報告は認められないので注意すること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回	卒業研究であるので、個別的に指導を行う。卒業研究を担当できる教員は社会福祉学部所属の専任教員である必要があるため、3年次に各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトを取り、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し、十分な指導を受けること。	
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■履修上の注意

- ①3年生は各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトを取り、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。
- ②4年生は適宜指導を受け、指導教員の指示の通り、論文(またはそれに代わるもの)を作成すること。論文の場合は、最終提出は後期終了日までとし、原稿用紙20枚以上の論文を作成すること。

■評価方法

最終的に提出された論文(またはそれに代わるもの)の内容によって評価します。(100%)

■教科書

必要に応じて紹介する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	体育概論			担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童の発育・発達段階に応じた初等科体育の教材研究と授業の基礎・基本を学ぶ。また、授業の展開の中で、生涯スポーツの基礎づくりの通ずる「理論」と「実技」を習得する。

■授業の概要

小学校学習指導要領の運動領域である、基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の実技を習得しながら、児童が各種の運動に親しみ運動ができるようにする内容や、自ら進んで体力を高めることができるような工夫を学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	体育概論とは(初等科体育の教材と取り扱い内容)	教科書を学習すること
第2回	体気づき、体ほぐしの運動(体操、ストレッチ、動きづくり)	〃
第3回	力試しの運動(一人運動、組運動、用具利用運動)	〃
第4回	表現運動(リズム運動、模倣運動)	〃
第5回	器械運動(マット運動、鉄棒運動)	〃
第6回	器械運動(跳び箱運動、平均台運動)	〃
第7回	陸上運動(短距離走、幅跳び、ハードル走)	〃
第8回	ボール運動(サッカー型)	〃
第9回	ボール運動(ベースボール型)	〃
第10回	ボール運動(バスケットボール型)	〃
第11回	ボール運動(バレーボール型)	〃
第12回	水泳運動(安全指導・泳法実技)	〃
第13回	水泳運動(安全指導・泳法実技)	〃
第14回	保健(安全管理とグループ活動)	〃
第15回	まとめ	〃

■履修上の注意

小学校教職取得をめざす学生として自覚を持って履修をすること。水泳に関しては夏季に特別講座として実施する。

■評価方法

実技試験とレポート(60%)、授業への出席状況(40%)を総合して評価する。

■教科書

杉山重利・園山和夫(編著)「体育科教育法」大修館(小学校教科教育法「体育」でも使用)

■参考書

高橋健夫(編著)「体育の授業を創る」大修館

科目名	地域子育て支援論			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

地域社会における子どもの成長という観点から、保育施設を核とした地域社会での子育てサポートの理念や、そのあり方を学習する。

■授業の概要

社会資源としての保育施設を、子育てサロンとして、あるいは子育てにとってのオアシスとして生かしていくことを軸に、子育てをエンジョイする方向への道筋を探っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	「地域子育て支援」へのオリエンテーション	テキストの通読 レクチャー内容の整理
第2回	地域社会のサポートによる子育て	テキストの熟読 レクチャー内容の整理
第3回	社会資源としての保育施設	〃
第4回	子育てサロンとしての保育施設	〃
第5回	地域のオアシスとしての園庭	〃
第6回	社会的労働と子育てとのバランス	〃
第7回	子育て文化の蓄積	〃
第8回	子育ての知恵の交流と、保育についての学習	〃
第9回	さまざまな災害への対応	〃
第10回	各種専門機関との連携	〃
第11回	北欧諸国への注目(1) 社会活動と家庭生活	〃
第12回	北欧諸国への注目(2) 経済的支援	〃
第13回	北欧諸国への注目(3) 保育施設のオープン・システム	〃
第14回	子育てをエンジョイする社会構造へ	〃
第15回	総括と復習・ポイントの指摘	テキストのポイントの把握

■履修上の注意

必須科目としての「家庭支援論」を受けて、保育現場により密着した、具体的で目に浮かぶような内容を取り上げていきます。
選択科目ですから、熱心で積極的な受講生による、ゼミナール・スタイルを想定しています。授業内容をエンジョイしてください。

■評価方法

・授業への参加態度 30% ・試験の結果 70%

■教科書

荒井 冽著『園を明るい子育てサロンへ』明治図書

■参考書

荒井 冽著『スウェーデン 水辺の館への旅』富士房インターナショナル

科目名	地域福祉の理論と方法			担当教員 (単位認定者)	石橋 俊一	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会基礎構造改革の名の基にそれまでの福祉関係法を見直して改正し、地方分権化と並行して市町村がほとんどの場合実施主体へと推移した。そのことは地域福祉の充実・強化が課題となるに至った。これらの学習を通して、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の問題に対応できる能力を身につけさせること。

■授業の概要

福祉関係法の見直しと改正、それに地方分権化の推進により地域福祉施策の一層の推進が期待されるに至った。このことは、これまでの地域福祉の理論や方法論をさらに発展させることが課題となっている。そこで歴史的にも俯瞰しながら21世紀にふさわしい地域福祉のあり方を学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	地域福祉の発展過程と行政と住民の協働	教科書を学習する事
第2回	地域福祉の理論と理念及び地域のとらえ方等	〃
第3回	地域福祉と福祉教育をめぐって	〃
第4回	地方分権と地域福祉計画等について	〃
第5回	社会福祉法人等や関係者等について	〃
第6回	コミュニティソーシャルの専門職や考え方	〃
第7回	コミュニティソーシャルの展開とシステムなど	〃
第8回	地域福祉推進と住民参加の意義や方法等	〃
第9回	ソーシャルサポートネットワークをめぐって	〃
第10回	社会資源の活用・調整・開発等をめぐって	〃
第11回	地域福祉の把握方法と実際について	〃
第12回	地域トータルケアシステムの必要性和展開	〃
第13回	ソーシャルケア従事者の研修と組織化	〃
第14回	地域での福祉サービスの評価方法と実際	〃
第15回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	〃

■履修上の注意

私語などのほか受講態度が悪く注意の上、退席をさせた場合、100%評価から70%の評価とする。毎回小テストを実施する。

■評価方法

期末定期試験85%、出席状況15%の比率で評価する。また退席させた者は、30%減価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座第9巻 地域福祉の理論と方法-地域福祉論

■参考書

編集=日本地域福祉学会 「地域福祉辞典」 中央法規発行

科目名	知的障害教育Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

特別支援教育は平成19年度から従来の特殊教育とは大きく様変わりした。そこで現在に至るまでの知的障害教育の変遷をたどりながら、知的障害児について、また、知的障害児を取り巻く教育的環境の変化について理解しながら知的障害児教育についての全般的な知識を習得する。

■授業の概要

知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児を取り巻く教育的環境の変遷について特別支援学校学習指導要領から学んでいく。さらには現在の様々な問題点や課題について学ぶ。特に特別支援学校の学習指導要領等を参考にしながら知的障害児教育全般を学んでいく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 知的障害児とは？ 知的障害児の行動特性、医学的特徴等について	知的障害児についての理解をまとめる
第2回	知的障害児教育の変遷と教育課程について	学習指導要領の変遷をまとめる
第3回	領域・教科を合わせた指導について①	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第4回	領域・教科を合わせた指導について②	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第5回	領域・教科を合わせた指導について③	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第6回	領域・教科を合わせた指導について④	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第7回	領域・教科を合わせた指導について⑤	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第8回	教科別の指導①	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第9回	教科別の指導②	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第10回	教科別の指導③	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第11回	教科別の指導④	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第12回	教科別の指導⑤	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第13回	領域別の指導	学習指導要領を読む。関係事項の整理
第14回	個別の指導計画、個別の教育支援計画等	関係事項の事前学習
第15回	知的障害教育の展望と課題について	知的障害教育のまとめ

■履修上の注意

本講義は知的障害児・者についての基本的な知識と正しい理解について学ぶ。また、知的障害児教育の指導の仕方について理解することを主眼としている。テキストの一つでもある「特別支援学校 各学習指導要領」を熟知し、障害児教育全般についても広く理解する力をつける。積極的に授業に参加し、課題に取り組む姿勢が望まれる。私語は厳禁。授業態度の良くない学生は成績評価からさらに減点する。

■評価方法

①出席及び授業態度や発表等(30%) ②レポート等の提出物(20%) ③定期試験(50%) なお①～③を総合的に評価する

■教科書

・全国特別支援学校知的障害教育校長会著「新しい教育課程と学習活動Q&A特別支援教育【知的障害教育】」東洋館出版社(2010年)
・文部科学省「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部 高等部学習指導要領」海文社(2009年)

■参考書

・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編」教育出版(2009) 他解説
・阿部芳久「知的障害児の特別支援教育入門―授業とその展開―」日本文化科学社(2009)

科目名	知的障害教育Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

知的障害教育では今まで「領域・教科を合わせた指導」を中心に指導してきている。知的障害教育Ⅰではその基本的な学習内容を中心に学習してきた。知的障害教育Ⅱでは、障害が重度・重複している現状から、様々な事例を取り上げながら、人間行動の成り立ちや基本的な言語行動、さらには概念学習面から再検討し、現在の知的障害教育の課題を検討していく。また、多種多様な障害に対応できる実践力を身につける。

■授業の概要

知的障害児教育のベースとなった「アヴェロン野生児」の記録から知的障害児教育について学ぶ。さらに知的障害児には困難と言われている教科的学習について様々な事例から検討する。その中から見えてくる特別支援教育の学習方法について考えながら知的障害教育の在り方を考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 知的障害児と教育について復習する	知的障害教育Ⅰを復習しておく
第2回	「アヴェロン野生児」の記録から学ぶ①	参考資料に事前に目を通しておく
第3回	「アヴェロン野生児」の記録から学ぶ②	参考資料に事前に目を通しておく
第4回	「アヴェロン野生児」の記録から学ぶ③	参考資料に事前に目を通しておく
第5回	「アヴェロン野生児」の記録から学ぶ④	参考資料に事前に目を通しておく
第6回	「アヴェロン野生児」の記録から学ぶ⑤	参考資料に事前に目を通しておく
第7回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他①	テキストの事例を事前に学習しておく
第8回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他②	テキストの事例を事前に学習しておく
第9回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他③	テキストの事例を事前に学習しておく
第10回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他④	テキストの事例を事前に学習しておく
第11回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他⑤	テキストの事例を事前に学習しておく
第12回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他⑥	テキストの事例を事前に学習しておく
第13回	テキスト「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法」他⑦	テキストの事例を事前に学習しておく
第14回	知的障害児教育の基本とその応用について	参考資料に事前に目を通しておく
第15回	知的障害児教育の課題と今後の展望	今までの学習を通して課題を把握する

■履修上の注意

本講義は知的障害教育Ⅰを履修した上で受講することが望ましい。知的障害児・者の教育的可能性を実際の実践事例から確認する。テキストの内容を理解し、実際の教育現場で対応出来る観察力や実践力がもてるように授業には積極的な参加が求められる。学習へ意欲をもって取り組むこと。私語は厳禁。授業の取り組みが好ましくない者はさらに成績評価から減点もする。

■評価方法

①出席及び授業態度や発表姿勢(30%) ②レポート等の提出物(20%) ③定期試験(50%) ①～③を総合的に評価する

■教科書

・進一 著「くことば・文字・数」基礎学習の教材づくりと学習法 明治図書(2006年)

■参考書

・イタール 著「アヴェロン野生児」 福村書店

科目名	知的障害者の生理・病理		担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①知的障害児をきたす疾患について説明することができる。
 ②知的障害児の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

知的障害児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。知的障害児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	周産期に生じる脳障害	今週と来週の授業内容
第3回	染色体異常	今週と来週の授業内容
第4回	先天性風疹症候群	今週と来週の授業内容
第5回	二分脊椎	今週と来週の授業内容
第6回	脳炎、髄膜炎	今週と来週の授業内容
第7回	先天性代謝異常	今週と来週の授業内容
第8回	頭部外傷、脳血管障害	今週と来週の授業内容
第9回	てんかん	今週と来週の授業内容
第10回	先天性筋ジストロフィー	今週と来週の授業内容
第11回	胎児性アルコール症候群、水俣病	今週と来週の授業内容
第12回	発達障害総論	今週と来週の授業内容
第13回	自閉症	今週と来週の授業内容
第14回	注意欠陥多動性障害、学習障害	今週の授業内容
第15回	まとめ、レポート作成	いままでの内容

■履修上の注意

知的障害児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。

■評価方法

学ぶ意欲(ノート+授業態度)50%とレポート50%を総合して評価する。

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	中学校教育実習(社会)		担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数	4
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			
必修・選択	この科目は、中学校教員免許取得希望、社会福祉専攻の必修科目である					

■実習の目的または到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期、4年次前期に教育実習事前事後指導で行われる教員採用試験対策講座を受講する者
- 7 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者
(都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること)

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、120時間(3週間)の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間(3週間)の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習記録」の提出を必須とする。

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習の記録の評価(40%)

科目名	重複障害教育総論		担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

特別支援学校には障害の重度・重複している児童生徒が数多く在籍している。その(重度)重複障害児の特性を理解し、障害に応じた適切な指導をすることは重複障害教育に携わるもの責務であると考え。本講義では(重度)重複障害教育の基本的な考え方、在り方について考察するとともに、指導の実際を学び、実践的な力を習得する。

■授業の概要

(重度)重複障害の指導の歴史をヘレン・ケラーの例や日本でおこなわれた盲聾児教育の実践を通して学んでいく。さらに重複障害児をめぐる教育現場での問題点を通して指導の在り方や指導の方法を学びながら、重複障害児における教材の意義や工夫についても検討する。

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 重複障害とは? 重複障害教育とは?	授業内容の事前学習
第2回	重複障害教育の実践① ヘレン・ケラーの学習(その1)	授業内容の事前学習
第3回	重複障害教育の実践② ヘレン・ケラーの学習(その2)	授業内容の事前学習
第4回	重複障害教育の実践③ ヘレン・ケラーの学習(その3)	授業内容の事前学習
第5回	重複障害教育の実践④ ヘレン・ケラーの学習(その4)	授業内容の事前学習
第6回	重複障害教育の実践⑤ ヘレン・ケラーの学習(その5)	授業内容の事前学習 ヘレン・ケラーの学習まとめ
第7回	重複障害教育の実践⑥ 盲学校(山梨)での実践(その1)	授業内容の事前学習
第8回	重複障害教育の実践⑦ 盲学校(山梨)での実践(その2)	授業内容の事前学習 山梨盲学校での指導まとめ
第9回	重複障害教育の実践⑧ 盲学校(群馬)での実践(その3)	授業内容の事前学習 群馬盲学校での指導まとめ
第10回	重複障害教育の実践⑨ 重度・重複障害児の指導(その1)	授業内容の事前学習
第11回	重複障害教育の実践⑩ 重度・重複障害児の指導(その2)	授業内容の事前学習
第12回	重複障害教育の実践⑪ 重度・重複障害児の指導(その3)	授業内容の事前学習
第13回	重複障害教育の実践⑫ 重度・重複障害児の指導(その4)	授業内容の事前学習
第14回	重複障害教育の実践⑬ 重度・重複障害児の指導(その5)	授業内容の事前学習 重度・重複障害児の指導まとめ
第15回	重複障害児教育の展望と課題 医療的ケア、教育課程他	全体のまとめ

■履修上の注意

事前に知的障害教育Iの単位修得済みであることが望ましい。実際の事例を記録や映像を通して学習を進める。自分が重複障害児を担当したつもりで課題を明確にすること、授業への積極的な参加が望ましい。私語は厳禁。授業への積極的参加のない学生は成績評価に反映する。

■評価方法

①出席及び授業態度や発表等(30%) ②レポート等の提出物(20%) ③定期試験(50%) なお①～③を総合的に評価する。

■教科書

- ①アン・サリバ著「ヘレン・ケラーはどう教育されたか 一サリバン先生の記録」明治図書(2010年)
- ②進 一鷹 著「重度・重複障がい児の発達と指導法」明治図書(2010年)

■参考書

ヘレン・ケラー著「奇跡の人ヘレン・ケラー自伝」新潮文庫(2004年)他

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士、精神保健福祉士、受験資格取得のための必修科目である。

■授業の概要

社会保障、社会福祉の根幹をなす公的扶助の成立と社会保障段階への展開の必然性を資本主義経済社会の社会問題と人権保障の課題と関わらせ理解する。また、生活保護制度の概要と諸問題について理解し、わが国の公的扶助行政の展開方法と現状について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	現代社会と公的扶助	教科書を学習すること
第2回	公的扶助の歴史的展開生活	〃
第3回	生活保護制度の仕組み1	〃
第4回	生活保護制度の仕組み2	〃
第5回	生活保護制度の仕組み3	〃
第6回	生活保護制度の仕組み4	〃
第7回	生活保護制度の運営と実施体制	〃
第8回	生活保護制度の運営と多職種連携	〃
第9回	生活保護基準と生存権	〃
第10回	生活保護の争訟制度と権利擁護	〃
第11回	生活保護における相談援助活動1	〃
第12回	生活保護における相談援助活動2	〃
第13回	生活保護における相談援助活動3	〃
第14回	低所得者対策の概要と実際	〃
第15回	授業の総まとめ	〃

■履修上の注意

私語は他学生の存在を否定するもので、かつソーシャルワーカーとしては失格であることを肝に銘じる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

出席点(30%) 授業態度等(20%) 筆記試験、レポート等(50%)の結果により評価

■教科書

『公的扶助論～低所得者に対する支援と生活保護制度～』光生館

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	読書と豊かな人間性		担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学校図書館は、単に学校教育の一部ではない。読書教育は、豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。総合的な読書指導の方法としてのブックトークの理論と技術を身に付けることを目指す。

■授業の概要

<読み書き>は、人間にとってもっとも根源的な情報価値である。学校図書館は、そうした読書する児童・生徒が、いけば成長させていることを考える。読書指導の方法については、ブックトークを試演し、その評価を試みる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 読書の意味(1) 読書以前	文字以前について考える
第2回	読書の意味(2) 読書論	自分なりの読書論を構築する
第3回	読書の意味(3) リテラシーとしての読書と情報化社会	リテラシーについて考える
第4回	読書指導(1) 読書指導の基礎と発達段階	さまざまなブックスタートについて考える
第5回	読書指導(2) 読書指導の方法	読書ノートをスタートさせる
第6回	ブックトーク試演(1) ブックトークの方法	ブックトークとは何かについて考える
第7回	ブックトーク試演(2) シナリオ作成	シナリオを完成させる
第8回	ブックトーク試演(3) 試演実施	各試演を評価する
第9回	ブックトーク試演(4) 試演実施	各試演を評価する
第10回	ブックトーク試演(5) ブックトークの評価	総合評価を行う
第11回	読書会の仕方	対象作品を読む
第12回	読書会演習	読書会レポートを作成する
第13回	学校図書館教育(1) 心の教育と読書習慣の形成 収書・選択の基準と留意点 読書資料の種類と活用	読書習慣について考える
第14回	学校図書館教育(2) 読書と図書館教育課程 生徒図書委員会活動 図書館広報活動	図書館教育について考える
第15回	学校図書館教育(3) 教科教師との協力 家庭・地域機関との連携・協力	地域の読書環境について考える

■履修上の注意

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

赤星隆子(編著)『読書と豊かな人間性』樹村房

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特別活動研究			担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

学習指導要領、特別活動改訂の要点、特別活動の目標・教育的意義、学級(HR)活動・児童(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

学習指導要領、特別活動改訂の要点、特別活動の目標・教育的意義、学級(HR)活動・児童(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容、特別活動の評価、特別活動の指導(進め方)、指導案の書き方等について、講義や課題発表をとして理解する。

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、特別活動の内容構成と教育的意義	本時のまとめ、復習
第2回	特別活動の目標と基本的性格①	班別編成、レポート課題の出題
第3回	特別活動の目標と基本的性格②	班別課題の出題
第4回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質①(学校教育からみた特質)	リフレクション①、班別課題の予習
第5回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質②(特別活動からみた特質)	班別課題の発表
第6回	特別活動と他の教育内容・方法との関連	班別課題の発表、レポート課題の提出
第7回	学校の教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数	班別課題の発表、班別課題の予習
第8回	特別活動の各内容ごとの特質(学級活動・HR活動の活動内容と特質)	班別課題の発表、班別課題の予習
第9回	特別活動の各内容ごとの特質(児童会・生徒会・クラブ活動の活動内容と特質)	班別課題の発表、班別課題の予習
第10回	特別活動の各内容ごとの特質(学校行事の活動内容と特質)	班別課題の発表、班別課題の予習
第11回	特別活動の評価	リフレクション②
第12回	特別活動の指導(実際の進め方)(指導計画の作成)①	班別課題の発表、本時まとめ
第13回	特別活動の指導(実際の進め方)(指導案の書き方等)②	本時のまとめ、復習
第14回	特別活動を支え、充実・発展させるために①	本時のまとめ、復習
第15回	特別活動を支え、充実・発展させるために②、まとめ	本時のまとめ、復習

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。状況によっては退席を求めることもあります。自己決定による座席指定をします。

■評価方法

定期試験(70%)、レポート課題(20%)、出席状況・受講態度(10%)を総合して評価します。

■教科書

高橋哲夫、原口誠次、井上裕吉、今泉紀嘉、井田延夫、倉持博編 特別活動研究第三版 教育出版株式会社 2100円

■参考書

小・中・高等学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省

科目名	特別支援学校 (肢体不自由・知的障害・病弱) 教育実習		担当教員 (単位認定者)	久保田・足立・大谷	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義 ・ 演習 ・ (実習) ・ その他 ()			

■実習の目的または到達目標

1. 大学での講義演習とボランティア活動で身につけた障害児・者に対する体験を基に、実際に、児童生徒の視点に立ち、一人ひとりのニーズを把握して、児童生徒が主体的に活動し人間的成長を促せるように、指導計画をたて実践することができる能力を習得する。
2. 一人ひとりの児童生徒の指導計画を作成する上で、これまでの教育実践及び結果を基に将来像を想定した個別の指導計画を立てられる能力を身につける。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- ①将来教員として学校現場で働く意思を強くもっている者。
- ②小学校・中学校・高等学校の教員免許状を取得可能な単位をもっている者。
- ③特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲をもっている者。
- ④健康状態が教育実習を行うのに適当と認められる者。
- ⑤実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、知的障害教育Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、肢体不自由教育Ⅱ、重複障害教育総論、LD等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、病弱教育、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。
- ⑥ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的にを行い、体験した者。
- ⑦実習後都道府県で実施している教員採用試験あるいは私立学校主催の適性試験を必ず受検する者。

■実習時期及び実習日数・時間

1. 教育実習は、原則として4年次で実施する。
2. 教育実習は、80時間(2週間)を原則とし、実習校の都合で120時間(3週間)になることもある。事前指導が計画されている場合は、実習校の指示に従うこと。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習録」の提出を必須とする。

[実習中止の措置]

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者。
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習録の評価(40%)

科目名	乳児保育Ⅱ(演習)			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・現代の乳児保育を取り巻く状況や様々な課題を理解し、「子どもの最善の利益」を保障するためにはどのようにすればよいか具体的な援助や方法を習得する。

■授業の概要

- ・「乳児保育Ⅰ」や「保育実習(保育所)」での学びを踏まえ、乳児保育に求められる環境構成等を考え、乳児保育実践にかかわる知識や技術、実践内容を学ぶ。
- ・増加する乳児保育のニーズについて理解し、よりよい乳児保育とは何かを考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	乳児保育Ⅰ、保育実習(保育所)の復習をしておくこと
第2回	乳児保育の歴史	乳児保育の歴史について理解する
第3回	乳児保育の意義	乳児保育の意義について理解する
第4回	乳児の健康と安全	「命を預かる」とはどういうことか考える
第5回	乳児保育と「養護」	「生きる力=養護」なのか考える
第6回	乳児のあそび	乳児にも「教育」は必要なのか考える
第7回	環境と相互作用による発達	乳児保育に大切な環境について理解する
第8回	乳児とのコミュニケーション	乳児との付き合い方について理解する
第9回	発達の道筋と保育の方法	保育所保育指針の8区分について理解する
第10回	乳児クラスと計画	乳児保育と計画の必要性について理解する
第11回	子育てについて	保護者への的確な育児へのアドバイスについて考える
第12回	乳児保育の制度	社会は乳児保育をどう捉えているか理解する
第13回	子育て支援事業と乳児保育①	現代社会の子育て支援の実際について理解する
第14回	子育て支援事業と乳児保育②	地域社会における子育て支援について理解する
第15回	乳児保育の今後	子育てのパートナーとしての保育者の役割について考える

■履修上の注意

- ・乳児保育についていつも関心をもっておくこと。
- ・保育士資格取得を希望する学生はすべての講義に出席すること。
- ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。
- ・新聞、ニュースなどで乳児保育に関することがあればチェックしておくこと。

■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(30%) ②提出物への評価(手作りおもちゃ)(40%)
③レポート(30%)
・①～③を総合的に評価する

■教科書

川原佐公監修「赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力」、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説

■参考書

講義のなかで適宜指示する

科目名	人間関係論			担当教員 (単位認定者)	大野俊和	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

人と人との関わりについて、より科学的な見地から分析できることを目標とする。

■授業の概要

本講義では、社会的相互作用をキーワードに、主に社会心理学のホットピックについて触れる。具体的には囚人のジレンマ、社会的ジレンマ、集団決定、社会的認知といったトピックを紹介する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス・社会的影響過程	テキストを購入しておくこと
第2回	社会的影響過程	上記の章を読んでおくこと
第3回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ	上記の章を読んでおくこと
第4回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ	上記の章を読んでおくこと
第5回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ	上記の章を読んでおくこと
第6回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ	上記の章を読んでおくこと
第7回	集団意思決定	上記の章を読んでおくこと
第8回	集団意思決定	上記の章を読んでおくこと
第9回	集団意思決定・まとめ	レポートの提出を求める
第10回	集団による知、無知	上記の章を読んでおくこと
第11回	集団による知、無知	上記の章を読んでおくこと
第12回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)	事前に指定の文献を読んでおくこと
第13回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)	事前に指定の文献を読んでおくこと
第14回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)・到達テストについて	事前に指定の文献を読んでおくこと
第15回	まとめ・到達テスト	事前に業中に配布した資料等を整理しておくこと

■履修上の注意

リアクションペーパーへのコメント、小テストを毎回実施する。

■評価方法

授業内リアクションペーパーや小テスト(60%)、到達テスト(40%)

■教科書

亀田達也・村田光二 2000 複雑さに挑む社会心理学:適応エージェントとしての人間 有斐閣アルマ (2010年改訂版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	認知心理学			担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

国家試験での心理学(認知心理学関連)問題に全問答えられるようになること。

■授業の概要

認知心理学は、思考や気億、理解や推論といった人間の認知活動について研究する幅広い学問である。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介する。2回程度の実験も講義中に実施する予定である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	認知心理学の誕生と変貌—情報工学から機能的生物学へ	表記の章を読んでおくこと
第2回	認知心理学の誕生と変貌—情報工学から機能的生物学へ	表記の章を読んでおくこと
第3回	知覚の基礎—環境とのファーストコンタクト	表記の章を読んでおくこと
第4回	知覚の基礎—環境とのファーストコンタクト	表記の章を読んでおくこと
第5回	高次の知覚—見ることから理解することへ	表記の章を読んでおくこと
第6回	高次の知覚—見ることから理解することへ	表記の章を読んでおくこと
第7回	注意—情報の選択と資源の集中	表記の章を読んでおくこと
第8回	注意—情報の選択と資源の集中	表記の章を読んでおくこと
第9回	記憶—過去・現在・未来の自己をつなぐ	表記の章を読んでおくこと
第10回	記憶—過去・現在・未来の自己をつなぐ	表記の章を読んでおくこと
第11回	言語—成長する心の辞書システム	表記の章を読んでおくこと
第12回	言語—成長する心の辞書システム	表記の章を読んでおくこと
第13回	問題解決と推論—普遍性と領域固有性の間で	表記の章を読んでおくこと
第14回	問題解決と推論—普遍性と領域固有性の間で	表記の章を読んでおくこと
第15回	まとめ・到達テスト	これまでのキーワードをまとめておくこと

■履修上の注意

各回で小テストもしくはリアクションペーパーの提出を求める。

■評価方法

授業内小テスト50%、授業内コメントや発言20%、課題レポート30%

■教科書

道又 爾・北崎 充晃・大久保 街亜・今井 久登・山川 恵子・黒沢 学(2011) 認知心理学 - 知のアーキテクチャを探る
新版 有斐閣アルマ

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	発達心理学 (保育の心理学Ⅰ)		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもが大人へと成長する発達の变化の過程を理解し、それをふまえて主に出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の变化の過程をさまざまな角度から学習し、理解する。また、現在の高齢社会においてはエイジングが人間におよぼす影響も決して無視することができない状況から成人期以降の発達についても学習する。

■授業の概要

胎生期から青年期までを中心に、各発達段階の特徴を具体的に挙げながら講義を進める。また、成人期以降の加齢変化についても概観する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、発達心理学とは	自分なりの乳幼児に対する考えをまとめておくこと
第2回	発達心理学の方法と考え方	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	発達の理論	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	受胎から誕生まで	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	乳児期の発達(1) 身体機能の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第6回	乳児期の発達(2) 認知的発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	愛着について	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第8回	幼児期の発達(1) 身体機能の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	幼児期の発達(2) 認知発達・ピアジェの理論	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第10回	幼児期の発達(3) 社会性の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第11回	児童期の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	青年期の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	成人期の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	中年期・老年期の発達	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	総括	総復習

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■評価方法

①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

青木紀久代 編『新時代の保育双書 発達心理学 子どもの発達と子育て支援』みらい 2007年

■参考書

山本利和 編『現代心理学シリーズ7 発達心理学』培風館 1999年

科目名	発達心理学特講		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

子どもが大人へと成長する発達の变化的過程を理解した上で、発達の最終段階である高齢者の心理的特性とその加齢変化をさまざまな角度から学習する。また、障がいをもつということに関して、心理的特性を理解した上で、その心理的援助について、様々な視点から捉えられるようになることを目的とする。

■授業の概要

この授業では乳幼児期から青年期といったいわゆる上昇過程でみられる障がいや発達後退にとどまらず、生涯発達の視点から老年期までの人間の一生における発達上の問題点や発達と障がいの関係について、応用的な側面も含めて考えていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 障がいをもつとはどういうことか、加齢とはなにか	障害児(者)心理学、老人心理学の復習
第2回	障がい者に対する支援とは①	障害児(者)心理学の復習
第3回	障がい者に対する支援とは②	障害児(者)心理学の復習
第4回	障がい者と社会①	障害児(者)心理学の復習
第5回	障がい者と社会②	障害児(者)心理学の復習
第6回	障がい者を理解するために必要なこととは①	これまでの授業をふまえて考える
第7回	障がい者を理解するために必要なこととは②	これまでの授業をふまえて考える
第8回	人はなぜ年を取るのか	老人心理学、発達心理学の復習
第9回	高齢者の特性①	老人心理学、発達心理学の復習
第10回	高齢者の特性②	老人心理学、発達心理学の復習
第11回	高齢者の特性③	老人心理学、発達心理学の復習
第12回	認知症高齢者と家族	老人心理学、発達心理学の復習
第13回	百寿者が生きた世界①	メディアで取り上げられている百歳を調べる
第14回	百寿者が生きた世界②	メディアで取り上げられている百歳を調べる
第15回	総括	教科書を学習すること

■履修上の注意

・「発達心理学a」「老人心理学」「障害者(児)心理学」「教育心理学」「福祉心理学」の単位取得済みであることが望ましい。
 ・毎回のテーマに対して、問題意識をもって取り組むこと。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせず集中して臨むこと。
 ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートなど行う予定である。
 ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■評価方法

①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%)②学期末試験(60%)①～②を総合的に評価する。

■教科書

NPO法人生活・福祉環境づくり21・日本応用老年学会 編著 『ニッポンのネクストステージ 高齢社会の「生活」事典』
 社会保険出版社 2011年

■参考書

畠地勝人 藺香代子 長野恵子 吉川昌子 『障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス第2版』
 ナカニシヤ出版 2001年

科目名	美術概論			担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本講義では、造形活動の支援に不可欠な豊かな感性や美術文化の知識を高めることを目標とする。西洋美術史を中心にとりあげ、西洋美術の流れを概観し、美術がどのように成立してきたかをみていく。また、日本美術史では琳派と現代の日本画に焦点をあて、日本独特の伝統的な美がどのように受け継がれ発展してきているかをみていく。今後美術館その他において美術作品を見た際に、自分の眼で見たものを自分の感性・知識で位置づけることができるようになることを目指す。

■授業の概要

西洋美術史では、中世から後期印象派までを扱う。西洋における美術の歴史の大きな流れをテキスト、資料、DVDで鑑賞しながら掴む。日本美術史では琳派と現代日本画をとりあげ、西洋の絵画の技法の遠近法や明暗法によらず、線描の美しさや空間の美しさ、装飾画様式等に特徴のある日本独特の伝統的な美が現代の日本画にどのように受け継ぎ伝えられているかをみていく。毎時間特に印象に残った作品について作品から受け取った学生自身の感覚をメモし、また、自分なりに作者の主題や意図、また主題の表現に用いた様式等を考え分析し、批評する時間をとっている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	テキストを読む(復)
第2回	芸術の概念、芸術のジャンル、美術の概念	資料、テキストを読む(復)
第3回	中世の美術	資料、テキストを読む(復)
第4回	イタリア初期ルネサンス美術・15世紀の北方美術	資料、テキストを読む(復)
第5回	イタリア盛期ルネサンス美術	資料、テキストを読む(復)
第6回	イタリア盛期ルネサンス美術	資料、テキストを読む(復)
第7回	マニエリスム 北方ルネサンス美術	資料、テキストを読む(復)
第8回	バロック美術・ロココ美術	資料、テキストを読む(復)
第9回	新古典主義、ロマン主義	資料、テキストを読む(復)
第10回	バルビゾン派、写実主義	資料、テキストを読む(復)
第11回	印象主義、象徴主義	資料、テキストを読む(復)
第12回	後期印象主義	資料、テキストを読む(復)
第13回	琳派	資料、テキストを読む(復)
第14回	現代の日本画	資料、テキストを読む(復)
第15回	現代美術	資料の整理・まとめ

■履修上の注意

私語をせず、積極的に受講すること。

■評価方法

作品鑑賞コメントシート、試験、出席状況及び授業への参加態度
(おおむね試験・提出物70%、出席状況・授業態度30%)

■教科書

「西洋美術史」高階秀爾監修 美術出版社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	病弱教育			担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

病弱教育は特別支援教育の中では普通教育に近い内容を学習することが多いが、近年病弱教育では体の病気以外に、発達障害や不登校などに代表される心に問題をかかえている児童生徒も多く入ってきている。そのため病弱教育に関わる教員は多種多様な教育的ニーズに対応できる専門性が求められている。本講義ではそのような実態を考慮して病気の知識やメンタル面のケアも含めて病弱教育全般について幅広く理解できるようにしていく。

■授業の概要

病弱教育では体の病気だけでなく心の病気について対応するなど病弱教育に対する社会的ニーズが多岐に渡ってきている。そこで病弱教育の変遷について学ぶほか、病気についての知識や治療方法についても簡単に学ぶ。また、多岐に渡る実態から病弱教育の専門性について考えるとともに病弱教育の意義や重要性について学んでいく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 病弱教育の現状	テキストの確認
第2回	病弱教育の変遷～病弱教育の歩んできた道	病弱教育の歴史を理解し、まとめる
第3回	日本の病弱教育 群馬県の病弱教育	病弱教育の歴史を理解し、まとめる
第4回	病気の理解と指導について～呼吸器疾患他	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第5回	病気の理解と指導について～腎臓疾患他	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第6回	病気の理解と指導について～神経疾患他	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第7回	病気の理解と指導について～悪性新生物他	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第8回	病気の理解と指導について～心の病気	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第9回	病気の理解と指導について～その他の疾患	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第10回	病気の理解と指導について～その他の疾患	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第11回	病気の理解と指導について～その他の疾患	事前に資料を読み、発表と資料からまとめをする
第12回	病弱教育の指導について～教科指導、自立活動他	事前に資料を読みまとめる
第13回	病弱教育の指導について～関係期間との連携	事前に資料を読みまとめる
第14回	病弱教育の指導について～卒業後の進路、社会自立	事前に資料を読みまとめる
第15回	病弱教育の変遷～病弱教育の歩んできた道、現状と課題	全体のまとめ

■履修上の注意

病弱教育は医療機関と密接な連携が必要とされ、病名など個人情報扱う場面も多くある。また、児童生徒の死という問題にも直面しなければならないこともある。教師としての倫理観や教師の資質が他よりも一層問われる。このような自覚をもって授業に望んで欲しい。私語は厳禁。学習には将来自分が病弱教育に関わる者となったらどうしたらよいかを仮定して意欲的に取り組んで欲しい。授業の態度の悪い学生は成績評価から更に減点する。

■評価方法

- ①出席及び授業態度や発表等(30%) ②レポート等の提出物(20%) ③定期試験(50%)
①～③を総合的に評価する

■教科書

・全国特別支援学校病弱教育校長会 編「病気の子どもの理解のために」
<http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryu/byoujyaku/supportbooklet.html> (2010)

■参考書

必要に応じて授業で紹介する

科目名	病弱者の心理・生理・病理			担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①病弱児の疾患について説明することができる。
 ②病弱児の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。肢体不自由児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	喘息	今週と来週の授業内容
第3回	ネフローゼ症候群	今週と来週の授業内容
第4回	てんかん	今週と来週の授業内容
第5回	小児の心臓病	今週と来週の授業内容
第6回	小児の肥満	今週と来週の授業内容
第7回	小児のがん(1)	今週と来週の授業内容
第8回	小児のがん(2)	今週と来週の授業内容
第9回	ADHD, 自閉症	今週と来週の授業内容
第10回	小児の糖尿病	今週と来週の授業内容
第11回	小児の膠原病	今週と来週の授業内容
第12回	小児の心身症	今週と来週の授業内容
第13回	教育と医療の連携	今週と来週の授業内容
第14回	病弱児の心理学	今週の授業内容
第15回	まとめ、レポート作成	いままでの授業内容

■履修上の注意

病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。

■評価方法

学ぶ意欲(ノート+授業態度)50%とレポート50%を総合して評価する。

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	福祉行財政と福祉計画			担当教員 (単位認定者)	桑畑 裕子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉全般についての基本的制度の理解を深めて、制度に対して、国民としての権利と義務の両面から追求できる能力を養う。

■授業の概要

社会経済構造の変化に対応する行政の役割や社会福祉制度の仕組みについて、関係法令や財政面や費用徴収など各般にわたり学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	政策としての福祉	教科書を学習する事
第2回	社会福祉行政の仕組み	〃
第3回	社会福祉と地方分権	〃
第4回	社会福祉の法律	〃
第5回	社会福祉の機関と施設	〃
第6回	少子高齢社会の進展	〃
第7回	社会福祉の計画的推進	〃
第8回	少子化対策	〃
第9回	高齢者対策	〃
第10回	現代の貧困	〃
第11回	社会保障の機能と目的	〃
第12回	社会保障等の給付と負担	〃
第13回	厚生労働白書を読む	〃
第14回	厚生労働白書を読む	〃
第15回	まとめ	〃

■履修上の注意

一方的に「聴く」のではなく、「共に考える」講義を心がけたいので、誠意ある態度での受講を求めます。原則として毎回テストを実施する。

■評価方法

試験(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

厚生労働白書 平成22年版

■参考書

社会福祉士養成講座「社会保障論」 中央法規出版

科目名	福祉事務所運営論			担当教員 (単位認定者)	桑畑 裕子	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉事務所の成立から運営内容、問題点を理解することで将来ソーシャルワーカーとなったときにどこの分野に所属したとしても福祉事務所との連携が取れるような基礎知識を身につける。

■授業の概要

福祉事務所成立の過程を丹念に追いながら、具体例を挙げて、組織の運営方法、課題等について講義を行う。国家試験対策を念頭に毎回小テストを行い理解しながら全体像を把握する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストを読んでおく。
第2回	現代社会と福祉事務所の運営	該当箇所を読みまとめる。
第3回	福祉事務所の成立と歴史的展開	該当箇所を読みまとめる。
第4回	福祉事務所をめぐる法制度	該当箇所を読みまとめる。
第5回	福祉事務所の業務と組織	該当箇所を読みまとめる。
第6回	福祉事務所と関係社会資源との連携	該当箇所を読みまとめる。
第7回	福祉事務所の運営と民生委員の役割	該当箇所を読みまとめる。
第8回	福祉事務所の専門職員とその役割	該当箇所を読みまとめる。
第9回	社会福祉主事の専門性と倫理	該当箇所を読みまとめる。
第10回	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開	該当箇所を読みまとめる。
第11回	福祉事務所における自立支援の事例とその現状	該当箇所を読みまとめる。
第12回	福祉事務所の運営をめぐる課題と動向	該当箇所を読みまとめる。
第13回	福祉事務所の運営をめぐる課題と動向2	該当箇所を読みまとめる。
第14回	まとめ	基本用語の理解。
第15回	テストと解説	問題用紙を持ち帰り復習する。

■履修上の注意

遅刻、私語厳禁。3回の遅刻を欠席1回とする。6回の欠席で単位を与えない。

■評価方法

出席点(受講態度含む)10%、試験80%、その他10%。

■教科書

『福祉事務所運営論』 ミネルヴァ書房

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	福祉心理学		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代社会においては福祉専門職を目指す人でなくても、福祉に関する知識・理解は必須のものである。この科目は、福祉に関連すると考えられる心理学的知見を幅広く学習することを目的とする。具体的には、ライフサイクルから見た乳幼児～高齢者の理解、障がい者の心理理解、援助行動・コミュニケーションの問題について知見を広めることを目標とする。

■授業の概要

福祉心理学は実際の学問分野において体系づけられた領域が確立されているわけではない。しかし、現代社会においては実際に必要とされている領域ともいえる。そこで、人の精神的な悩みや、様々な心理的な困難の解決を心理学的な知見と技法によって援助する福祉活動と考えれば「福祉心理学」の一側面がみられる。障がい者(児)、高齢者の心理的特性を理解し、援助的な関わりを学ぶことを目的とし、授業は総論的な視点から授業を進めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション-福祉心理学とは	この科目が設定されている意味を考えておくこと
第2回	家庭問題の心理学 児童虐待の現状とその背景について概観する	虐待について事前に学習を進めておくこと
第3回	問題行動の心理学 青少年期の問題行動の種類と特徴、不適応的行動について考える	現代の青少年問題について考えをまとめておくこと
第4回	問題行動に対する心理学的な援助 様々な心理的な問題に対する援助方法について触れる	前回授業の復習
第5回	感覚障がい者(児)の理解 視覚障がいや聴覚障がいの特徴と心理的問題について考える	「障がい」という概念について考えをまとめておくこと
第6回	肢体不自由者(児)の理解 肢体不自由(運動障がい)の特徴、心理的問題について考える	運動機能と脳の関係についてまとめておくこと
第7回	知的障がい者(児)の理解 知的障がいの発生と特徴について考える	知能について復習しておくこと
第8回	発達障がい児の心理的理解(1) 広汎性発達障がいについてその種類と特徴について考える	「発達」という概念について考えをまとめておくこと
第9回	発達障がい児の心理的理解(2) 広汎性発達障がいについてその種類と特徴について考える	前回授業の復習
第10回	精神障がい者の理解 精神障がいの定義やその特徴、心理的問題について考える	「精神障がい」の意味を事前に調べておくこと
第11回	その他の障がい者(児)の理解 コミュニケーションの障がいなどについて考える	私たちのコミュニケーション手段について整理しておくこと
第12回	高齢者の理解(1) 高齢者の心理的特徴や行動特性、加齢の影響について理解を深める。	現代の高齢者問題の原点を調べておくこと
第13回	高齢者の理解(2) 認知症の種類と特徴、認知症高齢者の理解について考える	認知症について事前に学習しておくこと
第14回	障がい者(児)や高齢者を抱える家族への対応 介護に当たる家族の問題、家族支援の方向性について考える	「家族」「世帯」という概念について整理しておくこと
第15回	総括	教科書を学習すること

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■評価方法

①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%)②学期末試験(60%)①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤泰正・山根律子 編著『福祉心理学 改訂版』学芸図書 2005年

■参考書

適宜、授業時に紹介します

科目名	保育原理Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	荒井 洌	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

具体的な保育の場面を想定しての、さまざまな発想、手立て、工夫の仕方などを、できるだけヒューマンな視線で考えていけるようにする。

■授業の概要

幼児保育の具体的な場面を取りあげながら、子どもたちにとっての喜びの場、保護者にとっての頼りがいのある場、保育者にとっての働きがいのある場を求め、リアリティーとロマンのある提言をしていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	保育の場を想定してのオリエンテーション	テキストの通読
第2回	保育の環境について	テキストのていねいな再読
第3回	原点としてのキンダーガールテン	テキストのていねいな再読
第4回	生活の場としての園生活	テキストのていねいな再読
第5回	家庭生活との関連	テキストのていねいな再読
第6回	生活文化の意味と価値	テキストのていねいな再読
第7回	会話の本質と実際	テキストのていねいな再読
第8回	個々の存在と、集団としての園生活	テキストのていねいな再読
第9回	生活・遊び・教育のつながり	テキストのていねいな再読
第10回	保育内容の時間的配分と空間的配分	テキストのていねいな再読
第11回	保育のプログラミングとドキュメンテーション	テキストのていねいな再読
第12回	先駆者たちの残した考え方(1)	テキストのていねいな再読
第13回	先駆者たちの残した考え方(2)	テキストのていねいな再読
第14回	先駆者たちの残した考え方(3)	テキストのていねいな再読
第15回	復習・ポイントの指摘	テキストのポイントの把握

■履修上の注意

保育の場に立つ保育者として、働きがいを思い描きながら、真剣に学ぶように努めてください。

■評価方法

授業への参加姿勢 30% 試験の結果 70%

■教科書

荒井 洌著『倉橋惣三 保育へのロマン』フレーベル館

■参考書

荒井 洌著『園をみどりのオアシスへ』フレーベル館

科目名	保育実習Ⅰ(保育所)		担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			

■実習の目的または到達目標

- ① 保育所の役割と機能を理解する。
- ② 乳幼児を観察し理解する。
- ③ 保育士の役割と仕事内容を理解する。
- ④ 多様な保育内容を理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」の資格取得を目指す第3年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ① 将来、保育士として保育現場または児童福祉現場で働く意思を強く持っている者。
- ② 保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認めるもの。
- ③ 「保育実習指導Ⅰ(保育所)」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は3年次において実施する。
実習は12日以上かつ90時間とする。

■実習上の注意

実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

【実習中止の措置】

以下の場合には実習を中止する。

実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断される事態。

- ① 重大なルール違反(就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反)を行ったとき。
- ② 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③ 心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④ 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤ 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥ 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ① 実習施設による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(50%)
- ② 巡回での指導状況及び実習態度(10%)
- ③ 指導計画、実習日誌(10%)
- ④ 実習のまとめ(10%)
- ⑤ 実習報告書(10%)
- ⑥ その他提出物の提出状況(10%)

※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。

※保育実習指導Ⅰ(保育所)の単位を同一年度において習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅱ(保育所)		担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	2
対象学年	4	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			

■実習の目的または到達目標

- ① 乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。
- ② 保育士としての資質・能力・技術を習得する。
- ③ 多様な保育内容に参加する。
- ④ 家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ① 将来、保育士として保育現場または児童福祉現場で働く意思を強く持っている者。
- ② 保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認めるもの。
- ③ 「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ(保育所)」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は4年次において実施する。
実習は12日以上かつ90時間とする。

■実習上の注意

実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

【実習中止の措置】

以下の場合には実習を中止する。

実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断される事態。

- ① 重大なルール違反(就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反)を行ったとき。
- ② 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③ 心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④ 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤ 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥ 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ① 実習施設による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(50%)
- ② 巡回での指導状況及び実習態度(10%)
- ③ 指導計画、実習日誌(10%)
- ④ 実習のまとめ(10%)
- ⑤ 実習報告書(10%)
- ⑥ その他提出物の提出状況(10%)

※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。

※保育実習指導Ⅱ(保育所)の単位を同一年度において習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習(施設)		担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・(実習)・その他()			

■実習の目的または到達目標

- ①大学で習得した教科目全体の知識・技能やボランティア体験等で得た知識・技能を基礎とし、実習現場で理論と実践を主体的・実践的に結び合わせ理解する。
- ②保育士としての総合的に実践する応用能力を養うため、利用者やその保護者に対する理解を通じて、保育技術やその他の支援技術の理論と実践の関係について総合的に学ぶ。
- ③実習の体験を通して児童観、障害者観及び福祉観の形成に結びつけるとともに、自分自身の理論や知識の不十分さ、学習不足を認識し、今後の学習や研究の課題を明確化させる。

■実習履修資格者

- ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設の現場で働く意思を持っている者
- ②児童福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うに当たって適当と認められる者
- ③保育士の資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ④「保育実習指導Ⅰ(施設)」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込みのある者

■実習時期及び実習日数・時間

- ①実習は、2年次において実施する。
- ②実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反(実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反)を行ったとき
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき
- ⑤実習担当者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価(50%)
- ②巡回指導時における実習担当者からの指導状況及び実習態度(10%)
- ③実習目標の達成状況(10%)
- ④実習日誌等記録の内容(10%)
- ⑤実習報告書の内容(10%)
- ⑥その他提出物の提出状況(10%)

*実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。

*保育実習指導(施設)の単位を同一年度において取得できなかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習(施設)事後指導			担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①実習の総括として、実習計画等が実習中にどれだけ実行できたのか、どうして実行できなかったのかを振り返る。
- ②実習を通して何を学んだかを再考する。
- ③実習中に自身が改善するために、どのように努力し、何が改善されたかを明確にする。
- ④自己評価を行い、子ども(利用者)への理解、職員への理解及び施設への理解を深め、保育士になるための課題を明確化する。

■授業の概要

前半は、グループ(同一の施設の種類)毎に、事前学習の内容と効果、自己理解、利用者・職員との関わり方、コミュニケーション技術、実習目標の達成状況、実習を通して学んだこと及び今後の課題等について討議し、実習を振り返る。後半は、実習の総括として、個別スーパービジョンを行うとともに、実習報告会に向け、各グループ毎に発表に向けての準備を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション(シラバス説明・授業方法と留意事項)	シラバスを通読し、授業内容を理解する
第2回	実習日誌等記録の整備	実習へのガイドブックで確認し整理する
第3回	実習評価(実習施設の評価、実習担当者の講評及び自己評価)の理解	実習を振り返り自己の課題を確認する
第4回	実習の振り返り①(事前学習)*グループ討議と発表	事前学習の内容と効果等をまとめる
第5回	実習の振り返り②(自己理解・保育士の倫理)*グループ討議と発表	実習を通して自身で感じたことや保育士の倫理を実行できたかを確認する
第6回	実習の振り返り③(利用者・職員との関わり、実習中に指導を受け改善できたこと)*グループ討議と発表	利用者や職員との関わりの中で感じたことを整理する
第7回	実習の振り返り④(コミュニケーション技術、保育・介護等の技術、責任実習の内容)*グループ討議と発表	実習で習得した支援技術や責任実習の内容をまとめる
第8回	実習の振り返り⑤(実習で感銘を受けた体験)グループ討議と発表	実習中に感動したことや印象に残ったことをまとめる
第9回	実習の振り返り⑥(実習目標の達成状況・実習を通して学んだこと・自己の課題・反省)*グループ討議と発表	実習目標の達成状況や今後の課題をまとめる
第10回	実習の総括①(個別スーパービジョン・実習報告会に向けての発表内容の検討)	実習の内容や自己の課題や反省内容を整理し、グループ内の意見を集約する
第11回	実習の総括②()	〃
第12回	実習の総括③(個別スーパービジョン・実習報告会に向けての資料作成)	実習内容、保育士になるための課題・反省点を整理し、実習報告会の資料を作成する
第13回	実習の総括④()	〃
第14回	実習の総括⑤()	〃
第15回	実習報告会(各グループの発表)	報告内容を整理し今後の課題に活かす

■履修上の注意

- ①実習日誌等の実習関係書類を整備する。
- ②実習の振り返り項目を整理し、自己の課題を整理しておく。
- ③グループ討議には必ず参加し、自分の意見を述べるとともに、他学生の意見を集約しまとめる。
- ④自己の課題を明確化し、個別スーパービジョンを受ける。
- ⑤実習報告会の資料作成には積極的な役割を果たす。

■評価方法

実習関係書類の整備状況(10%) 提出物の提出状況・内容(30%) グループ討議における発言等の参加態度(30%)
出欠席・遅刻状況(15%) 授業態度(15%)

■教科書

実習へのハンドブック

■参考書

社会福祉小六法、教員配布資料

科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育所実習Ⅱ(保育所)の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション	授業内容の事前学習をしておくこと
第2回	保育実習Ⅰ(保育所)振り返り	授業内容の事前学習をしておくこと
第3回	実習記録について①	授業内容の事前学習をしておくこと
第4回	実習記録について②	授業内容の事前学習をしておくこと
第5回	責任実習のポイント 指導案について①	授業内容の事前学習をしておくこと
第6回	責任実習のポイント 指導案について②	授業内容の事前学習をしておくこと
第7回	責任実習のポイント 指導案について③	授業内容の事前学習をしておくこと
第8回	保育実技について(手作り教材等)	授業内容の事前学習をしておくこと
第9回	オリエンテーションについて	授業内容の事前学習をしておくこと
第10回	実習中の注意事項について	授業内容の事前学習をしておくこと
第11回	保育実習直前指導①	授業内容の事前学習をしておくこと
第12回	保育実習直前指導②	授業内容の事前学習をしておくこと
第13回	保育実習Ⅱ(保育所)事後指導	授業内容の事前学習をしておくこと
第14回	保育実習Ⅱ(保育所)報告会	授業内容の事前学習をしておくこと
第15回	まとめ	授業内容の事前学習をしておくこと

■履修上の注意

保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。
欠席した場合は、講義内容をまとめたレポートを必ず提出すること。
提出物の期限は必ず守ること。

■評価方法

出席状況(50%)・授業態度(15%)講義の感想・レポート等の提出物(35%)の総合評価

■教科書

「よくわかる保育所実習」 百瀬 ユカリ 編著 創成社 「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

「実習に役立つ表現遊び2」 岡本 拓子 編著 北大路書房

科目名	保育の心理学Ⅱ(教育心理学)			担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

発達、学習、評価、適応などに関して重要な問題を取り上げ、教育心理学的視点から解決する方法を学ぶ。

■授業の概要

近い将来、指導的役割を担う者にとって必要かつ役に立つ教育心理学の研究成果を紹介する。

■授業計画

回数	授業内容		予習・復習
第1回	序章 授業案内 第1章 教育心理学への招待		復習 テキストと配付資料を読む
第2回	研究課題と発表計画	課題1 読書感想	復習 テキストと配付資料を読む 課題と発表の検討
第3回	第2章 教育と評価	課題2 小論文	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第4回	第3章 教育目標の再検討	課題3 小論文	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第5回	第4章 乳幼児期の特徴と教育	課題4 小実験	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第6回	第5章 学童期の特徴と教育		予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第7回	第6章 青年期の特徴と教育	課題5 小論文	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第8回	第7章 学習とその指導		予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第9回	第8章 学習意欲が高まる条件	課題6 小論文	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第10回	第9章 自作教材作成法	課題7 教材作成	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第11回	第10章 運動技能学習		予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第12回	第11章 言語情報学習		予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第13回	第12章 問題解決学習 第13章 障害児の心理と特徴	課題8 小論文 課題9 小論文	予習 本章に関する体験や意見を書く 復習 テキストと配付資料の復習
第14回	研究課題発表		予習 発表の準備 復習 発表者の発表内容から学ぶ
第15回	発表と総括		予習 発表の準備 復習 授業全部の総復習

■履修上の注意

試験の他にレポート課題提出があり、評価の対象になる。

■評価方法

試験(40%)、レポート(40%)、授業への参加態度(20%)

■教科書

島田昌幸著「教育心理学」研文社、2012年

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	保育内容(環境)			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

今日、多様化した環境の中で成長している子どもたちを保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、環境に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取りまく環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方と能力を身につけることを目標とする。

■授業の概要

子どもたちは、身の回りの環境に働きかけ、かつその影響を受けて育っていく。そこで、本講義では、子どもたちを取り巻く環境について考え、保育者または大人が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、また子どもと環境の関わりの過程で、どう援助すればよいか、それによって子どもの伸びる力をどう引き出すかなどを考察し学んでいく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション ～この授業で何を学ぶのか～	授業内容の事前学習をすること
第2回	保育の基本とは	授業内容の事前学習をすること
第3回	領域「環境」の位置づけ	授業内容の事前学習をすること
第4回	子どもと環境のかかわり(1)	授業内容の事前学習をすること
第5回	子どもと環境のかかわり(2)	授業内容の事前学習をすること
第6回	子どもと環境のかかわり(3)	授業内容の事前学習をすること
第7回	園庭の自然や遊具とのかかわり	授業内容の事前学習をすること
第8回	室内の遊具・教材・設備とのかかわり	授業内容の事前学習をすること
第9回	飼育・栽培・園外保育	授業内容の事前学習をすること
第10回	領域「環境」の指導計画	授業内容の事前学習をすること
第11回	領域「環境」と保育方法	授業内容の事前学習をすること
第12回	領域「環境」と保育の実際(1)	授業内容の事前学習をすること
第13回	領域「環境」と保育の実際(2)	授業内容の事前学習をすること
第14回	領域「環境」の変遷	授業内容の事前学習をすること
第15回	まとめ・小テスト	授業内容の事前学習をすること

■履修上の注意

- ・保育士資格取得必修科目である。保育士資格取得を希望する学生はすべての講義に出席すること。
- ・出席状況、授業態度を特に重視するので気を付けること。
- ・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。

■評価方法

出席状況(50%)・授業態度(15%)小テスト・レポート(35%)

■教科書

演習 保育内容 環境 柴崎正行 編著 建帛社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容(健康)			担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

発育・発達段階に沿って、子どもの心と体の両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康の保持・増進のために必要な教育環境、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■授業の概要

健康の重要性を再認識し、幼児期の発育・発達の理解、健康の保持に必要な教育内容や条件および環境、家庭や地域の生活環境などにも触れていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	幼児教育の目標と領域	教科書を学習すること
第2回	幼児教育の基本とさまざまな役割	〃
第3回	領域「健康」と運動能力の発達	〃
第4回	生活習慣の形成と安全への心構え	〃
第5回	最近の子どもの運動能力の傾向	〃
第6回	乳幼児期をととしての運動能力の発達	〃
第7回	ルールや道具を使った遊び	〃
第8回	固定遊具やさまざまな遊び	〃
第9回	戸外での興味ある遊具の配置	〃
第10回	総合遊具の整備と保育の工夫	〃
第11回	遊びの中で育む生活習慣	〃
第12回	生活習慣を育む保護者の役割	〃
第13回	遊びの中で育む安全の意識	〃
第14回	安全の意識と事故が起きた場合の対応	〃
第15回	幼稚園・保育所・小学校の連携	〃

■履修上の注意

学習する内容は、幼児教育に備えるべき専門的資質である認識のもとに、事例を中心に授業を展開するので目的意識を持って積極的に受講すること。

■評価方法

試験(60%) 出席状況(40%)により総合的に評価する。

■教科書

倉持清美(編代表) 事例で学ぶ保育内容「健康」 萌文書林

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容(言葉)			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、内容を理解し、保育実践における「言葉」の指導法を理解する。
- ・ことばの重要性について改めて考え、保育者を目指す自分自身のことばを育む。

■授業の概要

- ・子どもはどのように「ことば」を獲得し、また「ことば」を使って思考・判断、コミュニケーションができるようになるかを学ぶ。
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、内容を学び、保育実践における「言葉」の指導法を理解する。
- ・保育者の役割の重要性について再確認し、自分自身のことばのあり方を考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	人が生きるためにはなぜことばがひつようなのか。ことばにはどんな力があるか考える
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針がめざすことば	幼稚園教育要領、保育所保育指針が改訂された背景と、その保育理念を理解しておく
第3回	「生きる力」としてのことば	「生きる力」としてのことばの力を理解し、ことばが「育つ」「育てる」ことの意味を具体的に考える
第4回	からだの育ちとことば①	それぞれの発達過程をおさえたうえで、からだの育ちとことばのかかわりについて理解する
第5回	からだの育ちとことば②	からだの育ちとことばを育むために、保育者はどのような支援をすればいいか考える
第6回	感じる力を育むことば	感じる力とはなにか、感じる力とことばの育ちにはどのようなかかわりがあるのか考える
第7回	考える力を育むことば	考える力とはなにか、考える力とことばの育ちにはどのようなかかわりがあるのか考える
第8回	表す力を育むことば	表す力とはなにか、感じる力とことばの育ちにはどのようなかかわりがあるのか考える
第9回	伝え合う力を育むことば	伝え合う力とはなにか、伝え合う力とことばの育ちにはどのようなかかわりがあるのか考える
第10回	コントロールする力を育むことば	コントロールする力を育むために、保育者はどのような支援をすればよいか考える
第11回	保育における異文化とことば	日本の保育に異文化がどのように入ってきているか、現状をよく理解する
第12回	学校教育につながる保育とことば	義務教育とその後の教育の基礎を培う保育とは何か、考える。
第13回	児童文化財に親しみ、想像の世界を楽しむこと①	保育の現場における児童文化財の意義について考える
第14回	児童文化財に親しみ、想像の世界を楽しむこと②	手作り絵本を製作する
第15回	保育者の「ことば」の力を高めよう	自身の「ことばの力」を高めるためにはどうすればよいか、具体的に考える

■履修上の注意

- ・子どもの発達の特徴について理解しておくこと。
- ・保育士資格取得を希望する学生はすべての講義に出席すること。
- ・事例研究を多数行なうので積極的に授業に参加すること。また、予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。
- ・新聞、ニュースなどでことばに関することがあればチェックしておくこと。

■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(30%) ②提出物への評価(手作り絵本)(40%)
③レポート(講義内容に関する理解度)(30%) ・①～③を総合的に評価する

■教科書

松川利広(監)『子どもの育ちと「ことば」』保育出版社、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	保育内容(総論)			担当教員 (単位認定者)	今年度は開講せず	単位数	1
対象学年	4	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・多岐にわたる保育ニーズに対応するために保育内容はどうかあるべきなのか自分なりの考えを持てるようにする。
- ・保育内容を実践するために必要な保育観や保育の援助技術について理解し、より良い保育実践を目指す。

■授業の概要

- ・保育所・幼稚園における保育内容について総合的かつ具体的に理解する。
- ・保育内容を展開するプロセスを理解する。
- ・「保育」の課題を理解し、解決方法を考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業内容の事前学習をすること
第2回	子どもの理解と保育内容	授業内容の事前学習をすること
第3回	「あそび」から捉えられる保育内容①	授業内容の事前学習をすること
第4回	「あそび」から捉えられる保育内容②	授業内容の事前学習をすること
第5回	「生活」から捉えられる保育内容①	授業内容の事前学習をすること
第6回	「生活」から捉えられる保育内容②	授業内容の事前学習をすること
第7回	「環境」から捉えられる保育内容	授業内容の事前学習をすること
第8回	「発達」から捉えられる保育内容	授業内容の事前学習をすること
第9回	「行事」をめぐって	授業内容の事前学習をすること
第10回	様々な保育形態とその背景としての「保育内容の捉え方」	授業内容の事前学習をすること
第11回	保育内容の捉え方とその背景	授業内容の事前学習をすること
第12回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容①	授業内容の事前学習をすること
第13回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容②	授業内容の事前学習をすること
第14回	保育内容と保育者の専門性	授業内容の事前学習をすること
第15回	保育内容の今日的課題と保育者の専門性：まとめ・小テスト	授業内容の事前学習をすること

■履修上の注意

- ・保育・幼児教育について、いつも関心をもっておくこと。
- ・保育士資格取得必修科目である。保育士資格取得を希望する学生はすべての講義に出席すること。
- ・新聞・ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。
(レポート提出を予定しています)

■評価方法

出席状況(50%)・授業態度(15%)小テスト・レポート(35%)

■教科書

演習 保育内容総論 金澤妙子・佐伯一弥 編著 建帛社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容(人間関係)			担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

幼児が保育者や親との人間関係の発達の中で、どのように成長していくのかをしっかりと捉え、分析し、理解したうえで保育者としての適切な行動ができるようにする。現場の事例などを参考にしながら学習するので、実習に生かせるような学習効果が期待できる。

■授業の概要

法律に基づいた保育内容(人間関係)の分析と解釈を通して、保育者としての正しい在り方について、事例の説明やグループディスカッションをしながら、幼児や親との人間関係について理解させる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方。 人とのかかわりに関する領域の解説。	保育内容における人間関係について考える
第2回	保育内容の「ねらい」の解説。	保育所生活について考える
第3回	保育所保育指針の解説(1)：保育士との関係の確立について。 保育所保育指針の解説(2)：保育士や友達と共に過ごす喜びについて。	幼児にとって最初の集団生活について考える
第4回	保育所保育指針の解説(3)：幼児が自分で考え自分で行動することについて。 保育所保育指針の解説(4)：自分でできることは自分ですることについて。	幼児にとって自立とはどういうことか考える
第5回	観察記録の分析：幼児と親の人間関係の観察記録について話し合う。	幼児と親の関係をおもちゃ売り場で考える
第6回	保育所保育指針の解説(5)：友達とかかわることの喜びや悲しみについて。 保育所保育指針の解説(6)：自分の思っていることを相手に伝えることについて。	幼児にとっての共感やコミュニケーションについて考える
第7回	保育所保育指針の解説(7)：友達の良さが分かるということについて。 保育所保育指針の解説(8)：友達と協力するという事について。	幼児にとって友達とはどういうことか考える
第8回	幼児の遊びに関する分析：幼児の遊びの種類と人間関係について話し合う。	幼児の遊びはそれ自体が生活目的であることを考える
第9回	保育所保育指針の解説(9)：幼児が認識する善悪について。 保育所保育指針の解説(10)：友達関係が深くなると思いやりを持つということについて。	幼児の心の成長と人間関係について考える
第10回	保育所保育指針の解説(11)：楽しく生活する中で決まりの大切さに気がつくということ。 保育所保育指針の解説(12)：遊具や用具を大切に、みんなで使うということについて。	幼児がルールを守るという心の中を考える
第11回	親子で遊ぶとはどういうことか：意味と意義について話し合う。	親子の人間関係の確立はスキンシップにあることを理解する
第12回	保育所保育指針の解説(13)：高齢者や地域の人と付き合うことの意義について。 保育所保育指針の解説(14)：外国人や異なる文化を持つ人との人間関係について。	保育者や親以外の人間関係について考える
第13回	保育内容の取扱い：保育実施上の配慮事項について解説する。	乳児保育から三歳以上児の保育について理解する
第14回	幼稚園教育要領について解説する。	幼保一元化の方向の中で幼稚園のことも理解する
第15回	保育所保育指針の全体的まとめとこれからの社会における人間関係の課題などについて話し合う。	学生自身でまとめていくことを考える

■履修上の注意

出席を重視し授業態度を評価するので積極的な授業参加を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出小テストなど20%。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容(人間関係)』

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容(表現)			担当教員 (単位認定者)	音楽担当教員	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

演奏、創作、鑑賞能力の向上。

■授業の概要

音楽の表現、鑑賞能力の力を高め、幼児教育に反映できるような能力をつける。いわゆる音楽の総合能力を高める為の訓練をする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	音楽の基礎能力。 楽典、リズム、などの能力の確立	基礎しっかり復習する。
第2回	1の講義に対する試験 詩の創り方、詩に対する感受性、感覚の創造性の訓練	色々な詩をよむ
第3回	実質的詞の創作、鑑賞の仕方	作ってみる
第4回	3の授業を推進する	自分の詩をよみかえす
第5回	詩における感覚、内容の把握、その感情に対して音の対し方の能力の育成と把握。	色々な音楽を聞く
第6回	詩と音、旋律との融合を考察し、実践につなげる	色々な歌を聞く
第7回	作曲の実践、鑑賞	〃
第8回	7の促進	〃
第9回	詩と音の付け方とその対応の仕方	他の作品をしらべてみる
第10回	個々における演奏の仕方と鑑賞	色々な演奏をしらべる
第11回	10の促進	〃
第12回	詩と音、旋律の対し方と楽器の特性に対する対応の仕方	一度自分のものを実践する
第13回	12の促進と感受性、鑑賞の仕方、自分の作品とそれぞれの対応の仕方を育てる。	自分の詩と音楽をみる
第14回	個々の作品の演奏	自分の作品を演奏してみる
第15回	14に準じる	〃

■履修上の注意

幼児教育における表現と感受性を磨くことの重要性を常に念頭におき、個々の感覚においての創作、演奏の能力を発展させる。色々な音楽を鑑賞し個々の能力を発展させる。
--

■評価方法

出席40%、授業における理解力と個々の作品の演奏力60%で評価する。

■教科書

基礎音楽理論

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I (体育)		担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

乳幼児が明るくのびのびと行動し、充実感を味わい自分の体を十分に動かせる表現や、進んで運動する心を育て、健康・安全な生活に必要な習慣や態度等の表現が、どのような運動の体験をとおして習得できるかを学ぶ。

■授業の概要

乳幼児期の発育・発達段階に応じた体育の教材研究と、授業内容の基礎・基本をとおして乳幼児が表現技術を身につけるかを習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に且つ安全に体育の表現運動に関われるかを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	運動あそびの必要性と目的(必要性と目標)	幼児の遊びについて、自己の意見をまとめておく。
第2回	乳幼児期の心身の発達(身体、運動能力)	幼児教育について、自己の意見をまとめておく。
第3回	運動あそびの指導の実際(計画、種類、分類)	運動あそびについて、自己の意見をまとめておく。
第4回	「歩く、跳ぶ」運動	運動あそびについて、自己の経験をまとめておく。
第5回	「走る」運動	走るあそびについて、自己の意見をまとめておく。
第6回	「ボール」を使った運動	ボールあそびについて、予備知識を得ておく。
第7回	「縄」を使った遊び	縄あそびについて、自己の意見をまとめておく。
第8回	「マット」を使った運動	マットあそびについて、自己の経験をまとめておく。
第9回	「巧技台」を使った運動	平均台あそびについて、予備知識を得ておく。
第10回	「フープ、箱積み木」を使った運動	フープあそびについて、自己の意見をまとめておく。
第11回	身近なものを使った運動	新聞紙を使った運動について、予備知識を得ておく。
第12回	鬼遊び	ゲーム遊びの役割について、予備知識を得ておく。
第13回	伝承遊び	地域風土の遊びの予備知識を得ておく。
第14回	グループ発表①	学習内容をもとに指導する予備知識を得ておく。
第15回	グループ発表②・まとめ	学習内容をもとに指導する予備知識を得ておく。

■履修上の注意

- ① 幼児教育に備えるべき専門的資質である認識のもとに学修すること。
- ② 幼児が実際おこなっている運動あそびを教材に用い授業を展開するので、目的感をしっかり持って臨むこと。
- ③ 実技を要するので体育着で参加すること。

■評価方法

① 実技とグループ発表試験(60%)、授業への出席状況(40%)を総合して評価する。

■教科書

岩崎洋子(著) 「体育あそび120」 チャイルド本社

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	保健医療サービス		担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につける。

■授業の概要

社会福祉士専門職（又は医療専門職）として患者（利用者）のQOL（生活の質）の向上に寄与できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 保健医療サービス・保健医療対策の概要	教科書を学習する事
第2回	医療保険制度 医療保険制度の概要 医療費に関する政策動向	〃
第3回	診療報酬 診療報酬制度の概要	〃
第4回	介護保険制度・自立支援医療・公費負担医療制度	〃
第5回	医療施設等の概要（1）医療法による医療施設（2）保険医療政策による医療施設（3）診療報酬における医療施設	〃
第6回	介護保険法における施設 / 在宅支援システム	〃
第7回	生命倫理学 インフォームド・コンセント	〃
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割(1) 医師・看護師・保健師制度・医療系療法士 等	〃
第9回	保健医療サービスにおける専門職の役割(2) 社会福祉士専門職 等	〃
第10回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(1) 医療ソーシャルワーカー業務指針	〃
第11回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(2) MSWと業務の内容 -理論編-	〃
第12回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(3) MSWと業務の内容 -応用編-	〃
第13回	保健医療サービス関係者との連携と実際(1) 医師・看護師・保健師との連携と実践	〃
第14回	保健医療サービス関係者との連携と実際(2) 地域の社会資源との連携と実践	〃
第15回	医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理 総括	〃

■履修上の注意

教科書にのみ依存する事なく口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。

■評価方法

定期試験(80%)、その他教科書やノートの点検(20%)

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会(編)「新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス」中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	養護原理Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

今日児童を取り巻く環境は、急激な少子高齢化社会、核家族化が進む中で児童虐待の急増等厳しい状況になってきている。そのため、「要保護児童」の積極的な支援と児童の人権を擁護し自立支援していく質の高い専門性が求められているなかで、要保護児童の支援策等について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。

■授業の概要

急増している児童虐待をはじめとして、「要保護児童」を取り巻く社会的環境の背景、現況、法制度の内容、対応策及び課題等具体的事例等まじえて授業展開していきたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション・子どもと家族に対する社会的サポートについて	・社会的サポートの必要性について子どもの権利条約や児童福祉法の規定から考察してみよう。
第2回	社会的養護の意義と役割について	・要保護児童に対する社会的養護の支援状況について考察してみよう。 (在宅支援・施設入所)
第3回	社会養護ニーズの変遷について	・1945年から以降現在まで社会情勢と要保護児童や家庭の変遷について国の統計資料等調べてみよう。
第4回	社会的養護ニーズの変遷から考察する要保護児童問題と対応策について	・社会的養護ニーズの変遷から今日において、要保護児童や家庭にどんな問題が発生しており、そのための法制度、対応策、課題について調べてみよう。
第5回	児童養護の体系について → 家庭養護・社会的養護	・児童養護のしくみについて調べてみる。
第6回	地域における社会的養護について → 地域社会・子育て支援	・国の少子化対策を調べて見る。(法制度や白書等) ・地域で実施されている子育て支援を調査してみよう。
第7回	児童養護の実施機関について → 児童相談所	・児童相談所の業務内容等調べてみよう。
第8回	家庭的養護・施設養護について	・里親制度について調べてみよう。 ・要保護児童を入所させ支援する施設を調べてみよう。
第9回	施設における児童養護Ⅰ → 施設養護の基本	・施設において、児童の人権尊重・人間性回復・発達保障 ・ウエルビーイングの実現について考察する。
第10回	施設における児童養護Ⅱ → 治療的支援	・施設において、どんな治療的支援を行っているか調べてみよう。
第11回	児童福祉施設とソーシャルワークについて	・実習での体験等を踏まえて、児童福祉施設現場でのソーシャルワークについて考察してみよう。
第12回	施設養護と自立支援・家族支援について	・児童養護施設等退所後の支援について、どんな支援をしているか調べてみよう。
第13回	児童福祉施設における運営管理について	・社会福祉基礎構造改革により、措置から契約へ及び地域福祉への転換のなかで、児童福祉施設の運営について調べてみよう。
第14回	児童福祉施設における最低基準について	・最低基準が設定されている理由を考察してみよう。
第15回	社会的養護の将来像について	・社会的養護について、今後の児童相談所、市町村、里親、施設の役割を考察してみよう。

■履修上の注意

- ・保育士資格を希望する学生は全て出席すること。
- ・授業中は、ノートをしっかりとして整理しておくこと。

■評価方法

① 定期試験(60%) ②授業への出欠状況(30%) ③授業への参加態度(10%)…①から③を総合して評価する。

■教科書

松原康雄編著・「養護原理」・同文書院

■参考書

社会福祉小六法(授業に持参すること)

科目名	養護内容(演習)			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会的養護を必要とする子ども達への援助(支援)方法を習得し、保育者を目指すものとして資質を高める。

■授業の概要

子ども達を取り巻く社会は変化し続けている。一般的な「家庭養護」だけでは子どもの養護・保護が困難な状況にあるため、国や社会で子ども達を養育・保護する「社会的養護」の役割は大きい。こうしたことから、児童養護施設を中心に児童福祉施設における養護(支援)内容・方法について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業内容の事前学習をすること
第2回	子どもの養護と保育士	授業内容の事前学習をすること
第3回	施設養護のプロセスの理解①	授業内容の事前学習をすること
第4回	施設養護のプロセスの理解② グループワーク①	授業内容の事前学習をすること
第5回	保育士の基本的な社会的養護援助・支援①	授業内容の事前学習をすること
第6回	保育士の基本的な社会的養護援助・支援①	授業内容の事前学習をすること
第7回	ビデオ学習①「児童養護施設」	授業内容の事前学習をすること
第8回	こころの援助 グループワーク②	授業内容の事前学習をすること
第9回	親子関係の援助	授業内容の事前学習をすること
第10回	ビデオ学習②「里親制度」	授業内容の事前学習をすること
第11回	地域・学校との関係づくり・整備の援助	授業内容の事前学習をすること
第12回	自己実現・自立への支援・援助	授業内容の事前学習をすること
第13回	児童福祉施設の運営管理 グループワーク③	授業内容の事前学習をすること
第14回	児童福祉施設における保育士の資質と倫理	授業内容の事前学習をすること
第15回	まとめ・小テスト	授業内容の事前学習をすること

■履修上の注意

- ・保育士資格取得必修科目である。保育士資格取得を希望する学生はすべての講義に出席すること。
- ・グループワークにおいて、積極的に参加・発言すること。
- ・保育士は児童福祉施設全般にわたる援助者であることから、子どもに関する新聞記事・ニュースはチェックしておくこと。

■評価方法

出席状況(50%)・授業態度(15%)小テスト・レポート(35%)

■教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容 辰巳 隆 岡本 眞幸 編 みらい

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	幼児理解			担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数	2
対象学年	4	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

幼児教育は、保育者が幼児とともに活動しながら、内面理解や心身の状態を把握して一人ひとりの発達の課題に即した援助をする必要があり、そのために実習および職に就く前の時期から実践に対応できる理論的理解力を養う。

■授業の概要

本講義では幼児を理解することと援助すること、および保護者を理解することと援助することについて学んでいく。また、様々な「事例」を通して乳児期から幼児期までの子どもの理解と援助について学び、考察していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業内容の事前学習をすること
第2回	絵本の読みあいを体験する	授業内容の事前学習をすること
第3回	幼児理解に必要なこととは	授業内容の事前学習をすること
第4回	幼児理解の援助と手がかり	授業内容の事前学習をすること
第5回	乳児期の子どもの理解と援助：かみつきを通して考える	授業内容の事前学習をすること
第6回	乳児期の子どもの理解と援助：食事について考える	授業内容の事前学習をすること
第7回	幼児期の子どもの理解と援助：配慮が必要な子どもについて考える①	授業内容の事前学習をすること
第8回	幼児期の子どもの理解と援助：配慮が必要な子どもについて考える②	授業内容の事前学習をすること
第9回	幼児期の子どもの理解と援助：幼稚園の事例	授業内容の事前学習をすること
第10回	保育の場での保護者理解をめざした援助①	授業内容の事前学習をすること
第11回	保育の場での保護者理解をめざした援助②	授業内容の事前学習をすること
第12回	保護者理解をめざした援助の実際①	授業内容の事前学習をすること
第13回	保護者理解をめざした援助の実際②	授業内容の事前学習をすること
第14回	受け入れがたい行動の理解と援助のために	授業内容の事前学習をすること
第15回	まとめ・小テスト	授業内容の事前学習をすること

■履修上の注意

- ・幼稚園教諭資格取得のための必修科目である。授業には積極的に参加すること。
- ・出席状況、授業態度を特に重視するので気を付けること。

■評価方法

出席状況(50%)・授業態度(15%)小テスト・レポート(35%)

■教科書

幼児理解と保育援助 田代 和美 編著 建帛社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	幼稚園教育実習			担当教員 (単位認定者)	八幡 眞由美	単位数	4
対象学年	4	授業方法	講義・演習・(実習)	必修	・ 選択	一覧表参照	

■実習の目的または到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 幼稚園の保育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者の求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 保育活動の実践をとおして、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神及び保育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「幼稚園教諭」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ① 将来、幼稚園教諭として教育現場で働く意思を強くもっている者。
- ② 幼児教育の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認める者。
- ③ 「幼稚園教育実習事前事後指導」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。
- ④ 実習に関する書類を期限内に提出していること。

■実習時期及び実習日数・時間

原則として4学年の6月中旬に160時間(4週間)の実習を行う。(小学校教諭免許取得希望者は9月に2週間の実習を行う)

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加できる要件を備えていること(必修単位取得)。
- 2 事前ガイダンスの受講及び「教育実習の記録」の提出を必須とする。

【実習中止の措置】

本学指導教員及び実習先指導教員の指示に従えないものは、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動があった場合は、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- ・ 事前ガイダンスへの出席(10%)
- ・ 実習園の評価(50%)
- ・ 「教育実習の記録」の評価(40%)

科目名	理科概論			担当教員 (単位認定者)	境野 芳子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

身近にみられる現象や物質を題材として取りあげ、その科学的な原理を理解し、自然現象を科学的にとらえる能力を身につけると共に、小学校教師として必要な知識・技能・思考力・判断力の養成も目標とする。

■授業の概要

小学校教員免許の取得を目的とする学生のための講義であるので、小学校教科教育法(理科)で扱う題材の中の物質とエネルギーの分野を主として取り上げる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	はじめに 教科書・参考書の紹介 学習：乱用される薬物の化学	配布資料
第2回	学習：物質を作る粒子、原子・分子・イオン、周期表	配布資料
第3回	学習：分子式・構造式の書き方、化学反応と反応式の書き方	配布資料
第4回	学習：燃焼、炎色反応、火薬と爆薬の違い、	配布資料、教科書第6章
第5回	学習：花火の科学 指導法：小学校教材、小6、「物をもやすもの」、「燃えると出るのは」	教科書p.153-163 配布資料
第6回	学習：静電気と電流、 学習：雷 指導法：小学校教材、小3、単純電気回路と電気伝導体	教科書p.116-136 配布資料
第7回	学習：速度・加速度 (等速直線運動、等加速度運動)	配布資料
第8回	学習：落下運動 (自由落下)・無重力状態、	配布資料
第9回	学習：物体の運動と力の関係 (慣性の法則、運動の法則)	配布資料
第10回	学習：放物運動(水平投射運動、斜め投射運動) 指導法：小学校教材、小5「ふりこのきまり」	配布資料 教科書p.20-21(振り子)
第11回	学習：力のモーメント(物体のつりあい、重心) 指導法：小学校教材、小5「てこのはたらき」、「てんびんのつりあい」	配布資料、教科書p.9-15(重心)、 p.1-7(テコ、天秤)
第12回	学習：電気の計り方 指導法：小学校教材、小4、電池の直列つなぎと並列つなぎ	教科書p.136-142 配布資料
第13回	学習：電気で動かす 指導法：小学校教材：小3、「磁石パワー」、[パワフル磁石]	配布資料 教科書p.143-152
第14回	学習：電気をつくる 指導法：小学校教材、小6、「ふしぎな電磁石」、「活躍する電磁石」	
第15回	指導法：小学校教材：小3、「おもちゃの国」、 復習	教科書の復習

■履修上の注意

高校までの過程で物理・化学等を履修してこなかった受講生もいるので、学習内容の理解を深めるために種々の映像を活用する。映像と PowerPoint 等を使用して授業を進めるため室内は暗くする。

■評価方法

受講態度30%、定期試験70%、欠席回数が5回を超えた時点で失格となる。

■教科書

鈴木著「身近な現象の物理と化学」東海大学出版会。

■参考書

左巻ら編著「授業に活かす理科教育法」小学校編 東京書籍

科目名	臨床心理学 (社会福祉専攻)		担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

対人援助職に求められる臨床心理学の基礎内容を理解する。異常心理(こころの病理)、臨床心理査定、心理療法の概要について理解し、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験に対応するための知識を習得する。特に、異常心理について重点的に学び、こころの問題を臨床心理学の視点から説明することが出来るようになることを目標とする。

■授業の概要

臨床心理学は、こころの問題や様々な悩み・苦しみを抱える人たちを理解し、支えていくための考え方や方法を研究する実践的な学問領域である。学習内容の柱として、「異常心理(こころの病理)」、「臨床心理査定」、「心理療法」、「臨床心理学的地域援助」が挙げられる。この授業では、こころの病理への理解を中心に、臨床心理学の基礎となる内容を包括的に学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	臨床心理学とは：臨床心理学の歴史、福祉行為と臨床心理行為の異同	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	こころの問題とは何か：病理水準と分類、診断の意義、診断システム	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	異常心理①：内因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	異常心理②：心因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	異常心理③：心的外傷と解離	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	異常心理④：発達障害	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	臨床心理査定①：査定の意義、査定の方法、査定における注意点	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	臨床心理査定②：各心理検査の種類と特徴	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	臨床心理査定③：査定の実際	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	心理療法①：精神分析	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	心理療法②：行動療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	心理療法③：来談者中心療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	心理療法④：心理療法の最近の動向	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ：社会福祉士・精神保健福祉士国家試験にみる臨床心理学	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

・受講希望者は、必ず初回授業で行う科目オリエンテーションに出席すること。やむを得ない理由で、欠席した場合、後日、報告に来ること。
・毎回、授業の最後に確認のための小テストを実施する。

■評価方法

授業への出席・参加態度(提出物含)を50%、定期試験を50%として、総合的に評価する。

■教科書

徳田英次 2010「図解入門 よくわかる臨床心理学の基本としくみ」 秀和システム

■参考書

適宜紹介する

科目名	臨床心理学 (子ども専攻)		担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保育士や幼稚園教諭、小学校教諭に求められる臨床心理学の基礎内容を理解する。特に、子どもたちの心身の発達に関わる問題を理解し、その対応について考えることができるようになることを目標とする。

■授業の概要

臨床心理学は、こころの問題や様々な悩み・苦しみを抱える人たちを理解し、支えていくための考え方や方法を研究する実践的な学問領域である。「子どものこころの問題(異常心理)」、「臨床心理査定」、「心理療法」の3部構成で授業を進める。授業全体を通して、子どもやその家族が抱える問題に対する、臨床心理学的な支援の在り方について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	臨床心理学とは：臨床心理学の歴史、教育行為と臨床心理行為の異同	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	こころの問題とは何か：病理水準と分類、診断の意義、診断システム	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	こころの問題①：内因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	こころの問題②：心因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	こころの問題③：発達障害	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	こころの問題④：各発達段階にみられる心性	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	臨床心理査定①：査定の意義、査定の方法、査定における注意点	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	臨床心理査定②：各心理検査の種類と特徴	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	心理療法①：精神分析	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	心理療法②：行動療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	心理療法③：来談者中心療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	心理療法④：遊戯療法(プレイセラピー)	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	スクールカウンセリングと地域援助	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ：子どものこころの問題と臨床心理学的支援の動向	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

・受講希望者は、必ず初回授業で行う科目オリエンテーションに出席すること。やむを得ない理由で、欠席した場合、後日、報告に来ること。
・毎回、授業の最後に確認のための小テストを実施する。

■評価方法

授業への参加態度を50%、定期試験を50%として、総合的に評価する。

■教科書

徳田英次 2010「図解入門 よくわかる臨床心理学の基本としくみ」 秀和システム

■参考書

適宜紹介する

科目名	臨床心理学特講			担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	2
対象学年	3・4	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉や教育の専門職者として必要な発達・心理・病理に関する知識を習得する。

■授業の概要

本講義では、人間の発達と心身の疾患（障害）について知識を深め、福祉や教育の専門職者として、こうした疾患や障害を抱えたクライアントに対してどのようなトリートメントを行いうるかを検討したい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	障害とは何か	配布資料を熟読すること
第3回	乳幼児期・児童期①：知的障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第4回	乳幼児期・児童期②：言語障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第5回	乳幼児期・児童期③：発達障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第6回	乳幼児期・児童期④：児童虐待と愛着障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第7回	思春期・青年期①：摂食障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第8回	思春期・青年期②：自傷行為	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第9回	思春期・青年期③：統合失調症	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第10回	思春期・青年期④：不安障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第11回	成人期①：気分障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第12回	成人期②：ストレス障害	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第13回	老年期①：認知症	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第14回	老年期②：障害受容・死の受容	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる
第15回	まとめ	レジュメ作成・発表準備 発表を聞いた感想をまとめる

■履修上の注意

福祉や教育の専門家が扱うことが考えられる発達と心身の疾患（障害）の中で、受講生が関心をもっているテーマ（その障害の特徴や援助の在り方）について事前に調べ、発表を行う。発表内容について、教員および受講生同士でディスカッションを行う形式で授業を進める。主体的で、熱心な授業態度が求められる。受講生が関心をもっているテーマを把握するためのアンケートを実施するため、初回のガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない理由で、ガイダンスを欠席した場合、後日、報告に来ること。

■評価方法

授業への参加態度を50%、レポートを50%として、総合的に評価する。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

適宜紹介する

科目名	老人心理学		担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。具体的には、加齢が及ぼす様々な心理的影響について理解し、それを踏まえた上で、高齢者の心理的側面への対応について考えることができるようになることを目標とする。

■授業の概要

本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理への対応について考察する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 老化とその心理的影響 ⇒ 高齢者への対応」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 高齢者とは	「福祉心理学」・「発達心理学」の復習
第2回	老化のとらえ方、老いの自覚	「発達心理学」の復習
第3回	高齢者の身体的特徴	加齢による変化を自分なりに考えてみる
第4回	高齢者の感覚と知覚	加齢による変化を自分なりに考えてみる
第5回	高齢者の知的機能とその特徴	「心理学理論と心理的支援」の復習
第6回	高齢者の記憶機能とその特徴①	「心理学理論と心理的支援」の復習
第7回	高齢者の記憶機能とその特徴②	「心理学理論と心理的支援」の復習
第8回	高齢者のパーソナリティの変容と特徴	「福祉心理学」の復習
第9回	生きがいについて	生きがいとは何か考えてみる
第10回	高齢者と死	死の受容過程について復習する
第11回	高齢期の精神医学的特徴	若年者との違いを考えてみる
第12回	認知症	「福祉心理学」の復習
第13回	認知症高齢者と家族の問題	前回の復習
第14回	百寿者について	百歳について、調べてみる
第15回	総括	教科書の復習

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックし、問題意識をもつこと。

■評価方法

①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%)②学期末試験(60%)①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤泰正・渡邊映子・大川一郎 編著『高齢者の心理』おうふう 2011年

■参考書

佐藤真一 著『ご老人は謎だらけ 老年行動学が解き明かす』光文社新書 2011年
権藤恭之 編『高齢者心理学』朝倉書店 2008年

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目1年生用）

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		福心・社福士	福心・精保士	教 中学校	教 高校(公民)	教 高校(福祉)	教 特別支援	児・初 保育士	児・初 幼稚園	初 小学校
				必修	選択																	
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●		●		●		●		●	●	●	●			●		
4	社会学理論と社会システム	1	2	●		●		●		●		●		●	●	●	●			●		
5	日本国憲法	2	2		●		●	●		●		●				●	●	●			●	●
6	道徳教育研究	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●				●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●		
8	スポーツ・レクリエーション実技	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●	●		●		●									●	●
11	英語Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
12	英語Ⅱ	1	2	●		●		●		●		●										
13	英語Ⅲ	2	2		●		●	●		●		●										
14	英語Ⅳ	2	2		●		●	●		●		●										
15	韓国語Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●										
16	韓国語Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●										
17	中国語Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●										
18	中国語Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●										
19	英会話	4	2		●		●	●		●		●										
20	経済学	2	2		●		●	●		●		●			▲	▲						
21	政治学Ⅰ	4	2		●		●	●		●		●										
22	政治学Ⅱ	4	2		●		●	●		●		●										
23	人間と宗教	4	2		●		●	●		●		●				▲						
24	生涯学習概論	4	2		●		●	●		●		●										
25	児童文学	3	2		●		●	●		●		●										
26	読書指導と文芸	3	2		●		●	●		●		●									▲	
27	マスメディア論	4	2		●		●	●		●		●			▲	▲						
28	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●	●		●		●										
29	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●										
30	教育原理	1	2		●		●	●		●		●				●	●	●		●	●	●
31	日本史Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●				●	●	●				
32	日本史Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●				▲						
33	世界史	2	2		●		●	●		●		●				●						
34	地理学	2	2		●		●	●		●		●				●						
35	基礎演習Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●								●		
36	基礎演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●								●		
37	専門演習Ⅰ	3	2	●		●		●		●		●								●		
38	専門演習Ⅱ	4	2	●		●		●		●		●								●		
39	ボランティア活動Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	
40	ボランティア活動Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	
41	ボランティア活動Ⅲ	3	1		●		●	●		●		●				■	■	■				▲
42	ボランティア活動Ⅳ	4	1		●		●	●		●		●				■	■	■				▲

8単位 8単位 8単位 6単位 8単位

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(専門科目1年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●									
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●					●				
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●							●		
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●					●				
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●		●					●				
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
7	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
8	相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4	●		●		●		●		●		●					●				
9	相談援助演習Ⅰ	1	1	●		●		●		●		●		●					●				
10	相談援助演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●		●					●				
11	相談援助演習Ⅲ	3	2	●		●		●		●		●		●					●				
12	相談援助実習指導Ⅰ	2	1	●		●		●		●		●		●					●				
13	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	●		●		●		●		●		●					●				
14	相談援助実習	3	4	●		●		●		●		●		●					●				
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●		●		●		●		●		●					●				
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●		●		●		●		●		●				●					
17	社会福祉特講Ⅰ	1	1		●			●		●		●		●									
18	社会福祉特講Ⅱ	2	2		●			●		●		●		●									
19	社会福祉特講Ⅲ	3	2		●			●		●		●		●									
20	社会福祉特講Ⅳ	4	2		●			●		●		●		●									
21	社会保障	2	4	●		●		●		●		●		●				●					
22	権利擁護と成年後見制度	4	2	●		●		●		●		●		●				●					
23	更生保護制度	4	1	●		●		●		●		●		●				●		▲			
24	社会調査の基礎	2	2	●		●		●		●		●		●									
25	相談援助の基礎と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●									
26	福祉行政と福祉計画	1	2	●		●		●		●		●		●									
27	福祉サービスの組織と経営	3	4	●		●		●		●		●		●									
28	就労支援サービス	4	1	●		●		●		●		●		●									
29	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●		●				●		●			
30	社会福祉史	1	2	●		●		●		●		●		●					▲				
31	福祉事務所運営論	4	2	●		●		●		●		●		●									
32	精神疾患と治療	3	4		●			●		●		●		●									
33	精神保健の課題と支援	4	4		●			●		●		●		●								●	
34	精神保健福祉相談援助の基礎(専門)	1	2		●			●		●		●		●									
35	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	8		●			●		●		●		●									
36	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	4		●			●		●		●		●									
37	精神障害者の生活支援システム	3	2		●			●		●		●		●									
38	精神保健福祉援助演習(基礎)	3	2		●			●		●		●		●									
39	精神保健福祉援助演習(専門)	4	2		●			●		●		●		●									
40	精神保健福祉援助実習指導	3・4	3		●			●		●		●		●									
41	精神保健福祉援助実習	4	4		●			●		●		●		●									
42	アクティビティ・サービス論	2	2		●			●		●		●		●									
43	アクティビティ・サービス援助論	2	2		●			●		●		●		●									
44	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●			●		●		●		●									
45	心理学研究法	1	2		●			●		●		●		●									
46	学習心理学	1	2		●			●		●		●		●									
47	発達心理学(保育の心理学Ⅰ)	1	4		●			●		●		●		●									
48	発達心理学b	2	2		●		●			●		●		●					▲			●	●
49	心理統計学	2	4		●			●		●		●		●									
50	老人心理学	2	2		●			●		●		●		●									
51	障害児(者)心理学	2	2		●			●		●		●		●									
52	教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1	2		●			●		●		●		●								●	●
53	認知心理学	3	2		●			●		●		●		●									
54	社会心理学	3	2		●			●		●		●		●									
55	臨床心理学	3	2		●			●		●		●		●									
56	カウンセリング	4	2		●			●		●		●		●						▲			
57	青年心理学	2	2		●			●		●		●		●									
58	公衆衛生学	2	2		●			●		●		●		●									
59	心理療法	3	2		●			●		●		●		●									
60	人間関係論	2	2		●		●			●		●		●									
61	国際福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
62	人格心理学	3・4	2		●			●		●		●		●									
63	住環境福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
64	社会福祉法制	3	2		●			●		●		●		●									
65	相談心理学	4	2		●			●		●		●		●									
66	介護技術Ⅰ	2	2		●			●		●		●		●									
67	介護技術Ⅱ	3	2		●			●		●		●		●									
68	卒業研究	3	6		●			●		●		●		●									
69	心理学実験実習Ⅰ	2	4		●			●		●		●		●									
70	心理学実験実習Ⅱ	3	2		●			●		●		●		●									
71	心理学実験実習Ⅲ	3	2		●			●		●		●		●									
72	発達心理学特講	4	2		●			●		●		●		●									
73	臨床心理学特講	3・4	4		●			●		●		●		●									
74	教職概論	2	2		●			●		●		●		●								●	●
75	教育社会学	2	2		●			●		●		●		●								●	●
76	社会科教育法Ⅰ	3	4		●			●		●		●		●								●	●
77	社会科教育法Ⅱ	3	4		●			●		●		●		●								●	●
78	公民科教育法	3・4	2		●			●		●		●		●								●	●
79	福祉科教育法	3	2		●			●		●		●		●								●	●
80	特別活動研究	3	2		●			●		●		●		●								●	●
81	教育方法論	2	2		●			●		●		●		●								●	●
82	生徒指導論	3	2		●			●		●		●		●								●	●
83	教育相談論	3	2		●			●		●		●		●								●	●
84	教職実践演習(中・高)	4	2		●			●		●		●		●								●	●
85	教育実習事前・事後指導(高校)	3・4	1		●			●		●		●		●								●	●

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
86	高等学校教育実習	4	2					●										●	●				
87	政治学Ⅰ	4	2					●									▲	●					
88	政治学Ⅱ	4	2					●									▲	▲					
89	学校経営と学校図書館	3	2					●	●		●												
90	学校図書館メディアの構成	3	2					●	●		●												
91	学習指導と学校図書館	3	2					●	●		●												
92	読書と豊かな人間性	3	2					●	●		●											▲	
93	情報メディアの活用	3	2					●	●		●												
94	障害者教育総論	2	2					●												●			
95	障害児教育総論	2	2					●												●			
96	重複障害教育総論	2	1					●												●			
97	知的障害教育Ⅰ	2	2					●												●			
98	肢体不自由教育Ⅰ	2	2					●												●			
99	知的障害者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
100	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
101	知的障害教育Ⅱ	3	2					●												●			
102	肢体不自由教育Ⅱ	3	2					●												●			
103	病弱者の心理・生理・病理	4	2					●												●			
104	病弱教育	4	2					●												●			
105	LD等教育総論	4	2					●												●			
106	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1					●												●			
107	特別支援学校教育実習	4	2					●												●			
108	中学校教育実習	4	2					●								●							
109	幼児理解	3	2						●	●												●	
110	幼稚園実習指導	4	2						●	●												●	
111	幼稚園教育実習	4	4						●	●												●	
112	生活科概論	2	2						●		●											▲	●
113	地域子育て支援論	4	2						●		●											▲	
114	青少年の理解と援助	2	2						●		●											▲	
115	人権教育論	3	2						●		●											▲	
116	教職実践演習(幼稚園)	4	2						●		●												
117	保育原理Ⅰ	1	4						●		●										●	●	
118	社会的養護Ⅰ(養護原理Ⅰ)	2	2						●		●										●		
119	小児保健(講義)	3	2						●		●										●		
120	小児保健(実習)	4	3						●		●										●		
121	小児栄養(演習)	2	2						●		●										●		
122	家族援助論	4	2						●		●										●	●	
123	保育内容 総論	2	1						●		●										●	●	
124	保育内容 健康	2	1						●		●										●	●	
125	保育内容 人間関係	2	1						●		●										●	●	
126	保育内容 環境	2	1						●		●										●	●	
127	保育内容 言葉	2	1						●		●										●	●	
128	保育内容 表現	2	1						●		●										●	●	
129	乳児保育Ⅰ(演習)	2	2						●		●										●		
130	障害児保育(演習)	4	1						●		●										●		
131	養護内容(演習)	3	1						●		●										●		
132	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1						●		●										●	●	
133	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2						●		●										●	●	
134	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1						●		●										●	●	
135	児童福祉実習Ⅰ(保育所)	3	4						●		●										●		
136	児童福祉実習Ⅱ(施設)	2	2						●		●										●		
137	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1						●		●										●		
138	保育実習指導Ⅰ(施設)	2	1						●		●										●		
139	児童福祉総合演習	4	2						●		●										●		
140	保育原理Ⅱ	3	2						●		●										●	●	
141	養護原理Ⅱ	3	2						●		●										●	●	
142	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1						●		●										●		
143	児童文化(演習)	1	2						●		●										●		
144	保育の表現技術Ⅱ(音楽)	2	2						●		●										●	●	
145	基礎技能Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2						●		●										●	●	
146	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2						●		●										●	●	
147	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2						●	●											▲	▲	
148	国語科概論	2	2						●		●												●
149	社会科概論	2	2						●		●												●
150	数学概論	2	2						●		●												●
151	理科概論	2	2						●		●												●
152	音楽概論	2	2						●		●												●
153	美術概論	2	2						●		●												●
154	家庭科概論	2	2						●		●												●
155	体育概論	2	2						●		●												●
156	小学校教育法(国語)	3	2						●		●												●
157	小学校教育法(社会)	4	2						●		●												●
158	小学校教育法(算数)	3	2						●		●												●
159	小学校教育法(理科)	4	2						●		●												●
160	小学校教育法(生活)	4	2						●		●												●
161	小学校教育法(音楽)	4	2						●		●												●
162	小学校教育法(図工)	3	2						●		●												●
163	小学校教育法(家庭)	3	2						●		●												●
164	小学校教育法(体育)	3	2						●		●												●
165	初等教育実習事前事後指導	3・4	1						●		●												●
166	小学校教育実習	4	4						●		●												●
167	教職実践演習(小学校)	3	2						●		●												●
168	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2						●		●												
169	保育実習Ⅱ(施設)	3	1						●		●												
170	保育実習指導(保育所)	2	1						●		●												
171	保育実習指導(施設)	4	2						●		●												

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(基礎教養科目2年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		福祉教	福祉心	教	教	教	教	児・初	児・初	初
				必修	選択	社福士	精保士	中学校	高校(公民)	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校								
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●		●		●		●		●	●	●				●		
4	社会学理論と社会システム	1	2	●			●		●		●		●		●	●						
5	日本国憲法	2	2		●		●		●		●		●			●	●	●			●	●
6	道徳教育研究	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●								●		
8	スポーツ・レクリエーション実技	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●		●		●		●								●	●
11	英語I	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
12	英語II	1	2	●		●		●		●		●										
13	英語III	2	2		●		●		●		●		●									
14	英語IV	2	2		●		●		●		●		●									
15	韓国語I	2	2		●		●		●		●		●									
16	韓国語II	2	2		●		●		●		●		●									
17	中国語I	2	2		●		●		●		●		●									
18	中国語II	2	2		●		●		●		●		●									
19	英会話	4	2		●		●		●		●		●									
20	経済学	2	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
21	政治学I	4	2		●		●		●		●		●									
22	政治学II	4	2		●		●		●		●		●									
23	人間と宗教	4	2		●		●		●		●		●			▲						
24	生涯学習概論	4	2		●		●		●		●		●									
25	児童文学	3	2		●		●		●		●		●									
26	読書指導と文芸	3	2		●		●		●		●		●									
27	マスメディア論	4	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
28	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●		●		●		●									
29	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●										
30	教育原理	1	2		●		●		●		●		●			●	●	●		●	●	●
31	日本史I	2	2		●		●		●		●		●			●	●	●				
32	日本史II	2	2		●		●		●		●		●		▲							
33	世界史	2	2		●		●		●		●		●		●							
34	地理学	2	2		●		●		●		●		●			●						
35	基礎演習I	1	2	●		●		●		●		●								●		
36	基礎演習II	2	2	●		●		●		●		●								●		
37	専門演習I	3	2	●		●		●		●		●								●		
38	専門演習II	4	2	●		●		●		●		●								●		
39	ボランティア活動I	1	2	●		●		●		●		●			●	●	●				●	
40	ボランティア活動II	2	2	●		●		●		●		●			●	●	●				●	
41	ボランティア活動III	3	1		●		●		●		●		●		■	■	■					▲
42	ボランティア活動IV	4	1		●		●		●		●		●		■	■	■					▲

8単位 8単位 8単位 6単位 8単位

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(専門科目2年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●	●								
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●	●								
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●		●	●								
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●	●								
7	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4	●		●		●		●		●		●	●								
8	相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4	●		●		●		●		●		●	●								
9	相談援助演習Ⅰ	1	1	●		●		●		●		●		●	●								
10	相談援助演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●		●	●								
11	相談援助演習Ⅲ	3	2	●		●		●		●		●		●	●								
12	相談援助実習指導Ⅰ	2	1	●		●		●		●		●		●	●								
13	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	●		●		●		●		●		●	●								
14	相談援助実習	3	4	●		●		●		●		●		●	●								
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●		●		●		●		●		●	●								
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●		●		●		●		●		●	●								
17	社会福祉特講Ⅰ	1	1			●		●		●		●											
18	社会福祉特講Ⅱ	2	2			●		●		●		●											
19	社会福祉特講Ⅲ	3	2			●		●		●		●											
20	社会福祉特講Ⅳ	4	2			●		●		●		●											
21	社会保障	2	4	●		●		●		●		●		●	●		●	●					
22	権利擁護と成年後見制度	4	2	●		●		●		●		●		●	●		●	▲					
23	更生保護制度	4	1	●		●		●		●		●		●	●			▲					
24	社会調査の基礎	2	2			●		●		●		●											
25	相談援助の基礎と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●	●								
26	福祉行政と福祉計画	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
27	福祉サービスの組織と経営	3	4	●		●		●		●		●		●	●								
28	就労支援サービス	4	1	●		●		●		●		●		●	●								
29	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
30	社会福祉史	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
31	福祉事務所運営論	4	2	●		●		●		●		●		●	●								
32	精神医学	3	4		●	●		●		●		●		●	●								
33	精神保健学	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
34	精神科リハビリテーション学	4	4		●	●		●		●		●		●	●							●	
35	精神保健福祉論	2	6		●	●		●		●		●		●	●								
36	精神保健福祉援助技術総論				●	●		●		●		●		●	●								
37	精神保健福祉援助技術各論	3	4		●	●		●		●		●		●	●								
38	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
39	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
40	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		●	●		●		●		●		●	●								
41	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
42	精神保健福祉援助実習	4	4		●	●		●		●		●		●	●								
43	アクティビティ・サービス論	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
44	アクティビティ・サービス援助論	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
45	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
46	心理学研究法	1	2		●	●		●		●		●		●	●								
47	学習心理学	1	2		●	●		●		●		●		●	●								
48	発達心理学(保育の心理学Ⅰ)	1	4		●	●		●		●		●		●	●								
49	発達心理学b	2	2		●	●		●		●		●		●	●							●	●
50	心理統計学	2	4		●	●		●		●		●		●	●							●	●
51	老人心理学	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
52	障害児(者)心理学	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
53	教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1	2		●	●		●		●		●		●	●							●	●
54	認知心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
55	社会心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
56	臨床心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
57	カウンセリング	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
58	青年心理学	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
59	公衆衛生学	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
60	心理療法	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
61	人間関係論	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
62	国際福祉論	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
63	人格心理学	3・4	2		●	●		●		●		●		●	●								
64	住環境福祉論	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
65	社会福祉法制	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
66	相談心理学	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
67	介護技術Ⅰ	2	2		●	●		●		●		●		●	●								
68	介護技術Ⅱ	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
69	卒業研究	3	6		●	●		●		●		●		●	●								
70	心理学実験実習Ⅰ	2	4		●	●		●		●		●		●	●								
71	心理学実験実習Ⅱ	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
72	心理学実験実習Ⅲ	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
73	発達心理学特講	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
74	臨床心理学特講	3・4	4		●	●		●		●		●		●	●								
75	教職概論	2	2		●	●		●		●		●		●	●							●	●
76	教育社会学	2	2		●	●		●		●		●		●	●							●	●
77	社会科教育法Ⅰ	3	4		●	●		●		●		●		●	●								
78	社会科教育法Ⅱ	3	4		●	●		●		●		●		●	●								
79	公民科教育法	3・4	2		●	●		●		●		●		●	●								
80	福祉科教育法	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
81	特別活動研究	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
82	教育方法論	2	2		●	●		●		●		●		●	●							●	●
83	生徒指導論	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
84	教育相談論	3	2		●	●		●		●		●		●	●								
85	教職実践演習(中・高)	4	2		●	●		●		●		●		●	●								
86	教育実習事前・事後指導(高校)	3・4	1		●	●		●		●		●		●	●								
87	高等学校教育実習	4	2		●	●		●		●		●		●	●								

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
88	政治学Ⅰ	4	2					●									▲	●					
89	政治学Ⅱ	4	2					●									▲	▲					
90	学校経営と学校図書館	3	2					●				●											
91	学校図書館メディアの構成	3	2					●				●											
92	学習指導と学校図書館	3	2					●				●											
93	読書と豊かな人間性	3	2					●				●											▲
94	情報メディアの活用	3	2					●				●											
95	障害者教育総論	2	2					●													●		
96	障害児教育総論	2	2					●													●		
97	重複障害教育総論	2	1					●													●		
98	知的障害教育Ⅰ	2	2					●													●		
99	肢体不自由教育Ⅰ	2	2					●													●		
100	知的障害者の心理・生理・病理	3	2					●													●		
101	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2					●													●		
102	知的障害教育Ⅱ	3	2					●													●		
103	肢体不自由教育Ⅱ	3	2					●													●		
104	病弱者の心理・生理・病理	4	2					●													●		
105	病弱教育	4	2					●													●		
106	LD等教育総論	4	2					●													●		
107	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1					●													●		
108	特別支援学校教育実習	4	2					●													●		
109	中学校教育実習	4	2					●									●						
110	幼児理解	3	2							●		●											●
111	幼稚園実習指導	4	2							●		●											●
112	幼稚園教育実習	4	4							●		●											●
113	生活科概論	2	2							●													▲
114	地域子育て支援論	4	2							●													▲
115	青少年の理解と援助	2	2							●													▲
116	人権教育論	3	2							●													▲
117	教職実践演習(幼稚園)	4	2							●													▲
118	保育原理Ⅰ	1	4							●											●		●
119	社会的養護Ⅰ(養護原理Ⅰ)	2	2							●											●		●
120	小児保健(講義)	3	2							●											●		●
121	小児保健(実習)	4	3							●											●		●
122	小児栄養(演習)	2	2							●											●		●
123	家族援助論	4	2							●											●		●
124	保育内容 総論	2	1							●											●		●
125	保育内容 健康	2	1							●											●		●
126	保育内容 人間関係	2	1							●											●		●
127	保育内容 環境	2	1							●											●		●
128	保育内容 言葉	2	1							●											●		●
129	保育内容 表現	2	1							●											●		●
130	乳児保育Ⅰ(演習)	2	2							●											●		●
131	障害児保育(演習)	4	1							●											●		●
132	養護内容(演習)	3	1							●											●		●
133	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1							●											●		●
134	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2							●											●		●
135	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1							●											●		●
136	児童福祉実習Ⅰ(保育所)	3	4							●											●		●
137	児童福祉実習Ⅱ(施設)	2	2							●											●		●
138	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1							●											●		●
139	保育実習指導Ⅱ(施設)	2	1							●											●		●
140	児童福祉総合演習	4	2							●											●		●
141	保育原理Ⅱ	3	2							●											●		●
142	養護原理Ⅱ	3	2							●											●		●
143	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1							●											●		●
144	児童文化(演習)	1	2							●											●		●
145	保育の表現技術Ⅱ(音楽)	2	2							●											●		●
146	基礎技能Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2							●											●		●
147	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2							●											●		●
148	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2							●											●		●
149	国語科概論	2	2																				●
150	社会科概論	2	2																				●
151	数学概論	2	2																				●
152	理科概論	2	2																				●
153	音楽概論	2	2																				●
154	美術概論	2	2																				●
155	家庭科概論	2	2																				●
156	体育概論	2	2																				●
157	小学校教育法(国語)	3	2																				●
158	小学校教育法(社会)	4	2																				●
159	小学校教育法(算数)	3	2																				●
160	小学校教育法(理科)	4	2																				●
161	小学校教育法(生活)	4	2																				●
162	小学校教育法(音楽)	4	2																				●
163	小学校教育法(図工)	3	2																				●
164	小学校教育法(家庭)	3	2																				●
165	小学校教育法(体育)	3	2																				●
166	初等教育実習事前事後指導	3・4	1																				●
167	小学校教育実習	4	4																				●
168	教職実践演習(小学校)	3	2																				●
169	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2																				●
170	保育実習Ⅱ(施設)	3	1																				●
171	保育実習指導(保育所)	2	1																				●
172	保育実習指導(施設)	4	2																				●

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(基礎教養科目3年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		福・心	福・心	教	教	教	教	児・初	児・初	初
				必修	選択	社福士	精保士	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校								
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●		●		●		●		●	●	●				●		
4	社会学理論と社会システム	1	2	●			●		●		●		●		●	●						
5	日本国憲法	2	2		●		●		●		●		●			●	●	●			●	●
6	道徳教育研究	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●								●		
8	スポーツ・レクリエーション実技	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●		●		●		●									
11	英語Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
12	英語Ⅱ	1	2	●		●		●		●		●										
13	英語Ⅲ	2	2		●		●		●		●		●									
14	英語Ⅳ	2	2		●		●		●		●		●									
15	韓国語Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●									
16	韓国語Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●									
17	経済学	2	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
18	政治学Ⅰ	4	2		●		●		●		●		●									
19	政治学Ⅱ	4	2		●		●		●		●		●									
20	人間と宗教	4	2		●		●		●		●		●			▲						
21	生涯学習概論	4	2		●		●		●		●		●									
22	児童文学	3	2		●		●		●		●		●									
23	読書指導と文芸	3	2		●		●		●		●		●									
24	マスメディア論	4	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
25	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●		●		●		●									
26	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●										
27	教育原理	1	2		●		●		●		●		●			●	●	●		●	●	●
28	日本史Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●									
29	日本史Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●			▲						
30	世界史	2	2		●		●		●		●		●			●						
31	地理学	2	2		●		●		●		●		●			●						
32	基礎演習Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●								●		
33	基礎演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●								●		
34	専門演習Ⅰ	3	2	●		●		●		●		●								●		
35	専門演習Ⅱ	4	2	●		●		●		●		●								●		
36	ボランティア活動Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●			●	●	●				●	
37	ボランティア活動Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●			■	■	■				●	
38	ボランティア活動Ⅲ	3	1		●		●		●		●		●									▲
39	ボランティア活動Ⅳ	4	1		●		●		●		●		●									▲

8単位 8単位 8単位 6単位 8単位

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(専門科目3年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●									
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●					●				
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●							●		
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●					●				
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●		●					●				
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
7	相談援助の理論と方法I	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
8	相談援助の理論と方法II	3	4	●		●		●		●		●		●					●				
9	相談援助演習I	1	1	●				●		●		●		●					●				
10	相談援助演習II	2	2	●				●		●		●		●					●				
11	相談援助演習III	3	2	●				●		●		●		●					●				
12	相談援助実習指導I	2	1	●				●		●		●		●					●				
13	相談援助実習指導II	3	2	●				●		●		●		●					●				
14	相談援助実習	3	4	●				●		●		●		●					●				
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●				●		●		●		●					●				
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●				●		●		●		●				●					
17	社会福祉特講II	2	2																				
18	社会福祉特講III	3	2																				
19	社会福祉特講IV	4	2																				
20	社会保障	2	4	●				●		●		●		●				●	●				
21	権利擁護と成年後見制度	4	2	●				●		●		●		●				●	▲				
22	更生保護制度	4	1	●				●		●		●		●				▲					
23	社会調査の基礎	2	2	●				●		●		●		●									
24	相談援助の基礎と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●					●				
25	福祉行財政と福祉計画	1	2	●				●		●		●		●									
26	福祉サービスの組織と経営	3	4	●				●		●		●		●									
27	就労支援サービス	4	1	●				●		●		●		●									
28	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●		●					●				
29	社会福祉史	1	2	●				●		●		●		●					▲				
30	福祉事務所運営論	4	2	●				●		●		●		●									
31	精神医学	3	4		●			●		●		●		●									
32	精神保健学	4	2		●			●		●		●		●									●
33	精神科リハビリテーション学	4	4		●			●		●		●		●									
34	精神保健福祉論	2	6		●			●		●		●		●									
35	精神保健福祉援助技術総論				●			●		●		●		●									
36	精神保健福祉援助技術各論	3	4		●			●		●		●		●									
37	精神保健福祉援助演習I	3	2		●			●		●		●		●									
38	精神保健福祉援助演習II	4	2		●			●		●		●		●									
39	精神保健福祉援助実習指導I	3	1		●			●		●		●		●									
40	精神保健福祉援助実習指導II	4	2		●			●		●		●		●									
41	精神保健福祉援助実習	4	4		●			●		●		●		●									
42	アクティビティ・サービス論	2	2		●			●		●		●		●									
43	アクティビティ・サービス援助論	2	2		●			●		●		●		●									
44	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●			●		●		●		●									
45	心理学研究法	1	2		●			●		●		●		●									
46	学習心理学	1	2		●			●		●		●		●									
47	発達心理学(保育の心理学I)	1	4		●			●		●		●		●									
48	発達心理学b	2	2		●		●			●		●		●					▲			●	●
49	心理統計学	2	4		●			●		●		●		●									
50	老人心理学	2	2		●			●		●		●		●									
51	障害児(者)心理学	2	2		●			●		●		●		●									
52	教育心理学(保育の心理学II)	1	2		●			●		●		●		●								●	●
53	認知心理学	3	2		●			●		●		●		●									
54	社会心理学	3	2		●			●		●		●		●									
55	臨床心理学	3	2		●			●		●		●		●									
56	カウンセリング	4	2		●			●		●		●		●					▲				
57	青年心理学	2	2		●			●		●		●		●					▲				
58	公衆衛生学	2	2		●			●		●		●		●									
59	心理療法	3	2		●			●		●		●		●					▲				
60	人間関係論	2	2		●		●			●		●		●					▲				
61	国際福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
62	人格心理学	3・4	2		●			●		●		●		●					▲				
63	住環境福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
64	社会福祉法制	3	2		●			●		●		●		●									
65	相談心理学	4	2		●			●		●		●		●					▲				
66	介護技術I	2	2		●			●		●		●		●									
67	介護技術II	3	2		●			●		●		●		●						▲			
68	卒業研究	3	6		●			●		●		●		●									
69	心理学実験実習I	2	4			●																	
70	心理学実験実習II	3	2			●																	
71	心理学実験実習III	3	2			●																	
72	発達心理学特講	3・4	2			●																	
73	臨床心理学特講	4	4			●																	
74	教職概論	2	2				●				●		●									●	●
75	教育社会学	2	2				●				●		●									●	●
76	社会科教育法I	3	4					●															
77	社会科教育法II	3	4					●															
78	公民科教育法	3・4	2					●															
79	福祉科教育法	3	2					●															
80	特別活動研究	3	2					●			●		●										●
81	教育方法論	2	2					●			●		●									●	●
82	生徒指導論	3	2					●			●		●									●	●
83	教育相談論	3	2					●			●		●									●	●
84	教職実践演習(中・高)	4	2					●			●		●										
85	教育実習事前・事後指導(高校)	3・4	1					●			●		●										
86	高等学校教育実習	4	2					●			●		●										
87	政治学I	4	2					●			●		●						▲				

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
88	政治学Ⅱ	4	2					●									▲	▲					
89	学校経営と学校図書館	3	2					●		●		●											
90	学校図書館メディアの構成	3	2					●		●		●											
91	学習指導と学校図書館	3	2					●		●		●											
92	読書と豊かな人間性	3	2					●		●		●										▲	
93	情報メディアの活用	3	2					●		●		●											
94	障害者教育総論	2	2					●												●			
95	障害児教育総論	2	2					●												●			
96	重複障害教育総論	2	1					●												●			
97	知的障害教育Ⅰ	2	2					●												●			
98	肢体不自由教育Ⅰ	2	2					●												●			
99	知的障害者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
100	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
101	知的障害教育Ⅱ	3	2					●												●			
102	肢体不自由教育Ⅱ	3	2					●												●			
103	病弱者の心理・生理・病理	4	2					●												●			
104	病弱教育	4	2					●												●			
105	LD等教育総論	4	2					●												●			
106	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1					●												●			
107	特別支援学校教育実習	4	2					●												●			
108	中学校教育実習	4	2														●						
109	幼児理解	3	2							●		●										●	
110	幼稚園実習指導	4	2							●		●										●	
111	幼稚園教育実習	4	4							●		●										●	
112	生活科概論	2	2							●		●										●	●
113	地域子育て支援論	4	2							●		●										▲	
114	青少年の理解と援助	2	2							●		●										▲	
115	人権教育論	3	2							●		●										▲	
116	教職実践演習(幼稚園)	4	2							●		●										▲	
117	保育原理Ⅰ	1	4							●		●									●	●	
118	社会的養護Ⅰ(養護原理Ⅰ)	2	2							●		●									●	●	
119	小児保健(講義)	3	2							●		●									●	●	
120	小児保健(実習)	4	3							●		●									●	●	
121	小児栄養(演習)	2	2							●		●									●	●	
122	家族援助論	4	2							●		●									●	●	
123	保育内容 総論	2	1							●		●									●	●	
124	保育内容 健康	2	1							●		●									●	●	
125	保育内容 人間関係	2	1							●		●									●	●	
126	保育内容 環境	2	1							●		●									●	●	
127	保育内容 言葉	2	1							●		●									●	●	
128	保育内容 表現	2	1							●		●									●	●	
129	乳児保育Ⅰ(演習)	2	2							●		●									●	●	
130	障害児保育(演習)	4	1							●		●									●	●	
131	養護内容(演習)	3	1							●		●									●	●	
132	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1							●		●									●	●	
133	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2							●		●									●	●	
134	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1							●		●									●	●	
135	児童福祉実習Ⅰ(保育所)	3	4							●		●									●	●	
136	児童福祉実習Ⅱ(施設)	2	2							●		●									●	●	
137	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1							●		●									●	●	
138	保育実習指導Ⅱ(施設)	2	1							●		●									●	●	
139	児童福祉総合演習	4	2							●		●									●	●	
140	保育原理Ⅱ	3	2							●		●									●	●	
141	養護原理Ⅱ	3	2							●		●									●	●	
142	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1							●		●									●	●	
143	児童文化(演習)	1	2							●		●									●	●	
144	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2	2							●		●									●	●	
145	基礎技能Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2							●		●									●	●	
146	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2							●		●									●	●	
147	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2							●		●									▲	▲	
148	国語科概論	2	2							●		●											●
149	社会科概論	2	2							●		●											●
150	数学概論	2	2							●		●											●
151	理科概論	2	2							●		●											●
152	音楽概論	2	2							●		●											●
153	美術概論	2	2							●		●											●
154	家庭科概論	2	2							●		●											●
155	体育概論	2	2							●		●											●
156	小学校教育法(国語)	3	2							●		●											●
157	小学校教育法(社会)	4	2							●		●											●
158	小学校教育法(算数)	3	2							●		●											●
159	小学校教育法(理科)	4	2							●		●											●
160	小学校教育法(生活)	4	2							●		●											●
161	小学校教育法(音楽)	4	2							●		●											●
162	小学校教育法(図工)	3	2							●		●											●
163	小学校教育法(家庭)	3	2							●		●											●
164	小学校教育法(体育)	3	2							●		●											●
165	初等教育実習事前事後指導	3・4	1							●		●											●
166	小学校教育実習	4	4							●		●											●
167	教職実践演習(小学校)	3	2							●		●											●
168	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2							●		●											●
169	保育実習Ⅱ(施設)	3	1							●		●											●
170	保育実習指導(保育所)	2	1							●		●											●
171	保育実習指導(施設)	4	2							●		●											●

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(基礎教養科目4年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		福祉心	福・心	教	教	教	教	児・初	児・初	初
				必修	選択	社福士	精保士	中学校	高校(公民)	福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校								
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●				●	●			●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●		●		●		●		●		●	●			●		
4	社会学理論と社会システム	1	2	●			●		●		●		●		●	●						
5	日本国憲法	2	2		●		●		●		●		●			●	●	●			●	●
6	道徳教育研究	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●				●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●								●		
8	スポーツ・レクリエーション実技	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●			●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●		●		●		●								●	●
11	英語I	1	2	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
12	英語II	1	2	●		●		●		●		●										
13	英語III	2	2		●		●		●		●		●									
14	英語IV	2	2		●		●		●		●		●									
15	韓国語I	2	2		●		●		●		●		●									
16	韓国語II	2	2		●		●		●		●		●									
17	経済学	2	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
18	政治学I	4	2		●		●		●		●		●									
19	政治学II	4	2		●		●		●		●		●									
20	人間と宗教	4	2		●		●		●		●		●			▲						
21	生涯学習概論	4	2		●		●		●		●		●									
22	児童文学	3	2		●		●		●		●		●								▲	
23	読書指導と文芸	3	2		●		●		●		●		●								▲	
24	マスメディア論	4	2		●		●		●		●		●		▲	▲						
25	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●		●		●		●									
26	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●										
27	教育原理	1	2		●		●		●		●		●			●	●	●		●	●	●
28	日本史I	2	2		●		●		●		●		●			●						
29	日本史II	2	2		●		●		●		●		●		▲							
30	世界史	2	2		●		●		●		●		●									
31	地理学	2	2		●		●		●		●		●									
32	基礎演習I	1	2	●		●		●		●		●								●		
33	基礎演習II	2	2	●		●		●		●		●								●		
34	専門演習I	3	2	●		●		●		●		●								●		
35	専門演習II	4	2	●		●		●		●		●								●		
36	ボランティア活動I	1	2	●		●		●		●		●			●	●	●				●	
37	ボランティア活動II	2	2	●		●		●		●		●			●	●	●				●	
38	ボランティア活動III	3	1		●		●		●		●		●		■	■	■					▲
39	ボランティア活動IV	4	1		●		●		●		●		●		■	■	■					▲

8単位 8単位 8単位 6単位 8単位

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要(専門科目4年生用)

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●									
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●					●				
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●							●		
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●					●				
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●		●					●				
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
7	相談援助の理論と方法I	2	4	●		●		●		●		●		●					●				
8	相談援助の理論と方法II	3	4	●		●		●		●		●		●					●				
9	相談援助演習I	1	1	●				●		●		●		●					●				
10	相談援助演習II	2	2	●				●		●		●		●					●				
11	相談援助演習III	3	2	●				●		●		●		●					●				
12	相談援助実習指導I	2	1	●				●		●		●		●					●				
13	相談援助実習指導II	3	2	●				●		●		●		●					●				
14	相談援助実習	3	4	●				●		●		●		●					●				
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●				●		●		●		●					●				
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●				●		●		●		●				●					
17	社会保障	2	4	●				●		●		●		●			●						
18	権利擁護と成年後見制度	4	2	●				●		●		●		●			●						
19	更生保護制度	4	1	●				●		●		●		●					●				
20	社会福祉特講III	3	2															●					
21	社会福祉特講IV	4	2															●					
22	社会調査の基礎	2	2	●				●		●		●		●									
23	相談援助の基盤と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●									
24	福祉行政と福祉計画	1	2	●				●		●		●		●									
25	福祉サービスの組織と経営	3	4	●				●		●		●		●									
26	就労支援サービス	4	1	●				●		●		●		●									
27	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●		●					●				
28	社会福祉史	1	2	●				●		●		●		●					●				
29	福祉事務所運営論	4	2	●				●		●		●		●				●					
30	精神医学	3	4		●			●		●		●		●									
31	精神保健学	4	2		●			●		●		●		●									
32	精神科リハビリテーション学	4	4		●			●		●		●		●									
33	精神保健福祉論	2	6		●			●		●		●		●									
34	精神保健福祉援助技術総論				●			●		●		●		●									
35	精神保健福祉援助技術各論	3	4		●			●		●		●		●									
36	精神保健福祉援助演習I	3	2		●			●		●		●		●									
37	精神保健福祉援助演習II	4	2		●			●		●		●		●									
38	精神保健福祉援助実習指導I	3	1		●			●		●		●		●									
39	精神保健福祉援助実習指導II	4	2		●			●		●		●		●									
40	精神保健福祉援助実習	4	4		●			●		●		●		●									
41	アクティビティ・サービス論	2	2		●			●		●		●		●									
42	アクティビティ・サービス援助論	2	2		●			●		●		●		●									
43	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●			●		●		●		●									
44	心理学研究法	1	2		●			●		●		●		●									
45	学習心理学	1	2		●			●		●		●		●									
46	発達心理学a	1	4		●			●		●		●		●				●					
47	発達心理学b	2	2		●			●		●		●		●				●					
48	心理統計学	2	4		●			●		●		●		●									
49	老人心理学	2	2		●			●		●		●		●									
50	障害児(者)心理学	2	2		●			●		●		●		●									
51	教育心理学	1	2		●			●		●		●		●									
52	認知心理学	3	2		●			●		●		●		●									
53	社会心理学	3	2		●			●		●		●		●									
54	臨床心理学	3	2		●			●		●		●		●									
55	カウンセリング	4	2		●			●		●		●		●					●				
56	青年心理学	2	2		●			●		●		●		●									
57	公衆衛生学	2	2		●			●		●		●		●									
58	心理療法	3	2		●			●		●		●		●									
59	人間関係論	2	2		●			●		●		●		●									
60	国際福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
61	人格心理学	3・4	2		●			●		●		●		●									
62	住環境福祉論	4	2		●			●		●		●		●									
63	社会福祉法制	3	2		●			●		●		●		●									
64	相談心理学	4	2		●			●		●		●		●									
65	介護技術I	2	2		●			●		●		●		●									
66	介護技術II	3	2		●			●		●		●		●									
67	卒業研究	3	6		●			●		●		●		●									
68	心理学実験実習I	2	4		●			●		●		●		●									
69	心理学実験実習II	3	2		●			●		●		●		●									
70	心理学実験実習III	3	2		●			●		●		●		●									
71	発達心理学特講	4	2		●			●		●		●		●									
72	臨床心理学特講	3・4	4		●			●		●		●		●									
73	教職概論	2	2		●			●		●		●		●									
74	教育社会学	2	2		●			●		●		●		●									
75	社会科教育法I	3	4		●			●		●		●		●									
76	社会科教育法II	3	4		●			●		●		●		●									
77	公民科教育法	3・4	2		●			●		●		●		●									
78	福祉科教育法	3	2		●			●		●		●		●									
79	特別活動研究	3	2		●			●		●		●		●									
80	教育方法論	2	2		●			●		●		●		●									
81	生徒指導論	3	2		●			●		●		●		●									
82	教育相談論	3	2		●			●		●		●		●									
83	中高教職総合演習I・II	4	2		●			●		●		●		●									
84	教育実習事前・事後指導(高校)	3・4	1		●			●		●		●		●									
85	高等学校教育実習	4	2		●			●		●		●		●									
86	政治学I	4	2		●			●		●		●		●									
87	政治学II	4	2		●			●		●		●		●									

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		福祉教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校公民	高校福祉	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択																		
88	学校経営と学校図書館	3	2					●	●	●													
89	学校図書館メディアの構成	3	2					●	●	●													
90	学習指導と学校図書館	3	2					●	●	●													
91	読書と豊かな人間性	3	2					●	●	●												▲	
92	情報メディアの活用	3	2					●	●	●													
93	障害者教育総論	2	2					●												●			
94	障害児教育総論	2	2					●												●			
95	重複障害教育総論	2	1					●												●			
96	知的障害教育Ⅰ	2	2					●												●			
97	肢体不自由教育Ⅰ	2	2					●												●			
98	知的障害者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
99	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2					●												●			
100	知的障害教育Ⅱ	3	2					●												●			
101	肢体不自由教育Ⅱ	3	2					●												●			
102	病弱者の心理・生理・病理	4	2					●												●			
103	病弱教育	4	2					●												●			
104	LD等教育総論	4	2					●												●			
105	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1					●												●			
106	特別支援学校教育実習	4	2					●												●			
107	中学校教育実習	4	2					●								●							
108	幼児理解	3	2						●	●												●	
109	幼稚園実習指導	4	2						●	●												●	
110	幼稚園教育実習	4	4						●	●												●	
111	生活科概論	2	2						●													▲	●
112	地域子育て支援論	4	2						●													▲	
113	青少年の理解と援助	2	2						●													▲	
114	人権教育論	3	2						●													▲	
115	教職実践演習(幼稚園)	4	2						●														
116	保育原理Ⅰ	1	4						●												●	●	
117	社会的養護Ⅰ(養護原理Ⅰ)	2	2						●												●		
118	小児保健(講義)	3	2						●												●		
119	小児保健(実習)	4	3						●												●		
120	小児栄養(演習)	2	2						●												●		
121	家族援助論	4	2						●												●	●	
122	保育内容 総論	2	1						●												●	●	
123	保育内容 健康	2	1						●												●	●	
124	保育内容 人間関係	2	1						●												●	●	
125	保育内容 環境	2	1						●												●	●	
126	保育内容 言葉	2	1						●												●	●	
127	保育内容 表現	2	1						●												●	●	
128	乳児保育Ⅰ(演習)	2	2						●												●		
129	障害児保育(演習)	4	1						●												●		
130	養護内容(演習)	3	1						●												●		
131	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1						●												●	●	
132	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2						●												●	●	
133	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1						●												●	●	
134	児童福祉実習Ⅰ(保育所)	3	4						●												●		
135	児童福祉実習Ⅱ(施設)	2	2						●												●		
136	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1						●												●		
137	保育実習指導Ⅱ(施設)	2	1						●												●		
138	児童福祉総合演習	4	2						●												●		
139	保育原理Ⅱ	3	2						●												●	●	
140	養護原理Ⅱ	3	2						●												●	●	
141	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1						●												●		
142	児童文化(演習)	1	2						●												●		
143	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2	2						●												●	●	
144	基礎技能Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2						●												●	●	
145	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2						●												●	●	
146	基礎技能Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2						●												▲	▲	
147	国語科概論	2	2						●														●
148	社会科概論	2	2						●														●
149	数学概論	2	2						●														●
150	理科概論	2	2						●														●
151	音楽概論	2	2						●														●
152	美術概論	2	2						●														●
153	家庭科概論	2	2						●														●
154	体育概論	2	2						●														●
155	小学校教育法(国語)	3	2						●														●
156	小学校教育法(社会)	4	2						●														●
157	小学校教育法(算数)	3	2						●														●
158	小学校教育法(理科)	4	2						●														●
159	小学校教育法(生活)	4	2						●														●
160	小学校教育法(音楽)	4	2						●														●
161	小学校教育法(図工)	3	2						●														●
162	小学校教育法(家庭)	3	2						●														●
163	小学校教育法(体育)	3	2						●														●
164	初等教育実習事前事後指導	3・4	1						●														●
165	小学校教育実習	4	4						●														●
166	教職実践演習(小学校)	3	2						●														●
167	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2						●														
168	保育実習Ⅱ(施設)	3	1						●														
169	保育実習指導(保育所)	2	1						●														
170	保育実習指導(施設)	4	2						●														

教科書の購入について

各シラバスに記載されている教科書は必ず購読し、毎授業に持参することが大学生としての基本です。

文部科学省は『大学における教育内容・方法の改善等について』において以下のように答申している。

単位制度は、教室での授業と授業の事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与することを前提としており、各大学において1単位当たりの必要な授業時間を確保するとともに、学生には大学の教室で授業を受けるだけでなく、教室外においても自主的な学習を行うことが求められます。

つまり、大学において単位を取得するためには教室での授業及び授業の事前・事後の準備学習・復習が重要です。事前・事後の準備学習・復習のためには教科書の購入が必須であり、学校のロッカーに教科書を入れているという現状はこの準備学習・復習をしていないということを顕著に表しています。

今年度は必ず、教科書を購入するとともに自宅で準備学習・復習をする習慣を身に付けてください。

また、学習方法がわからない場合や学習内容でわからない場合は、教職員に聞いてみましょう。また、図書館で学習する習慣をつけることで、最終学年で受験するであろう社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験の受験対策にもつながります。

以下に専攻・コースにおける必携書籍を提示するので、必ず購入し授業及び準備学習・復習に役立ててください。

社会福祉学部及び短期大学部の学生

◆社会福祉6法(社会福祉小6法)

※出版社は指定しないが法改正があるため、毎年購入することが望ましい。

◆国語辞典

◆漢和辞典

◆英和辞典

※国語辞典、漢和辞典、英和辞典は高校等で使っていたものでかまわない。

◆社会福祉用語辞典